

平成25年度障害者スポーツ振興事業  
「地域における障害者スポーツの振興事業」

報 告 書

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

# 目 次

はじめに

I 振興事業の概要	1
1. 助成の目的	
2. 委託先対象	
3. 対象事業	
4. 活動の範囲	
5. 委託費と対象経費	
6. 地域振興事業検討委員会の設置	
II 実施事業の概要	5
III まとめと今後の課題	11
1. 事業内容の特徴	
2. 組織連携の取り組み	
3. 障害者スポーツ指導者の活動内容	
4. 地域振興事業の成果	
5. 今後の課題	
6. おわりに	
IV 事業実施団体の報告	19
1. 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会	
2. 財団法人福島県障がい者スポーツ協会	
3. 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	
4. 新潟県障害者スポーツ協会	
5. 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	
6. 公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	
7. 一般社団法人山口県障害者スポーツ協会	
8. 社会福祉法人高知県社会福祉協議会障害者スポーツセンター	
9. 福岡県障害者スポーツ協会	
10. 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	
11. 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター	



## はじめに

平成 23 年、スポーツ振興の基本を定めた「スポーツ基本法」が施行され、従来に増して国を挙げてスポーツの振興が図られるようになりました。さらに昨年には、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、この機運は益々高まっています。

この期に当たり、日本障害者スポーツ協会では、厚生労働省の委託を受け、平成 23 年度より国庫補助事業として、都道府県・指定都市障害者スポーツ協会を事業対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施しています。

この事業は、障がい者一人ひとりがスポーツに親しむ習慣を身につけるために、地域において各種スポーツイベントなどを通じて、スポーツ活動の促進に取り組むこととし、あわせて都道府県・指定都市障害者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的としています。

今年度は、11 の団体が各地域の特性にあわせた特色ある事業を実施することができました。地域の実情にあわせた多様なスポーツ事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、この取り組みにより、さまざまな人や組織との連携が広がっている実情もみえてきました。今後、さらなる発展を期待するとともに、関係者の一層の取り組みの強化を期待しているところです。

本報告が、障がいがある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加できる環境整備のための取り組み事例として、今後の地域の障がい者スポーツの振興に役立てていただければ幸いです。

平成 26 年 3 月

公益財団法人日本障害者スポーツ協会



# I 振興事業の概要

## 1. 助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障害者スポーツ指導者を活用し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等を開催し、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワークなどの組織づくりを構築することを目的とする。あわせて都道府県・指定都市スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることも目的とする。

## 2. 委託先対象

平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会障害者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった12団体のうち11団体を対象に助成した。

## 3. 対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

### 【事業内容例】

- (1) 障がい者のスポーツ教室事業
- (2) 障害者スポーツ指導者の派遣事業
- (3) 選手強化事業
- (4) 障がい者スポーツにかかわる広報事業 など

※注) 厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」内の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」で助成を受けている事業は重複して申請はできない。

## 4. 活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内（指定都市を含む）を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

## 5. 委託費と対象経費

委託費は、各団体に200万円または100万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、備品の購入は認めない。また、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

## 6. 地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障害者スポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

## 検討委員会委員

	氏 名	役 職
1	大久保春美	公益財団法人日本障害者スポーツ協会技術委員長／JPC 副委員長 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 副会長
2	佐藤 慶子	一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 スポーツ推進員
3	関口 一道	長野県障害者福祉センター サンアップル所長
4	高山 浩久	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会地域スポーツ振興室室長
5	藤原進一郎	(元) 公益財団法人日本障害者スポーツ協会技術委員長／JPC 運営委員
6	山野 明	福岡県障害者スポーツ協会 主任指導員

(50 音順、敬称略)

## 事務局（公益財団法人日本障害者スポーツ協会）

1	中森 邦男	強化部長
2	水原 由明	スポーツ推進部長
3	井田 朋宏	企画情報部長
4	鈴木 圭	スポーツ推進部 スポーツ推進課長補佐
5	滝澤 幸孝	スポーツ推進部 指導者育成課長補佐
6	長谷部 貴	スポーツ推進部 スポーツ推進課長補佐
7	黒田 美穂	総務部 総務課長補佐
8	小島 大樹	スポーツ推進部 指導者育成課

### ◆会議の実施

#### 第 1 回会議

日 時：平成 25 年 5 月 9 日（木）

場 所：東京都中央区 日本橋公会堂 2 階 第 2 洋室

出席者：藤原、大久保、高山、山野、佐藤（敬称略）

欠席者：関口（敬称略）

事務局：中森、水原、井田、鈴木、滝澤、長谷部、黒田

内 容：申請内容の確認

平成 25 年度委託先の選考・決定について

事業の経過・報告について

今後の実施について

#### 第 2 回会議

日 時：平成 26 年 3 月 13 日（木）

場 所：東京都中央区 人形町区民館 2 号室

出席者：藤原、大久保、関口、高山、山野、佐藤（敬称略）

事務局：水原、滝澤、小島

内 容：平成 25 年度事業の報告

報告書の作成について

平成 26 年度事業について

## II 実施事業の概要

11 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要としてまとめた。また、それぞれの「地域の実情」、「事業のねらい」、実施された「事業内容」、「連携・協力団体」、「障害者スポーツ指導者の活動・役割」、そして、「事業成果」の6項目から実施概要を整理した。それぞれの団体の活動の詳細については、IV. 実施事業団体の報告を参照いただきたい。

No.	実施団体名 事業名	実施概要
1	<p>(一社)秋田県障害者スポーツ協会</p> <p>平成25年度秋田県内における 障害者スポーツ振興事業</p> <p>① 障害者スポーツ講習会 ② 障害者スポーツ交流会 ③ 総合型地域スポーツクラブ 自主運営に係る支援</p> <p>【100万円】</p>	<p>【地域の実情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で障害者を受入れるスポーツ施設が少なく、障害者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組めていない。</li> <li>◆地域のスポーツ関連指導者も障害、障害者への理解が浸透していない。</li> </ul> <p>【事業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流</li> </ul> <p>【事業内容】◆地域のスポーツ関連指導者を対象にした講習会(障害の理解、スポーツ実施上の留意点等)を開催し、さらに在宅障害者を含めたスポーツ交流会を開催。</p> <p>【連携・協力団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(町福祉課)、総合型地域SC、教育委員会、福祉事務所、社会福祉協議会、県体育協会、県競技協会(フライングディスク)</li> </ul> <p>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆講師、運営、指導を担当。</li> </ul> <p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆スポーツ指導員の指導・運営上の自信につながった。</li> <li>◆参加者間で障害についての知識を深めることができ、交流を通じて障害者が特別な者ではなく、身近に感じることできた。</li> <li>◆障害当事者は身近な地域でスポーツを楽しむことができる場の開拓となった。</li> </ul>

2	<p>(財)福島県障がい者スポーツ協会</p> <p>スポーツパワー ふくしま元気回復事業</p> <p>① 地域スポーツ交流事業の開催</p> <p>【100万円】</p>	<p>【地域の実情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆震災の影響により、今なお活動が制限されている支部・指導者や県内外への避難による指導員の活動人数が減少している地区がある。</li> </ul> <p>【事業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者スポーツ指導者が主体となって行い、企画、運営、指導、介助等すべてにおいてマネジメントすることで、これを機会に地域において事業を開催するスキルを向上させる。</li> </ul> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆震災後、活動を再開し、活発に動き出した地区をモデルにスポーツ交流事業を各支部と事務局が連携し実施した。</li> <li>◆福島県内を5地区に分け、それぞれでスポーツ交流イベント(大会)を開催。</li> <li>◆今回の2月の大雪は、参加者が激減した地区もあり、指導員も参加できない者が多数でてしまった。</li> </ul> <p>【連携・協力団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(市担当課)一般高等学校、福祉事務所、特別支援学校、障害放課後児童クラブ、身体障がい者福祉協会、社会福祉協議会、障がい者事業所、就労支援事務所、障がい者スポーツクラブ、社会福祉事業団、緑化公園協会、市ボランティア連絡協議会、市競技協会(テニス)</li> </ul> <p>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆5地区とも実行委員会の企画、運営、指導、競技スタッフ、マネジメント等を担当。</li> <li>◆震災の影響が大きい地域は活動できる指導員が少ないため、他地区の指導員が連携し支援した。</li> </ul> <p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆スポーツの機会が減っていた参加者からは好評であった。</li> <li>◆指導員が身近な地域で活動をできること、そして指導できる機会に恵まれ好評であった。若手指導員の活動意欲向上が見られた。</li> </ul>
---	---	---

3	<p>(一社)埼玉県障害者スポーツ協会</p> <p>平成25年度 埼玉県ふれあい地域振興事業</p> <p>① ふれあい野球教室 ② ふれあいティーボール教室、 ふれあいティーボール大会 (雨天中止) ③ ふれあいフットサル大会 ④ ふれあいサッカー教室 ⑤ 彩の国ハート&amp;スマイル 四面卓球バレー大会</p> <p>【 200万円 】</p>	<p>【地域の实情】</p> <p>◆障がい者が、気軽に地域のスポーツイベントに参加したりスポーツ施設を利用したりする状況には至っていない。</p> <p>【事業のねらい】</p> <p>◆障がい者が暮らす身近なスポーツ環境の充実を図る。スポーツの共生が可能であることの理解を促進できるものであることを、これらの事業をとおして示す。</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆地域における障がい者スポーツの環境づくりを推進するために、埼玉県内各地へ出向き5事業を21会場で実施。障害者スポーツ指導者が地域において自主的、自発的に事業が運営できるように実施した。</p> <p>◆地域における理解啓発を含めたスポーツ環境づくりに役立てるために手引き書としてガイドブックを作成し、地域の関係機関に配布。</p> <p>【連携・協力団体】</p> <p>◆障害者スポーツ指導者協議会、県高等学校野球連盟、一般高等学校(野球部)、県競技協会(ソフトボール)、全国野球振興協会、日本女子プロ野球リーグ所属チーム、日本ティーボール協会、特別支援学校、株式会社レッズランド・選手OB会、浦和レッズハートフルクラブ、市役所(サッカー部)県障害者サッカー協会、県リハビリテーションセンター</p> <p>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <p>◆実行委員会、当日の運営、マネジメント等を担当。</p> <p>【事業成果】</p> <p>◆特別支援学校・学級での開催では多くの教師の参加があり、今後、授業の中で本事業の内容を取り入れてくれる学校も現れた。学校から地域への情報発信する新しい環境づくりも構築できた。</p> <p>◆障害者スポーツ指導員の事業参加により、個々のスキルアップも図ることができ、併せて開催地域に近い指導員の参加もあり、今後の普及活動のきっかけとなった。</p>
---	---	--

4	<p>新潟県障害者スポーツ協会</p> <p>佐渡島障害者スポーツ 活性化事業</p> <p>① 巡回スポーツ教室(佐渡) ② 佐渡障害者フライングディスク大会 ③ 障害者スポーツ支援者研修会</p> <p>【 100万円 】</p>	<p>【地域の实情】</p> <p>◆新潟県の面積は縦長に広いうえに、東京都の約半分の面積を有する佐渡島もあり、障害者スポーツの県内各地域の格差は大きい。特に佐渡島においては、障害者スポーツ指導者や支援者の数も少なく、普及が進んでいない現状。</p> <p>【事業のねらい】</p> <p>◆佐渡島における障害者スポーツの理解、普及を進め、地域間格差を少なくする。</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆今年度は佐渡島を障害者スポーツ普及重点地域と定め、島内で各種障害者スポーツ教室やスポーツ大会(フライングディスク)を実施することで、障害者スポーツの理解、普及を進め、地域間格差を少なくすることを目的に実施した。</p> <p>◆教室や大会開催に先立ち、支援者、関係者等の「支える人達」向けの障害者スポーツ支援者研修会を実施し、様々な障害に対する理解や留意事項を学ぶとともに、各競技種目の知識及び指導力の向上を図った。”</p> <p>【連携・協力団体】</p> <p>◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(市)、教育委員会、市自立支援協議会、市スポーツ推進員協議会、社会福祉協議会、福祉会、身体障がい者福祉協議会、地元専門学校</p> <p>【障害者指導者の活動・役割】</p> <p>◆事業の企画運営、および当日の講師・競技役員・補助員</p> <p>【事業成果】</p> <p>◆島内全域からの多くの参加者が集まり、また福祉職員や特別支援学校の教員、スポーツ推進委員等の関係者も参加も多数あった。</p> <p>◆地元佐渡市、佐渡市教育委員会ほか佐渡市の福祉施設の統括機関である佐渡市自立支援協議会や佐渡市スポーツ推進員協議会、佐渡市身体障害者福祉協議会等との連携体制が深まった。</p> <p>◆この事業を足掛かりにして、26年3月に佐渡島内で初の「障害者スポーツ指導員養成講習会(初級)」が今回の協力機関の支援のもと開催された。</p>
---	---	--

<p>(公財)静岡県障害者スポーツ協会</p> <p>5 静岡県における 障害者スポーツの地域連携 振興事業</p> <p>① 静岡県地域ネットワーク型 障害者スポーツトライアル教室 開催事業</p> <p>② 静岡県障害者スポーツフォーラム 開催事業</p> <p>【 200万円 】</p>	<p><b>【地域の实情】</b> ◆障害のある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション(人との交流)をしたくても受入可能な場所が無い、または場所が遠方で(ひとりで)行くことができない等の現状がある。</p> <p><b>【事業のねらい】</b> ◆スポーツの振興のためには何が必要かを把握し、普及に対する地域格差を少なくする。指導者が各地域でリーダーとなり地域をコーディネート。公認障害者スポーツ指導者講習会を受講へと導く。</p> <p><b>【事業内容】</b> ◆県内各地域の公認障害者スポーツ指導者と地域との連携により、障害者スポーツの普及に対する地域格差を少なくし、障害のある方が日常的にスポーツ参加できる環境を整備する目的で県内9ヶ所で事業を実施した。 ◆事業は地域の身近な施設(学校等の体育館)を使用し、様々な軽スポーツ等を体験する「スポーツトライアル教室」と県民への理解・啓発を目的とした「スポーツフォーラム」を開催した。</p> <p><b>【連携・協力団体】</b> ◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(県障害者支援局)、教育委員会、県スポーツ推進委員連絡協議会、各市町村障害者福祉担当課、各市町村生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校・学級、県・市町村身体障害者福祉会、県、知的障害者協会、県・市町村手をつなぐ育成会、精神障害者スポーツ推進協議会、各市町村福祉協議会、各健康福祉センター、各市町村体育協会</p> <p><b>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</b> ◆開催場所に近い指導員を指導者協議会に推薦依頼。指導員は事業の企画や当日の運営を担当。フォーラムは指導者協議会が主体となって運営。</p> <p><b>【事業成果】</b> ◆本事業では県障害者政策課・県スポーツ振興課より各市町へ協力依頼をしていただいたため、実施前のアンケート調査により県内各地域の障害者のスポーツの实情を把握することができた。 ◆各地域に出向き開催したため、今までスポーツ経験のない方も多く参加できた。 ◆各地域の指導員とスポーツ推進委員との間で話し合いができたことにより、今後の各地域のスポーツ環境が向上に期待を持つことができた。 ◆本事業を通じて各市町村障害者福祉担当課・生涯スポーツ主管課より障害者スポーツについての問い合わせ、講師派遣等の依頼が増加した。また初級障害者スポーツ指導員養成講習会受講希望者も例年より倍増となった。</p>
---	---

<p>(公財)島根県障害者スポーツ協会</p> <p>6 島根県における 障害者スポーツの振興事業</p> <p>① ボッチャ競技普及員の養成 (ボッチャ出前講習会)</p> <p>② ボッチャ教室の開催</p> <p>【 100万円 】</p>	<p><b>【地域の实情】</b> ◆障害当事者の高齢化や障害の重度化などにより、県大会の種目も参加者数に大きな偏りがあり、参加者数が減少傾向となっている。 ◆県協会と指導者協議会の機能的な連携体制が構築されていない。</p> <p><b>【事業のねらい】</b> ◆当協会と障害者スポーツ指導者協議会との地域における機能的な連携体制の構築を図る。ボッチャの普及をとおして身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりの促進。</p> <p><b>【事業内容】</b> ◆高齢化、障害の重度化に対応できるスポーツの普及のため、「ボッチャ」を採用し、障害者スポーツ指導者協議会と連携し、身近な地域でスポーツに参加できる環境づくりを目的に実施。実施内容は「ボッチャ競技普及委員の養成」、「ボッチャ教室の開催」。</p> <p><b>【連携・協力団体】</b> ◆障害者スポーツ指導者協議会、日本ボッチャ協会、県立養護学校、</p> <p><b>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</b> ◆障害者スポーツ指導員がボッチャ競技普及委員の講習を受講し、専門的な技術、ルール等を理解し、その後、実施した教室の運営を担当した。</p> <p><b>【事業成果】</b> ◆本事業後、地域の団体や事業所からボッチャ教室の開催依頼があり、指導員を派遣するなど、指導者協議会との連携が増えた。 ◆ボッチャをきっかけに県内の指導者活動の活発化が図られ、指導者協議会との機能的な連携体制が構築された。 ◆今まで当協会事業に参加の少なかった重度障害の方の参加が多くあった。</p>
---	--

7	<p>(一社)山口県障害者スポーツ協会</p> <p>山口県における 障害者スポーツ地域推進事業</p> <p>① 地域障害者スポーツ教室開催事業 ② 障害者スポーツ体験教室事業 ③ 地域障害者スポーツ大会開催事業 ④ 障害者スポーツクラブ指導者派遣 ・養成事業 ⑤ 2013全国障害者スポーツ大会 特集号の作成配付事業</p> <p>【 200万円 】</p>	<p>【地域の实情】</p> <p>◆山口県は、地理的には山口市を中心としているが、各地に同規模の都市が点在し、障害者スポーツの拠点化には苦勞している。現在、障害者スポーツ推進員を配置して障害者がより身近にスポーツ活動が楽しく実践できるように諸環境の整備を進めているが、まだ多くの問題や課題(指導者、支援者、拠点施設、仲間、経費等)を残している。</p> <p>【事業のねらい】</p> <p>◆県内7ブロックで組織(拠点)づくりを支援・実践する。教室や地域大会の開催や開催支援、指導者や支援者を積極的に活用し、障害者スポーツに携わる人材を養成すると共に組織の拡大を図る。</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆地域の組織を活用し7地域での障害者スポーツ教室や障害の有無にかかわらず誰もが気軽にスポーツに参加できる交流大会、山口市で多く開催されていた県大会を県内各地域で行い障害者スポーツをより身近に感じていただくための事業を展開した。</p> <p>◆障害者スポーツ団体やクラブが実施する大会、合宿、講習会、相談会に指導員等を派遣し、事業が安全に効率的、効果的に実施できるように支援を行った。</p> <p>【連携・協力団体】</p> <p>◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(市高齢障害課)、教育委員会、市内小中学校校長会、総合型地域スポーツクラブ、市ケア協議会、地元大学・短期大学、市余暇を考える会、各市町村福祉協議会、特別支援学校、特別支援学校長会、県障害者スポーツ競技団体(FIDバスケットボール連盟、車椅子バスケットボール連盟、精神障害者バレーボール連盟、障害者卓球協会、知的障害者バレーボール連盟等)</p> <p>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <p>◆地域の教室や大会に企画、運営者として参加。地域の障害者団体と連携し準備運営を行った。また、当協会の広報紙の制作にも参加した。</p> <p>【事業成果】</p> <p>◆今回の事業を通じて、各地域の核となる人材が少しずつ増え、そのネットワークも広がってきた。</p> <p>◆今回の事業を通じ、7つの地域毎に協力体制は異なるが、市(高齢障害課、福祉課、スポーツ振興課)、教育委員会、市内小中学校校長会、障害者関係団体、総合型地域スポーツクラブ等の協力を得ることができた。</p> <p>◆スポーツ教室では、障害のある生徒だけでなく、障害のない生徒も参加もあり、教室実施後も生徒会が中心となり、一緒にスポーツを継続して実施するなど事業成果の広がりが見えている。</p>
---	---	--

8	<p>(社福)高知県社会福祉協議会 障害者スポーツセンター</p> <p>重度障害者アウトドア体験 教室事業</p> <p>① 重度障害者アウトドア体験事業</p> <p>【 100万円 】</p>	<p>【地域の实情】</p> <p>◆障害のある方へのアウトドア体験機会は、県内でも行われるようになってきており、比較的障害の軽度な方は一定の選択肢ができてきている。しかし、日常生活にヘルパー等の介助を要する障害の重度な方(呼吸器等を装着し、医療関係者の援助を必要)への受け入れ態勢は整っていない。こうした地域課題を感じていたことから、医療関係者等と連携を図りながら事業を実施した。</p> <p>【事業のねらい】</p> <p>◆医療関係者の援助が必要な重度障害者のスポーツ参加機会提供および、医療関係スタッフ等と連携を図りながら、数年かけて公的制度の活用方法の検討や、重度障害者が安心して外出できるための課題等を検証していく。</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆アウトドア体験プログラムとして、カヌーによる川下りを実施。 「皆と一緒に川を下る」という大きな目的達成のため、使用する船(カヌー等)の種類についても複数ものを準備し、参加者が安全に楽しめる配慮を行い実施した。</p> <p>【連携・協力団体】</p> <p>◆障害者スポーツ指導者協議会、訪問看護ステーション、アウトドア事業者、障害者施設、各市町村社会福祉協議会</p> <p>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</p> <p>◆二人乗りカヌーの操船補助、物資輸送車の操縦、転覆時のレスキュー対応等</p> <p>【事業成果】</p> <p>◆アウトドアという環境そのものが、参加者にとって非日常であり、特に重度な障害のある方や、その家族にとっては、そのような環境の中での経験が当事者、その家族にとって自信につながった。また事業に関わったスタッフからも事業を通じて「できる」という自信を得ることができた。</p> <p>◆このアウトドア体験事業を実施するにあたり、重度障害者の日常生活に関わる部分の公的制度「地域生活支援事業の移動支援」に着目し検討を行ったが、今回のような宿泊を伴う事業には活用することができないことが分かった。しかし、参加者やスタッフの中に公的制度の活用について、着目する意識づけは出来たことは一つの成果として捉えたい。</p>
---	---	--

<p>福岡県障害者スポーツ協会</p> <p>9 福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業</p> <p>① 知的障害児水泳教室 ② 知的障害児バスケットボール教室 ③ フロアバレーボール教室 ④ 指導者の派遣事業 ⑤ 選手強化事業</p> <p>【 200万円 】</p>	<p><b>【地域の実情】</b> ◆福岡県内における筑豊地域・筑後地域においては、拠点となるクローバープラザ(春日市:福岡地区)での教室事業等への参加は、(管轄エリア外のため)当事者及び保護者の負担となっている。そのため、より身近な地域において、ニーズに沿った教室事業等を展開していくことが求められている。</p> <p><b>【事業のねらい】</b> 指導者や次世代選手等の育成に取り組める組織づくり。県内各地域でのスポーツ普及に向けたイベントの実施等により、関係機関との連携を図った選手、指導者の育成。</p> <p><b>【事業内容】</b> ◆筑豊地域・筑後地域において、知的障害者対象の水泳教室、バスケットボール教室、また視覚障害者対象のフロアバレーボール教室を開催した。 ◆指導者の派遣事業として、県内の特別支援学校、障害者団体、社協、教育委員会等からの派遣依頼に応じて、36会場計190名の障害者スポーツ指導者を派遣し、依頼団体の要望に応じたスポーツプログラムを実施した。 ◆選手強化事業として、知的・聴覚障害者のバスケットボールのレベルアップ練習やレベルに合わせた強化試合を実施した。</p> <p><b>【連携・協力団体】</b> ◆障害者スポーツ指導者協議会、行政(市)、市ボランティア連絡協議会、障害者スポーツ協会クラブ(FHSの会)、特別支援学校、地元大学、障害者団体、社会福祉協議会、教育委員会、障害者スポーツ指導員資格取得認定校、地元大学・高校・中学バスケットボール部、県・市競技団体協会(バスケットボール)</p> <p><b>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</b> ◆教室の企画、指導。交流・強化試合の運営、実施プログラムの企画等</p> <p><b>【事業成果】</b> ◆教室事業については、教室の成果として、記録会・交流試合を实践できたことで、参加者の目標の場となった。また地域指導者が主体的に企画・運営したことで、次年度に繋がるものとなった。 ◆各事業では、昨年までボランティアスタッフだったメンバーが今回、スポーツ指導員の資格を取得し、指導員として継続する事業があったこと、認定校の学生が卒業後もサポートしている事業があったことは評価できる。</p>
--	--

<p>(特)沖縄県障がい者スポーツ協会</p> <p>10 沖縄県における障がい者スポーツの振興事業</p> <p>① スイミングキャンプ ② 知的障がい者のサッカー教室 ③ アダプテッドスポーツフェスタ</p> <p>【 100万円 】</p>	<p><b>【地域の実情】</b> ◆本県における障がい者スポーツ活動の課題は、障がい者がスポーツを楽しむための環境が不足していることにある。活動拠点の一つとなっている障がい者優先体育施設においても、指導者や次世代選手等の育成体制が不十分であり、障害者が安心してスポーツに取り組める環境が少なくなっている。また指導者、選手の高齢化に伴い、障害者団体の活動も衰えが見え始めている。</p> <p><b>【事業のねらい】</b> ◆広く障がい者スポーツの周知を図る。スポーツ団体間の連携、次世代の選手・指導者の育成を行い、普及につなげる。</p> <p><b>【事業内容】</b> ◆今回の事業では日常の活動から障がい者と関わることの多い団体と、一般競技団体・施設との連携を図り、①新たな活動拠点づくり、②指導員のスキル向上に繋げる事業実施を行った。</p> <p><b>【連携・協力団体】</b> ◆障害者スポーツ指導者協議会、教育委員会、特別支援学校、県水泳連盟、県知的障がい者スポーツ連絡会、日本赤十字沖縄支部、JFL「FC琉球」、海浜公園管理事務所、JICA沖縄国際センター、足こぎ車いす普及協会沖縄</p> <p><b>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</b> ◆各事業の事前企画会議、会場調整、連携団体講師補助を担当</p> <p><b>【事業成果】</b> ◆教室事業については、教室の成果として、記録会・交流試合を实践できたことで、参加者の目標の場となった。また地域指導者が主体的に企画・運営したことで、次年度に繋がるものとなった。 ◆各事業では、昨年までボランティアスタッフだったメンバーが今回、スポーツ指導員の資格を取得し、指導員として継続する事業があったこと、認定校の学生が卒業後もサポートしている事業があったことは評価できる。 ◆フェスタでは、一般の方が障がい者スポーツを目にしやすい会場選び、一般競技団体からの講師派遣など、障がいに対する理解や認知向上へのきっかけとなった。</p>
---	--

<p>(社福)神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター</p> <p>11 神戸市における 障がい者スポーツ の地域展開事業</p> <p>① 地域でのスポーツ教室実施 ② 障害者スポーツ体験イベント開催 による普及啓発</p> <p>【 100万円 】</p>	<p><b>【地域の実情】</b> ◆神戸市の障害者スポーツの拠点施設となっている神戸市立市民福祉スポーツセンターでは様々な事業、教室を実施しているが、遠い地域からは来館することができない方も多数いる現状がある。そこで、そのような方々が身近な地域でスポーツに触れ合う機会をつくり、スポーツを暮らしの一部に取り入れる環境の整備を進める。</p> <p><b>【事業のねらい】</b> ◆障害者スポーツセンター以外の地域でのスポーツ活動を推進する。地域事情に合わせた障害者スポーツ体験。</p> <p><b>【事業内容】</b> ◆「地域での障害者スポーツ教室の実施」では市内14ヶ所の学校や体育館、スポーツセンターで計20回の教室を開催。 ◆障害児・者やその保護者、支援者を対象に障害者スポーツ体験を通じて、スポーツを身近に感じてもらう目的での普及、啓発イベントを実施した。</p> <p><b>【連携・協力団体】</b> ◆障害者スポーツ指導者協議会、特別支援学校・養護学校、市知的障害者施設連盟、市民福祉振興会</p> <p><b>【障害者スポーツ指導者の活動・役割】</b> ◆障害者スポーツ指導員は、事業運営を担当。またその中で学生ボランティアと一緒に活動をし、指導を行った。</p> <p><b>【事業成果】</b> ◆スポーツ教室は、慣れ親しんだ身近な地域の学校や体育館等で開催したことで、障害児・者が不安を伴わず、かつ同伴者の負担が少ない中で開催することができた。 ◆普及啓発イベントでは、障害者スポーツ指導員が十分な補助員を配し、参加者の障害の状況を勘案しながら、プログラムを提供した。その結果、安心と信頼が寄せられ、スポーツを体験していなかった障害児・者がスポーツを日常生活のなかに取り入れることができるようになった。</p>
---	---

### Ⅲ まとめと今後の課題

平成 23 年度に施行されたスポーツ基本法では、「身近な地域でスポーツに親しむ環境づくり」について明記されており、本事業の目的もその実現にむけたものである。今回の地域振興事業を実施した 11 団体の事業の内容からみても、その実現に向けて試行錯誤しながらも確実に動き始めていることが明らかになった。

各団体は、地域に密着した新たな連携づくりやスポーツへの参加機会の少ない障がい者を対象としている事業など、それぞれの地域におけるスポーツ環境の現状を踏まえた事業を実施している。まず、11 団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※文中で、事業を実施した 11 団体を総称する場合「県障害者スポーツ協会」とし、県と政令市を含む地域全体を指す場合も、「県」とした。

#### 1 事業内容の特徴

##### 1) 中・小地域・小規模でのスポーツ教室等を開催している

11 団体の事業をみると、ブロック、市町村あるいは学校・学級など、中・小地域や小規模でのスポーツ教室を実施している。例えば、新潟県では障がい者のスポーツ活動が活発でない地域を絞って、静岡県や福島県、島根県、山口県では、県内を数ブロックに区切って、埼玉県、神戸市では、特別支援学校や支援学級など、小さい単位で開催している。

各団体が事業を計画するにあたり、地域における障がい者のスポーツ振興の課題として「地域差」を挙げているところが多い。障がい者スポーツに対する興味、関心、理解度や支援、協力体制等には、県障害者スポーツ協会がある都市部とその周辺では地域差が生じているという現状があり、これを踏まえた事業の形態を工夫している。地域を巻き込んで本事業を開催するという主旨から、地域の意向調査等を含めて支援・協力団体を募るなどの準備をして実施した団体や、比較的支援・協力体制が得られ、活動が活発な地域で行っている事業をモデルに、比較的未開拓な地域でも実施し、県内へ普及啓発を展開するという計画で実施した団体もあった。

事業を実施する施設の確保についても、地域を限定して開催することにより、地域の関係団体と連携して手配できている。日常的に活動できる施設（活動拠点）が少ない現状があるなか、実施された事業の中には、協力団体と連携し、学校の体育館、校庭や地域のスポーツ施設等の既存の資源を有効活用し、今後の活動拠点として関係者の理解、協力を得ることができたケースもあった。

このように、広域的に参加者を募集するのではなく、対象者や地域を絞り込んだ事業を実施したことにより、地域の社会資源の活用や連携が図りやすくなり、今後の地域の障がい者スポーツの推進にむけて具体的にデザインされた計画になったと考えられる。

##### 2) 各県のスポーツ環境の特性にあわせたスポーツ事業を実施している

総合型地域スポーツクラブの活動が活発な福岡県や秋田県においては、本事業においても総合型地域スポーツクラブと連携した事業、あるいは総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツの推進をねらいとした事業を実施した。

埼玉県では、共生スポーツの実現を目指しており、スポーツ団体・組織の協力を得て実施した事業が多い。プロスポーツ組織あるいは高校野球チームからの指導、障がいのない人とのスポーツ交流イベント、特別支援学校や支援学級への出前事業など、県のスポーツ環境の特色を活かした事業を行った。

新潟県では、佐渡島を事業実施地域に絞り、まず、福祉施設関係者や特別支援学校の教諭、スポーツ

推進委員、体育協会やレクリエーション協会関係者を対象とした「障害者スポーツ支援者研修会」を実施したうえで、巡回スポーツ教室の実施に入るという手順を踏んだ。秋田県も同様の手順を踏んでいる。

島根県では、障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会の連携体制の構築を図ることをねらいとして、障がい者の高齢化や重度化という現状を踏まえて、要望が多いボッチャをとおしたスポーツの推進を図る事業を実施したが、最初に行ったことは、ボッチャ指導員、審判員の養成事業だった。

このように、スポーツ振興の目的や内容に応じて、事前に支援者や指導者を対象とした講習会の開催、競技団体と連携し競技の普及啓発を含めた講習会（勉強会）を実施するなど、必要な知識や理解を深めて事業に関わっていただく等、主目的を達成するための前段の取組みとしての講習会を実施した団体が多くみられた。

福島県では、東日本大震災の影響で県民の生活そのものが大きな被害を受け、特に総合型スポーツクラブや地域スポーツ教室の活動が活発であった相双地域が大きな被害を受けた。避難による障がい者および指導者の県外流出、指導者資格の更新登録の減少、指導者の活動実数の大幅な減少等、県内の障がい者スポーツ振興は大打撃を受け、その影響は現在も残っており、スポーツ協会と指導者協議会を中心に各支部の組織再編を進めている状況である。

このように、各団体の事業は、スポーツ環境の実情にあわせた事業を実施していることが明らかである。総合型地域スポーツクラブの育成が充実している県では、事業の柱は総合型との連携であるが、そうでない県は、体育協会傘下の競技団体、あるいはプロスポーツ団体の支援があるなど、全国都道府県のスポーツ環境は一律ではなく、それぞれの地域の実情を反映した障がい者スポーツ振興事業となった。

また、障害者スポーツ指導者の活用についても、この事業を契機に障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会との連携を構築する段階にあるところや、スポーツ協会が計画や準備を担当し障害者スポーツ指導員は当日の補助的な役割が中心だったところ、指導者が自立して地域をマネジメントしスポーツ協会が側面的な支援をしたところ、などがあつた。

各県のスポーツ環境の現状や特性にあわせたスポーツ事業を実施し、また障害者スポーツ指導員の振興事業への介入の仕方も、地域により特色あるものであつた。

### 3) スポーツの参加機会が少ない障がい者を対象とし「体験すること」を重視した事業が多い

多くの団体は、スポーツへの参加経験が少ない障がい者を対象に、身近な地域において事業を実施した。

事業で行われたスポーツ種目をみると、ボッチャや卓球バレー、風船バレー、フライングディスクなど、スポーツの経験が少ない人、重度障がい者や高齢者、障がいのない人も含めてスポーツの楽しさを体験できる内容が特徴である。また、教室のあとに大会を開催するなどの継続的なスポーツ活動へ導く工夫もされていた。

高知県では、日常的な医療的ケアが必要な重度障がい者と家族を対象にしたアウトドア体験事業を実施したが、活用できる公的支援などを調査し、気軽にスポーツに親しめる条件づくりを整備することを事業の目的に加えていた。

障がい者が、身近な場所でスポーツに親しむために、まず身近な地域で体験できるような機会を増やしていくことが重要であり、各団体の事業もこの流れに沿ったものだった。今後は、障害者自立支援事業所や地域生活支援センターなどの施設や機能、学校・学級といった小さい単位で、草の根的な取り組みが、今後ますます重要になってくると思われる。

### 4) 障がいのない人とのスポーツをとおした交流事業

沖縄県では、多くの県民が障がい者のスポーツを体験するイベントを開催したが、会場の選定にあた

り、一般の人の目にふれやすい場所を選び啓発の効果をねらいとするとともに、一般競技団体から教室の講師を招くなどの工夫をしていた。埼玉県では、フットサル大会において、障がいのない人の部門やミックス部門を設定し、多くのフットサル愛好者が交流を深めた。福島県は、本事業を「交流事業」と名付け、障がい者とともに、付き添い者や家族、一般の参加者も一緒に楽しめる事業を実施した。秋田県では、障がい者とともに、スポーツ推進委員や社会福祉協議会職員、福祉事務所職員とのスポーツ交流を図った。また、多くの団体が、教室の講師や協力団体を拡大させながら、障がいのない人々への理解促進を図る取り組みがみられた。静岡県では、一般県民も対象に含めたフォーラムを開催し、今後の地域振興に関するシンポジウムや実技体験を含めた啓発事業を開催したが、その成果として初級障害者スポーツ指導員養成講習会の受講者の増加につながったとの報告があった。

## 2 組織連携の取り組み

各団体は、1. 1) に記したとおり、地域の実情や内容にあわせて連携すべき人や組織、機関の協力を得て事業の運営をおこなった。

本事業については、県の障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会との連携強化を図ることを事業のねらいのひとつにしたが、各団体では、さらに地域の実情や事業の内容に合せて様々な地域の人や組織と連携し事業を実施していることが明らかになった。

多くの団体で、連携した組織として挙げられたものについて整理した。

### ○市町村行政・教育行政：

障害者福祉担当課と生涯スポーツ担当課、教育委員会、学校長会、小・中学校の通常学級や特別支援学級、特別支援学校、

### ○地域のスポーツ組織：

総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、体育協会や加盟競技団体、スポーツ少年団、

### ○福祉関係組織：

社会福祉協議会、障がい者団体、福祉施設や障がい者事業所、ボランティア協議会、

### ○その他：

大学や専門学校、学生ボランティア、中学・高校運動部、プロスポーツ団体、障がい者スポーツ団体、児童クラブ、子供会

事業の多くが対象地域を限定して実施したことで、地域の支援を得られやすかったと思われる。また、県の福祉行政や教育委員会の後援や協力を得て事業を実施している団体は2団体だけであったが、あらかじめ後援あるいは協力体制を整えておくことで、市町村での事業準備はさらに円滑になったと思われる。また、障がい者の競技団体やクラブ組織などの協力を得て事業を実施しているところは少なかったが、障害者スポーツ協会の組織の現状を表すものと思われる。

地域において障がい者がスポーツ活動に取り組める環境整備には、地域の組織や機関そして住民の理解が重要となる。相互の連携、協力体制を構築し展開していくことで、当事業が一過性とならず今後につながると思われる。

## 3 障害者スポーツ指導者の活動内容

事業の組み立て方により異なってくるが、障害者スポーツ指導者が実行委員になり地域振興事業の企画・運営を行っている実施団体がある一方、教室などの事業当日の指導や補助的な役割だけを担うというものもあった。

秋田県は、県内3地区でスポーツ推進委員を主な対象とした「障がい者スポーツ講習会」を実施した

が、講習会の講師を障害者スポーツ指導者が務めた。山口県、福岡県、静岡県では、指導者派遣事業を実施し、講習会や大会などに障害者スポーツ指導者を派遣し事業の質を高めた。

福島県や埼玉県、静岡県では、障害者スポーツ指導者が事業をマネジメントすることで、今後の地域における事業を開催する際のスキルを向上する機会となった。

地域振興事業における組織連携の核となるのが障害者スポーツ指導者であり、その指導者を側面的に支援するのが県障害者スポーツ協会の役割であると思われるが、今後も事業を通じた体制整備が期待できる。

#### 4 地域振興事業の成果

各団体により、地域のスポーツの実情が異なっており、実情に合わせた事業が行われていることからみて、本事業の成果もそれぞれの団体の現状を踏まえた成果を挙げながら次のステップへと移行しつつあると思われるが、その成果を以下のように整理した。

- ① 身近な地域でのスポーツ環境づくりが推進された。
- ② 福祉関係者とスポーツ組織、行政も含めて連携が広がっている。
- ③ 障害者スポーツ指導者の活用が図られ、活動の場や内容の拡大とともに資質向上の機会になった。
- ④ 教育現場（学校、特別支援学校・学級）での障がい者のスポーツについての理解が促進した。
- ⑤ 障害者スポーツ協会の活動の活性化が図られ、また、障がい者スポーツの統括団体としての地域振興事業が展開された。
- ⑥ 障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会が活性化され連携が強まった。
- ⑦ 障がいのない人たちへの理解が広がった。
- ⑧ 障がい者やスポーツクラブ等の自立意識が高まってきた。

何よりも、多くの障がい者がスポーツを体験でき、障がいに留意した対応や指導を受けたことにより安心して楽しくスポーツに取り組むことができ、あわせて継続的なスポーツ参加へのきっかけづくりになった。

障害者スポーツ指導者にとっても身近な地域での事業は、協力しやすく活動目標も持ちやすくなった利点があり、今後のそれぞれの地域のスポーツを振興するための推進役としての立場を確立しつつある。

また、日ごろ障がい者に接することが少ない人々にとっても、障がいのある人への対応や指導方法など、不安要素の解消や共通理解の促進、障がい者を受け入れるために必要な企画等での具体的な取り組み方など、今後の活動の手本となったと思われる。

本事業により、障害者スポーツ指導者協議会の活動が活性化され、さらに地域のさまざまな関係者の障がいあるいは障がい者への理解が深まり、障害者スポーツ指導員養成講習会の受講者増加や関心の高さにつながった。

#### 5 今後の課題

今後の地域振興事業における課題について、事業実施団体からの報告を参考に以下のようにまとめた。

##### 1) 障害者スポーツ指導者の専門性の向上

今回、事業を実施したすべての団体において、今後の課題として「障害者スポーツ指導者の育成、専門性の向上」が挙げられている。専門性について各団体からの報告をまとめると以下の4点に整理できる。

- ① 様々な障がいについて理解し、指導できる力を備えている。
- ② 地域の社会資源等、人材や組織を把握し、これらと連携する力を身につけている。
- ③ 事業計画や実施要項、運営要領の作成能力を身につけ、事業を企画・運営する力を備えている。
- ④ 障害者スポーツ指導者協議会の一員としての組織的な取り組みに参画し、事業を展開している。

最も大切な専門性としては、障がい者がスポーツをするうえで必要な「障がい」に関する知識と指導力である。本事業では、障害者スポーツ指導者が、スポーツ推進委員やスポーツ団体の指導者と連携した事業が多かった。

そこで障害者スポーツ指導者に求められるのは、障がいを理解したうえで、他の指導者が指導あるいは協力ができるように助言できる資質を備えていることが必要である。また地域のスポーツ事業をマネジメントする際にも、たとえば、地域のニーズに対応して、障がいの特性に配慮した事業を計画し、運営できるなどの能力が必要となってくる。

指導者協議会は、障害者スポーツ指導者個々の資質の向上とともに、組織として、地区を区切った支部での取り組みや核となる指導者の育成、さらに若手の指導員の開拓や絶対的な指導者不足を解消することなどの課題を解決するために、障害者スポーツ協会と連携しながらの取り組みが必要である。

## 2) 市町村レベルでのきめ細かな事業の工夫と組織連携の推進

多くの実施団体は、「身近な地域で日常的にスポーツに親しむ環境づくり」を目的に、様々な組織や機関の支援や協力を得て事業を実施した。しかし、「身近」な地域に視点をあて多くの障がい者や地域の関係者が参加できたことは大きな成果であったが、「日常化」できるための取り組みは今後の大きな課題となり、地域の理解や支援体制を整えながら、障がい者自身が自主的にスポーツに取り組める体制を作っていけるよう、さらにきめ細やかな地域の環境整備のための取り組みが必要になってくる。

また、学校や特別支援学級などの小規模の事業実施の事例が多かったが、市町村内にある障がい者事業所や施設等の生活の中でスポーツを上手に取り入れるため、出前事業や職員を対象にした講習会の実施も大切である。事業所や施設、あるいは障がい者団体などで、仲間とともにスポーツの楽しさを共有することで、さらに日常的なスポーツ参加への希望や期待が生まれ、地域のスポーツイベントへの参加意欲へと繋がっていくことにもなる。地域のスポーツ施設への障がい者の受け入れや市町村ですで行われているスポーツイベントに障がい者の参加も組み込まれてくれば、さらに障がい者のスポーツの日常化は前進していくものと思われる。

このように、スポーツ教室などによる体験することを提供する段階を経て、次に行うべき地域振興の手順は、スポーツ施設の利用やすでに行われているスポーツ事業へ障がいのある人の参加を組み入れる工夫をするなど、地域のスポーツ環境そのものをデザインして実行していくということである。これらのことは、障害者スポーツ指導者が個人レベルでできることではなく、障がい者のスポーツを統括している県障害者スポーツ協会が指導者協議会と連携しながら、地域の関係組織を巻き込んでスポーツ環境を整備していく必要がある。埼玉県は、関係者が共通理解をもって今後の振興事業に取り組むために手引書の作成をしたが、これは今後の活動を推進して行く上で参考となる事業成果である。

## 3) 各地域の障害者スポーツ協会が地域振興事業をマネジメントする

### ① 障がい者スポーツの統括団体としての取り組みを推進する

本事業を主催した各県障害者スポーツ協会は、事前準備に多くの時間と労力を費やし、地域の実情を踏まえた事前調査や実行委員会の立ち上げ、ブロック単位での取り組みにあたり核となる指導者との調整、関係組織・機関への協力依頼や事業内容・運営調整などを行った。

県全体の障がい者のスポーツ環境づくりをするためには、自らの組織を整備するという視点も必要になる。その理由は、市町村レベルでの組織連携を推進するためにも、県レベルの組織連携を図っておくことで市町村での取り組みが円滑に進むと思われ、特に県内の活動が活発でない地域への支援や地域差のない障がい者スポーツの理解促進を図るためにも、あらかじめ県福祉部局や生涯スポーツを所管している部局、教育委員会などの後援あるいは協力体制を整えておくことや、県体育協会への加盟や連携があれば、市町村での事業準備はさらに円滑になると思われる。

また、県内の障がい者競技団体やスポーツクラブが県障害者スポーツ協会に加盟し、協会の構成員として位置付けることにより、障がい者スポーツ組織の一体化が図られることになり、選手の発掘や育成が一層広がっていくものと思われる。

さらに、各団体の事業計画と実施報告書類からみると、全体事業の実施要綱を作成しないで、教室や大会の開催要項だけが作成されている団体が多かった。そもそも、各県の障がい者スポーツ環境を鑑みて県全体に視点をあて事業計画を作成し、これに県の福祉行政や教育行政の後援を得て事業を開始するように準備しておくことで、市町村事業へと移行しやすいと考えられる。したがって、次年度以降は、県全体で本事業を実施していくという観点からも、「地域振興事業実施要綱」を定め、県行政を巻き込んだ事業と位置付けることが望ましい。さらに、県の障がい者スポーツ統括団体として、自らの組織整備をして県の諸機関・組織を巻き込んだ事業の展開を期待したい。

## ② 県内障がい者スポーツ団体の育成

障がい者が自立してスポーツに取り組む環境づくりのためには、スポーツ関係者の支援を得ることも大切だが、障がい者のスポーツクラブや競技団体の設立を支援し障がい者スポーツ組織と連携した地域振興を図ることが大切である。

本事業では、技術力の向上を目的としたスポーツ教室や選手強化事業、大会や記録会も開催された。このような教室や大会等は、スポーツをする上での目標設定となるとともに、スポーツの日常化にとっても大切であり、継続的なスポーツ実施やジュニア選手の発掘や育成を進めるためにも、障がい者スポーツ組織を整備できるよう、障がい者スポーツ協会の側面的な支援が重要になってくる。

## ③ スポーツ用具の整備

本事業では、重度障がい者や高齢者、障がいのない人も含めて誰もが取り組みやすいボッチャを実施した団体が多かったが、ボッチャ用具は高価なため、用具を整備することに苦労した団体もあった。

振興事業から発展した大会の開催や交流事業などでも用具は必要になってくることから、県障害者スポーツ協会として、各種助成団体を活用するなどして、スポーツ用具を整えていくことも大切である。

本事業の目的や目標を明確にし、何をどのように展開していくかの各協会の振興ビジョンをもって用具の整備を進めていくことが望ましい。

## ④ 情報の発信

各県障害者スポーツ協会では、予算や人材も限られており十分な情報発信ができない状況があり、地域の障がい者の側からも、「情報が来ない」との声が多い。11 団体が実施した事業には多くの障がい者が参加することができたが、地区・地域を限定したことにより、事業の情報が伝わりやすかったと推測できる。いかに情報を伝えていくかが、今後の地域振興をするための重要な要素となる。

## ⑤ 事業の検証

11 団体の事業は、各県の実情を考慮した特色ある内容であり、今後、さらに地域での振興事業への期待は深まると考えられる。身体障がい、知的障がい、精神障がい、障がいの重度化、重複化、高齢化などのさまざまな障がい者の現状やニーズを踏まえて、それぞれの立場でスポーツに親しむことができる環境づくりのための地域振興事業の在り方について、本事業を検証するとともに、さらに各県の実情を分析し、あらたな事業の展開へと進めていただきたい。

また、周到な準備と計画、事業を実施したあとの検証や評価など、事業の成果をみるためには、事業直後のアンケート調査などだけでなく、事業実施が終了後、しばらく時間をおいてから再度意見を聴くことも事業の成果が地域に根付いているかを把握するうえでは必要である。さらに参加した障がい者だけでなく、運営に参加した人からも意見を聴取することで、地域振興事業がみんなで作りにくい事業であることを示すことも大切である。

## 6 おわりに

スポーツ基本法の施行や 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催など、障がい者のスポーツ環境は、今までにないほどの大きな変化の時代にあるといっていよう。障がいあるいは障がい者に対する人々の理解や受け止め方が変わり、障がい者自身もスポーツを身近なものと感じるようになってきている。本事業では、事業の準備過程や運営に関わる人々が、それぞれの役割を果たしていくことの重要性がみえてきた。地域の人や組織を巻き込んだ周到な準備と実践が、地域振興事業の成果と考えられ、今後さらに多くの障害者スポーツ協会が取り組むことを期待したい。



## 平成 25 年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業

- ◆ 障害者スポーツ講習会
- ◆ 障害者スポーツ交流会
- ◆ 総合型地域スポーツクラブ自主運営に係る支援

一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会



平成 25 年度「地域における障害者スポーツの振興事業」  
～秋田県内における障害者スポーツ振興事業～ 事業報告

1. はじめに

秋田県では、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくりなど、スポーツ振興を県民運動として展開するため、平成 21 年 9 月に「スポーツ立県あきた」を宣言した。これに伴い障害者も含めた生涯スポーツの振興を通じた、健康で豊かな生活の実現を目指している。

しかしながら、スポーツ立県を宣言し、秋田県スポーツ振興基本計画を整備してもなお、障害者がスポーツ活動するには満足な環境であると言えない現状にある。特に、地域における障害者スポーツの環境が整っておらず、障害者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組めていないという背景もある。

当事業は昨年度から国庫補助事業として実施しているが、今年度は地区を新たに「総合型地域スポーツクラブ」において、『いつでも どこでも だれでも いつまでも』スポーツを楽しむことができる社会の実現を目指すべく、障害者も積極的に活動に参加することができるよう、併せて地域においても一層障害者スポーツの普及・振興に努めていただきたく、計画・開催した。

2. 目的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、総合型地域スポーツクラブを軸に在宅障害者との交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催する。

3. 主催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

4. 概要

地区名 内容	県北地区（大館市）	中央地区（由利本荘市）	県南地区（湯沢市）
後援	大館市福祉事務所 大館市教育委員会 大館市社会福祉協議会 秋田県体育協会	由利本荘市福祉事務所 由利本荘市教育委員会 由利本荘市社会福祉協議会 秋田県体育協会	湯沢市福祉事務所 湯沢市教育委員会 湯沢市社会福祉協議会 秋田県体育協会
会場	大館市立比内公民館 大館市比内体育館	由利本荘市文化交流館カダレ 由利本荘市総合体育館 由利本荘市立本荘東中学校体育館	湯沢市稲川農村環境改善センター 湯沢市稲川体育館
対象者	スポーツクラブひない会員 大館市福祉事務所職員 大館市社会福祉協議会職員 大館市スポーツ推進委員 大館市内在宅障害者	尾崎スポーツクラブ会員 由利本荘市福祉事務所職員 由利本荘市社会福祉協議会職員 由利本荘市スポーツ推進委員 由利本荘市内在宅障害者	チャレンジスポーツクラブいなかわ会員 湯沢市福祉事務所職員 湯沢市社会福祉協議会職員 湯沢市スポーツ推進委員 湯沢市内在宅障害者
時間	全日程 9:30～12:00		
講習会	障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり		
	7月28日（日）	7月27日（土）	7月14日（日）
交流会 （第1回目）	障害者スポーツの体験・交流《フライングディスク》		
	8月24日（土）	8月10日（土）	8月11日（日）
交流会 （第2回目）	障害者スポーツの体験・交流《卓球、卓球バレー》		
	9月21日（土）	9月23日（月・祝）	9月22日（日）
交流会 （第3回目）	障害者スポーツの体験・交流《ふうせんバレーボール、ボッチャ》		
	10月19日（土）	10月26日（土）	10月27日（日）
指導者打合せ	※障害者スポーツ指導員対象 6月1日（土）10:00～12:00 於：秋田県社会福祉会館		
指導者報告会	※障害者スポーツ指導員対象 1月25日（土）10:00～12:00 於：秋田県社会福祉会館		

5. 参加費

無料（交流会の傷害保険は事務局負担）

6. 事務局

一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5 秋田県社会福祉会館 5 階（TEL）018-864-2750 （FAX）018-874-9467

7. 参加者

【県北地区（大館市）】

内 訳	事業名	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
スポーツクラブひない会員 市スポーツ推進委員		2名	12名	9名	11名
市福祉事務所職員 市社会福祉協議会職員		1名	0名	0名	0名
障害者スポーツ指導員		4名	5名	5名	4名
		上級：1名 中級：1名 初級：2名	上級：1名 中級：1名 初級：3名	上級：1名 中級：2名 初級：2名	上級：1名 中級：1名 初級：2名
市内在宅障害者		2名	13名	15名	7名
		肢体不自由：2名	肢体不自由：4名 内部障害：1名 聴覚障害：1名 知的障害：4名 精神障害：3名	肢体不自由：11名 内部障害：2名 聴覚障害：1名 精神障害：1名	肢体不自由：4名 内部障害：1名 聴覚障害：1名 精神障害：1名
引率者（保護者、施設職員）		1名	1名	1名	1名
事務局		1名	1名	1名	1名
合 計		11名	32名	31名	24名

【中央地区（由利本荘市）】

内 訳	事業名	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
尾崎スポーツクラブ会員 市スポーツ推進委員		4名	3名	3名	7名
市福祉事務所職員 市社会福祉協議会職員		6名	7名	5名	3名
障害者スポーツ指導員		13名	11名	13名	12名
		中級：4名 初級：9名	中級：3名 初級：8名	中級：4名 初級：9名	中級：3名 初級：9名
市内在宅障害者		0名	6名	24名	7名
			肢体不自由：4名 聴覚障害：1名 知的障害：1名	肢体不自由：11名 聴覚障害：3名 知的障害：9名 内部障害：1名	肢体不自由：6名 知的障害：1名
引率者（保護者、施設職員）		1名	1名	3名	1名
手話通訳員		0名	0名	1名	0名
事務局		1名	1名	1名	1名
合 計		25名	29名	50名	31名

【県南地区（湯沢市）】

内 訳	事業名	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
チャレンジスポーツクラブいなかわ会員 市スポーツ推進委員		7名	4名	19名	2名
市福祉事務所職員 市社会福祉協議会職員		1名	1名	0名	0名
障害者スポーツ指導員		4名	6名	5名	5名
		中級：3名 初級：1名	中級：3名 初級：3名	中級：3名 初級：2名	中級：4名 初級：1名
市内在宅障害者		0名	3名	7名	0名
			肢体不自由：2名 視覚障害：1名	肢体不自由：5名 視覚障害：1名 知的障害：1名	
NPO 法人サポートセンター・ビーイング		2名	2名	1名	0名
引率者（保護者、施設職員）		0名	1名	1名	0名
事務局		1名	1名	2名	1名
合 計		15名	18名	35名	8名

8. 成 果

① 交流会の前に総合型地域スポーツクラブ会員と市スポーツ推進委員、市福祉事務所職員、市社会福祉協議会職員を対象に、障害に対する理解と障害者がスポーツを行う際の安全面について学ぶ機会（講習会）を設けた。

講師からの的確な指導や体験に基づく説明のほか、実際に車椅子に乗車して利用者への介助・誘導方法や、アイマスクを着用して歩行する疑似体験、視覚障害者の誘導方法についても触れたため、参加者の知識や理解が深まり、交流会を開催する準備を整えることができた。

また、講師を担当した障害者スポーツ指導員の指導も適切であり、これまでの経験を大いに発揮できたうえ、講師の責務を全うすべく事前学習をしたり、当日ほかの講師の説明を受けたりしたことで、知識だけでなく自分の役割や課題を再確認・発見できたようだ。

② 交流会では障害者に加え、講習会参加者も参加した。障害者が日頃取り組みやすいスポーツを選定して3回実施した。初めて体験する方にとっても難しい種目でなかったこと、障害や年齢を問わず取り組めることから、地域の活動に是非取り入れたいとの評価をいただいた。（競技用具購入・準備に興味を示す方も多かった）

また活動中は、普段接することのない間柄でグループを編成し一緒にプレーしたこともあって、互いにコミュニケーションを図ったり、率先してサポートしたりといった光景が多く目立った。

障害者もこのような時間を過ごしたことで、地域の活動に参加したいという気持ちがより表れるようになった。

③ 障害者スポーツ指導員の活躍の場を多く作ることができた。自らの指導力を高め、経験値を増やす絶好の機会となった。比較的普段から特定の競技に特化して活動してきた指導員が多かったため、実施した5競技を通じて自信を深めることもできた。

講習会、交流会は開始から終了まで指導員主体で進行したことも、今後のスポーツ指導・活動現場に大いにプラスになるものと思われる。

④ アンケート調査の結果から見ると、クラブ会員は「誰でも気軽に参加できる場である」というクラブ本来の目的を再確認し、推進委員も合わせて「障害の有無はスポーツ活動に関係ない。スポーツをしたいという一人一人の気持ちが大切」ということを感じたようだ。この講習会、交流会に参加して実際に障害者と触れ合ったことにより、生まれた意識であろうと思われる。

また、地域において活動場所があること自体を知らず、情報・運動不足に悩み、地域住民との交流を望んでいた障害者にとっては、活動できる場があるということ、高齢でも、障害があってもスポーツはできるという喜びや楽しさを知るきっかけにもなった。

## 9. 課 題

- ① 国庫補助事業としての手続きがスムーズに進み、計画・準備・周知など全般において十分余裕を持って行なうことができた。

周知方法は工夫を凝らし、広報誌や新聞紙面での案内募集、行政窓口での対応、各障害者団体や通所施設、特別支援学校等へ直接開催書類を送付（新たに作成したチラシも同封）した。しかしながら、参加者の少ない地区もあり「ほかの行事と重なった」や「興味のある競技のときだけ参加する」といった回答があった。時間に余裕をもって案内周知を図ったが、こういった理由が背景にあることは予測できていなかった。

また障害者から、「所属している団体で事業を紹介する。前年度の3月までに提出すれば、4月の会議で反映できる」といった案もいただいた。この事業は年度毎の委託であり、翌年の計画を前年度に行なうことは困難であるため、希望に沿うことができない。

- ② 事業実施に先立ち、障害者スポーツ指導員（障害者スポーツ指導者協議会）との協議、打合せをした。この中で事業の内容を深め、役割分担を適宜することができた。

しかし、開催地区在住で協力可能な指導員が少なく、予定よりも少ない人数で指導を行わなければならない地区や、地区を越えて遠くから指導に参加する指導員もおり、難儀をかけたケースもあった。

また、協力可能な指導員がこここのところ定着化しているため、新たに資格を取得した指導員や若手の指導員も多く輩出していくことを、今後進めて行かなくてはいけないと痛感した。（平均40～50代。男女比は3：2）

昨年度は平日中心で事業開催をしたため、指導員不足も否めない地区があったという反省点を活かし、今年度は土日の休日で日程調整をした。（平日は仕事をしている指導員が多く、平日に協力可能な指導員の大半は退職後の方々で構成するため、60代の指導員が中心となり、メンバーもある程度固定してしまう）

逆に、指導員を除いた参加者の中には「休日の活動より平日が好ましい。休日の参加は難しい」と話す方々も多く、指導員のみならず多くの参加者のもと開催できるよう、全体の意見を考慮した日程調整の難しさも残った。参加者がいなくては事業が成り立たず、県南地区（湯沢市）においては最終日に欠席者が相次ぎ、予定していた交流会が開催できなかったという極めて悔やまれる事態にもなった。

- ③ 各地域で自主運営を目標とした場合、総合型地域スポーツクラブ及び障害者スポーツ指導員の協力が必須であり、予算や会場の確保から活動まで、一任して実施するまでは事務局がサポートしていく必要がある。（障害者へもスポーツ活動には受益者負担が伴うことの理解も求めて行かなくてはならない）

また、福祉事務所、社会福祉協議会、教育委員会（スポーツ推進委員所管）からの後援を得たうえ、それぞれの職員・委員が参加者という立場でもあった。中には数名のみの参加、更には全日程欠席という残念な地区もあり、アンケート調査の結果からも見て分かるように、地域での障害者スポーツ振興に前向きに取り組む（今後取り組もうとする）体制がある地区と、予算や日程的なことから困難であるという地区がはっきりした。障害者が地域で継続してスポーツに取り組むためには、行政等の支援・援助が必要不可欠となるため、各地域において障害者のスポーツ振興の推進により努め、スポーツ施設のバリアフリー化などのハード面に限らず、障害者が安心してスポーツを行うことができる仕組みや計画の整備を、是非主体的に進めていただきたいと強く願う。

- ④ 各地域においてクラブ組織・運営がスムーズに進み、障害者が積極的・継続的にスポーツ活動に取り組める環境が根付くことが今後大切であると考え。障害者も地域の一住民としてスポーツをすることに対し、周囲の理解が重要である。

これは障害者スポーツ関係者だけでは確立でき得ない。各市町村の障害福祉・スポーツ主管課、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等との相互連携・協力体制のもと展開していかなければ、地域での取り組みは実現せず、この事業も一過性のものになってしまう恐れがある。こういった点を鑑みて、より一層障害者スポーツの振興・推進に力を入れて行きたい。

平成25年度 秋田県内における

# 障害者スポーツ振興事業 県北(大館市)地区開催案内

## スポーツで広げよう交流の輪！

障害者スポーツの専門知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員の指導のもと、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催します。

**7/28 (日)** **【講習会】**  
**障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり**  
 ■会場/大館市立比内公民館 第3・4研修室 ■時間/9:30~12:00

**8/24 (土)** **【交流会①】**  
**フライングディスク**  
 ■会場/大館市比内体育館 ■時間/9:30~12:00



**9/21 (土)** **【交流会②】**  
**卓球、卓球パレー**  
 ■会場/大館市比内体育館 ■時間/9:30~12:00



**10/19 (土)** **【交流会③】**  
**ふうせんパレーボール  
ポッチャ**  
 ■会場/大館市比内体育館 ■時間/9:30~12:00



### 対象者

#### 【講習会】

スポーツクラブひない会員  
 大館市福祉事務所職員  
 大館市社会福祉協議会職員  
 大館市スポーツ推進委員

#### 【交流会】

大館市在住の身体・知的・精神障害者、  
 スポーツクラブひない会員、大館市福祉事務所職員、  
 大館市社会福祉協議会職員、大館市スポーツ推進委員

### 参加費

# 無料

交流会の傷害保険は事務局にて加入します

### 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

主催/一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階

TEL 018-864-2750 FAX 018-874-9467

平成25年度国庫補助事業地域振興モデル事業

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 県北地区（大館市）開催要綱

1. 目的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催する。

2. 主催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

3. 後援

大館市福祉事務所、大館市教育委員会、社会福祉法人 大館市社会福祉協議会、公益財団法人 秋田県体育協会

4. 日時、内容、会場

期 日	内 容	会 場	時 間
7月28日（日）	【講習会】 障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師) 障害者スポーツ指導員	大館市立比内公民館 第3・4研修室 大館市比内町扇田字庚申岱8 (TEL) 0186-43-7141	9:30 ～ 12:00
8月24日（土）	【交流会①】 障害者スポーツの体験・交流 種目：フライングディスク (講師) 障害者スポーツ指導員	大館市比内体育館 大館市比内町扇田字庚申岱34-2 (TEL) 0186-55-0194	
9月21日（土）	【交流会②】 障害者スポーツの体験・交流 種目：卓球、卓球バレー (講師) 障害者スポーツ指導員		
10月19日（土）	【交流会③】 障害者スポーツの体験・交流 種目：ふうせんバレーボール、ボッチャ (講師) 障害者スポーツ指導員		

※交流会は運動に適した服装でご参加ください。また室内シューズをご持参ください。

5. 対象者

【講習会】

スポーツクラブひな会員、大館市福祉事務所職員、大館市社会福祉協議会職員、大館市スポーツ推進委員

【交流会】

大館市在住の身体・知的・精神障害者、スポーツクラブひな会員

大館市福祉事務所職員、大館市社会福祉協議会職員、大館市スポーツ推進委員

6. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へ FAX 又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

7. 参加費

無料（交流会の傷害保険は事務局にて加入します）

8. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階

(TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業  
県北地区(大館市)活動のもよう

■7月28日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】



■8月24日交流会①【フライングディスク】



■9月21日交流会②【卓球、卓球バレー】



■10月19日交流会③【ふうせんバレーボール、ボッチャ】



## 8～10月に交流会 会場は比内、参加者募る

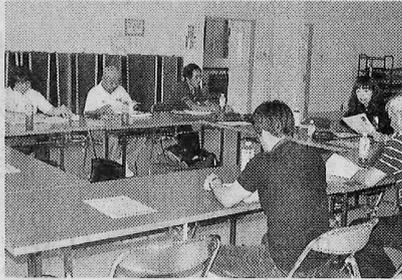
県障害者スポーツ協

県障害者スポーツ協会（菅原三郎会長）が8～10月に月1回ずつ、大館市比内体育館を会場にフライングディスクや卓球の交流会を開く。

24年度から県北、中央、県南の3会場で開催している。前回県北は三種町で開催し、北鹿地方では今回が初めて。

交流会の前に障害に関する理解を深めてもらおうと28日、比内公民館で講習会を開いた。写真。協会員のほか、地域の総合型スポーツクラブ（SC）「SCひなひな」、市スポーツ推進員ら11人が参加。身体、知的、精神の3種の障害について障害者スポーツ指導員から説明を受けた。

交流会は24日、9月21日、10月19日の3回。協会は広く参加者を募っている。無料。申し込み、問い合わせは事務局



の佐藤慶子さん（☎018・864・2750、FAX018・874・9467）。

# 「ナイススロー」

障害者スポーツ交流

## 比内でフライングディスク

県障害者スポーツ協会（菅原三郎会長）は24日、大館市比内体育館でフライングディスクの交流会を開き、スポーツ関係者や在宅障害者らが競

技を楽しんだ。協会が主催する秋田県内における障害者スポーツ振興事業の一環。24年度から県北、中央、県南地区で開催し、



北鹿では初。障害者が地域で安全に継続的に活動できる環境整備を目指し、7月の講習会を皮切りに10月まで全4回の日程。

総合型スポーツクラブ（SC）「SCひなひな」の会員や市スポーツ推進委員、在宅障害者ら33人が参加し、「障害者スポーツの中でもメジャーな競技」というフライングディスクを体験。10回投じて5ヶ先のゴールに何回通るかを競った。初回から9投、10投をゴールする参加者もあり、「ナイススロー」と掛け声が響いた。

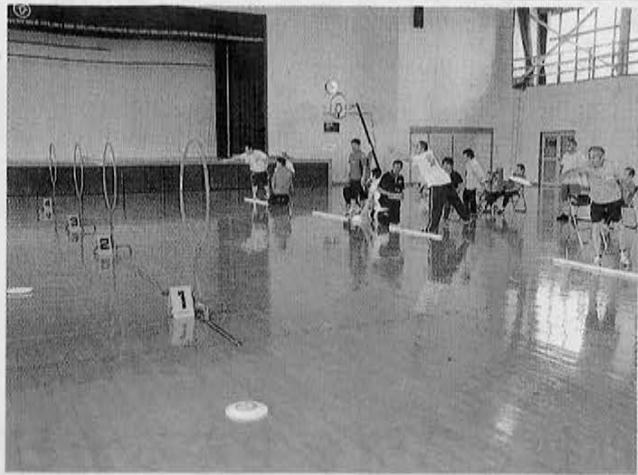
次回は9月21日、同会場で卓球と卓球パレートの交流会を開く。

フライングディスクを体験する参加者（比内公民館）

# ナイススローを連発

フライング  
ディスク

## 大館市で県北地区交流会



フライングディスクに挑戦する参加者(比内体育館で)

在宅の障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、スポーツに積極的・継続的に参加できる地域環境を整えることが狙い。

この日は、同市比内町のNPO法人共生センター・とつと工房の利用者とスポーツクラブひなの会員、市スポーツ推進員、県障害者スポーツ協会の指導員ら約30人が参加してフライングディスクを楽しんだ。

田舎型のディスクを投げて直径91・5センチの輪を通過させる競技。初めて挑戦する参加者も多かったが、こつをつかむと10

在宅障害者のスポーツ参加推進を目的とした交流会が24日、大館市比内体育館で開かれた。参加者は、地域のスポーツ推進委員らと一緒にフライングディスクに挑戦し、

おおだて新聞 2013/8/26 (月)

投でも成功させる人もおり、周囲から「ナイススロー」という声が上がっていた。

県北地区で同事業の対象となるのは昨年度の三種町に続き2カ所目。9月21日には卓球・卓球バレー、10月19日には風船バレーボール・ボッチャを体験する交流会を予定しており、障害者スポーツ推進に向けた地域の連携強化を図る。

## 卓球楽しみ心地よい汗

障害者  
ら対象 大館市スポーツ振興事業

県障害者スポーツ協会(菅原三朗会長)主催の障害者スポーツ振興事業はこのほど、大館市比内公民館で開かれた。参加者が卓球などの種目に取り組み、心地よい汗を流した。

日ごろ体を動かすことの少ない在宅障害者に対して、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせ

ている障害者スポーツ指導員を活用しながら総合型スポーツクラブとの交流を進め、地域で安全かつ継続的な活動ができる環境整備を図ることを目的に開催。昨年度から県北、中央、県南の3地区

で始まり、今年度は同市が県北地区の会場に選ばれた。事業は7月28日から始まり、これまでにスポーツクラブひなの会員や市スポーツ推進委員などを対象とした障害者に対する理解を深める講習会、在宅障害者とフライングディスクでの交流会を行った。2回目の交流会となったこの日は、同市在住の精神、身体、知的障害者や同推進委員ら30人余が参加した。

会場では、卓球台の周りを座りながら囲み、中に鈴の入った専用のボールを縦横30センチ以内の板で弾き合う卓球バレーが行われたほか、参加者らが同推進委員らのアドバイスを受けながら卓球でラ



卓球などで心地よい汗を流した障害者スポーツ事業

を始める。今年度は同市が県北地区の会場に選ばれた。事業は7月28日から始まり、これまでにスポーツクラブひなの会員や市スポーツ推進委員などを対象とした障害者に対する理解を深める講習会、在宅障害者とフライングディスクでの交流会を行った。2回目の交流会となったこの日は、同市在住の精神、身体、知的障害者や同推進委員ら30人余が参加した。

おおだて新聞 2013/9/28 (土)

# ふうせんバレーで 楽しみながら交流

県障害者  
スポーツ協会

県障害者スポーツ協会は19日、大館市比内体育館でふうせんバレーボールなどを体験する交流会を開いた。写真は7月から市で行ってきた「秋田県内における障害者スポーツ振興事業」の最終回で、ス



ポーツ関係者や在宅障害者らがルールを学びながら競技を楽しんだ。  
障害者が地域で安全に継続的に活動できる環境整備を目的

指し協会が主催する同事業は、毎年県内を巡回して開催。今回は北鹿で初めて、7月の講習会を皮切りに全4回の日程で競技を体験した。

総合型スポーツクラブ「SCひない」会員や市スポーツ推進委員、在宅障害者ら25人が参加。ふうせんバレーボールは、バドミントンのコートで視覚障害者のために中に鈴を入れたふうせんを打ち合う競技。1チーム6人で、必ず全員が1回以上触れてから10

ふうせんバレーを体験する参加者（比内体育館）  
回以内で相手コートに返すルールがあり、参加者は「バレーより難しい」などと声を上げながら熱中していた。  
パラリンピットの正式種目になっていくポッチャも体験した。同協会のスポーツ推進員・佐藤慶子さんは「交流会を通

じ、障害の壁を超えてプレーできるようになった。今後は地域に障害者スポーツを広めてほしい」と話した。

平成25年度 秋田県内における

# 障害者スポーツ振興事業 中央(由利本荘市)地区開催案内

## スポーツで広げよう交流の輪!

障害者スポーツの専門知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員の指導のもと、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催します。

7/27  
(土)

【講習会】

### 障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり

■会場/由利本荘市文化交流館カダレ 図書館2階 研修室1 ■時間/9:30~12:00

8/10  
(土)

【交流会①】

### フライングディスク

■会場/由利本荘市総合体育館  
■時間/9:30~12:00



9/23  
(月・祝)

【交流会②】

### 卓球、卓球パレー

■会場/由利本荘市総合体育館  
■時間/9:30~12:00



10/26  
(土)

【交流会③】

### ふうせんパレーボール ポッチャ

■会場/由利本荘市立本荘東  
中学校体育館  
■時間/9:30~12:00



対象者

【講習会】

尾崎スポーツクラブ会員  
由利本荘市福祉事務所職員  
由利本荘市社会福祉協議会職員  
由利本荘市スポーツ推進委員

【交流会】

由利本荘市在住の身体・知的・精神障害者、  
尾崎スポーツクラブ会員、由利本荘市福祉事務所職員、  
由利本荘市社会福祉協議会職員、由利本荘市スポーツ推進委員

参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

主催/一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

参加費

# 無料

交流会の傷害保険は事務局にて加入します

事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階

TEL 018-864-2750 FAX 018-874-9467

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 中央地区（由利本荘市）開催要綱

1. 目的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催する。

2. 主催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

3. 後援

由利本荘市、由利本荘市教育委員会、社会福祉法人 由利本荘市社会福祉協議会、公益財団法人 秋田県体育協会

4. 日時、内容、会場

期 日	内 容	会 場	時 間
7月27日(土)	【講習会】 障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師) 障害者スポーツ指導員	由利本荘市文化交流館カダレー 図書館2階 研修室1 由利本荘市東町15 (TEL) 0184-22-2500	9:30 ～ 12:00
8月10日(土)	【交流会①】 障害者スポーツの体験・交流 種目：フライングディスク (講師) 障害者スポーツ指導員	由利本荘市総合体育館 由利本荘市岩谷町字西越62 (TEL) 0184-62-0500	
9月23日(月・祝)	【交流会②】 障害者スポーツの体験・交流 種目：卓球、卓球バレー (講師) 障害者スポーツ指導員		
10月26日(土)	【交流会③】 障害者スポーツの体験・交流 種目：ふうせんバレーボール、ボッチャ (講師) 障害者スポーツ指導員	由利本荘市立本荘東中学校体育館 由利本荘市薬師堂字境橋77 (TEL) 0184-27-2311	

※交流会は運動に適した服装でご参加ください。また室内シューズをご持参ください。

5. 対象者

【講習会】

尾崎スポーツクラブ会員

由利本荘市福祉事務所職員、由利本荘市社会福祉協議会職員、由利本荘市スポーツ推進委員

【交流会】

由利本荘市在住の身体・知的・精神障害者、尾崎スポーツクラブ会員、

由利本荘市福祉事務所職員、由利本荘市社会福祉協議会職員、由利本荘市スポーツ推進委員

6. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

7. 参加費

無料（交流会の傷害保険は事務局にて加入します）

8. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階

(TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業  
中央地区(由利本荘市)活動のもよう

■7月27日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】



■8月10日交流会①【フライングディスク】



■9月23日交流会②【卓球、卓球バレー】



■10月26日交流会③【ふうせんバレーボール、ボッチャ】



障害者スポーツ交流会

卓球バレーを満喫

由利本荘市、50人参加

障害者と地域のスポーツクラブ会員らが交流する「障害者スポーツ交流会」が23日、由利本荘市総合体育館で開かれ、約50人が卓球バレーや卓球を楽しみながら爽やかな汗を流した。

障害者が地域のスポーツ活動に参加するきっかけにしてもらうと、県障害者スポーツ協会が開催した。

卓球バレーは6人制で、卓球台を囲んで椅子に座り、鈴入りのピンポン球を板のラケ

ット(縦6枚、横30枚)で転がるといふ。

参加者はピンポン球を目で追いつつ、3回以内で相手側に返すルールとなっており、障害者も楽しくプレーで熱戦を展開。得点が決まると大きな歓声を上げ、プレーを満喫していた。

県障害者スポーツ協会スポーツ推進員の佐藤慶子さん(34)は「障害者との接し方に戸惑う人もいたが、交流会を重ねるたびに徐々に理解が深まっている。こうした取り組みが地域に根付いてくれればうれしい」と語った。

歓声を上げてプレーを楽しむ参加者



(小松嘉和)

地域スポーツクラブ会員

風船バレーなど

障害者と楽しむ

由利本荘市

障害者と地域のスポーツクラブ会員らが交流する「障害者スポーツ交流会」が26日、由利本荘市の本荘東中学校体育館で開かれ、約30人が「風船バレーボール」などを通じて心地よい汗を流した。

風船バレーは鈴が入った直径40センチの風船を打ち合う競技で、参加者は声を掛け合い、障害者に配慮して楽しんだ。ほかに、パラリンピック正式競技で、先に投げた玉の後にから投げたボールを近づける「ポッチャ」にも挑戦した。

尾崎スポーツクラブの佐藤真喜雄会長は「交流会での経験を生かし、地域全体で障害

風船バレーボールを楽しむ参加者



者もスポーツに親しめる環境をつくりたい」と話した。

交流会は、地域のスポーツ活動に障害者が参加するきっかけにしてもらうと、県障害者スポーツ協会が国の補助を受けて8月に始め、今回で3回目。

(小松嘉和)

平成25年度 秋田県内における

# 障害者スポーツ振興事業 県南(湯沢市)地区開催案内

## スポーツで広げよう交流の輪！

障害者スポーツの専門知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員の指導のもと、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催します。

**7/14 (日)** 【講習会】  
**障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり**  
■会場/湯沢市稲川農村環境改善センター 2階視聴覚室 ■時間/9:30~12:00

**8/11 (日)** 【交流会①】  
**フライングディスク**  
■会場/湯沢市稲川体育館  
■時間/9:30~12:00



**9/22 (日)** 【交流会②】  
**卓球、卓球パレー**  
■会場/湯沢市稲川体育館  
■時間/9:30~12:00



**10/27 (日)** 【交流会③】  
**ふうせんパレーボール  
ポッチャ**  
■会場/湯沢市稲川農村環境改善センター  
1階多目的ホール  
■時間/9:30~12:00



### 対象者

#### 【講習会】

チャレンジスポーツクラブいなかわ会員  
湯沢市福祉事務所職員  
湯沢市社会福祉協議会職員  
湯沢市スポーツ推進委員

#### 【交流会】

湯沢市在住の身体・知的・精神障害者、  
チャレンジスポーツクラブいなかわ会員、湯沢市福祉事務所職員、  
湯沢市社会福祉協議会職員、湯沢市スポーツ推進委員

### 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

主催/一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

### 参加費

# 無料

交流会の傷害保険は事務局にて加入します

事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階

TEL 018-864-2750 FAX 018-874-9467

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 県南地区（湯沢市）開催要綱

1. 目的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催する。

2. 主催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

3. 後援

湯沢市、湯沢市教育委員会、社会福祉法人 湯沢市社会福祉協議会、公益財団法人 秋田県体育協会

4. 日時、内容、会場

期 日	内 容	会 場	時 間
7月14日（日）	【講習会】 障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師) 障害者スポーツ指導員	湯沢市稲川農村環境改善センター 2階視聴覚室 湯沢市川連町字上平城120 (TEL) 0183-42-5816	9:30 ～ 12:00
8月11日（日）	【交流会①】 障害者スポーツの体験・交流 種目：フライングディスク (講師) 障害者スポーツ指導員	湯沢市稲川体育館 湯沢市川連町字上平城120 (TEL) 0183-42-5816	
9月22日（日）	【交流会②】 障害者スポーツの体験・交流 種目：卓球、卓球バレー (講師) 障害者スポーツ指導員		
10月27日（日）	【交流会③】 障害者スポーツの体験・交流 種目：ふうせんバレーボール、ボッチャ (講師) 障害者スポーツ指導員	湯沢市稲川農村環境改善センター 1階多目的ホール 湯沢市川連町字上平城120 (TEL) 0183-42-5816	

※交流会は運動に適した服装でご参加ください。また室内シューズをご持参ください。

5. 対象者

【講習会】

チャレンジスポーツクラブいなかわ会員、湯沢市福祉事務所職員  
湯沢市社会福祉協議会職員、湯沢市スポーツ推進委員

【交流会】

湯沢市在住の身体・知的・精神障害者、チャレンジスポーツクラブいなかわ会員、  
湯沢市福祉事務所職員、湯沢市社会福祉協議会職員、湯沢市スポーツ推進委員

6. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へ FAX 又は郵送にて送付。〆切は開催日の1週間前までとする。

7. 参加費

無料（交流会の傷害保険は事務局にて加入します）

8. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子  
〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階  
(TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業  
県南地区(湯沢市)活動のもよう

■7月14日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】



■8月11日交流会①【フライングディスク】



■9月22日交流会②【卓球、卓球バレー】



■10月27日交流会③【ふうせんバレーボール、ポッチャ】



準備万端で指導者が揃う中、  
参加者の当日キャンセルが続出…  
この日は選挙投票日。  
天候の悪化もあってか、予定の  
開始時刻になっても数名しか  
集まらず、という事態に。  
このままでは終われない!!  
やるはずだった2種目を入れた  
交流会をクラブ主催で3月16日に  
実施する予定です。

1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

- ・初めて知ることが多かった。もっと多くの人に参加して欲しい。
- ・欲を言えば、具体的に基本的な目的や各競技のルールについて詳細な説明があっても良かった。
- ・障害者と接する機会がなかったので、3障害についての説明は必要だと感じた。
- ・詳しく説明していただいたので、メモを取りながら参加できた。
- ・スムーズな運営、進行は参加してとても気持ち良かった。
- ・良い話が聞けてとても有意義だった。SC会員に積極的な参加を促すと共に、今後の活動に反映させたい。
- ・実際に車椅子の使用やアイマスクをしての歩行体験等、障害者の立場になって受講でき勉強になった。
- ・今後、積極的に障害者理解への学習を深めたい。
- ・大変良い事業だ。内容も分かり易かった。
- ・日頃障害者スポーツに関わっている方々からの話が大変参考になった。
- ・意見交換できて大いに良かった。障害者の考え方、状況を理解することは大切。
- ・障害者に対する合理的配慮が重要だと理解できた。

2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・自分自身は特に違和感はなかったが、SC会員は大きな不安があったようだ。
- ・推進委員の参加が少ない。
- ・自分自身が学ぶことに精一杯で、会話や挨拶を数人としかできなかった。交流できたかは疑問。
- ・障害者の方々の明るさは、それを支える指導者との間に安心という大きな絆があることを深く感じた。
- ・SCとしての今後の役割としてまだまだ勉強不足であることも考えさせられた。
- ・SC会員の参加が多くなかった。この先の地域における課題として、このような交流は必要であると共に、もっと周知活動も広く厚くする必要性を感じた。
- ・安全面において十分な配慮は必要だが、過剰に意識し過ぎると障害者自身が孤立してしまうこともあり得るので、SC会員には楽しさを基本におき活かして行きたい。
- ・障害者という言葉を聞いただけで労わってあげなければ、と思いがっていた自分を恥じた。
- ・障害者に寄り添い労わりと優しさが必要だ。SC会員はもっと勉強する必要がある、反省している。
- ・講習会に参加しなかったため、専門的なことが分からず自信のないままでの交流会参加は心配だった。
- ・ルールを理解し守ることでスポーツの楽しさと面白さが増す。
- ・非常に意義深い、有意義な交流会だと思った。
- ・これまで知らなかった様々な障害者スポーツを体験でき、障害者が体を動かすことの認識が変わった。
- ・障害の有無も、年齢も、男女も分け隔てなく交流できて良かった。
- ・視覚障害者の元気さを目の当たりにし、感動した。
- ・普段経験できない障害者スポーツを体験できて良かった。
- ・一緒にプレーできて楽しかった。月に1回交流会があれば良い。
- ・新たな発見が数多くあった。
- ・障害があってもスポーツができることを知った。できることから取り組みたい。
- ・講師（スポーツ指導員）の指導がとても分かり易く、楽しい時間を過ごすことができた。
- ・障害者の皆さんが真剣に取り組む姿に感動した。このような機会が多くあっても良い。
- ・障害者の皆さんの方がとてもパワフルで、負けん気が強かった。集中力も凄かった。
- ・心から明るく参加し、前向きに元気に取り組む障害者の姿に、自分の方が元気をもらって楽しく過ごさせてもらった。
- ・楽しかった反面、自分自身の未熟さ、難しさを痛感した。興奮して夢中になった。
- ・卓球バレーは良く考えられたスポーツで楽しい。
- ・プレーに熱中すると、障害の有無や悩みを忘れ夢中になれた。卓球バレーは日頃行なっている卓球より面白いと思えた。
- ・卓球バレーは、相手を思いやりながら（相手の立場になって）プレーすることを実感した。
- ・初めてフライングディスクを体験したが、とても楽しかった。親切な指導のお陰である。
- ・フライングディスクは初心者でも楽しめるので良い。力だけでなくコツがものを言うのも面白い。
- ・もしも自分が障害者になったら、皆さんのように卓球をやる勇気があるのか考えさせられた。
- ・車椅子の障害者を見て、自分自身も椅子に座って挑戦したことで、違う目線からラリー（卓球）できた。
- ・健全者も障害者も一緒にプレーできる工夫がされているので、予想以上に楽しめた。

3. 日頃のクラブ（市または団体）の活動において、障害者は参加していますか？

回答	参加している場合、その方の障害者や状況
<input type="checkbox"/> 参加している：6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由者。（右掌が硬直している）</li> <li>・ 肢体不自由者。（下肢障害。見学程度）</li> <li>・ 精神障害者。（卓球サークルに週1参加している）</li> <li>・ 知的障害者。（卓球バレー、フライングディスクの大会を開催）</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 参加していない：28名	
<input type="checkbox"/> 分からない：5名	

4. 今後、障害者がクラブ（市または団体）の活動に参加することについて

回答	その理由や内容等
<input type="checkbox"/> 良い：30名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SCは大会や競技性より、心にゆとりを持って活動しても良い時期。</li> <li>・ 「いつでも どこでも 誰とでも」がSCのモットーであるから。</li> <li>・ 自分だけの世界にならず外に出られたら、人との繋がりや声を出す機会が増える。</li> <li>・ 実際に障害者も参加しているが、気兼ねなく接している。</li> <li>・ 一人でやれるものではないので、協力してやりたい。</li> <li>・ 一緒に仲良く楽しみたい。（一緒にだと楽しいから）</li> <li>・ 「一緒にやりたい」という心があればOKだ。</li> <li>・ 受け入れ体制を作り、ソフト・ハード両面のバリアフリー化に努めたい。</li> <li>・ 全員で協力し合えば、特別問題ない。</li> <li>・ お互いの生活の励みになれば良い。</li> <li>・ 高齢化に伴いハンディのある市民が増えてくることが予想できる。</li> <li>・ 障害の有無は関係ない。皆同じ立場で、支え合って過ごしたい。</li> <li>・ 障害者の交友、活動の場が増える。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 心配、不安：7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人的には受け入れたいが、活動時間帯が夜間であり、交通手段も課題である。</li> <li>・ 現在SC会員は健常者だけであるため、スムーズに受け入れるかどうか。</li> <li>・ 精神障害者への関わり方が難しい。</li> <li>・ 卓球活動のリーダーとして、障害者への指導に自信がない。</li> <li>・ 指導方法をもっと勉強しなければと思う。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> その他：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動内容により参加できるかどうかを考えながら進める必要がある。</li> <li>・ 自分自身が高齢であるため、体が自由にきかない。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 希望や悩み：12名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般市民が障害に対して関心を持つための工夫、向上心の養成。</li> <li>・ 専門的な指導者派遣を希望。</li> <li>・ 専門的知識を学習する必要性を感じる。</li> <li>・ SC会員、推進委員が障害者スポーツの講習会に参加し、適切な知識を身に付けること。</li> <li>・ 障害者に対応できる会員をどう配置するか。</li> <li>・ 会場の対応に少し不安がある。（用具を備え付けることも含めて）</li> <li>・ 障害者への理解不足がある。自分自身が勉強不足。</li> <li>・ 障害者自身から積極的に参加しても良い。（家族の参加も多く欲しい）</li> <li>・ 障害者でも参加できる県内SCが限られている現状。</li> <li>・ 事前に障害者の状況等、必要なことを教えて欲しい。</li> </ul>

5. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導員の皆さんは多くはボランティア活動でしょうから、心から敬意を表したいと思う。</li> <li>・ 私どものSCに声をかけていただき、ありがとうございました。</li> <li>・ 以前重度の障害者と接した経験がある。実際にスポーツができなくてもテレビで観戦することが大好きな方もいた。スポーツにはこういった重度障害者の見学や観戦という形での参加があっても良いと思う。</li> <li>・ 新聞に事業の記事が掲載され、障害者のいる友人家族がスポーツに関心を持ったようだ。</li> <li>・ 当事業におけるSC側の理解及び参加者不足をお詫びします。今後、積極的に企画・考案する。</li> <li>・ スポーツ推進委員の研修に取り入れて理解を深め、障害者スポーツへの取り組みを拡大させたい。</li> <li>・ 交流会で資料（競技ルール）が配布されたが、何を学び何が課題か漠然とした中での参加だった。</li> </ul>
---

1. 講習会における感想をご記入ください

- ・ 総合型地域SC会員の参加が少ない。
- ・ 障害別の説明時間を、もう少し多めに設定して欲しい。(できれば各障害40分程度)
- ・ 講習会の開催日を数回に分けて(増やして)、不足部分も補えればと思う。
- ・ 役割分担を含め、詳細の打ち合わせが事前に十分必要だった。(指導員の打合会に欠席したため)
- ・ 医学に対する十分な知識と説明が不足であり、大変ご迷惑をかけました。
- ・ 自分の担当した障害の説明が、参加者にきちんと伝わったか不安だったが、他の講師(スポーツ指導員)の方々は的確な説明であった。
- ・ 自分自身、再確認の場となった。
- ・ 参加者の積極的な質疑を見て、有意義な内容であったと感じた。
- ・ 資料を見ながら(座学)だけでなく、実際に車椅子に座った状態での安全面の注意や、アイマスクを着用して歩行をする等、体験する時間も設定できたことが大変良かった。
- ・ 参加者と様々な情報交換ができた。
- ・ 事業に関わる方々と顔合わせの場にもなり、良い機会でもあった。
- ・ 楽しく良い雰囲気の中で開催できた。
- ・ これを機に、自分もできる範囲で支援していきたいと思った。

2. 交流会における感想をご自由にご記入ください

- ・ 身体障害者は多いが、知的及び精神障害者の参加者が少ない。通所施設や特別支援学校との調整、協力も必要かと思った。
- ・ 日によって参加者に差があるのが残念だった。(実施競技の人気具合も影響しているのか、周知や情報提供の不足か)
- ・ 参加者に各競技の内容について理解していただけたと思う。しかし総合型地域SC会員が今回の事業の開催趣旨を理解していたかが不明。
- ・ 講習会で学習した内容が活かせる場であるため、より多くの方に参加して欲しい。
- ・ 指導員がいつも同じメンバーであることが残念。新規のメンバーに対する働きかけが必要。
- ・ 全ての競技に指導員が指導対応できるようになるべき。
- ・ スポーツである以上ある程度の危険は伴うが、参加者が転倒しハラハラすることがあった。
- ・ 多くの参加者で盛大に行なうのもひとつの方法だが、大会開催も励みになる気がする。
- ・ 一同に会しての交流は、非常に有意義である。今後の継続も望むと同時に、これが障害者スポーツの理解と啓発、発展に繋がっていくと思う。
- ・ 今後も協力、活動したいと思えた。楽しい1日であった。
- ・ 笑顔が多く、予想していたより盛り上がりがあった。
- ・ 参加者が楽しそうに過ごしているのを見て、嬉しかった。
- ・ 指導員は障害者の実情に沿った指導を心がけることが大事であると思った。
- ・ 指導員も一緒に体を動かし、一体となって各競技を楽しむことができた。
- ・ 地域定着型として有効な活動だと感じた。
- ・ 講師という立場より、仲間という感じがした。
- ・ とても良い雰囲気だった。参加者が意欲的に取り組めていたので、そういった雰囲気、環境づくりが大切である。
- ・ 障害者の参加を伴っているため、どのような支援が必要かという点も含めて説明し、理解してもらえるので良かった。
- ・ 様々な障害者スポーツを紹介できる機会なので、今後も継続して欲しい。
- ・ 内容構成、進行スケジュールがかなりスムーズであった。

3. この事業は来年度地域を新たに継続する予定ですが、依頼があった場合指導可能ですか？

回答	その理由
<input type="checkbox"/> 可能：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に日時が分かれば調整する。</li> <li>・都合が合う限り参加する。</li> <li>・障害者がスポーツを通じて社会参加できるよう、支援の輪を広げたい。</li> <li>・できるだけ多くの方々と交流の場を持ちたい。</li> <li>・自分自身の勉強にもなる。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 不可能：0名	
<input type="checkbox"/> 分からない：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の勤務状況次第。</li> </ul>

4. 今回参加した各総合型地域スポーツクラブより、指導の依頼があった場合指導可能ですか？

回答	その理由や内容等
<input type="checkbox"/> 可能：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に十分配慮し、楽しくできるように支援したい。</li> <li>・事前に日時が分かれば調整、対応する。</li> <li>・自分自身が総合型地域SCの会員であるため。</li> <li>・今年度と同時期に開催していただけると助かる。</li> <li>・地域に障害者スポーツの楽しさを広めたい。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 不可能：0名	
<input type="checkbox"/> 分からない：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の勤務状況次第。</li> <li>・依頼内容による。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 希望や悩み：3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祝日や休日は避けて欲しい。</li> <li>・勤務体系上、1ヶ月以上前に連絡が欲しい。</li> <li>・参加したい気持ちは山々だが、仕事で難しいこともある。そういうときは本当に残念だ。</li> </ul>

5. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ基本法等、国や県における障害者スポーツ施策について、指導員への勉強会を開催すべき。</li> <li>・もっと主体的に指導員が事業に関わるべきだ。(計画立案の段階から事務局に協力すべき)</li> <li>・実施した地域へのフォロー事業も実施したい。</li> <li>・指導員は事前に競技ルール等を勉強、確認してから当日指導を行なうことが大切。</li> <li>・指導員の研修会を定期的で開催して欲しい。</li> <li>・今後、指導員が増えることが望ましい。</li> <li>・来年度は隣市での開催を期待している。</li> </ul>
---

平成25年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート回答

【障害者、引率者（職員、家族）】※回答43名／61名

1. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・障害者の参加が思ったより少なく、事務局や他の参加者に申し訳なく思う。
- ・車を運転できないので、会場までの移動時間、金額が負担だ。
- ・休憩を入れながら1回3時間程度運動したい。
- ・障害者は家庭、病院のデイケア等閉じられた環境の中に留まりがちなので、地域の方々との交流はとても良かった。
- ・多くの方々との交流できて楽しかった。上手にできなくても、自分に自信を持つことができた。
- ・ルールも分かり易く、色々な競技にも挑戦できてとても楽しかった。
- ・66歳での初めての卓球は頭から無理と思っていたが、指導していただき楽しく取り組めたことが感動だった。
- ・講師（スポーツ指導員）の指導が非常に丁寧、熱心であった。サポートが有難かった。
- ・3障害での交流会はとても嬉しかった。
- ・ふうせんバレーボールはとても楽しかった。全員でボール（ふうせん）を繋ぐ、これが本当のコミュニケーションスポーツだと思った。
- ・専門の競技用具、支援用具を用いての活動、指導者がいるということがとても良い環境だと感じた。
- ・こういった会は何回あっても良い。これからも継続して是非お願いしたい。
- ・参加者に名札が配られて、顔と名前が分かり良かった。
- ・親として精神的に無理をして欲しくない、体を動かして欲しいという気持ちが入り交ざっての参加だった。本人も慣れない環境に対応できていない様子も見て取れた。
- ・施設職員（支援者）として定期的にこういった会があるとありがたい。外部の方々との交流は新鮮で、通所利用者の方々もいつも以上に積極的に取り組む姿を見ることができた。

2. 総合型地域スポーツクラブでの活動を望みますか？

回答	その理由
□はい：29名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通じて地域の方々との交流できるから。</li> <li>・地域だと身近で利用し易いから。</li> <li>・元気なうちはどんどん参加したい。</li> <li>・普段体を動かす機会が少ないから。</li> <li>・体力面、健康面でも非常に良いと思う。</li> <li>・障害があるからと、今まで健常者と関わったことがないから。</li> <li>・私たちでもできるスポーツはある。</li> <li>・障害者は家に閉じこもりがちになるから。</li> <li>・新しいスポーツに挑戦したい。</li> <li>・運動する時間が欲しい。</li> <li>・皆に楽しんでもらいたい。</li> <li>・皆と一緒にだと楽しいから。</li> <li>・施設、学校以外の場で貴重な交流となる。</li> </ul>
□いいえ：4名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり自由に動けない。</li> <li>・誘い合える仲間がない。</li> <li>・時間的に無理がある。</li> </ul>
□無記入：10名	

3. 日頃、地域において運動やスポーツをしていますか？

□している：24名

質問	回答
□種目・競技は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球</li> <li>・卓球バレー</li> <li>・バドミントン</li> <li>・パークゴルフ</li> <li>・グラウンドゴルフ</li> <li>・ゲートボール</li> <li>・3B体操</li> <li>・ビームライフル</li> <li>・水泳</li> <li>・ボッチャ</li> <li>・ダンス</li> <li>・フライングディスク</li> </ul>
□活動頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回</li> <li>・1ヶ月に1～2回</li> <li>・不定期（友達に誘われると参加する）</li> <li>・年に2～3回</li> <li>・週2回</li> <li>・2～3ヶ月に1回</li> </ul>
□指導者の有無	いる：8名 / いない：16名
□障害者のみの活動か	はい：16名 / いいえ：8名
□希望や悩み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が欲しい。</li> <li>・色々なスポーツに取り組んでみたいが、用具がなくできない。</li> <li>・参加者数の減少、高齢化、障害の重度化。</li> <li>・公共機関は経費がかかる。</li> <li>・情報が欲しい。</li> </ul>

□していない：19名

質問	回答
□その理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人に迷惑をかけてしまうから。</li> <li>・高齢のため。</li> <li>・体力的に限界。</li> <li>・手話通訳員がいないとコミュニケーションが取れないため。</li> <li>・身の回りでスポーツに取り組む人がいない。</li> <li>・情報がない。</li> <li>・活動の機会がない。</li> <li>・興味のある種目がない。</li> <li>・保護者（家族）の協力がないと、1人での参加は厳しい。</li> <li>・施設での運動レクリエーションは週1回で実施しているが、施設を離れると地域での活動はない。</li> </ul>
□今後運動やスポーツはしたいか	はい：18名 / いいえ：1名
□活動環境への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で（身近で）活動できる場所。</li> <li>・遠方だと移動手段に困る。</li> <li>・障害を理解してもらい、気軽に活動できること。</li> <li>・指導者がいること。</li> <li>・同世代の方がいること。</li> <li>・競技性よりも体力や健康づくりを重視した活動内容。</li> </ul>

#### 4. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください

- ・事務局、指導員の方々に遠く県北地域まで来て事業開催していただき、感謝している。
- ・病気から懸命のリハビリを経て、ある程度の社会復帰を果たし、スポーツを楽しんでいる。
- ・事業計画を前年度中に組み3月中に各方面に周知していただけると、より多くの参加者が集まる。
- ・競技用具の貸し出しが気軽に行なえると良い。
- ・秋田は冬期間の運動量の確保が困難だ。

1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

- ・講師（スポーツ指導員）からの専門的かつ分かり易い説明をいただき、障害の特性をよく理解できた。
- ・障害者との関わり方を学ぶことができて本当に良かった。今後、この講習会のことを活かして行きたい。
- ・もっと多くの方々に参加して欲しかった。
- ・実技を伴いながらの講習会を開催していただければ、ある程度のルールや楽しさを知ることができるのではないかと。

2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・自分自身が楽しむことができた。
- ・体を動かし、同調し合う中で、親睦が深まったように感じた。
- ・講師から分かり易く説明していただき、楽しく実施できた。
- ・初めて体験した競技もあり、大変参考になった。
- ・スポーツを通じて障害者と交流でき、有意義な時間を過ごせた。
- ・障害者も健常者もお互いに、健康づくりや交流の機会となり良かった。
- ・障害者も健常者と同じように運動できることを知り、驚いた。
- ・講習会だけでは分からなかったことを知る機会を与えていただき、本当に良かった。
- ・ルールも簡単で、久々に汗をかき、とても楽しかった。
- ・怪我をする参加者もいなく、良かった。
- ・市民の方々や、地域の学生との交流の場が、もっと多くても良いと思う。
- ・もっと多くの方々に参加してもらえると、盛り上がると思う。
- ・共に参加して交流ができ楽しかったが、障害者の参加が少なく残念だった。

3. 貴所主催等の障害者スポーツに関する事業はありますか？

回答	その内容
<input type="checkbox"/> ある：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ及び卓球バレー大会。</li> <li>・ビームライフル、フライングディスク、ボッチャ教室。</li> <li>・障害者と小学生がグラウンドゴルフを通じて交流を図り、障害の理解促進に努める。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> ない：6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の各種大会や交流会に参加しているため。</li> <li>・参加できる方が少ない。</li> <li>・以前から実施していない。</li> <li>・予算的な問題。</li> <li>・障害者スポーツ関係は、身障協会に委託しているため。</li> </ul>

4. 貴所における障害者スポーツの振興について

回答	その理由や内容等
<input type="checkbox"/> 実施している：0名	
<input type="checkbox"/> 計画する又は計画中：0名	
<input type="checkbox"/> 予定なし：5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の各種大会や交流会に参加しているため。</li> <li>・障害者の高齢化。</li> <li>・日程の都合上、余裕がない。</li> <li>・要望があれば計画したい。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> その他：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催は身障協会だが、福祉事務所が事務局となり、障害者相互のスポーツ交流会を開催している。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 未回答：1名	
<input type="checkbox"/> 希望や悩み：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の参加者が増えない。</li> </ul>

5. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください

- ・事業開催は平日を希望する。
- ・当地域は交通の不便性があるため、交通手段を考える必要がある。
- ・障害者スポーツの振興に協力するとなれば、単に競技ルールを覚えるだけでなく、障害についても理解が必要であり、勉強しなければと思った。
- ・地域において安全かつ継続的にこういった場を設け、体力増進、リハビリ、気分転換や社交の機会とし、普及していく必要性に気付いた。

## 平成24年度実施地区総合型クラブ自主運営に係る支援について

### 1. 県北地区（三種町）【三種町内総合型地域スポーツクラブ 計3クラブ】

◆事業名 チャレンジデー2013 三種町在宅障害者スポーツ交流会

◆主催 三種町チャレンジデー実行委員会

◆期日 5月29日（水）9：30～11：30

◆会場 三種町山本体育館

①障害者 9名

三種町内身体障害者 肢体不自由7名、視覚障害1名、内部障害1名

②指導者 3名

◆参加者 昨年度参加の指導者協議会員

③その他 4名

実行委員会事務局員3名（山本地域スポーツクラブ及び三種町スポーツ推進委員）

三種町福祉課職員1名

◆種目 卓球バレー

◆活動のもよう



4月に開催に係る連絡をいただきました。卓球バレー指導者派遣及び三種町の在宅障害者へ周知の依頼を受け、24年度地域振興事業に参加した方々へ案内をしました。当日は卓球バレー用具を当協会事務局で持参し、指導員が指導と審判を行い、2時間大いに盛り上がりました。（障害者の皆さんは、手作りで用具も揃えたそうです）

25年度はこの1回だけの事業実施。三種町内の在宅障害者から、「秋田市のグリーンスポーツ倶楽部の活動日に誘い合っ  
て出掛けている。定期的に三種町内の各クラブで運動したい」との要望があり、事務局担当者へ確認したところ、「障害者  
のクラブ活動への参加は、会員の理解浸透に時間を要する。来年度（26年度）もこういった交流事業を増やしなが  
ら会員への理解を求め、活動に結び付けて行きたい。また、町福祉担当課等行政の支援・協力を仰ぎたい」との回答。クラブ側の積  
極性を期待し、当協会としても支援を続けて行きたい。

## 2. 中央地区（秋田市）【グリーンスポーツ倶楽部】

このクラブは以前から障害者の参加に門戸を広げておりました。24年度地域振興事業実施を機に、「より一層多くの在宅障害者のみなさんと活動したい」というクラブ側の考えと、「地域で活動できる場所が欲しい」という障害者の皆さんの希望を叶えることができるよう、25年度は当協会事務局が連絡窓口となり、まずは1年かけて障害者への活動案内を徹底し、クラブへの用具貸し出しを行ない、クラブへの障害者スポーツの導入を図ることとしました。

クラブには障害者スポーツ指導員の資格を所有する会員が2名いること、また「障害の有無を問う必要性は全くない」という会長はじめ多くの会員の思いが、障害者の積極的参加に繋がる良い雰囲気づくりにもなっており、障害者の皆さんも時間の許す限り活動日に参加をし、体を動かすと共に、交流も深めている様子です。指導員や当協会事務局員がいなくとも、会員の方々が優しく支援・協力してくださっています。

◆事業名 スポーツのつどい（週1回程度）  
スポーツクラブ交流会（年2回）  
家族スポーツ楽しみ会（年2回）

◆主催 グリーンスポーツ倶楽部

◆会場 秋田県立体育館、秋田市立体育館

◆期日 4月1日、8日、15日、23日、30日  
5月7日、13日、20日、27日  
6月5日、10日、24日  
7月1日、8日、16日、22日  
8月20日、27日  
9月2日、17日、30日  
10月16日、22日、30日  
11月8日、14日、19日、25日  
12月2日、9日、16日、24日  
1月15日、20日、28日  
2月3日、10日、24日  
3月3日、10日、17日、24日

◆種目 卓球バレー、卓球、ふうせんバレーボール、フライングディスク、  
ディスクゴルフ、ミニテニス、バドミントン、バレーボール など

◆活動のもよう





参加している障害者の障害種は身体障害。車椅子常用者や下肢障害者が大半を占める。中には夫婦と一緒に参加されている方も…

25年度いっぱいには当協会事務局が連絡窓口の役割を継続し、現在参加している障害者の皆さんに来年度正式に会員としてクラブに入会し、「会費を納めて活動すること」「各自でクラブ活動日の情報を得て参加すること」を案内したい。このクラブが秋田県の核となって、障害者スポーツを地域に広げて行くことができれば、と考えている。

### 3. 県南地区（横手市）【大森スポーツクラブさくら】

#### ◆4月以降実績なし

24年度地域振興事業終了後の3月末、事務局担当者と25年度の対応について以下確認。

- ①クラブ全体に障害者スポーツの理解、浸透を図るために、クラブ会員を対象とした障害者スポーツの講習会や教室を開催したい。
- ②スポーツ協会で開催する初級障害者スポーツ指導員養成講習会や競技審判員講習会等に、クラブ会員を積極的に受講、参加させる。



**障害者スポーツに対応できる体制をクラブ側でまずは確立してから…**

①クラブ会員対象の講習会や教室は未開催。

②当協会事務局で開催（11月16日）した25年度「卓球バレー指導者養成講習会」にはクラブ会員1名が参加し、指導者認定を受けたが、「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」（11月2日、3日、4日開催）への受講申込みはなかった。

24年度事業が25年度に結びついておらず、残念であると共に当協会事務局としても反省すべき点だと感じている。こういった状況の原因やクラブ側の不安要素等課題を見付けて解決し、横手市大森地区に障害者スポーツをしっかりと根付かせて行きたい。

## スポーツパワーふくしま元気回復事業

### ◆ 地域スポーツ交流事業の開催

財団法人福島県障がい者スポーツ協会



平成 25 年度 地域における障害者スポーツの振興事業  
「スポーツパワー ふくしま元気回復 地域スポーツ交流大会」

## 1. はじめに

本県は、国内で 3 番目に広い県域を持ち、A 型障害者スポーツセンターなどの障害者スポーツの中核となる施設がない。そのため、障害者スポーツの推進にあたり、当協会が平成 8 年に、本県障がい者スポーツ振興の中核を担う組織として法人化した。併せて福島県障害者スポーツ指導者協議会を 5 支部に分け、「障がいのある当事者が、身近な地域において、個々の障がいと目的にあったスポーツをすることで、明るく社会生活を送る環境を整備する」という目標を掲げてきた。

平成 11 年よりは、福島県スポーツ振興会議に参加し、平成 14 年より公益財団法人福島県体育協会へ加盟登録したことで、総合型地域スポーツクラブとの連携により、障がい者が地域において一般の方と一緒にスポーツをする環境ができつつあった。

また、各障がい者競技団体、スペシャルオリンピックス福島等と連携をし、各事業に参加した当事者が、地域での活動のほかに、競技として取り組み日本代表選手及び強化選手を多数輩出すると共に、参加型の大会であるスペシャルオリンピックスにおいて世界大会に出場し交流を図るなど、それぞれのニーズにあったスポーツの振興を実施していた。地方自治体で開催する一般スポーツ行事への障がい者が参加しやすくするために運営委員としての参加をし、障がい者が参加しやすい環境の整備を行うなど、行政、当協会、指導者協議会以外にもスポーツ関係団体と連携し、スポーツ振興を図ってきた。目標には達成してはいなかったものの、目標までの途中経過としてある一定の成功を収めていた。

しかし、東日本大震災後の原子力発電所の事故を受け、地区スポーツ教室及び総合型地域スポーツクラブでの障がい者参加率が高かった相双地区が、震災により甚大な被害を受け、加えて警戒区域等になり住民が避難し、県内外への避難、仮設住宅等の入居を余儀なくされており、県民生活に大きなダメージをもたらしている。それは当然、障がい者スポーツの振興にも大きな障壁となっている。

平成 8 年の支部制度導入により、障がい者スポーツの振興が成功してきたなかでの、今回の災害を受け、活発であった本県障がい者スポーツは、障がい者愛好者及びアスリートの県外流出、障害者スポーツ指導者の流出、更新登録の減少、相双地区においては、障害者スポーツ指導者の活動実数の大幅な減少は大打撃を受けている。

こうしたことを受け、平成 25 年度より、相双支部の救済、全県下の障がい者スポーツ振興の復興にむけ、支部の組織再編を行った。再編に伴い、支部のほかに、日本障害者スポーツ協会の組織に合わせ、「専門部（研修、情報、メディカル）、競技部（全国障害者スポーツ大会の種目に冬季競技）を設置し、本県の障がい者スポーツの復興を図っている最中である。

## 2. 事業の目的

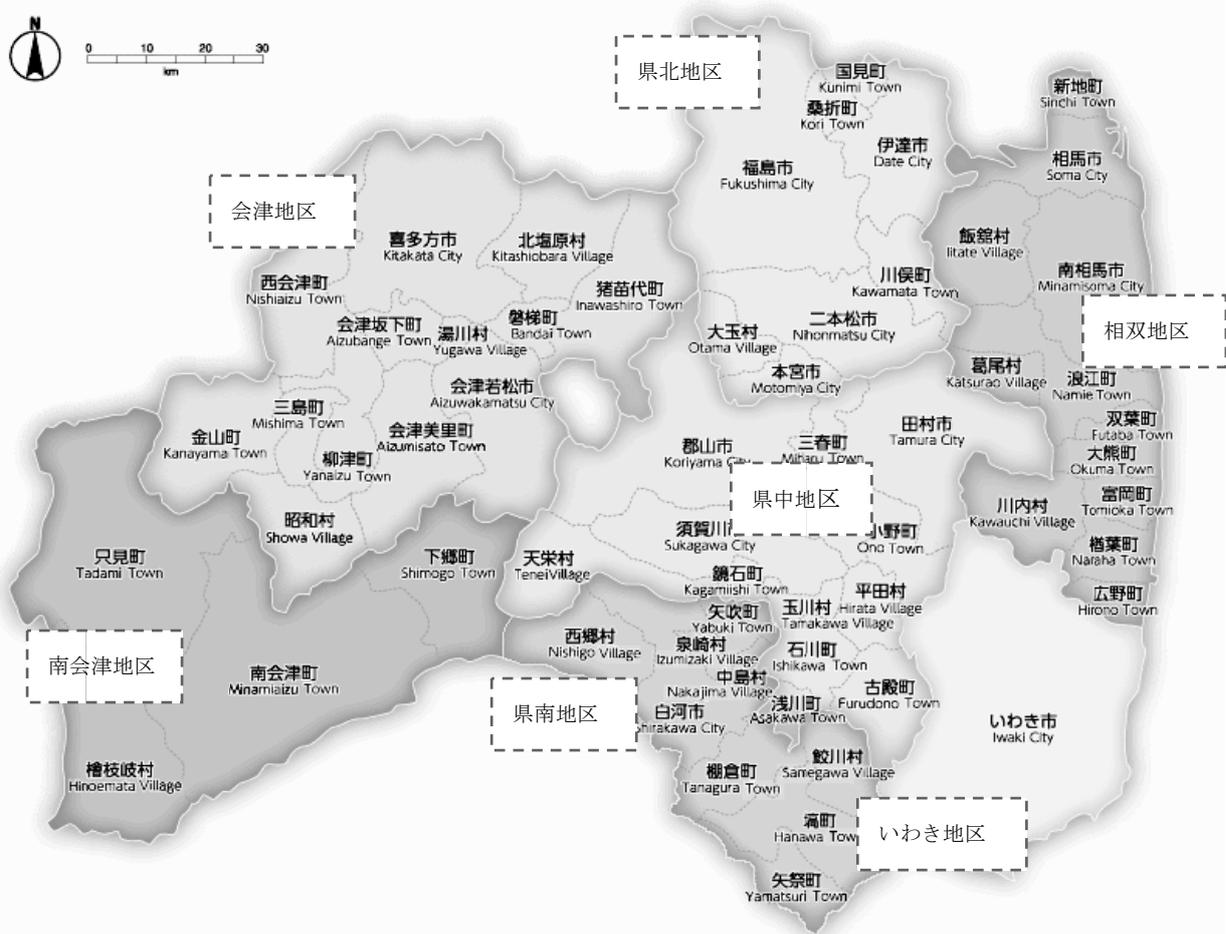
震災後、スポーツをする機会が減った障がいのある当事者が、お住まいの地域において、スポーツ活動に参加することで、明るく、楽しく、そして、交流を深め元気を回復してもらいたい。各地区の地域性に合わせたスポーツフェスティバル・大会を開催することで、日常生活を送る活力を取り戻す一端を担う。

### 3. 事業概要

福島県障害者スポーツ指導者協議会支部の管轄する地区を主体に、各5地区で障がい者スポーツ大会等を開催する。開催にあたっては、地方自治体、地区の福祉関係団体、スポーツ関係団体等と連携し、開催し、障がい者スポーツの理解を促進する。

福島県障害者スポーツ指導者協議会支部範囲

支部名	地区	範囲
県北相双支部	県北地区	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、大玉村、川俣町、桑折町、国見町
	相双地区	相馬市、原町市、南相馬市、新地町、飯館村、葛尾村、川内村、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町
県中いわき支部	県中地区	郡山市、須賀川市、田村市、三春町、小野町、鏡石町、矢吹町、平田村、玉川村、石川町、古殿町、浅川町
	いわき地区	いわき市、鮫川村、埴町、矢祭町、棚倉町
会津県南支部	会津地区	会津若松市、喜多方市、猪苗代町、北塩原村、磐梯町、湯川村、会津坂下町、西会津町、会津美里町、三島町、柳津町、金山町、昭和村
	南会津地区	下郷町、南会津町、只見町、桧枝岐村
	県南地区	白河市、矢吹町、泉崎村、中島村、西郷村



#### 4. 事業内容

	県北地区	相双地区	会津地区	県中地区	いわき地区
日 時	H26.6.29 (土) 9時~12時	H26.6.14(金) 16時~17時	H26.11.4(月) 9時~15時	H27.2.9 (日) 9時~12時	H26.2.23(日) 9時~12時
会 場	福島市体育館 (福島市)	ミックスボウル原町 (南相馬市)	ふれあい体育館 (会津若松市)	郡山市障害者福祉 センター(郡山市)	いわきサンアビリ ティー(いわき市)
対 象	障がい者、家族 地域の方、一般	障がい者、家族 地域の方、一般	障がい者、家族 地域の方、一般	障がい者、家族 地域の方、一般	障がい者、家族 地域の方、一般
種 目	リレー、ボウリン グ、ストラックア ウト、フライング ディスク等	ボウリング	フライングディ スク、ボッチャ	卓球バレー、風船 バレー、フライン グディスク、ボッ チャ等	卓球バレー、風船 バレー、フライン グディスク、ボッ チャ等
参加者	特別支援学校在 校生・卒業生 障がい者団体所 属者、一般	スポーツ教室参 加者、身体障害 者福祉協会員、 就労支援事業所 利用者、授産事 業所利用者、総 合型太田大甕ス ポーツクラブ	スポーツ教室参 加者、特別支援 学校卒業生、障 がい者団体所属 者、障がい者競 技団体所属者、 クラブ・サーク ル登録者、一般	保健福祉関連施 設通所事業所利 用者、就労支援 事業所利用者、 スポーツクラブ	特別支援学校在 校生・卒業生、 スポーツクラブ 所属者、いわき サンアビリティ ーズ利用者、ア ビスポ会員
スタッフ	障害者スポーツ 指導員、福島市 障害者スポーツ 協会、高校生ボ ランティア、一 般ボランティア 、手話通訳者	障害者スポーツ 指導員、会場ス タッフ、身体障 害者福祉協会、 社会福祉協議会 、ボランティア 連絡協議会、手 話通訳者	障害者スポーツ 指導員、会津障 害者スポーツ連 絡協議会、障が い者の明日を考 える会、会津若 松市スポーツ振 興公社、手話通 訳者	障害者スポーツ 指導員、学生ボ ランティア、手 話通訳者	障害者スポーツ 指導員、いわき 市ボランティア 登録者、会場職 員、手話通訳者

#### 4. 事業成果

##### 【県北地区】

県北地区は、福島市障害者スポーツ協会があるため、福島市内は、比較的障害者スポーツが盛んなため参加者も市内が多い傾向にある。今回は、郡部のほうよりも広く参加があった。周知を徹底した効果と言える。今大会を開催したことで、障害者スポーツ指導員の運営力の向上と地域との連携・協力が強くなった。

### 【相双地区】

相双地区は、震災前よりスポーツ吹き矢、フライングディスク、卓球、ボウリング教室を、双葉郡、相馬郡管内を巡回し開催してきた実績があり、現在も、すべては廻れないが、できる範囲で継続していた。今回、初めて一同に会し交流会を開催したが、種目は、重度の方も実施でき、参加者よりも人気のあった教室のなかから「ボウリング競技」とした。会場の理解と協力を得ることができ、障がい者団体だけでなく、民間企業、ボランティア、スポーツ指導員、太田大甕スポーツクラブの指導員など広く協力し開催することができた。参加者も施設が帰還したため、今大会を案内し、参加を募った。

スタッフは、相双地区は、現住所に残っている指導員は少なく、通常活動できる指導員は2人程度となっているため、平日にも関わらず、他地区から多くの障害者スポーツ指導員の支援があった。

地区を越えた連携協力が見られた。相双は、規模は小さいが、継続することが大事であるため、これを機会に交流会を相双地区の活動として今後も実施していきたい。

### 【会津地区】

会津地区は、県内のなかで最も活動が活発な地域である。これは、障害者スポーツ指導者会津支部長の強いリーダーシップと行動力が、地域の障がい者スポーツの活性化につながっている。年間をとおした定期的な障がい者スポーツ教室及びスポーツ大会も他地区より先駆けて実施し定着している。大会に至っては13回を数えるまでになっている。本県のモデル地区である。今回は、その実績をもとに他地区での開催に広がった。

### 【県中地区】

県中地区は、初めて地区においてスポーツ交流会を開催した。障害者スポーツ指導員の準備、機動力により、記録的な大雪に見舞われたがなんとか開催することができた。

開催準備から開催までのすべてを障害者スポーツ指導員が中心となり実施。ボランティア等に指示を出すなど、運営力が高まった。

### 【いわき地区】

いわき地区は、いわき市、いわきサンアビリティーズとの連携により、スポーツフェスティバルを開催した。障害者スポーツ指導員のほか、特別支援学校教員、ボランティアと連携し事業を進めることができた。いわき地区は、いわきサンアビリティーズがあるため、参加者に対する周知も容易であった。やはり、こうした障がい者教養文化体育施設があるところは、理解も深く、スムーズな運営ができると実感した。

### 【まとめ】

当協会が、各地区の指導者協議会支部に対し、指導をしながら実施したことで、今後、自主的な活動の際に運営できる、マネジメント力が高まった。

#### 【参加者の声】参加者聞きとり調査

- ・特別支援学校卒業後、体育の授業等でやったスポーツをまたやってみたい。
- ・なかなかできる場所がない。このような機会があって嬉しい。
- ・卓球バレーやボッチャなどの競技があることを知らなかった。
- ・職場のみんなと一緒にやってみたい。
- ・大雪で中止にならなくてよかった。楽しかった。

#### 【指導員、ボランティアの声】

- ・競技として、そして、休日の余暇活動として、指導員として、支援していければと思いました。
- ・毎週開催されている「アビスポ」に参加している参加者の他にも、地域の福祉事業所の利用者の方々が参加され、初めて上記のようなスポーツに触れる方も多くいた。地域の障害者スポーツの周知や活性化に繋がった。
- ・無作為にチーム分けをし、ポイントをつけながら行うことで参加者も楽しみながら行っていたようだ。
- ・いわき市の「アビスポサポーターズ」との連携、協力を得た。
- ・地域での障がい者スポーツへのニュースの高さと、場所の提供が望まれているのではないかと考える。
- ・障害者スポーツ指導員が今回は25名程度であったので、もう少し人数がほしいと感じた。
- ・参加者は多くはなかったが、参加者と指導員、さらに、引率や保護者の方も交えてボッチャや卓球バレーなど参加者の方の要望を聞きながら取り組むことができた。
- ・参加者の多くは、すでに何らかの競技にかかわっている方が多く、日ごろ練習場所が取れないため、この機会を利用して練習をしたい。という方が多く見受けられた。

#### 5. 課題

- ・今回、地区で安定して開催するために、障害者スポーツ指導員のマネジメント力を向上させるために企画、要綱等作成、運営、指導すべて障害者スポーツ指導員に役割を振り分け運営にあたった。その能力はひじょうに高いものであったが、各地区に1人、技術指導のほかには事務方のリーダーを育てることが必要だと感じた。
- ・周知を徹底したものの、参加者数が100名を越える事業ができなかった。参加しやすい環境はどういうものか調査が必要。
- ・今回は記録的な大雪の影響で、参加者が激減した地区があった。いわき地区は、雪の影響が少ないので現状でかまわないが、県中地区については、開催時期を検討すべきであった。
- ・開催地が、市など、いずれも都市部での開催に集中してしまう。各地区の市町村での開催をし、開催地において理解促進を図ることも検討すべき。

#### 【施設の問題】

震災後の改修工事により、施設が修繕されたために、傷がつくなど車椅子競技者に使用を制限する自治体があり、障害者専用体育施設の利用を薦められた。しかし、障害者体育施設は、指定管理の関係で一般利用者を受け入れて収益を得ているため、障がい者が利用するには、日程調整が困難な状況が発生している。安定して利用できる施設の確保も検討する必要があると共に、行政に対し、車椅子利用者へ

の施設利用の理解を促す必要もある。

- ・委託契約が、4月以降で、年度が始まったの契約となり、事業を実施するうえではもう少し早い契約だ  
といいと思った。

## ふれあいスポーツフェスタ ～ 県北スポーツ交流会 ～

### 「Challenge - Cup (チャレンジカップ) 2013」開催要項

- ・ 目 的 スポーツに気軽に親しめる場として開催することにより、体を動かす楽しさと自己達成感の喜びを体験する機会とし、参加者自身のQOL（生活の質）の向上と人間的成長、自己への自信を深める契機とする。
- ・ 主 催 (公財)日本障害者スポーツ協会、(財)福島県障がい者スポーツ協会
- ・ 共 催 福島県障害者スポーツ指導者協議会
- ・ 主 管 Challenge - Cup2013 実行委員会
- ・ 協 力 福島市障害者スポーツ協会
- ・ 日 時 平成25年6月29日(土)  
受 付： 9時30分 ～  
開 会 式：10時00分～10時15分(準備運動含む)  
種目開始：10時30分～  
閉 会 式：12時30分 ～ 12時40分
- ・ 場 所 福島体育館(福島市霞町4-45 TEL024-535-4106)
- ・ 実施種目 次の種目について、当日、自由に参加できる形式といたします。  
なお、当日の参加状況によって種目・開始時間は変更する場合があります。  
・ダッシュ走 ・ストラックアウト ・ボウリング ・パン食い競争など
- ・ 参加資格 主に県北地区在住の障がいを持つ方とその介助者。(年齢は問いません)  
**種目の参加について介助が必要な方は、介助者と一緒に参加していただいて結構です。**
- ・ 記 録 受付時に参加者に「記録証」を配布し、種目に参加する毎に記録を係員が記入いたします。  
「楽しみながら種目に参加すること」を主な目的としておりますので、順位などによる表彰等はいりません。  
※介助・付き添いの方も種目に参加いただけます。
- ・ 申込方法 同封の参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局へ郵送又はFAXにて6月15日(土)までお申し込み下さい。
- ・ 備 考 1) 参加にあたっては運動に適した服装で出場下さい。  
2) 傷害保険は主催者側にて一括加入いたしますが、いかなる事故に対しても責任は負いませんので、参加にあたっては自己の責任において健康と安全に十分留意して下さい。(保険証のコピーを持参するなどお願いします。)  
3) その他大会に関する事、不明な点などについては大会事務局に問合せをお願いいたします。

【大会事務局】 高橋 健二 〒960-0657 伊達市保原町字中瀬町100 だての郷  
TEL 024-576-7799 FAX 024-576-7815  
携帯 080-1824-5163 E-mail [kenjinjin1967@nexyzbb.ne.jp](mailto:kenjinjin1967@nexyzbb.ne.jp)

# 県北チャレンジカップ写真集

平成25年6月29日（日）

福島市体育館



打ち合わせをしながらの準備開始です

併せて会場の準備も行います。



続々と参加者が到着、一日盛り上がりましょう！

指導者協議会県北支部長 高橋さんより歓迎の挨拶



原指導員により、念入りに準備運動をします。

学生ボランティアさんもしっかりお手伝いします



ペットボトルボウリング競技では、何本倒したかな！

真剣な表情でのストラックアウト！みんな本気です



ご家族、全員まぎっての遊び感覚で体を動かします

協力団体の笹川先生より講評をいただきました。



みんなメダルをかけてもらい喜んでくれました！

この体育館とも当分（震災修復）お別れです！  
また、キレイになったらチャレンジカップをしましょう

# 「地域における障害者スポーツの振興事業」

## 相双障がい者スポーツ大会

### 開催要項

- 1・目的 相双地区の障がい者スポーツの振興、障がい者と健常者がボウリングをとおして、ふれあい、交流することを目的とする。
- 2・主催 日本障害者スポーツ協会、福島県障がい者スポーツ協会
- 3・共催 福島県障害者スポーツ指導者協議会 県北・相双支部
- 4・主管 相双障がい者スポーツ大会実行委員会
- 5・日時 平成25年6月14日（金曜日）PM4:00～PM6:00
- 6・会場 ルミックスボウル原町 南相馬市原町区橋本町3-34
- 7・参加資格 年齢12歳以上の障がい児・者及びその関係者の方（保護者、家族、介助者、引率者）  
障がいの種別及び程度は問わない。（男女問わず）  
障がいの有無にかかわらず、どなたでも参加できます。
- 8・大会内容 ボウリング競技
- 9・参加費 参加費は無料です。  
シューズ等レンタル代金は各自負担となります。  
一人420円
- 10・日程
- |      |       |
|------|-------|
| 4:00 | 集合、受付 |
| 4:10 | 開会式   |
| 4:30 | 体操    |
| 4:40 | 競技開始  |
| 5:30 | 競技終了  |
| 5:45 | 閉会式   |
- 11・申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局へ**郵送**願います。  
または、電話、お近くにお住まいの障害者スポーツ指導者に直接連絡してもかまいません。  
**申込期限：5月31日（金）**
- 12・傷害保険 主催者で一括して加入
- 13・備考
- 1) 参加申込後のキャンセルは6月10日までに事務局までお願いします。
  - 2) その他大会に関する事、不明な点などについては事務局までに問合せをお願いいたします。
  - 3) 申込書は必ず郵送で事務局までお願いします。

【大会事務局】大会実行委員会 事務局：佐原 英夫

〒979-2533 相馬市坪田字下高松115 電話：0244-36-2033



インストラクターの高野さん(写真右端)より講義をうける参加者の皆さん。



ハンガーターレーンで安心して投げられます。

ボウリング教室  
日時 平成25年6月14日(金)  
場所: ルミックスボウル原町  
参加人数: 39名

コメント:  
ルミックスボウル原町さんの福祉月間に合わせ開催。  
ルミックスボウル原町のご好意により、ゲーム代420円で  
2ゲーム(靴代・ジュース代込)で実施させていただいた。

# 「地域における障害者スポーツの振興事業」 「県中エンジョイスポーツフェスティバル」開催要項

- 1 目的 : 障がい者スポーツ大会の開催を通して、障がい者の地域活動への参加とスポーツの楽しさを味わうことを目的とする。
- 2 主催 : (公財)日本障がい者スポーツ協会、(財)福島県障がい者スポーツ協会
- 3 共催 : 福島県障害者スポーツ指導者協議会
- 4 後援 : 郡山市  
郡山市社会福祉事業団
- 5 期日 : 平成26年 2月 9日(日) 10:00~12:00
- 6 場所 : 郡山市障害者福祉センター  
郡山市香久池1丁目15-15 電話 : 024-934-5811
- 7 参加対象 : 障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに興味のある方すべて
- 8 内容 : フライングディスク ※個人戦による記録会  
卓球バレー ※団体戦(当日チーム編成を実施)  
ボッチャ ※団体戦(当日チーム編成を実施)  
風船バレー ※団体戦(当日チーム編成を実施)
- 9 日程

9:00	指導員集合 会場準備
9:30	指導員、打ち合わせ
9:45	参加者受付開始
10:00	開会式(準備体操を含む)
10:00	競技1
10:20	競技2
10:45	ボッチャ
11:10	競技3
11:35	予定
11:40	競技4
	閉会式(表彰式含む)
12:00	会場撤去、清掃、解散

- 10 申し込み : 2月3日(月)までに下記の連絡先にFAXまたは、メールにてご連絡ください。当日の飛び入り参加も歓迎します。
- 11 服装 : 体育館シューズをご持参ください。  
服装は、自由です。
- 12 傷害保険 : 当方にて、スポーツ傷害保険に加入します。
- 13 備考 : 参加費は、無料です。

問い合わせ先 : (財)福島県障がい者スポーツ協会  
電話024-521-7170 FAX024-521-7929  
電子メール fsad2011@gmail.com  
福島県障害者スポーツ指導者協議会県中地区事務局 青山詩子  
携帯電話 090-3640-7295  
電子メール bluebearblueblue@yahoo.co.jp  
若松伸司 FAX 024-961-8048

# 県中エンジョイスポーツフェスティバル写真集

平成 26 年 2 月 9 日 (日)

郡山市障害者福祉センター



会場準備の前に除雪作業から始まりました。



除雪と中の準備と大忙しです。



参加者はだいぶ減ってしまいましたが開会します！



ボッチャはやはり盛り上がりますね！



卓球バレーも指導員も交じて対戦しました！



盛り上がった風船バレー！寒いけどがんばろう！

大雪の影響で少人数参加となってしまいました。降り続ける雪に、障害者スポーツ指導員は、中での指導と外での除雪の二手に分かれて大忙しで肉体も疲労困憊でしたが、参加者の笑顔と楽しかったの声に救われました。

# 「地域における障害者スポーツの振興事業」 いわきスポーツフェスティバル 開催要項

- 1 目的 年齢や障がいの有無を問うことなく楽しむことのできる、ユニバーサルスポーツを通して、いわき地区の障がい者スポーツ活動の向上及び啓発を図る。
- 2 主催 (公財) 日本障がい者スポーツ協会  
(財) 福島県障がい者スポーツ協会
- 3 共催 福島県障害者スポーツ指導者協議会
- 4 主管 いわきスポーツフェスティバル実行委員会
- 5 協力 いわき市  
いわき市社会福祉事業団  
いわきサン・アビリティーズ  
アビスポ
- 6 日時 平成26年2月23日(日) 10:00~12:00
- 7 会場 いわきサン・アビリティーズ体育館  
いわき市常磐湯本町上浅貝5番地1  
TEL/FAX 0246-43-7791

8 日程・内容	時間	内 容
	9:00	運営スタッフ集合 (サンアビリティーズ)
	9:15	会場準備
	9:30	参加者受付開始
	10:00	開会式
	10:10	競技開始
		前半種目：チーム対抗フライングディスク (審判以外は表彰式の準備)
	10:50	・卓球バレー、ボッチャ、風船バレーをローテーションで回る。
	11:40	チーム対抗車いすリレー
	12:00	競技終了、表彰式・閉校式
	12:15	後片付け・解散

- 9 申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局もしくはいわきサン・アビリティーズにFAXかメールで申し込む。  
**申込期限：2月20日(木)まで**
- 10 その他 当日は、団体傷害保険に加入する。

# いわきスポーツフェスティバル写真集

平成 26 年 2 月 23 日 (日)  
いわきサンアビリティーズ



平成 25 年度資格をとった新指導員も参加！

大雪の影響が残るなか、楽しみにして来てくれました。



受付開始しまーす！

自分で受付しましょうね！お名前は？



それでは、開会式をはじめます！

大雪の影響で寒いので準備運動はしっかりと！



届く位置からしっかり狙ってー！ 審判も真剣です！

ポッチャ会場も静かに燃えております！



この時期の浜通り地区は、中通りや会津地方と違い雪が降らないため、冬季の楽しみとして、2月開催としましたが、まさかの大雪と寒波による影響で体育館は寒かったです。参加申し込みよりも雪の影響が残ってしまい少なかったですが、参加して下さったみなさんは楽しんでいただけたと思います。なかなか、遠くに行くことや外にでる機会の少ない重度肢体不自由や知的障害の子どもたちが多く参加してくれたのがよかったです。来年はもっと参加者を増やすぞ！と盛り上がる障害者スポーツ指導員でした。参加者も指導員も楽しかったです！

# 「地域における障害者スポーツの振興事業」

会津・県南障がい者スポーツ大会

## “微笑み・笑顔・感動”

### 開催要項

- 1・目的 障がい者スポーツ大会に参加し、スポーツの楽しさを知ること  
を目的とする。
- 2・主催 (公財)日本障害者スポーツ協会  
(財)福島県障がい者スポーツ協会
- 3・共催 福島県障害者スポーツ指導者協議会  
福島県身体障がい者福祉協会 会津若松支部  
障害者の明日を考える会
- 4・主管 会津・県南障がい者スポーツ大会実行委員会
- 5・後援 会津若松市 会津若松市教育委員会  
会津若松市社会福祉協議会 会津若松市ボランティア連絡協議  
会 会津テニス協会  
福島民報社 福島民友新聞社
- 6・協力 東北発電工業労働組合 会津分会
- 7・協賛 タナカスポーツ
- 8・日時 平成25年11月4日(月曜日)AM10:00~PM3:00
- 9・会場 ふれあい体育館 会津若松市一箕町大字八幡字八幡2番地の1
- 10・参加資格 ・年齢12歳以上の障がい児・者及びその関係者の方(保護者、  
家族、介助者、引率者)  
・年齢12歳未満の方は事務局に問合せ下さい。  
・障がいの種別及び程度は問わない。(男女問わず)
- 11・大会内容 1:フライングディスク競技  
\*個人競技:フライングディスク競技(アキュラシー競技)  
\*団体競技:フライングディスク競技  
(団体は参加団体や施設の対抗戦を行ないます。)  
2:レクリエーションポッチャ競技(3人一組で行います。)
- 12・出場種目 \*アキュラシー(個人)競技では3、5mの内どちらか1種目
- 13・日程 9:00 集合,受付  
9:20 開会式  
9:40 体操  
10:00 競技開始  
12:00 昼食  
1:00 午後の部開始  
3:30 閉会式
- 14・申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局へ**郵送**願います。  
**申込期限:10月20日(日曜日)必着**
- 15・傷害保険 選手、大会役員、協会員については、協会一括で加入するが、各  
自別途で加入することを進めます。
- 16・備考 1)昼食を希望される方は800円の実費負担となりますので申込  
書に明記して下さい。  
2)参加申込後のキャンセルは10月30日までに事務局までお願

- いします。(その後のキャンセルは参加費を徴収します。)
- 3) その他大会に関する事、不明な点などについては事務局までに問合せをお願いいたします。(電話の場合は夜8時以降に携帯にお願いします。)
- 4) 申込書は必ず郵送で事務局までお願いします。

#### 【大会事務局】

会津・県南障がい者スポーツ大会実行委員会 事務局：熊田 洋子  
〒965-0001 会津若松市一箕町松長 2-1-6  
携 帯：090-2029-9091 Mail：nonohana41@hechima.co.jp (P C)

## 競技内容について

### フライングディスク競技

フライングディスクはすべての障害の方を対象にします。

《競技種目》

- 1) アクセラシー競技：3、5mの内どちらか1種目

### ◎：アクセラシー団体競技

(福島県障害者フライングディスク大会競技規則)

- (1) 競技方法はアクセラシー(個人)競技に準じるが、スローイングライン中央よりアクセラシーゴールまでの距離を5mとします。
- (2) 1チーム3人以上5人以内とします。  
( **競技開始後、チームの選手交代はできません。** )
- (3) 各施設・学校よりの選手が計20投のスローイングのうち、アクセラシーゴールを通過した回数合計とし、得点の多さによって順位を決定する。  
( **投数は、参加チーム内で均等をお願いします。** )
- (4) 組み合わせ抽選は、障害クラス毎に行います。

### レクリエーションボッチャ競技

競技ボッチャのルール・コートを簡単な形式に変更して行います。

基本的なルール

- 競技ボッチャにあるクラス分け、投球時間、反則行為、試合形式の規定はありません。
- ゲームは、2チーム対抗で行います。1チーム3人
- 両チームのキャプテンがジャンケンで、先攻(赤)、後攻(青)を決めます。
- 投げる順番をあらかじめ決めておきます。
- ゲームの進め方、先行のチームがジャックボールを投げてから先攻(赤)・後攻(青)の順にジャックボールの方へ投げて行きます。
- 得点の数え方はより簡単にするためにボールによる得点ではなく、ジャックボールに一番近いカラーボールのチームがそのラウンドの勝者と成り、点数は数えなくて済みます。同距離の場合は引き分けとします。
- 競技は3ラウンドを行い、ラウンドの勝数のみでゲームの勝敗を決定します。

行 事 名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

開催日時	平成25年11月4日(月)
開催場所	ふれあい体育館
撮影者	SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技役員打合せ(支部長から)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技役員打合せ(熊田運営委員長より)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技役員打合せ(湯田競技委員長より)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
受付準備(参加者が来ている)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
参加者の皆さんの練習(各自準備体操をしています。)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式大会会長の挨拶

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式(来賓:戸川市議会議長の挨拶)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式(来賓:文教厚生委員会 伊東副委員長の挨拶)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式(来賓:県障がい者スポ協 武田書記からの挨拶)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式の様子



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式(来賓:明日を考える会 菊池会長の挨拶)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
開会式:昨年度優勝チーム  
ふくしの家チームから優勝カップの返還

行事名: 会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所: 会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日 平成25年11月4日(月)

立会者名 ふれあい体育館

点検者名 SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会

開会式: 昨年度優勝チーム  
ふくしの家へレプリカの授与



第13回会津障がい者スポーツ大会

湯田大会競技委員長より競技の説明



第13回会津障がい者スポーツ大会

選手宣誓: チーム桜 白岩さん



第13回会津障がい者スポーツ大会

競技開始: 来賓の方々により競技開始  
障害者の明日を考える会 菊地会長



第13回会津障がい者スポーツ大会

競技開始: フライングディスク競技(個人戦)



第13回会津障がい者スポーツ大会

競技開始: フライングディスク競技(個人戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)

行 事 名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(個人戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：フライングディスク競技(団体戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)  
 競技ルールの説明：村上全日本ボッチャコーチ

第13回会津障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)  
 競技ルールの説明：村上全日本ボッチャコーチ



会津県南障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)  
 競技ルールの説明：村上全日本ボッチャコーチ

会津県南障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)  
 競技ルールの説明：村上全日本ボッチャコーチ  
 スタッフも真剣に聞いていました。



会津県南障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)  
 競技ルールの説明：村上全日本ボッチャコーチ

会津県南障がい者スポーツ大会  
 競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれあい体育館

点検月日	平成25年11月4日(月)
立会者名	ふれあい体育館
点検者名	SIADF



第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)

第13回会津障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)

会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)

会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)

行事名：会津・県南障がい者スポーツ大会

開催場所：会津若松市 ふれいあい体育館

開催日時	平成25年11月4日(月)
開催場所	ふれあい体育館
撮影者	SIADF



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
競技開始：ボッチャ競技(チーム戦)



会津県南障がい者スポーツ大会  
閉会式：フライングディスク競技団体  
第3位 共同作業所 希来里



会津県南障がい者スポーツ大会  
閉会式：フライングディスク競技団体  
第2位 チーム桜



会津県南障がい者スポーツ大会  
閉会式：フライングディスク競技団体  
優勝 身障福祉協会 湊分会

## 平成 25 年度埼玉県ふれあい地域振興事業

- ◆ ふれあい野球教室
- ◆ ふれあいティーボール教室、ふれあいティーボール大会
- ◆ ふれあいフットサル大会
- ◆ ふれあいサッカー教室
- ◆ 彩の国ハート&スマイル 四面卓球バレー大会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会



## I はじめに

平成 23 年 8 月に施行されたスポーツ基本法は、長く障がい者のスポーツに取り組んできた関係者にとっては大きな喜びであり、今後のスポーツの推進に夢と希望を与えるものになりました。2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、最近では、障がいのある人々のスポーツに対する理解や関心の度合いが少しずつ変わってきていることを実感できるようになっていますが、引き続き関係者が中心になって、さらなる振興に向けて取り組みを進めているところです。

今年度も埼玉県障害者スポーツ協会と埼玉県障害者指導者協議会が共催して、障がい者スポーツ指導者による実行委員会を組織して事業を実施しました。昨年度までに実施してきた 5 事業を充実させるとともに、特別支援学校を訪問してのスポーツ事業は、支援学校とのつながりを深める良い機会になりました。すべての事業をとおして障がいのある人ない人、また異なる障がい者同士が一緒にスポーツを楽しめたことは、埼玉県における共生スポーツの姿として定着しつつあります。

さらに今年度は、国庫補助事業「地域における障害者スポーツ振興事業」の 3 年目として、次のステップで何をしていくかを視野に入れた取り組みをする必要がありました。スポーツ基本法の理念にあるとおり、障がい者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを実現するため、埼玉県障害者スポーツ協会や埼玉県障害者スポーツ指導者協議会としても、さらなる推進事業を進めていく予定ですが、障がい者が地域でのスポーツを日常化するためには、各地域でのスポーツ事業の担い手であるスポーツ推進委員やスポーツ行政担当者の理解と実践力が欠くことのできない条件になります。そこで、地域で障がい者のスポーツを推進するために参考となる手引き書として、「地域で親しむノーマライゼーションスポーツ」と、「四面卓球バレーハンドブック」の二つの冊子を作成しました。

埼玉県障害者スポーツ協会の特別会員として、県内市町村が会員になっているという組織構成の特色がありますので、今後ますます地域とのつながりが深まり、障がい者が身近な地域でスポーツに親しめるような環境づくりが進んでいくことを願っています。

本事業を実施するにあたり、ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げますとともに、本事業の結果が、各地域の障がい者のスポーツ振興あるいは推進のお役に立て頂ければ幸いです。

## II 報告の概要

事業名	平成 25 年度 埼玉県ふれあい地域振興事業
主 催	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会
運 営	障害者スポーツ指導者による「埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会」
事業予算	2,000,000 円
事業のねらい	障がいのある人と障がいのない人がスポーツをとおして交流し、お互いの理解を深めるとともに、地域に根ざしたスポーツの振興を一層推進する。また、野球、フットサルの組織化を進める。
事業数	5 事業 21 会場
①ふれあい 野球教室	<p>今春の第 85 回記念選抜高等学校野球大会で全国優勝を果たした浦和学院高校野球部（コーチ 1 人、3 年生 19 人）の指導で野球の基本を学んだ。</p> <p>①身体、聴覚、知的、精神障がい者 59 人が参加した。</p> <p>②浦和学院高校野球部の指導、交流もあり、アンケートに回答した全員が「来年も参加したい」と答えるなど参加者の満足度は高かった。</p> <p>③野球部員にとっても、障がい者とのふれあいや「教えること」の経験はとても新鮮で有意義に感じている意見が多くみられた。</p>
②ふれあい ティーボール 教室	<p>特別支援学校及び特別支援学級（知的・肢体不自由）の児童・生徒を対象に学校単位の申し込みとした。野球の基礎技術である打つことやゲームをティーボールを使って体験した。講師は日本プロ野球 OB クラブと日本女子プロ野球リーグ所属のイーストアストライア、ノースレイア選手が務めた。</p> <p>①6 校（※うち 1 校は荒天中止）で開催し、286 人が参加した。</p> <p>②実施校からは児童生徒の実態に合わせた教室内容に満足し、継続実施の声を多数いただくなど好評であった。</p>
ふれあい ティーボール 大会	<p>ティーボール教室のひとつの果実として大会を企画し、知的障がいの部（チャンピオンシップ、フレンドシップ）、肢体不自由の部、個人参加できるバッティング体験コーナーの 4 つの部門を設定したが、荒天のため中止となった。また大会開催に先立ちティーボールの審判・指導者を養成するため初級指導者認定講習会を開催した。</p> <p>①大会には、67 人（6 チーム）が申込した。</p> <p>②1 チームにつき障がいのない人を 3 人まで参加可能とし、障がいのある人とない人が共に楽しめるように設定した。</p> <p>③初級指導者認定講習会は、県内特別支援学校教諭や障害者スポーツ指導者ら計 30 名が受講した。</p>
③ふれあい フットサル大 会	<p>共生スポーツのモデルとして 4 つの部門「中学生以上の部（障がいあり）、小学生の部（障がいなし）、一般交流の部（障がいのあるチームと障がいないチームの交流戦）、ふれあい MIX の部（混合）」を設定した。</p> <p>①419 人(41 チーム)が参加した。</p> <p>②障がいのある人とない人、知的障がいや精神障がいなど、異なる障がい者との交流を深めた。</p> <p>③大会後に参加者全員を対象に浦和レッズハートフルクラブによるサッカー教室を開催し、参加者間の交流を深めた。</p>
④ふれあい サッカー教室	<p>特別支援学校および特別支援学級児童・生徒を対象に、学校単位の申し込みとした。元なでしこジャパンの選手、浦和レッズハートフルクラブ、浦和レッズ選手 OB 会がコーチングにあたり、実行委員と障害者スポーツ指導者が児童・生徒をフォローした。</p> <p>①10 校の特別支援学校や特別支援学級で実施し 360 人が参加した。</p> <p>②昨年度の 3 校から倍以上の 10 校での実施と、周知活動の成果を感じることができた。また様々な地域での開催をとおして、各地域の障害者スポーツ指導者の活動の場を増やすことにつながった。</p>

<p>⑤ふれあい 四面卓球バレー 大会</p>	<p>障がいのない人1人を含む4人を1チームとし4チームが同時にゲームを行う。重度障がい者も含め、誰とでも一緒に楽しめる埼玉生まれのスポーツ。 ①56人（12チーム）が参加。小学生～70歳代までと幅広い年齢層障がい層の参加があった。 ②車椅子を使用している人や重度の麻痺がある人、知的障がい者など、異なった障がい者が、対等にゲームをとおして交流した。</p>
<p>⑥「みんなのスポーツ活動ガイドブック」の作成</p>	<p>「埼玉県ふれあい地域振興事業」3年目の集大成として、地域で障がい者のスポーツを推進するための参考となる手引き書として「みんなのスポーツ活動ガイドブック」を作成した。県内市町村、特別支援学校、社会福祉協議会、障害者スポーツ指導者等に配布し、地域での障がい者スポーツの振興を図る。</p>
<p>⑦「四面卓球バレーハンドブック」の作成</p>	<p>四面卓球バレーは平成11年ごろ、埼玉県総合リハビリテーションセンター医療体育科（現健康増進担当）でリハビリテーションのひとつとして発案され、現在では県内各地で大会や教室が開催されるなど広く親しまれている。一方で各大会ごとにルールが異なっていたが、この度埼玉県から全国に四面卓球バレーの輪を広げるべく、委員会を立ち上げルールを統一し、用具や工夫点など実践に役立つ情報を掲載した「四面卓球バレーハンドブック」を作成した。</p>
<p>障害者スポーツ指導者の活用と効果</p>	<p>3カ年計画の最終年度にあたり、実行委員会委員を11名から12名に増員し、さらに、組織内に別途「四面卓球バレールールづくり検討委員会」を立ち上げるなど総括体制を整え事業にあたった。 ①実行委員会の開催は2回であったが、新しく発足した「地域におけるスポーツ検討部会」、「四面卓球バレールール検討委員会」においては、機会を捉えミーティングを行うと共に足りない部分についてはメールにより補完した。 ②障害者スポーツ指導者については、各事業とも熱心にご参加いただいた。特に女性指導者の活躍は、目覚ましいものがあった。 ③障害者スポーツ指導者は、全事業をとおし、36名が参加。初級指導者は27名（75.0%）であった。年代別にみると、50～60歳代が3年間を通して最も多くの参加（52.8%）があった。</p>
<p>結果および反省点</p>	<p>①障害者スポーツ指導者が、地域において自主的自発的に事業が運営できるようになるための「育成」については、さらに強化を進めることが必要である。 ②本事業にあたり、新たに15名の障害者スポーツ指導者の参加をいただいた。これを契機にさらなる活用につなげられるものとする。 ③フットサル協会の立ち上げに向け、審判員の確保等一步前進することができた。ティーボールについては、ソフトボール、野球の普及を目的に考案されたものであり、ソフトボール等の競技人口の状況とティーボール教室での身体障がい者の元気あふれるプレーをみると事業の普及のため早期の組織化が必要である。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①県内各地での障がい者のスポーツの振興を図るための行動計画書としての手引書が完成したことから障害者スポーツ指導者に加え、地域のスポーツ指導員も活用して地域の連携のもと実行に移す必要がある。 ②障害者スポーツ指導者の「活用」から「育成」そして「自立」へ向けた取り組みとその方策の確立に引き続き取り組む必要がある。 ③四面卓球バレーについては、4団体でのそれぞれのルールにより大会を開催していたがこの度、ルールの統一を図ることができた。今後ルールの徹底と事業の普及を進めるには組織化が必要と考えられ「埼玉県障害者フットサル協会」「埼玉県障害者ティーボール協会」と合わせ設立に向けた支援が必要である。 ④本年度多くの事業を実施したが、重要なのはこれらの事業を継続実施することであり、人材の育成と財源の確保が求められる。</p>

### III 事業概要

#### 1. 実施体制

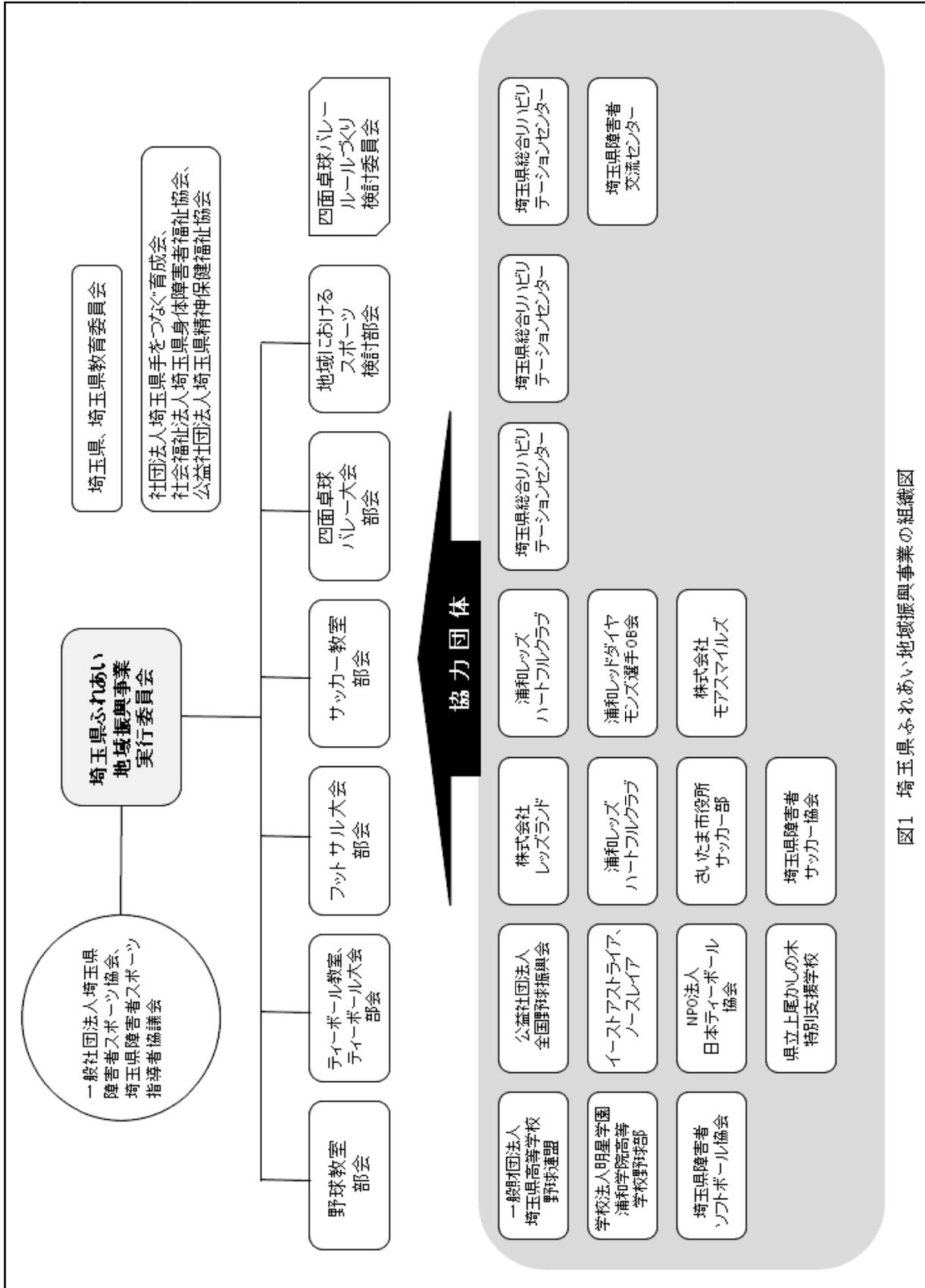


図1 埼玉県ふれあい地域振興事業の組織図

## 2. 日程と会場

	事業	開催日	会場
1	ふれあい野球教室	11月24日(日)	県営大宮公園野球場
	ふれあいティーボール教室		
2	①さいたま市立土合小	10月16日(水) ※荒天中止	さいたま市立土合小学校校庭
3	②上尾かしの木	10月17日(木)	県立上尾かしの木特別支援学校校庭
4	③宮代	11月19日(火)	県立宮代特別支援学校校庭
5	④所沢おおぞら	12月6日(金)	県立所沢おおぞら特別支援学校校庭
6	⑤三郷	平成26年1月15日(水)	県立三郷特別支援学校校庭
7	⑥川口	平成26年1月20日(月)	県立川口特別支援学校校庭
8	ふれあいティーボール大会	10月26日(土) ※荒天中止	県立上尾かしの木特別支援学校
9	ティーボール初級指導者認定講習会	8月31日(土)	埼玉県障害者交流センター ソフトボール場、会議室
10	ふれあいフットサル大会	11月4日(月・祝)	レッズランド
	ふれあいサッカー教室		
11	①さいたま市立植水小	7月8日(月)	さいたま市立植水小学校校庭
12	②川口	9月4日(水)	県立川口特別支援学校校庭
13	③所沢市立所沢小	9月9日(月)	所沢市立所沢小学校校庭
14	④三郷	10月1日(火)	県立三郷特別支援学校校庭
15	⑤浦和	10月8日(火)	県立浦和特別支援学校校庭
16	⑥上尾かしの木	10月22日(火)	県立上尾かしの木特別支援学校校庭
17	⑦本庄市立児玉小	10月30日(水)	本庄市立児玉小学校校庭
18	⑧さいたま市立土合小	11月20日(水)	さいたま市立土合小学校校庭
19	⑨さいたま市立植竹中	11月27日(水)	さいたま市立植竹中学校校庭
20	⑩所沢おおぞら	12月17日(火)	県立所沢おおぞら特別支援学校校庭
21	彩の国ハート&スマイル 四面卓球バレー大会	平成26年2月2日(日)	県総合リハビリテーションセンター体育館

## 3. 参加人数

### (1) 事業別参加者

表1 事業別参加者数

	事業名	参加者内訳	合計
1	ふれあい野球教室	59人	59人
2	ふれあいティーボール教室	(土合小) 10人	286人
3		(上尾かしの木) 150人	
4		(宮代) 24人	
5		(所沢おおぞら) 28人	
6		(三郷) 30人	
7		(川口) 44人	
8		ふれあいティーボール大会	
9	ティーボール初級指導者認定講習会	30人	30人
10	ふれあいフットサル大会	41チーム	419人
11	ふれあいサッカー教室	(植水小) 7人	360人
12		(川口) 43人	
13		(所沢小) 14人	
14		(三郷) 33人	
15		(浦和) 20人	
16		(上尾かしの木) 70人	
17		(児玉小) 96人	
18		(土合小) 10人	
19		(植竹中) 30人	
20		(所沢おおぞら) 37人	
21	彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会	59人	59人
			1280人

表2 事業別指導者数

事業	事業別指導者	障害者スポーツ指導者	実行委員	障害者スポーツ協会	計	
ふれあい野球教室	浦和学院高等学校野球部 コーチ(1)、3年生(19) 野球経験者(1)、学生ボランティア(1)	22	12	5	5	44
ふれあいティーボール教室						
①さいたま市立土合小	女子プロ野球・イーストアストライア、ノースレイア(3)	3	0	0	2	5
②上尾かしの木	女子プロ野球・イーストアストライア(6)、ノースレイア(7)	13	7	1	2	23
③宮代	女子プロ野球・イーストアストライア(2)、ノースレイア(2)	4	6	0	3	13
④所沢おおぞら	女子プロ野球・イーストアストライア(2)、ノースレイア(2)	4	4	0	2	10
⑤三郷	女子プロ野球・イーストアストライア(2)、ノースレイア(2)	4	6	0	3	13
⑥川口	プロ野球OBクラブ・鈴木健、古屋剛	2	6	0	3	11
ふれあいティーボール大会	ティーボールティーチャー(2)	2	9	5	5	21
ティーボール初級指導者認定講習会	NPO法人日本ティーボール協会(2)	2				2
ふれあいフットサル大会	さいたま市役所サッカー部(3) 埼玉県障害者サッカー協会(13)	16	11	9	5	41
ふれあいサッカー教室						
①さいたま市立植水小	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	2	1	4	9
②川口	浦和レッズハートフルクラブ(5)	5	0	0	2	7
③所沢市立所沢小	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	3	1	3	9
④三郷	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	3	0	3	8
⑤浦和	浦和レッドダイヤモンズ選手OB会・西野努	1	0	0	2	3
⑥上尾かしの木	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢、庭田亜樹子	3	5	1	3	12
⑦本庄市立児玉小	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	4	1	3	10
⑧さいたま市立土合小	浦和レッドダイヤモンズ選手OB会・広瀬努、松本安司	2	0	0	3	5
⑨さいたま市立植竹中	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	3	1	3	9
⑩所沢おおぞら	モアスマイルズ・北本綾子、木原梢	2	4	0	2	8
彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会	埼玉県総合リハビリテーションセンター(1)	1	15	6	5	27
	計	96	100	31	63	290

(2) 障害者スポーツ指導者（実行委員を除く）

表3 障害者スポーツ指導者の資格（人）

・初級障害者スポーツ指導員	27	75.0%
・中級障害者スポーツ指導員	6	16.7%
・上級障害者スポーツ指導員	3	8.3%
計	36	100.0%

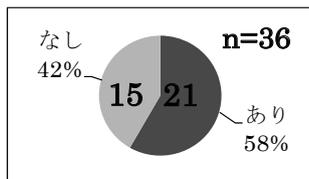
表4 障害者スポーツ指導者の年代（人）

・20歳代	2	5.6%
・30歳代	3	8.3%
・40歳代	7	19.4%
・50歳代	10	27.8%
・60歳代	9	25.0%
・70歳代	5	13.9%
計	36	100.0%

表5 障害者スポーツ指導者の性別（人）

・男	19	52.8%
・女	17	47.2%
計	36	100.0%

表6 平成23年度～24年度ふれあい地域振興事業参加の有無（人）



## IV まとめと今後の課題

### 1. 埼玉県における障がい者スポーツの現状

平成 16 年に埼玉県で開催された第 4 回全国障害者スポーツ大会を契機に、埼玉県障害者スポーツ協会が設立され、埼玉県における障がい者のスポーツは、行政主体のスポーツ振興から障がい者やスポーツ関係者が主体になった組織活動へと発展してきました。さらに、平成 25 年度から公益財団法人埼玉県体育協会の正会員となり、県内スポーツ組織の一員になるとともに埼玉県における障がい者スポーツの統括団体として大きな責任を担うことになりました。

しかし、障がい者のスポーツの推進が県行政主体ではなくなったとはいえ、障がい者福祉を所管する「県障害者福祉推進課」とスポーツや学校教育を主管する「県教育委員会」の支援は、障がい者のスポーツの発展を大きく左右するものであり、過去においてもそして今後とも、福祉行政と教育行政の相互連携に支えられていくこととなります。特に、埼玉県障害者スポーツ協会の特別会員として、県内市町村が会員になっているという組織構成の特色がありますが、市町村における障がい者スポーツの環境づくりを推進するためには、市町村との連携強化に向けて県行政の立場からも支援いただくことが重要になっています。

### 2. 埼玉県ふれあい地域振興事業

平成 23 年度からはじまった国庫補助事業である地域振興事業は、「埼玉県ふれあい地域振興事業」として 3 年目が終了することになります。

事業のねらいは、「障がいのある人と障がいのない人がスポーツをとおして交流し、お互いの理解を深めるとともに、障がい者のスポーツ活動が日常化できるスポーツ環境づくりをめざしたスポーツの振興を図ること、そのために障害者スポーツ指導者に積極的な関わりをいただき、将来的に地域におけるスポーツ推進を担う人材として育てていただく」というものでした。障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者協議会の共同主催により進めたこと、実行委員会を設置して、将来目標を見据えてきめ細かい準備をおこなって実行できたこと、毎年あるいは事業ごとに反省を踏まえて改善していくことができたことなど、実りある成果をもたらした地域振興事業であったと考えています。

今年度は、ふたつのガイドブックを作成しました。これは、来年度以降は市町村レベルでの事業を展開するという目標がありましたので、地域のスポーツ推進委員や行政担当者等にとって、地元のスポーツ事業に障がい者を組み入れる際の手引書として活用していただきたいこと、さらに障害者スポーツ指導者が自立してそれぞれの地域で活動していただく際に役立てていただくことを目的に作成しました。

スポーツ基本法やスポーツ基本計画、埼玉県スポーツ推進計画の実現に向け、市町村においても障がい者のスポーツ推進を視野にいられていると思いますが、その実行については、どのように取り組んでよいのか戸惑いと具体的プランを立てられないという現状があるようです。市町村での障がい

者のスポーツが一步でも踏み出していけるよう、来年度からは、このガイドブックを用いた具体的な事業の展開を進めていくこととなります。

### 3. スポーツ基本法や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定後の社会の変化について

平成23年8月にスポーツ基本法が施行されてから、少しずつ障がい者のスポーツ環境は変化してきていますが、地域に視点を移してみると明らかな変化を確認できるまでには至っていないというのが実情です。しかし、平成25年9月に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、マスコミをはじめ国民全体から「オリンピック」ではなく「オリンピック・パラリンピック」という言葉が多く聞かれるようになりました。このことから障がいのある人々のスポーツに対する理解や関心の度合いが少しずつ変わり、人々の意識や理解の仕方が変わってきているように思います。

今年度の事業を実施するなかで、障がいのない人たちの取り組み姿勢、発言までもが好意的で、協力的であることを実感できるものでした。指導者の側からも、障がい者と一緒にスポーツを楽しむことに対する感謝の言葉が寄せられ、障がい者の理解や社会貢献活動のきっかけづくりの機会になったようです。日本全体で、障がい者スポーツに対する理解が進んでいますので、この気運に乗って、我々の取り組みをさらに拡大させていくことで、埼玉県全体の障がい者スポーツが発展することが期待できます。また、2020年東京パラリンピックに本県から日本代表選手が選ばれることも夢ではありません。地道な地域での活動は、地域でのスポーツ推進だけではなく、世界へ羽ばたく選手の発掘や育成という役割も担っていることであり、スポーツ基本法にある「スポーツの好循環」をめざして動きはじめていると考えられます。

## 4. 今後の課題

### (1) 障害者スポーツ指導者の専門性

3年間で延べ191人（実行委員を除く）の障害者スポーツ指導者がこの事業に参加しました。直接的な「指導」で障害者スポーツ指導者が活躍した場面は多くはありませんでしたが、障害者スポーツ指導者のサポートは、どのような場面においても重要な役割を果たしてきました。障がいの特徴、障がい者それぞれの状態を踏まえたスポーツプログラムの展開や実際の場面で臨機応変な対応は、障害者スポーツ指導者でこそできるものでした。車いすを使用している人、視覚障がいのある人、知的障がいのある人、精神障がいのある人などが、安心して楽しくスポーツをするための工夫や配慮をする力をもっているのが障害者スポーツ指導者であり、3年間の事業を振り返っても、障害者スポーツ指導者の参画がなければ事業の成功には至らなかったと考えています。

今後は、地域レベルでのスポーツ教室の開催を重点的に行っていくこととなりますが、地域の行政やスポーツ推進委員、スポーツ団体等との連携づくりを担っていただくのは、障害者スポーツ指導者です。今まで、事務的な部分は障害者スポーツ協会事務局が担当してきましたが、これからは障害者スポーツ指導者が「地域との連携づくり」について積極的に関与し、スポーツ推進を先導していただくことが必要になってきます。そのために、障害者スポーツ指導者の資質向上や専門性を高めるために必要なことを3つ挙げてみます。

- ① さまざまな障がいについて、しっかり理解してスポーツ指導ができる力を備える。
- ② 地域の社会資源など、人材や組織について把握し、これらと連携する力を身につける。
- ③ 事業計画書や事業実施要項の作成などの文書作成の力をつけ、障がい者の視点に立って地域事業の立案とコーディネートする力をつける。

そのためには、スポーツ協会と指導者協議会が連携した研修会の開催や相談窓口の設置など、障害者スポーツ指導者が地域をコーディネートできるための体制整備が必要になると考えられます。

## (2) 具体的な実現に向けて

今後、県内各地域で障がい者のスポーツ推進を図るためには、市町村レベルの取り組みと県レベルの取り組み内容は異なってきます。

- ① 市町村レベルの取り組みは、小規模な作業所やデイサービス施設、障がい者団体、支援学級など、できるだけ小さい単位で障がい者のスポーツ体験機会を増やすとともに、スポーツ推進委員やスポーツ団体、行政の協力を得ながら、地域に根ざしたスポーツ環境の整備をすすめる。
- ② 県レベルの取り組みは、県内のスポーツ関係団体、あるいは民間スポーツ組織などと積極的に関わり、障がい者スポーツ事業のノウハウを伝えていくこと。
- ③ 埼玉県障害者スポーツ協会と埼玉県障害者スポーツ指導者協議会として、①②の実現に向けた指導員の派遣など、支援体制の整備を図ること。
- ④ 障害者スポーツ協会に加盟している 12 の競技団体や障害者団体等の協力を得て事業を進めること。
- ⑤ 上記①②③④の具体的な取り組みを実現させるために、予算の確保をしていくこと。

## 5. おわりに

いよいよ平成 26 年度から、さらにきめ細かい地域振興事業をスタートさせることとなります。継続した事業のために、予算の確保が重要な課題となります。さらにより多くの組織や関係者の協力を得て、着実に実行できるよう、一層の努力が必要になってきます。

3年間、地域振興事業を支えてくださった多くの方々に感謝申し上げますとともに、一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
平成 25 年度 埼玉県ふれあい地域振興事業 実施要綱

1 目 的

障がいのある人と障がいのない人がともにスポーツを楽しみ、スポーツをとおした共生社会の実現をめざすとともに、障がい者が暮らす身近なスポーツ環境の充実を図ることを目的に、5 つの事業を実施する。とかくスポーツの機会に恵まれない分野についても、積極的な働きかけを行うことで今後の継続的なスポーツへの参加に繋げるとともに、若手の障害者スポーツ指導者を中心にした実行委員会を組織し、幅広いスポーツ振興の担い手を育成するとともに実行委員につぐ指導者を養成することにより、本県における障がい者スポーツの一層の推進を図ることを目的とする。さらに、競技から健康づくり、そしてすべての障がいを対象とした事業を展開する中で、一般県民への障がい者スポーツが幅広いものであり、スポーツの共生が可能であることの理解を促進できるものであることを、これらの事業をとおして示すことも本事業の大きなねらいである。

2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

4 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

5 協 力

一般財団法人埼玉県高等学校野球連盟、社団法人全国野球振興会、株式会社イーストアストライア、株式会社ノースレイア、特定非営利活動法人日本ティーボール協会、浦和レッドダイヤモンズ株式会社、株式会社レッズランド、さいたま市役所サッカー部、埼玉県障害者サッカー協会、株式会社モアスマイルズ、埼玉県特別支援学校体育連盟、公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会、社団法人埼玉県手をつなぐ育成会、社会福祉法人埼玉県身体障害者福祉協会 (順不同)

6 期 間

平成 25 年 6 月から平成 26 年 2 月まで

7 実施事業、期日、会場等

ねらい：障がいのある人と障がいのない人がスポーツをとおして交流し、お互いの理解を深めるとともに、障がい者のスポーツの進展を図る。その推進役として若手の障害者スポーツ指導者による実行委員会を組織し、幅広いスポーツ振興のリーダーを育成するとともに次に続く指導者を養成し、もって事業におけるスポーツの振興を図り、将来の本県における幅広いスポーツ振興のための実務の担い手を育成する。

事業	日程	会場	各事業のねらい	回数
ふれあい地域振興事業実行委員会	6月、平成26年2月	彩の国すこやかプラザ	委員12人、スポーツ指導者の自立的活動の推進を図る。	全体会議 2回
地域におけるスポーツ検討会議	9月17日(火)	彩の国すこやかプラザ	委員7人、障がい者のスポーツを振興するため、特に市町村での事業に障がい者が参加できるような事業実施の参考となるよう手引書を作成する。	会議 2回
ふれあい野球教室	11月24日(土)	県営大宮球場	障がい者と高校生が同じグラウンドに立ち、ボールをとおして共生社会の実現を目指す。引き続き、身体障害者野球の組織化を目指す。	60人×1回
ふれあいティーボール教室	7月～平成26年1月	特別支援学級及び特別支援学校グラウンド	特別支援学級及び特別支援学校に対し、ティーボールをとおしてソフトボール人口の拡大をはじめスポーツ全般の啓発を図る。	50人×7回
ふれあいティーボール大会	10月26日(土) 予定	県立上尾かしの木特別支援学校グラウンド(予定)	県内特別支援学校、特例子会社チーム、知的障がい者ソフトボールチームなどを対象としたティーボール大会を開催する。	150人×1日
ふれあいフットサル大会	11月4日(月・祝) 午前	レッズランド	障がい者チームと青少年から高齢者までの健全者チームが同一ルールで競技。共生スポーツのモデル。引き続き、フットサルの組織化を目指す。	340人×1日
ふれあいサッカー教室	7月～平成26年1月	特別支援学級及び特別支援学校グラウンド	特別支援学級及び特別支援学校に対しサッカーをとおしてスポーツ全般の啓発を図る。	30人×10回
四面卓球バレー大会	平成26年2月2日(日)	未定	障がい者と1名の健全者でチーム編成を行い、共生事業のきっかけづくりとするとともに軽スポーツの啓発を図る。	4人×15チーム=60人
四面卓球バレールールづくり検討会議	8月30日(金)	彩の国すこやかプラザ	委員7人、四面卓球バレーの振興のため、ルールを検討・冊子を作成する。	会議 2回

## 8 対象者

- ① (野球教室) 野球に興味のある障がい者 (肢体・聴覚・知的・精神) と高校野球部の選手
- ② (ティーボール教室) 特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している児童・生徒  
(肢体・知的)  
(ティーボール大会) ティーボールに興味がある障がい者 (肢体・知的)
- ③ (フットサル大会) フットサルの興味がある障がい者 (肢体・知的・聴覚・精神) 及び一般の青少年から高齢者まで
- ④ (サッカー教室) 特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している児童・生徒  
(肢体・知的)
- ⑤ (四面卓球バレー大会) すべての障がい者及び一般の青少年から高齢者まで

## 9 実施方法

本事業においては、障害者スポーツ指導者が中心になって全体の「実行委員会」を設置し、事業それぞれに責任者を配置し、実施する。

また、各事業については、各競技の経験がある指導者が各事業を担当し、運営要領の作成や各種依頼文の作成や交渉を含め担当委員を中心に実施し、スポーツ協会職員はそれを補佐する。

## 10 実行委員の募集について

前年度の実行委員を中心に埼玉県障害者スポーツ指導者協議会に所属するスポーツ指導者を募り、実行委員会を組織する。

## 11 健康、安全管理

## 12 傷害保険の加入

## 13 事務局

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

## 14 その他

### (1) 写真等の使用について

大会結果や本事業で撮影する写真等は、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会ホームページ等に掲載する場合及び障がい者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。

また、事業当日、テレビ・新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像がテレビ・新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえ参加してください。

### (2) この要綱の定めるもののほか、各事業の実施に関し必要な事項は別に定める。

# 事業写真報告

## 1. 実施事業

### (1) ふれあい野球教室



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

【写真説明】 ①役員ミーティング、②開講式、③④⑤⑥教室の様子、⑦集合写真

(2) ふれあいティーボール教室、大会



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

【写真説明】 ①～⑥教室の様子、⑦部会、⑧初級指導者認定講習会

(3) ふれあいフットサル大会



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

【写真説明】 ①フットサル部会、②役員ミーティング、③～⑤大会の様子、⑥優秀選手賞贈呈、  
⑦浦和レッズハートフルクラブによるサッカー教室、⑧閉会式

(4) ふれあいサッカー教室



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

【写真説明】①～⑤教室の様子（講師：モアスマイルズ）、⑥教室の様子（講師：浦和レッズハートフルクラブ、⑦⑧教室の様子（講師：浦和レッズ選手OB会）

(5) 彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

【写真説明】 ①役員ミーティング、②会場設営、③開会式（競技上の注意）、④開会式（準備体操）、  
⑤～⑦試合の様子、⑧閉会式（表彰）

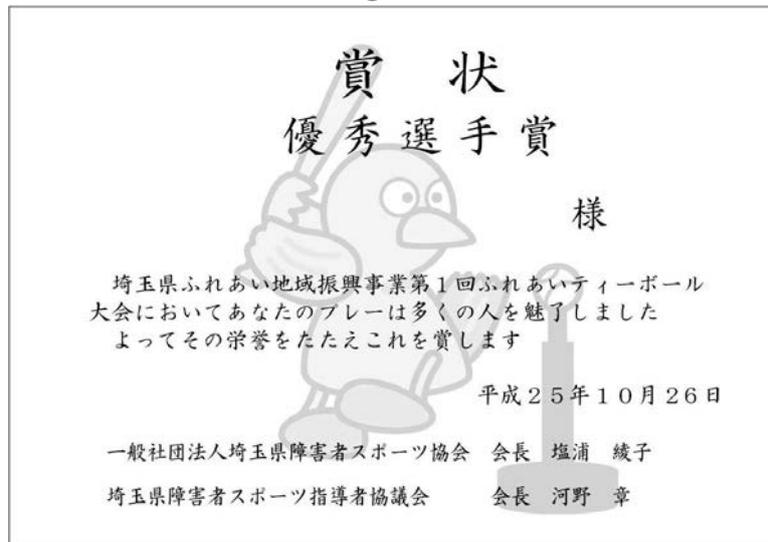
## 2. 埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会



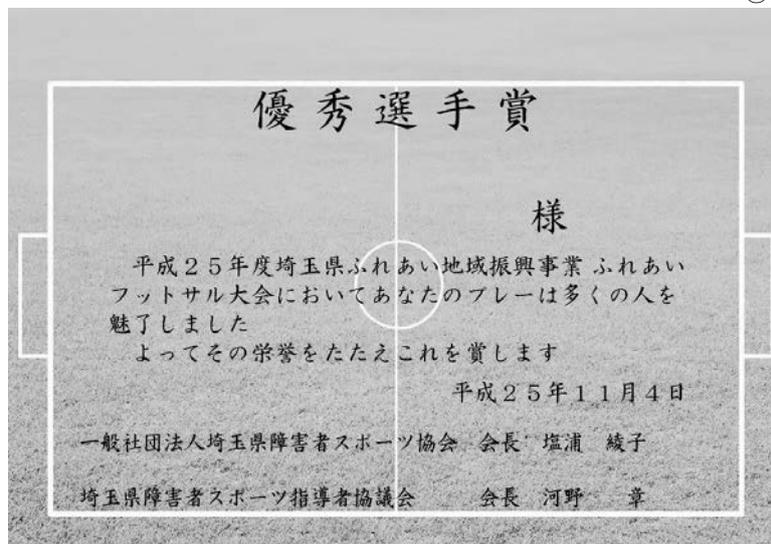
①



②



③



④

【写真説明】①埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会（第1回）、②埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会（第2回）、③ふれあいティーボール大会優秀選手賞状、④ふれあいフットサル大会優秀選手賞状

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
ふれあい野球教室実施要項

1 目 的

障がいのある人と障がいのない人がともに野球を通じてふれあい、もってスポーツをととした共生社会の実現を目指すとともに、地域の一体感並びに活力の醸成及び身近なスポーツ環境の充実に努めることを目的とする。

2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

4 協 力

埼玉県高等学校野球連盟、学校法人明星学園浦和学院高等学校

5 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

6 対 象

- (1) 障がい（肢体・聴覚・知的・精神）のある方で、野球を楽しみたい人、興味のある人
- (2) 小学5年生以上

7 指 導 者

学校法人明星学園浦和学院高校野球部

8 日 時

平成 25 年 11 月 24 日（日） 13：00～受付開始 16：00～終了

※雨天の場合は球場会議室で野球教室を開催します。

9 会 場

埼玉県営大宮球場

所在地：埼玉県さいたま市大宮区高鼻町 4 丁目

アクセス：東武野田線大宮公園駅から徒歩 10 分、J R 大宮駅東口から徒歩 20 分

## 10 プログラム

「高校球児と楽しく野球を … We are the one 」をコンセプトに実施します。(主催者が用意した軟球A号を使用します。)

- ・投球、打撃、守備の基本
- ・打撃、守備の実践
- ・高校球児のデモンストレーション
- ・ふれあい交流会

※プログラムは一部変更する場合があります。

## 11 申し込みおよび参加方法

参加申込書に必要事項を記入し、平成 25 年 10 月 31 日 (木) までに郵送またはファックスにて一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に申し込んでください。ただし、ファックスの場合、送信後に電話で確認をいれてください。

## 12 参加費

無料

## 13 服 装

ユニフォーム、ジャージ、運動靴等できるだけ野球のできる服装でお願いします。帽子もご用意ください。また、グローブをお持ちの方はご持参ください。(名前等目印をつけてください。)

## 14 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任においてご参加ください。

## 15 傷害保険の加入

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入します。

<保障内容>

通院時：1日 1,500 円、入院時：1日 3,000 円、死亡時：200 万円

## 16 その他

ふれあい野球教室において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、あるいは障がい者のスポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえご参加ください。

### 【問い合わせ・申し込み先】

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会 担当 石川、松本  
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3 階  
電話：048-822-1120 FAX：048-822-1121  
HP アドレス <http://sainokuni-sasa.or.jp>

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

## ふれあいティーボール教室実施要項

### 1 目的

この教室は、スポーツをとおして心の豊かさと思いやりの心を育むとともに、スポーツへの参加機会の拡大と障がい者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

### 2 主催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

### 3 運営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

### 4 後援

埼玉県、埼玉県教育委員会

### 5 日時、会場

日時：開催希望校と別途相談しますが、平日の開催とします。

ただし、期間は平成 25 年 7 月～平成 26 年 1 月とします。

会場：開催希望校グラウンド 又は 体育館

### 6 対象

特別支援学校・特別支援学級に在籍している生徒（肢体・知的）

### 7 指導者

元プロ野球選手または女子プロ野球選手（イーストアストライア、ノースレイア）

※平成 25 年 7 月開催の場合、優先的に女子プロ野球選手が講師となります。

### 8 申し込み方法

別紙「ふれあいティーボール教室申込書」に必要事項を記入し、6 月 3 日（月）までに一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に FAX または E-Mail にて申し込んでください。

### 9 費用

無料

### 10 服装

運動のできる靴と服装でご参加ください。タオルと飲み物もご用意ください。

### 11 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

### 12 その他

ティーボール教室において撮影する写真は、主催者のホームページや会報または埼玉県障害者スポーツ指導者協議会のホームページに掲載、あるいは障がい者スポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえお申込みください。

《問い合わせ・申し込み先》

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3 階

電話：048-822-1120

FAX：048-822-1121

E-Mail：[2004@sainokuni-sasa.or.jp](mailto:2004@sainokuni-sasa.or.jp)

HP アドレス：<http://sainokuni-sasa.or.jp>

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

## ふれあいティーボール大会実施要項

### 1 目的

障がいのある人と障がいのない人がともにティーボールを通じてふれあい、もってスポーツをととした共生社会の実現を目指すとともに、野球、ソフトボール競技人口の拡大並びに障がい者のスポーツへの参加機会の拡大、社会参加の推進を図ることを目的とする。

### 2 主催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

### 3 運営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

### 4 後援

埼玉県、埼玉県教育委員会

### 5 協力

NPO 法人日本ティーボール協会、埼玉県障害者ソフトボール協会

### 6 期日及び日程

平成 25 年 10 月 26 日（土）

選手受付 8:30

開会式 9:00

競技開始 9:30

競技終了 15:00

閉会式 15:15

※天候不順による大会中止は、午前 6 時に決定し、各チームの代表者（連絡責任者）に連絡します。参加申込状況により時間変更の場合があります。

### 7 会場

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校 グラウンド  
（上尾市平塚 1281-1 Tel048-776-4601）

### 8 競技区分

競技区分は 3 区分とし、申込時にいずれかの区分を選択する

- |         |   |                        |
|---------|---|------------------------|
| 知的障がいの部 | } | チャンピオンシップの部 . . . ①    |
|         |   | …公認ルールを基本として実施する（団体参加） |
|         |   | フレンドシップの部 . . . ②      |
|         |   | …簡易ルールを設けて実施する（団体参加）   |
| 肢体不自由の部 |   | . . . ③                |
|         |   | …簡易ルールを設けて実施する（団体参加）   |

#### バッティング体験コーナー（個人参加）

…個人で自由に参加することができる。

### 9 参加資格

出場選手は、次のすべての条件を満たす者で構成されるチームとする。

（1）平成 25 年 4 月 1 日現在、10 歳以上の身体（肢体不自由）・知的障がい者。

※身体障がい者は、身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条の規定により身体障害者手帳の交付を受けた者。

※知的障がい者は、埼玉県療育手帳制度要綱（埼玉県告示第 1365 号平成 14 年 7 月 23 日）による療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。

(2) 埼玉県内に現住所（住民票のある地）を有しているか、又は埼玉県内の学校・会社・施設等に通学、通勤、入所・通所している者。

(3) 競技を実施する上で、健康に支障がない者。

(4) その他、競技に関する諸規則を承諾し、遵守できる者。

## 10 チーム編成

チームは 10 名以上 20 名以内の選手をもって編成する。ただし、うち 3 名まで障がいのない者が参加することができる。

## 11 競技規則

本規則に定める以外は、日本ティーボール協会のオフィシャル・ルールによるものとする。

## 12 競技方法

(1) 全員打撃制を採用し、2 イニングスのトーナメント方式とする。

(2) 同点の場合は抽選により勝敗を決定する。

## 13 用具

ボール、バットは主催者が用意する。

## 14 表彰

各競技区分に於いて優勝、準優勝、第 3 位のチームに賞状・楯を授与する。

## 15 参加費

無料

## 16 申込方法

別紙様式に必要事項を記入の上、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に平成 25 年 9 月 24 日（火）までに郵送またはファックスにてお申し込みください。ただし、ファックスの場合、送信後に確認のお電話をお願いします。

## 17 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加することとする。

## 18 傷害保険の加入

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入する。  
<保障内容>

通院時：1 日 1,500 円、入院時：1 日 3,000 円、死亡時：240 万円

## 19 その他

ティーボール大会において撮影する写真は、主催者のホームページや会報、あるいは障がい者スポーツの広報用として使用することがあります。また、大会当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえお申込みください。

《問い合わせ・申し込み先》

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会（担当：石川、松本）

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3 階

電話：048-822-1120

FAX：048-822-1121

E-Mail：2004@sainokuni-sasa.or.jp

HP アドレス：http://sainokuni-sasa.or.jp

# ティーボールとは？

ティーボールは、野球やソフトボールによく似たスポーツです。

ティーボールでは、本塁プレートの後方においたバッティングティーにのせたボールを打者が打ちます。ボールやバットはウレタンで包まれた柔らかく軽いものを使用し（ゴムボールを使用することもあります）、グローブの使用は自由です。またピッチャーがないこともティーボールの大きな特徴です。

打者は止まっているボールを打つため、空振りやファウルはほとんどなく、打球は内野手や外野手方向へ頻繁に飛び、短時間で全員が運動の基本的な動作である「打つ、捕る、投げる、走る」を楽しく体験できます。



## ◆ルール◆

### ■施設、使用球、使用バット、対象者

ボールやバット、施設（塁間等）は、対象者に合わせて行います。本大会ではソフトボールの塁間を基本に考えています。

### ■バッターズサークル

本塁プレートの角を中心として、半径3メートルの円を描き、打者はこのサークル内で打撃を行います。

### ■バッティングティー

バッティングティーは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置きます。高さの調節も自由にできます。

### ■競技者の数（本大会ルール）

競技者は10名以上20名以内とします。本大会では特別ルールとして健全者が3名まで参加することができます。両チームの選手の数は同数で行います。

### ■競技者の名称と守備位置

下図参照。守備者は10名で、他の選手はDH（打つだけの選手…エキストラヒッターと呼びます）となります。

### ■打撃規定

空振りを3回行くと三振でアウト。バントやブッシュは認められません。

### ■走塁規定

盗塁やスライディングは禁止です。塁（2塁、3塁）の駆け抜けは認められ、セーフとなります。

### ■試合（全員打撃制）

2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が打撃を完了した時点で攻守を交代し、規定のイニング（本大会では、2イニングス）を終えた時得点の多いチームが勝者となります。

チャンピオンシップの部はこのルールを基本として実施する予定です。

フレンドシップの部は、参加者の状況により簡易ルールを設けて実施します。詳細については、申込終了後、お知らせします。

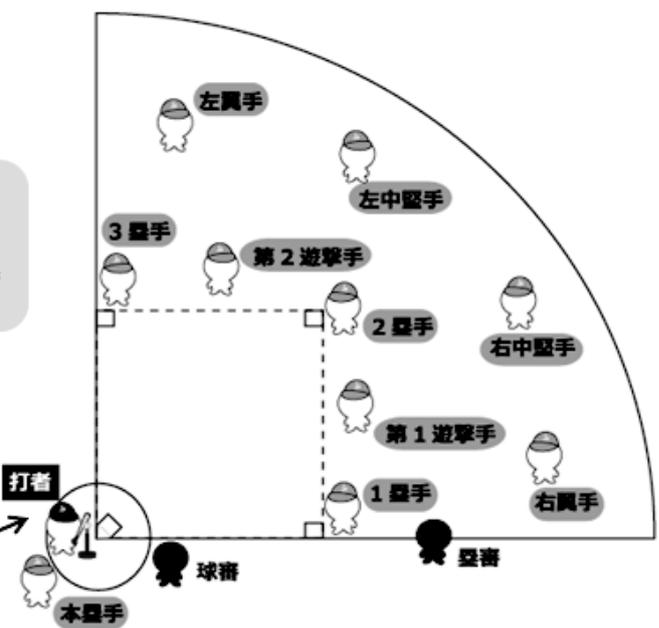
### 問合せ先

一般社団法人  
埼玉県障害者  
スポーツ協会

電話  
048(822)1120



バッティングティー



平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
ふれあいフットサル大会実施要項

1 目 的

障がいのある人と障がいのない人がフットサル競技を通じてともに楽しみ、スポーツをと  
おした共生社会実現を目指すとともに、障がいのある人が暮らす身近なスポーツ活動への参加機  
会の拡大や活動環境の充実を図ることを目的とする。

2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

4 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

5 協 力

浦和レッドダイヤモンズ、レッズランド、埼玉県障害者サッカー協会

6 日 時

平成 25 年 11 月 4 日 (月・祝)	8 時 30 分～	受付開始
	8 時 40 分～	代表者会議
	9 時 00 分～	試合開始
	12 時 00 分	参加者全員による浦和レッズハートフル サッカー教室、閉会式
	12 時 50 分	終了予定

\*雨天中止

7 開催地

「レッズランド 人工芝」

〒338-0825 さいたま市桜区下大久保1771

8 競技区分およびチーム構成

(1) 競技区分

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| ① 中学生以上の部 (障がいあり) ..... | 12 チーム |
| ② 小学生の部 (障がいなし) .....   | 8 チーム  |
| ③ 一般交流の部 .....          | 12 チーム |
| ④ ふれあいMIXの部 (混合) .....  | 4 チーム  |

注) ここでいう「障がいあり」は、肢体不自由（立位）、聴覚障がい、知的障がい、精神障がいとする。

## (2) チーム構成

### ① 中学生以上の部（障がいあり）

中学生以上の障がいのある選手で構成されている5名以上のチームで、女性の出場も可とする。

### ② 小学生の部（障がいなし）

小学5年生以下の選手で構成されている5名以上のチームで、女子児童の出場も可とする。

### ③ 一般交流の部

中学生以上の選手で構成されている5名以上のチームで、「障がいあり」「障がいなし」チームの交流戦を行います。

### ④ ふれあいMIXの部（障がいある・ない混合）

男性および女性で構成されている5名以上のチームで、且つ当該試合中は障がいのある選手2名と女性選手1名の計3名以上が出場できるチーム構成であることとする。

注) エントリーについては、各区分1チームを原則とします。

## 9 競技規則 \*詳細は、別紙「ふれあいフットサル大会ローカルルール」参照

- ① 競技はJFAフットサル競技規則をベースにしたローカルルールを適用します。
- ② ピッチサイズは40m×20mのフットサルコートを使用します。
- ③ ボールは、フットサルボールを使用します。
- ③ 交代要員の選手数の制限は設けません。
- ④ 選手は、ソックスとすね当てを必ず着用してください。
- ⑤ サッカーシューズについては、靴底がゴム製でポイントのない（凹凸のない）平らなものとしします。
- ⑥ 当該チームの話し合いにより、一部競技規則を緩和することもあります。

## 10 大会方法

- ① 障がいのあるチームについては、それぞれの障がいによってリーグ（4チーム）に分けます。ただし、決勝トーナメントは行いません。
- ② 申し込み状況によっては、競技区分の参加チーム数が増減する場合があります。
- ③ 試合時間は、10分（前後半なし）を予定していますが、詳細については参加チーム数により主催者側で決定します。

## 11 表彰

当該試合のそれぞれのチームから、優秀選手を選出します。

## 12 申し込みおよび参加方法

別紙「ふれあいフットサル大会参加申込書」に必要事項を記入し、9月24日（火）までに、

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に、郵送またはファックスで申し込んでください。ただし、ファックスの場合、送信後に電話で確認を入れてください。

13 費用

無料

14 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加することとする。

15 傷害保険の加入

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入する。

<保障内容>

通院時：1日1500円、入院時1日3000円、死亡時：209万円

16 その他

\* フットサル大会において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、あるいは障害者のスポーツの広報用として使用することがある。また、大会当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがあるので、予めご了承のうえご参加ください。

**問合せ・申込先**

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会 担当：優、石川  
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3階  
電話：048-822-1120 FAX：048-822-1121  
HPアドレス <http://sainokuni-sasa.or.jp>  
E-mail アドレス 2004@sainokuni-sasa.or.jp

## ふれあいフットサル大会のローカルルール

競技は、2012-2013(公財)日本サッカー協会制定の「フットサル競技規則」をベースに行なうが、以下の点に留意下さい。

### 1 ピッチとボール

- ① ピッチサイズは、40m×20m のフットサルコートを使用。（人工芝コートについてはサイズが異なる場合があります。）
- ② ボールは、フットサルボールを使用します。ただし、小学生の部（障がいなし）については、サッカー4号球のボールを使用する。

### 2 競技者（選手）の数

- ① 試合は、5人以下の競技者からなる2つのチームによって行う。チームの競技者のうち一人はゴールキーパーとする
- ② ただし、何らかの理由で5人に満たない場合は、他のチームから補充し対戦できるよう配慮する。

### 3 交代要員

- ① 交代要員の選手数は制限しない。

### 4 選手が着用する用具

- ① ソックスとすね当ては、必ず着用すること。
- ② シューズは、靴底がゴム製でポイントのない（凹凸のない）平らなものとしします。
- ③ ユニフォームまたはそれに代わる物を着用してください。ただし、キーパーは色違いの服であること。
- ④ 着用するものは対戦相手と同じ色の場合やない場合は、主催者側で用意した色違いのビブスを着用する。

### 5 試合時間

- ① 10分。
- ② タイムアウトの時間はとらない。

### 6 壁なしフリーキックと4秒ルール

- ① 一般交流の部以外は、「壁なしフリーキック」および「4秒ルール」は適用しない。

#### フットサルの試合に初めて参加される方へ

#### ～サッカーとフットサルの違い～

- 1 ショルダーチャージとスライディングは禁止です。反則行為として直接フリーキックになります。
- 2 サッカーでのゴールキックは、フットサルは「ゴールクリアランス」にあたります。クリアしたボールがノーバウンドでハーフウエーラインを越えたら、ハーフウエーラインの任意の地点から蹴る間接フリーキックが相手チームに与えられます。

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

## ふれあいサッカー教室実施要項

### 1 目的

この教室は、スポーツをとおして心の豊かさと思いやりの心を育むとともに、スポーツへの参加機会の拡大と障がい者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

### 2 主催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

### 3 運営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

### 4 後援

埼玉県、埼玉県教育委員会

### 5 日時、会場

日時：開催希望校と別途相談しますが、平日の開催とします。

ただし、期間は平成 25 年 7 月～平成 26 年 1 月とします。

会場：開催希望校グラウンド 又は 体育館

### 6 対象

特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している生徒（肢体・知的）

### 7 指導者

○北本綾子（元サッカー女子日本代表選手、元浦和レッズレディース）

○木原 梢（元浦和レッズレディース）

### 8 申し込み方法

別紙「ふれあいサッカー教室申込書」に必要事項を記入し、6月3日（月）までに一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に FAX で申込んでください。

### 9 費用

無料

### 10 服装と持ち物

運動ができる靴と服装でご参加ください。タオルや飲み物もご用意ください。

体育館用運動靴もご用意ください。（寒い場合あるいは雨天の場合は体育館で実施）

### 11 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

### 12 その他

サッカー教室において撮影する写真は、主催者のホームページや会報または埼玉県障害者スポーツ指導者協議会のホームページに掲載、あるいは障がい者スポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえお申込みください。

《問い合わせ・申し込み先》

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3 階

電話：048-822-1120

FAX：048-822-1121

E-Mail：2004@sainokuni-sasa.or.jp

HP アドレス：http://sainokuni-sasa.or.jp

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会開催要項

1 目 的

この大会は、スポーツをとおして心の豊かさや思いやりの心を育むとともにスポーツへの参加機会の拡大と障がい者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

4 後 援

埼玉県 埼玉県教育委員会

5 協 力

埼玉県総合リハビリテーションセンター 健康増進担当

6 日 時

平成 26 年 2 月 2 日(日) 9:30～16:00 (予定)

- ①受付 9:30
- ②開会式 10:00
- ③競技開始 10:30
- ④競技終了 15:30

7 会 場

埼玉県総合リハビリテーションセンター C 棟体育館  
〒362-8567  
埼玉県上尾市西貝塚 148-1

<交通機関>

(1)<JR 大宮駅西口>

8 番乗場から発車の東武バス「リハビリセンター」行きまたは「丸山公園 (リハビリセンター入口経由)」行き、「平方 (リハビリセンター入口経由)」行きに乗車。(約 30 分乗車)「リハビリセンター入口」バス停車

■ 片道 350 円

(2)①<JR 高崎線上尾駅西口>

3 番または 6 番乗場から発車の東武バス「リハビリセンター」行きまたは「西上尾第二団地經由リハビリセンター」行きに乗車。(約 25 分乗車) 終点下車 ■片道 310 円

②<JR 高崎線上尾駅西口>

3 番または 6 番乗場から発車の東武バス「フェニックスゴルフ場經由指扇」行きまたは「指扇」行き乗車。(約 25 分乗車)「リハビリセンター入口」バス停下車  
■片道 310 円

(3)<JR 川越線指扇駅>

駅前ロータリー発車の東武バス「リハビリセンター」行きまたは「上尾駅西口」行き、「平方」行き、「フェニックスゴルフ場」行き、「フェニックスゴルフ場經由上尾駅西口」行きに乗車。(約 10 分乗車)「リハビリセンター入口」バス停下車 ■片道 190 円

## 8 対 象

次のすべての条件を満たす選手により構成するチームまたは個人申込とする。

(1)小学生以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者。

ただし、各試合に 1 名まで障がいのない者が出場できることとする。

(2)埼玉県に現住所を有するか、埼玉県内の学校、施設等に入所、通所、通学している者。

(チーム編成)

【チーム申込】

4 名以上のチーム申込。

【個人申込】

1 名～3 名のチーム及び個人申込。チーム編成は主催者にて行う。

## 9 競技規則、競技の進め方

別紙参照

## 10 競技方法

予選リーグ戦を行い、各グループの上位チームによる決勝トーナメント戦で順位を決定する。※ただし、申し込み状況により変更することがある。

## 11 表 彰

1 位から 3 位までに賞状・メダルを授与する。

## 12 参加費用

無料 (ただし、交通費、昼食代等は各自負担とする)

### 13 申込方法

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3F

TEL 048-822-1120 FAX 048-822-1121

\* F A Xにてお申込みの場合は、確認のお電話をお願いします。

締切 平成26年1月15日(水) 必着

### 14 服装等

服装は運動に適したものを着用してください。また、上着、タオル、体育館シューズ、昼食、その他に必要なものは各自で用意してください。ただし、下肢装具を装着している場合は靴の汚れを落としてご入場ください。

### 15 健康管理について

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

### 16 傷害保険

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入します。参加申込書提出者は往復途上を含みます。その他の方は会場内のみの適用となります。

<保障内容> 通院時：1日 1,500円、入院時：1日 3,000円、死亡時：250万円

### 17 その他

#### (1) 広報等について

本大会において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、あるいは障がい者スポーツの広報用として使用することがあります。また、大会当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがあるので、ご了承のうえご参加ください。

#### (2) 設備について

身障者用トイレを利用することができます。

#### (3) 来場方法について

車で来場する場合、できるだけ乗り合わせでのご来場にご協力をよろしくお願いいたします。駐車場のご案内は、参加チームに対し後日ご連絡申し上げます。

#### (4) ラケットについて

ラケットは主催者で用意します。ラケットを作成する場合は打つ面の大きさが縦

10

#### 《問合せ・申込先》

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会 担当：丸山  
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3階  
電話：048-822-1120 FAX：048-822-1121  
HPアドレス <http://sainokuni-sasa.or.jp>  
E-mail アドレス 2004@sainokuni-sasa.or.jp

## 本大会の競技の進め方

### ①<招集>

○サーブ権、座る位置を決める

チーム代表者のジャンケンにより、勝ったチームにサーブ権が与えられる。

座る位置は、勝ったチームから順に 1→2→3→4 の位置とする。

### ②<入場>

○各チーム 4 名が決められた位置に座る

### ③<試合時間>

予選リーグの試合時間は 7 分です。

決勝リーグの試合時間は 10 分です。

### ④<試合開始>

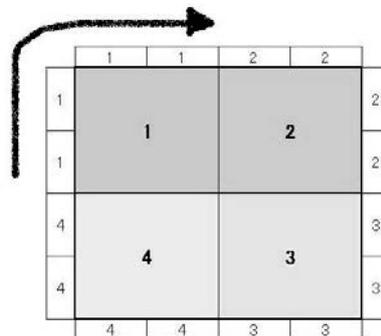
審判の開始合図後、

○サーブ権を得たチームから、ボールをコート上に置き、「行きます」等の合図の後、サーブを打ち、ボールアウトやミス・反則が起こるまで、4 チームでボールを打ち合う。

○ボールアウトやミス・反則があったチームに 1 点が入る。

○サーブ権は右回り（左隣の人）で移動し、サーブを打ち、ゲームを繰り返す。

サーブ権の移動



### ⑤<試合終了>

○試合終了時に点数が少ないチームから順に 4 点、3 点、2 点、1 点となり、最終的に合計点数の多い 4 チームが決勝リーグへ進出する。合計点数が同立の場合は総失点の少ないチームを上位とする。

### ⑥<退場>

○コートから退場する。



## フットサルで障害者ら交流

校区のレックスランド

県障害者スポーツ協会と県障害者スポーツ指導者協議会は、さいたま市校区下大久保のレックスランドで、障害者と健常者が

一緒にフットサルを楽しむ「ふれあいフットサル大会」を開催した。大会には小学生から一般までの41チーム約420人が参加して熱戦を繰り広げた。同協会らが県内各地で実施している「ふれあい地域振興事業」の一環で、スポーツを通じて障害者と健常者の共生社会の実現を目指す目的で開かれた。大会は地元サッカー少年団などによる小学生の部、肢体不自由や

聴覚・知的・精神の障害を持つ中学生以上の部、障害者と一般参加者が対戦する一般交流の部、障害者と健常者の混合チーム・ふれあいMIXの部の4部門で競技が行われた。一般交流の部には、浦和レッズでサッカー普及活動を行っているハートフルクラブのメンバーが参加。元レッズの選手たちと障害者チームがフットサルで

また各ゲームごとにチーム1人の優秀選手を選出。「よく止めたで賞」「まるでメッシ賞」「声が出てたで賞」「やさしいパスを出しま賞」など、ユニークな賞が飛び出し大会を盛り上げた。試合後はハートフルクラブによるサッカー教室が行われ、参加者全員がサッカーの技術と面白さをあらためて体験した。

(高梨肇)

平成 25 年 11 月 18 日

埼玉新聞

## 元レッズ選手高等部で指導

浦和特別支援学校

緑区

県障害者スポーツ協会と同指導者協議会は、さいたま市緑区の県立浦和特別支援学校で、同校高等部の生徒20人が参加して「ふれあいサッカー教室」を開いた。

同協会などが県内各地で実施する「ふれあい地域振興事業」の一環。スポーツを通じて障害者と健常者の共生社会の実現を



目指す目的で行われた。元浦和レッズのDF西野秀さんを講師に招き、遊びを取り入れながら

のボール練習やシュート練習、紅白戦で汗を流した。西野さんは各自のレベルに

まちなちがつたが、一生懸命チャレンジする姿勢を見せてくれた。シュートが決まった時やチームが勝った時の笑顔に感動した。浦和特別支援学校の長島秀人教頭は「生徒が元気をもらえたことが何よりのよかつた。一流の選手とサッカーができたことは、生徒だけでなく教員にも刺激になったと話した。(高梨肇)

西野さんからサッカーの指導を受ける生徒たち「さいたま市緑区の浦和特別支援学校

平成 25 年 10 月 16 日 埼玉新聞

## 楽しくティールボール

上尾特別支援学校で教室



バティンを経験する女子野球選手「上尾かしの木特別支援学校

「小学校低学年や障害者にもボールを打つ楽しさを知ってもらおうと考案されたティールボール教室」(県障害者スポーツ協会主催)が、上尾市平塚の県立上尾かしの木特別支援学校で行われ、高等部生徒150人と教員

54人が参加した。ティールボールは、高さを調節できるティールの上にボールを置いてバットで打ち、野球やソフトボールのまじりにランナーを返して得点を争うスポーツ。講師にさいたま市に本拠地を置く女子プロ野球イーストアストライアと、北日本に本拠地を置くイーストアライアの選手13人を招いて行った。まず、イーストアストライアの岩谷美里選手がバットインクの見本を披露した。続く基本練習の後、12チームに分かれて紅白戦を体験した。最後に女子プロチームと生徒・教員チームに分かれてホームラン競争を実施し、参加者全員で大いに盛り上がった。(高梨肇)

平成 25 年 11 月 1 日 埼玉新聞

障害者と健常者が野球を通じて交流を図らうと、

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

### 障害者ら野球楽しみ交流

県営大宮球場 選抜Vの浦学と



浦学の監督が野球を

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など

平成 25 年 11 月 25 日 朝日新聞

浦和学院野球部 障害者らと交流  
県営大宮球場  
野球を通して障害者と交流する「ふれあい野球教室」(県障害者スポーツ協会など主催)が24日、さいたま市大宮区の県営大宮球場で開かれた。  
今春のセンバツで初優勝した浦和学院の3年生19人が先生役を務め、参加者たちはキャッチボールやティーバッティングなどを楽しんだ。

さいたまや秩父市などから障害者を持つ57人が参加。今春のセンバツをテレビ観戦した県立川島ひばりが丘特別支援学校の斎藤翔太さん(18)は「コントローラや球のスピードが速くてすごい」と優勝メンバーのプレーに感激。浦学の山根佑太前主将(18)は「知らない人とも野球を通してコミュニケーションがとれる。野球の素晴らしさを改めて感じた」と笑顔で話した。  
【川畑さおり】



浦学の監督(右)からアドバイスを受けながらキャッチボールをする参加者  
平成 25 年 11 月 25 日 毎日新聞

熱戦を繰り広げた四面卓球バレー  
県総合リハビリテーションセンター 体育館



熱戦を繰り広げた四面卓球バレー  
県総合リハビリテーションセンター 体育館

熱戦を繰り広げた四面卓球バレー  
県総合リハビリテーションセンター 体育館

熱戦を繰り広げた四面卓球バレー  
県総合リハビリテーションセンター 体育館

熱戦を繰り広げた四面卓球バレー  
県総合リハビリテーションセンター 体育館

# 12チームが熱戦

## 障害者 四面卓球バレー大会 上尾

「第6回彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会」が上尾市西貝塚の県総合リハビリテーションセンター体育館で行われ、12チームが参加して熱戦を展開した。  
四面卓球バレーは1998年に、同センターでリハビリテーションの一環として発案された。1チーム4人編成で、卓球台の周りに4チーム16人が座り、ボールをラケットで打って転がす。サーブの時はボールを台の上に置き、「行きます」など合図をして打つ。ボールが自チームにきたら、3回以内で他チームに返球する。お尻が座面から離れたら、同じ人が2回連続して打つなどしたら失点となる。  
開会式で県障害者スポーツ協会の松本洋副会長が「埼玉生まれで、やさしさ・楽しさ・気軽さ・安全性の要素を合わせ持つこの競技を大きく育て、力を合わせて全国に発信しよう」と力強くあいさつした。  
大会は予選リーグを勝ち抜いた上位4チームで決勝を行い、予選4位通過のフレンドリー春日部Aが接戦を制し、大会連覇を飾った。主将の町田篤史さん(38)は「予選4位だったので優勝できると思わなかった。来年も出場して3連覇を目指したい」と話していた。(高梨肇) 成績は次の通り。  
①フレンドリー春日部A②AMCサンデースポーツA③GNP

平成 26 年 3 月 2 日 埼玉新聞



## 佐渡島障害者スポーツ活性化事業

- ◆ 巡回スポーツ教室（佐渡）
- ◆ 佐渡障害者フライングディスク大会
- ◆ 障害者スポーツ支援者研修会

新潟県障害者スポーツ協会



# 平成25年度「地域における障害者スポーツの振興事業」 【佐渡島障害者スポーツ活性化事業】事業報告書

## 1 はじめに

当新潟県障害者スポーツ協会は、平成11年に設立され、事務局を県内障害者スポーツの拠点施設となる新潟県障害者交流センター内に置き、新潟県障害者スポーツ指導者協議会とともに一体的な活動を推進している。

新潟県の面積は縦長に広いうえに、東京都の約半分の面積を有する佐渡島もあることから障害者スポーツの県内各地における普及状況には大きな開き、地域間格差がある。

本協会のある新潟市近郊は盛んである一方、小規模市町村、特に佐渡島においては障害者スポーツ指導員や支援者の数の数も少なく普及が進まない現状にある。

県内在住の全ての障害者が身近な地域でスポーツを楽しみ、豊かな人生を送ることができる環境の整備を目指し、本事業の計画・開催に至った。

## 2 実施目的

県内各地域の障害者スポーツ振興の地域間格差を解消するために、離島である佐渡島を平成25年度の普及重点地域と定め、「スポーツ教室」「スポーツ大会」「支援者向け講習」を実施することで、関係者や地域住民に対し障害者スポーツへの理解を広める。

また、本事業終了後には、参加した支援者を中心に、初級障害者スポーツ指導員養成講習会を島内で開催することで指導者の育成と他地域でのモデルケースとなる組織化を進め、島内の障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境を整備することを目的とする。

## 3 実施内容及び実施体制

※事業毎に地元関係者との打ち合わせ会議を実施

### (1) 巡回スポーツ教室

#### ① 教室Ⅰ（身体障害者対象：ボッチャ）

日 程：平成25年11月11日（月）

会 場：トキの村元気館 コミュニティホール

参加者：27名（内訳：肢体不自由者17名、聴覚障害者4名、介助者6名）

指 導：講師2名、補助員4名（障害者スポーツ指導員3名及び地元関係者3名）

#### ② 教室Ⅱ（知的障害者対象：フライングディスク、卓球バレー、風船バレーほか）

日 程：平成25年11月12日（火）

会 場：岩の平園体育館

参加者：36名（内訳：知的障害者27名、介助者9名）

指 導：講師2名、補助員4名（障害者スポーツ指導員3名及び地元関係者3名）

### (2) 佐渡障害者フライングディスク大会（アキュラシー、ディスタンス、団体対抗戦）

日 程：平成25年10月7日（日）

会 場：岩の平園グラウンド

参加者：104名（身体障害者19名、知的障害者61名、介助者24名）

役員等：競技役員5名、（障害者スポーツ指導員、地元関係者）

審判員10名、(県障害者フライングディスク協会、地元施設職員)  
ボランティア10名(環境と福祉の専門学校の学生)

(3) 障害者スポーツ支援者研修会(講義・映像紹介及びレクリエーション実技5種目)

日程:平成25年10月26日(土)

会場:佐渡市両津総合体育館

参加者:参加者28名(福祉関係者17名、スポーツ推進員等11名)

指導:講師4名、補助員2名(障害者スポーツ指導員及び地元関係者)

#### 4 成果及び評価

本事業の開催を通じて、佐渡市役所・佐渡市教育委員会から全面的な協力を得て、地元の拠点障害者施設・団体、社会福祉協議会、スポーツ推進員団体等と本協会の機関連携体制ができたことが最も大きな成果である。

連携ができたことで、本事業終了後に佐渡島で開催した初級障害者スポーツ指導員研修会では各機関から開催周知や会場手配などの協力をいただき当初の目的を達成することができた。

本協会では、平成26年度は上越地域を重点地域に定めて普及を行っていく予定であるが佐渡島での取り組みのなかで育んだ「機関連携」と「協働」の重要性を意識しながら、遠隔地の各機関との信頼関係を築き、継続的な普及を進めていきたい。

#### 5 今後の課題

本事業終了後に別途開催した初級障害者スポーツ指導員養成講習会(佐渡開催)では、本事業に携わった関係者からも参加をいただき、島内で活躍できる大勢の指導員が誕生した。

島内では、支援者組織設立の機運も盛り上がり、本協会としては、本事業で連携いただいた行政機関、福祉・スポーツ機関にも協力を仰ぎながら、財政面も含めた設立支援を継続的に行っていきたい。

#### 6 所感(実施担当者:新潟県障害者スポーツ協会 事業担当理事 丸田 徹)

本事業を開催するなかで、改めて離島のハンディキャップの重さを痛感した。

開催準備をすすめる中で、船が風の影響で欠航するなど、予定したスケジュールが変更になるような困難な事態に幾度か遭遇した。

毎年、佐渡島から片道5時間をかけて県の障害者スポーツ大会に参加する選手・介助者や自身の勤務先である障害者交流センターに定期的に通所する人達の苦労というものを少しだけ体験したことで、島内の障害のある人達が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整備したいという想いを強くした。

そのためには、島内において「人材(指導者)」「財源(お金)」「用具(モノ)」「拠点(場所)」等の要素をバランスよく整えていく必要があり、ひとつでも欠けると普及は進まない。

特に誘導段階では、特殊な障害者スポーツ用具の整備は重要と考えるが、本事業においては用具整備の予算執行が認められていないことから、今後に向けて柔軟な改善を期待したい。

今後も佐渡島に対しては、継続した支援と島内機関との連携を深めていくとともに、県内で環境が整っていない他地域にもスポットをあてながら地道な支援と普及に取り組んでまいりたい。

【佐渡島障害者スポーツ活性化事業の様子】



巡回スポーツ教室Ⅰ（身体：ボッチャ）



巡回スポーツ教室Ⅱ（知的：風船バレー）



フライングディスク大会（アキュラシー）



フライングディスク大会（選手宣誓）



支援者研修会（卓球バレー）



支援者講習会（講義・映像）

(公財) 日本障害者スポーツ協会委託事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
～ 佐渡島障害者スポーツ活性化事業 ～

## 巡回スポーツ教室Ⅰ（身体障害対象：ボッチャ）開催要項

### 1 目的

スポーツ活動を通じて、障害のある人達の健康作りと余暇活動の充実を図るとともに、地域の指導者等の指導実践の場として活用することでネットワーク作りを進める。

### 2 実施主体

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会

後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会・(福) 佐渡市社会福祉協議会

(福) 佐渡福祉会・佐渡市身体障がい者福祉協議会

### 3 会 場

トキの村元気館 コミュニティホール

佐渡市新穂瓜生屋 362 番地 1

### 4 日時及び実施内容

平成 25 年 11 月 11 日 (月) 13:30 ～ 15:30

#### 【実施内容】

ボッチャ競技の基本講習及び交流ゲーム

### 5 対 象 (定員)

佐渡市内の身体障害者及びその支援者 (30 名)

### 6 参加費

無 料

### 7 講 師

(公財) 日本障害者スポーツ協会公認 障害者スポーツ指導員

### 8 申 込

所定の申込書に必要事項を記入のうえ郵送または Fax で下記までお申込みください。

申込後に当方より連絡がない場合は受講可能とご理解ください。(〆切 11/4)

新潟県障害者スポーツ協会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽 1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内

TEL 025(383)3610 Fax 025(381)1478 担当：丸田

### 9 その他

- ・動きやすい服装、内履き持参で参加してください。
- ・実施当日は主催者においてスポーツ障害保険を掛け、応急処置は対応しますが、参加における怪我・健康管理等は各自の責任において対応願います。

(公財) 日本障害者スポーツ協会委託事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
～ 佐渡島障害者スポーツ活性化事業 ～  
**巡回スポーツ教室Ⅱ（知的障害対象）開催要項**

**1 目的**

スポーツ活動を通じて、障害のある人達の健康作りと余暇活動の充実を図るとともに、地域の指導者等の指導実践の場として活用することでネットワーク作りを進める。

**2 実施主体**

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会

後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会・(福) 佐渡市社会福祉協議会

(福) 佐渡福祉会

**3 会 場**

岩の平園 体育館

佐渡市上新穂1256

**4 日時及び実施内容**

平成25年11月12日(火) 13:00 ～ 15:00

**【実施種目】**

健康体操、フライングディスク、卓球バレー、風船バレーなど

**5 対 象 (定 員)**

佐渡市内の知的障害者及びその支援者(50名)

**6 参加費**

無 料

**7 講 師**

(公財) 日本障害者スポーツ協会公認 障害者スポーツ指導員

**8 申 込**

所定の申込書に必要事項を記入のうえ郵送またはFaxで下記までお申込みください。

申込後に当方より連絡がない場合は受講可能とご理解ください。(〆切 11/4)

新潟県障害者スポーツ協会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内

TEL 025(383)3610 Fax 025(381)1478 担当：丸田

**9 その他**

- ・動きやすい服装、内履き持参で参加してください。
- ・実施当日は主催者においてスポーツ障害保険を掛け、応急処置は対応しますが、参加における怪我・健康管理等は各自の責任において対応願います。

# 佐渡島障害者スポーツ活性化事業

# 巡回スポーツ教室

## 参加者募集中!

障がいのある人達のためのスポーツ・レクリエーション教室  
種目：ボッチャ、フライングディスク、卓球バレーほか



佐渡市内の障害者スポーツの活性化を図るための巡回スポーツ教室を開催します。  
身体障害者向け教室はボッチャ  
知的障害者向け教室はフライングディスク、卓球バレーなど、様々なレクリエーション種目を実施します。  
参加費は無料です。多くの皆様の参加をお待ちしています

## ご案内

- 巡回教室Ⅰ（身体障害対象：ボッチャ）  
日時：11月11日（月）13：30～15：30  
場所：トキの村元気館 コミュニティホール
- 巡回教室Ⅱ（知的障害対象：フライングディスクほか）  
日時：11月12日（火）13：00～15：00  
場所：岩の平園 体育館
- お問い合わせ：  
新潟県障害者スポーツ協会  
TEL025(383)3610【担当:丸田】

主 催：新潟県障害者スポーツ協会  
共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会  
後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会（福）佐渡市社会福祉協議会（福）佐渡福祉会  
（予定）佐渡市身体障がい者福祉協議会

詳しくは開催要項を  
ご覧ください

(公財) 日本障害者スポーツ協会委託事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
～ 佐渡島障害者スポーツ活性化事業 ～

# 佐渡ふれ愛フライングディスク大会 開催要項

## 1 目的

スポーツ大会を通じて広く佐渡市民に障がい者のスポーツ活動への理解を進めるとともに、障害のある人達の日頃の余暇活動の発表機会を提供することを目的とする。併せて、佐渡市内のフライングディスク支援者の組織化を支援することで障害者スポーツ環境の整備を進める。

## 2 実施主体

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会

主 管：新潟県障害者フライングディスク協会

新潟佐渡障害者フライングディスク協会

後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会・(福) 佐渡市社会福祉協議会

(福) 佐渡福祉会・佐渡市身体障がい者福祉協議会

協 力：伝統文化と環境福祉の専門学校

(予定)

## 3 会 場

岩の平園グラウンド（雨天時は岩の平園体育館）

佐渡市上新穂1256 (TEL 0259-22-3880)

## 4 日時及び実施内容

平成25年10月7日（月）9：30（受付開始）

9：30 受付開始

9：45 開会式

10：00 ディスリート5

10：40 チーム・ディスリート7

11：00 ディスタンス

11：50 終了（予定）

## 5 実施種目

① アクセラシー競技 ディスリート5

② アクセラシー競技 チーム・ディスリート7

※各施設・団体より代表チームが1チームのみ＝障がい者2名・支援者1名

③ ディスタンス競技

※参加者は①または②と③に参加することが可能です。

## 6 競技規則

日本障害者フライングディスク連盟規則及び本大会申し合わせ事項により行います。

## 7 参加資格

佐渡市に在住する障がいのある人及びその支援者（引率者・保護者等）

## 8 参加費

無 料

## 9 申込及び問合せ

所定申込書に必要事項を記入のうえ郵送または Fax で下記までお申込みください。

申込後に当方より連絡がない場合は参加可能とご理解ください。（〆切9/15）

新潟県障害者スポーツ協会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内

Tel 025(383)3610 Fax 025(381)1478 担当：丸田

## 10 その他

- ・雨天時は体育館で行いますので、内履き持参してください。
- ・実施当日は主催者においてスポーツ障害保険を掛け、応急処置は対応しますが、参加における怪我・健康管理等は十分に配慮いただくようお願いします。

佐渡島障害者スポーツ活性化事業

# 佐渡はれ愛フライングディスク大会

## 参加者募集中!

アキュラシー（5m：個人戦）（7m：団体戦） ディスタンス  
より遠くへ！より正確に！



障害者施設を中心に人気の高いフライングディスクの大会を行います。

実施種目は、直径約90cmの的をめがけて正確性を競うアキュラシー（個人戦・団体戦）、遠投距離を競うディスタンスです。多くの皆からご参加いただきますようお願いいたします。

### ご案内

- 日 時：10月7日（月）  
9：30～12：00
- 場 所：岩の平園グラウンド  
（雨天時は体育館）  
佐渡市新穂1256

●参加費：無料

●お問い合わせ：

新潟県障害者スポーツ協会  
TEL025(383)3610【担当:丸田】

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会

主 管：新潟県障害者FD協会・新潟佐渡障害者FD協会

後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会（福）佐渡市社会福祉協議会  
（福）佐渡福祉会・佐渡市身体障がい者福祉協議会

詳しくは開催要項をご覧ください

HP検索：新潟県障害者スポーツ協会

## 支援者のための障害者スポーツ講習会開催要項

### 1 目的

「支える人」向けの講習会を通じて障害者スポーツへの理解と支援・指導知識・技術の向上を図ることで、障がいのある人達が身近な地域でスポーツを楽しみ、豊かな人生を送れるよう環境整備を進めることを目的とする。

### 2 実施主体

主 催：新潟県障害者スポーツ協会

共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会

後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会・(福) 佐渡市社会福祉協議会 (福) 佐渡福祉会  
佐渡市身体障がい者福祉協議会・伝統文化と環境福祉の専門学校

### 3 会場

佐渡市両津総合体育館 佐渡市梅津2343-1

### 4 日程

平成25年10月26日(土)(受付：12：30～)

13：00～ 開講式

13：10～ 【講義】障がいのある人達のスポーツの基礎知識

14：20～ 【実技】障害者スポーツの体験・支援技術

(実施種目) ボッチャ・車いすスラローム、風船バレー  
卓球バレー・フライングディスク など

16：00～ 閉講式(修了証授与) 終了

### 5 対象(定員)

佐渡市内のスポーツ推進員・レクリエーション支援者・福祉施設及び団体等の職員及び支援者・福祉行政関係者・学校教員・福祉系専門学校学生ほか、障害者スポーツを学びたい方はどなたでも参加できます。(定員：30名 先着順)

### 6 参加費

無 料

### 7 講師

(公財) 日本障害者スポーツ協会公認 上級障害者スポーツ指導員

### 8 申込

所定の申込書に必要事項を記入のうえ郵送またはFaxで下記までお申込みください。

申込後に当方より連絡がない場合は受講可能とご理解ください。(〆切10/20)

新潟県障害者スポーツ協会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内

TEL 025(383)3610 Fax 025(381)1478 担当：丸田

### 9 その他

- ・動きやすい服装、内履き持参で参加してください。
- ・実施当日は主催者においてスポーツ障害保険を掛け、応急処置は対応しますが、参加における怪我・健康管理等は各自の責任において対応願います。

# 佐渡島障害者スポーツ活性化事業

## 支援者のための障害者スポーツ講習会

### 受講者募集中!

障がいのある人達のためのスポーツ・レクリエーション講習会  
佐渡市内のスポーツ関係者・福祉関係者大歓迎!

佐渡市内の障害者スポーツの活性化を図るため、支援者向けのスポーツ講習会を開催します。障害者スポーツの基礎講義や重度障がい者や高齢者にも対応した新しい様々なスポーツ・レクリエーション種目を体験していただきます。参加費は無料です。多くの皆様の参加をお待ちしています。



フライングディスク



卓球バレー



ポッチャ

### ご案内

- 日 時：10月26日(土)  
13:00~16:30
- 場 所：両津総合体育館  
佐渡市梅津2343-1
- 内 容：障害者スポーツの講義、ポッチャ、フライングディスク等の体験
- 受講料：無料
- お問い合わせ：

新潟県障害者スポーツ協会  
TEL025(383)3610【担当:丸田】

主 催：新潟県障害者スポーツ協会  
共 催：新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ指導者協議会  
後 援：佐渡市・佐渡市教育委員会(福) 佐渡市社会福祉協議会  
(予定) (福) 佐渡福祉会・佐渡市身体障がい者福祉協議会  
伝統文化と環境福祉の専門学校

詳しくは開催要項をご覧ください  
ホームページ検索「新潟県障害者スポーツ協会」



## 静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業

- ◆ 静岡県地域ネットワーク型

障害者スポーツトライアル教室開催事業

- ◆ 静岡県障害者スポーツフォーラム開催事業

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

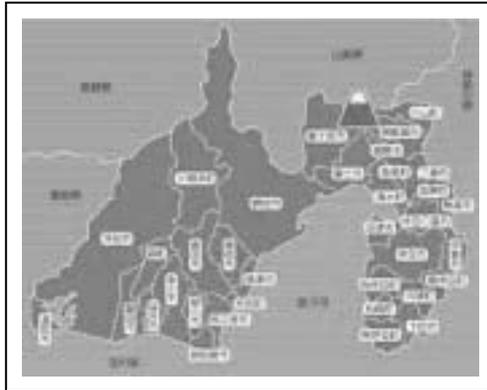




# 静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業報告書

## 1 実施目的

障害のある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーションをしたくても受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認障害者スポーツ指導員と地域との連携により、普及・振興のためには何が必要かを把握し、各地域の実情に合わせたスポーツ環境を構築するとともに、生涯スポーツとして継続・発展させること。



## 2 事業内容及び実施体制

### ①静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催事業

県内9カ所開催

**障害者スポーツトライアル教室**  
東部地区① 裾野市他

日時 平成25年10月19日(土) 2時から4時  
会場 裾野市立南小学校体育館(裾野市伊豆島田806-5)  
対象者 障害のある方(ひとりでも可) (重症障害の方歓迎!)

参加費 無料(スポーツ施設にて障害保険に加入します)  
内容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、バルバレー、チェーサー、バズネット、五人バ、フットボール、その他地域に応じて別添いますので、チラシをご覧ください。

申込方法 申込書と申込料を記入の上、FAXが郵送で送付ください。

お問い合わせは、下記事務局まで!

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会 職員 中野・藤澤  
〒420-0854 静岡市東区藤原1-70 静岡県社会福祉会社館内  
TEL 054-221-0062 FAX 054-651-2600

静岡県障害者スポーツ推進委員会(本部)主催  
【静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業】  
～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催事業～  
東部地区① 裾野市他(仮称)

- 事業の目的  
本事業は、障害のある方も障害のない地域で気軽にスポーツに携われることのできる場づくりのため、公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会と各自治体によりスポーツ推進員を育成し、県内各地域にスポーツ推進員を育成するとともに生涯スポーツとして継続・発展させることを目的とする。
- 主催 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会  
共催 静岡県障害者スポーツ推進員協議会
- 協力 裾野市スポーツ推進員協議会
- 対象の団体 (注) 例 平成25年10月19日(土)14時～16時  
企業 裾野市立南小学校体育館(裾野市伊豆島田806-5)  
①対象者 障害のある方(ひとりでも可)  
②参加費 無料(50人以内)  
③参加費 無料(スポーツ施設にて障害保険に加入します)  
④内容 例) フライングディスク、ボッチャ等(地域実情に応じて別添)  
⑤その他 自治体と連携する場合は、任意の団体と一緒に開催ください。

13時～14時 障害者スポーツ推進員 14時～16時 講習会  
場 例) 静岡県障害者スポーツ推進員協議会  
対象者 裾野市スポーツ推進員  
注) 例) 障害者スポーツの普及と発展を促進する  
静岡県障害者スポーツ推進員協議会  
安全管理 障害者が運動・スポーツを行う際の注意(注意事項)に  
一読必須事項あり  
1) 講習の場 2) 講習の場 3) 安全管理の場 4) 共通事項

5. 申込申込 当該申込書に必要事項を記入し、スポーツ推進員FAX又は郵送。

6. 申込先・連絡先  
公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会 職員(中野・藤澤)  
〒420-0854 静岡市東区藤原1-70番 静岡県福祉会社館内  
電話(054)221-0062 fax(054)651-2600

東部地区① 裾野市(仮称)市  
障害者スポーツトライアル教室 申込書

日時:平成25年10月19日(土)14時～16時  
場所:裾野市立南小学校体育館(裾野市伊豆島田806-5)

フリガナ	姓	名	年	月	日
性別	性別	性別	性別	性別	性別
〒	住所				
TEL/FAX	電話番号				
TEL ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	FAX ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )				
所属先/学校等	所属先/学校等				
名	名				
姓	姓				
練習したいスポーツ	練習したいスポーツ				
備考	備考				
備考	備考				

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会  
TEL054-221-0062  
FAX054-651-2600  
〒420-0854  
静岡市東区藤原1-70  
静岡県福祉会社館内

### 1回目

日時 平成25年10月19日(土) 講習会 13時～14時 教室 14時～16時  
会場 裾野市立南小学校体育館(裾野市伊豆島田)  
参加者 知的障害13名、肢体障害11名、内部障害1名、精神障害2名、付添他20名、  
スポーツ推進委員13名 計60名  
スタッフ 講師1名、指導員5名、実行委員指導員3名 計9名  
内容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、バルバレー



## 2回目

日 時 平成25年11月23日(土) 講習会 9時半～12時 教室 13時～15時  
 会 場 静岡県立袋井特別支援学校体育館(袋井市高尾)  
 参 加 者 知的障害9名、精神障害1名、視覚障害1名、肢体精神重複1名 付添他14名、  
 スポーツ推進委員31名 計57名  
 スタッフ 講師1名、指導員6名、実行委員指導員3名 計10名  
 内 容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、バルバレー、玉入れ



## 3回目

### ◆講習会

日 時 平成25年11月26日(火) 19時～21時  
 会 場 藤枝勤労者体育館(藤枝市善左衛門)  
 参 加 者 スポーツ推進委員39名、補助員1名 計40名  
 スタッフ 講師1名、実行委員指導員3名 計4名

### ◆教室

日 時 平成25年12月8日(日) 9時半～15時  
 会 場 静岡県武道館、藤枝駅南口正面道路(交通規制)  
 スポーツ&健康フェスタ in ふじえだ2013 障害者スポーツコーナー  
 参 加 者 障害者を含む一般体験者850名、スポーツ推進委員14名、補助員5名 計869名  
 スタッフ 指導員5名、実行委員指導員1名 計6名  
 内 容 フライングディスク、ボッチャ



#### 4回目

日時 平成25年12月21日(土) 9時~12時

会場 藤枝市民体育館(藤枝市駅前3丁目) ハルモニア『ウェルフェア塾』合同開催

参加者 知的障害1名、肢体障害4名、障害者を含むハルモニア参加者20名、付添他15名、  
補助員8名 計48名

スタッフ 指導員3名、実行委員指導員3名 計6名

内容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、玉入れ、フロードR、バルーン、ダンス



#### 5回目

日時 平成25年12月22日(日) 講習会 13時~14時 教室 14時~16時

会場 静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校体育館(伊東市八幡野)

参加者 知的障害20名、肢体障害5名、内部障害1名、知的肢体重複1名、付添他24名、  
計51名

スタッフ 講師1名、指導員3名、実行委員指導員3名 計7名

内容 フライングディスク、ボッチャ、バルバレー、玉入れ、ティーボール、ピロポロ



## 6回目

日時 平成25年12月23日(月祝) 講習会 13時～14時 教室 14時～16時  
会場 下田市立下田小学校体育館(下田市5丁目)  
参加者 知的障害2名、肢体障害2名、視覚障害2名、聴覚障害1名、知的聴覚重複1名、  
付添他6名、講習受講者2名 計16名  
スタッフ 講師1名、指導員3名、実行委員指導員3名 計7名  
内容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、バルバレー、玉入れ、フロートR、  
ティーボール、ボウリング



## 7回目

日時 平成26年1月18日(土) 講習会 12時～13時 教室 10時～15時  
会場 長岡体育館(伊豆の国市南江間)  
参加者 知的障害30名、肢体障害8名、内部障害1名、視覚障害2名、精神障害60名、  
視覚聴覚知的重複1名、付添他18名、講習受講者25名 計145名  
スタッフ 講師1名、指導員6名、実行委員指導員3名 計10名  
内容 フライングディスク、ボッチャ、ペタボード、バルバレー、玉入れ、フロートR、  
ボウリング、ラダーゲッター、エアボールゲーム



## 8回目

日時 平成26年1月25日(土) 講習会 13時～14時 教室 14時～16時  
会場 静岡県立浜名特別支援学校体育館(湖西市新居町浜名)  
参加者 知的障害8名、肢体障害2名、精神障害2名、知的内部重複2名、付添他23名、  
講習受講者2名 計39名  
スタッフ 講師1名、指導員3名、実行委員指導員3名 計7名  
内容 フライングディスク、ボッチャ、バルバレー、フロートR



### 9回目

日時 平成26年2月16日(日) 9時~12時

会場 狐ヶ崎ヤングランドボウル(静岡市清水区上原1丁目)

参加者 知的障害56名、肢体障害16名、内部障害3名、精神障害14名、視覚障害3名  
聴覚障害8名、付添他73名、補助員30名 計203名

スタッフ 指導員4名、実行委員指導員3名 計7名

内容 ボウリング



※県内全域東部4回・中部3回・西部2回教室開催

教室参加者アンケート 参加者・保護者・引率者149人より回答

講習会受講者アンケート 46人より回答

派遣指導員活動報告書 延66人より報告

### ②静岡県障害者スポーツフォーラム開催事業

静岡県障害者スポーツフォーラム 主催・(公財)静岡県障害者スポーツ協会 後援

## 第15回 静岡県障害者スポーツフォーラム

テーマ：地域での障害者スポーツ振興に向けて  
～「誰でもが参加できる」として、積極的にスポーツのできる環境、の構築を目指して～

◎日時：平成26年2月22日(日)  
午前10時～午後3時(30分休憩)

◎会場：静岡県総合体育センター(静岡市清水区)  
第1会議室(会議棟) 第2会議室(大会棟) 第3会議室(大会棟3F)

◎参加費：無料

10:00~10:30 開会式  
10:30~11:30 会長基調講演  
大田田茂夫(静岡県障害者スポーツ指導者協議会会長)  
テーマ『今、私たちの地域で障害者スポーツ振興のためできること』  
～誰でもが参加できることを～

11:00~12:15 特別講演  
鈴木 秀博(静岡県障害者スポーツ指導者協議会理事)  
テーマ『障害者スポーツ指導員としての私』  
～続けることの大切さと大切さ～

12:00~14:15 障害者スポーツ体験  
テーマ『「誰もが参加できる」スポーツ体験』  
静岡県障害者スポーツ指導者協議会主催  
テーマ「誰でもが参加できる」として積極的にスポーツのできる環境、の構築を目指して～

14:45~16:15 50分休憩  
16:30~ 閉会式  
16:45~ 実行委員報告

※参加費は無料です。

申し込み・連絡先 静岡県障害者スポーツ指導者協議会 事務局(静岡市清水区)  
第15回静岡県障害者スポーツフォーラム実行委員会事務局  
〒420-0856 静岡県静岡市清水区清水1-1-5 静岡県社会福祉協議会内  
(公財)静岡県障害者スポーツ協会事務局 TEL. 054-651-2600

### 第15回 静岡県障害者スポーツフォーラム 実施要綱

テーマ：地域での障害者スポーツ振興に向けて  
～「誰でもが参加できる」として、積極的にスポーツのできる環境、の構築を目指して～

本フォーラムは、障害者スポーツ振興と普及のため、障害者スポーツの支援や情報を提供し、そこから見える課題や問題を解決すべき具体的な対策を語りつつ、今後に向けての期待を共有することを目的とします。また併せて、近く見れば、積極的に障害者スポーツへの理解と協力を促すための企画を盛り込むことを目的とします。

今回は、地域での障害者スポーツ振興にもっとも大切な、本フォーラムでも今までこれと同様なテーマを取り上げ、皆さんが議論し、考えたいいただきましたが、さらなる展開を図り、「誰でもが参加できる」として積極的にスポーツのできる環境、の構築を目指して、その対応策などを発信したいと考えます。

1 主 催 静岡県障害者スポーツ指導者協議会  
2 共 催 (公財)静岡県障害者スポーツ協会  
3 後 援 静岡県 静岡県教育委員会 (公財) 静岡県障害者協議会  
(財) 静岡社会福祉協議会 (公財) 静岡県社会福祉協議会  
(公財) 静岡県精神保健福祉協会 (公財) 静岡県身体障害者福祉協会  
静岡県知的障害者福祉協会 静岡県精神保健福祉協会  
静岡県手をつなぐ育成会  
静岡県盲点・聴覚障害 静岡県視覚障害者協会  
静岡県ろうきん(公財) 静岡県ろうきん連合会  
4 主 席 静岡県福祉財団(財) 平岡七郎(財) 平岡三郎(財)から  
5 司 会 静岡県福祉財団(財) 平岡七郎 第1会議室、第2会議室、第3会議室  
〒420-0856 静岡県静岡市清水区清水1-1-5 TEL.054-649-1595  
6 参加費 無料  
7 申込先 第15回 静岡県障害者スポーツフォーラム実行委員会事務局  
〒420-0856 静岡県静岡市清水区清水1-1-5  
TEL.054-651-2600 FAX 054-651-2600  
メールアドレス 静岡@shizuoka-shimin.jp  
8 申込締切 平成26年2月24日(金)

### 9 プログラムの内容

・昼食(10:30~)

・開会式(10:00~10:30)

・会長基調講演(10:30~11:00)  
講演者：大田田茂夫(静岡県障害者スポーツ指導者協議会会長)  
テーマ：今、私たちの地域で障害者スポーツ振興のためできること  
～誰でもが参加できることを～

・特別講演(11:00~12:15)  
講演者：鈴木秀博(静岡県障害者スポーツ指導者協議会理事)  
テーマ：障害者スポーツ指導員としての私  
～続けることの大切さと大切さ～

・休憩(12:15~13:00)

・障害者スポーツ体験(12:00~14:15)  
テーマ：地域での障害者スポーツ振興を考える  
～「誰でもが参加できる」として積極的にスポーツのできる環境、の構築を目指して～  
司会進行：大田田茂夫(静岡県障害者スポーツ指導者協議会会長)  
シンジスタ：深尾 昭雄(静岡県障害者スポーツ指導者協議会会長)  
土田 秀太郎(財)静岡社会福祉協議会(事務局)  
主催 島根礼(アクトランド株式会社)【ボランティア】

・閉会式(16:30~)

・交流会(16:45~)

以上

日 時 平成26年2月2日(日) 10時～16時半 懇親会16時45分～  
 会 場 静岡県総合研修所もくせい会館 第1会議室・体育館(静岡市葵区鷹匠3丁目)  
 主 催 静岡県障害者スポーツ指導者協議会  
 共 催 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会  
 後 援 静岡県・静岡県教育委員会・(公財)静岡県体育協会・しずおか精神障害者スポーツ推進協議会・(福)静岡県社会福祉協議会・(公社)静岡県精神保健福祉会連合会・(福)静岡県身体障害者福祉会・静岡県知的障害者福祉協会・静岡県精神保健福祉協会・静岡県手をつなぐ育成会・静岡新聞社・静岡放送・中日新聞東海本社

参 加 者 知的障害9名、肢体障害15名、視覚障害2名を含む指導員他一般参加者計121名  
 スタッ 講師4名、指導員7名、実行委員指導員3名、補助員16名 計30名  
 内 容 会長基調講演(協議会大胡田茂夫会長)、特別講演(協議会鈴木秀明理事)、  
 重度障害者のスポーツ体験(電動車椅子サッカー・ボッチャ等)、シンポジウム



### 3 成果および評価

今回の事業は、静岡県障害者政策課・静岡県スポーツ振興課より各市町への協力依頼からスタートすることができ、教室開催前に障害者スポーツに関するアンケートを実施、県内各地域の実情を深く確認することができた。また、障害者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的に開催したことにより、今までスポーツをしたことの無い方が多く参加できた。さらに、各地域のスポーツ推進委員の参加で地域の指導員との連携が図れた。

この事業の効果で、障害者スポーツについて、各市町障害者福祉担当課・社会福祉協議会・生涯スポーツ主管課等よりの問い合わせや講師派遣依頼が増加、公認初級講習会受講者も例年より倍増した。このことから、県内各市町主催の障害者スポーツ教室開催や、地域スポーツクラブでの受入が進み、スポーツ環境が広がって行く方向であることを実感している。

## 4 今後の課題

県内9カ所で開催したが、障害のある方がスポーツ環境を求め、1時間以上かけて参加してくれた現状を考えると、さらに多くの市町単位でトライアル開催することが大事だと感じた。結局、遠くまで参加できない方が多かった。

また、派遣可能な指導員不足が大きな問題となった。通所入所施設等の生活活動の中にスポーツを上手く取り入れて頂くことが、重度障害のある方等に対する障害者スポーツの普及になると考え、希望も多いため、今後、支援員の方々への講習会も検討、また、地域スポーツクラブへの指導員派遣や、各地域のニーズに合った指導員をコーディネートできる指導員を育成するべく、協議会と共同でスキルアップ講習会を開催していく必要がある。

## 5 その他所感

### 平成25年度障害者スポーツ振興事業「障害者スポーツトライアル教室」に参加して思う

上級障害者スポーツ指導員 大胡田 茂夫

本事業の中で、5地区のスポーツトライアル教室（以下；本教室）に指導員として、またその内3地区では指導者講習会の講師としてそれぞれ参加した。

本報では、共催団体の責任者というより、一指導員の立場からの意見・感想を述べたい。

私にとって本教室に参加したことは、12～3年前、障害者スポーツの啓発、および平成15年当県開催の第3回全国障害者スポーツ大会のPRを目的に、ビデオを携帯し各地域を回ったことを懐かしく思い出す機会でもあった。

その頃と比較し、障害者スポーツの意義や役割、またその必要性を認識している障害者・健常者が数段多くなっていることを本トライアル教室から確認できた。

本教室の参加者と一緒にスポーツ・レクリエーションを挑むことで、障害者にとっては、この身体活動が単に楽しさや気分転換のみのひと時ではなく、今後の生き方まで影響を及ぼすことが推測された。それというのも、本教室終了後、何人かの参加者に感想を聞いてみた。すると、本教室に参加したことを肯定的に捉えている方が圧倒的に多かったことである。「やっている間、障害のことは忘れていた」、「施設でもこの様なことをやってくれないかな」、「楽しく、有意義な時間を共有できたことで、仕事に張りができそう」など、多少のリップサービスもあろうが、私は偽りのない純真なこころの表れだと思う。これが、スポーツやレクリエーションの「ちから」であろう。

もう一つ、本教室から、ある漠然とした思い込みが解消した。私は常々、「県内の障害者は、スポーツやレクリエーションに対して消極的な捉え方をしている人が多いのでは」という憶測をしていた。今回それが、誤解・危惧の念であったと気付かされた。各スポーツ種目に一生懸命取り組んでいる様子やゲームで和気あいあいとしている中での熱気を見るにつけ思いを新たにした。やはり、多くの障害者はスポーツをやりたい、やってみたいと思っている方は、非常に多いということであろう。

これらのことから、障害者にスポーツ実施のきっかけづくりや、スポーツの「ちから」を実感してもらい、また指導員の資質向上や活動の場の拡大、さらにはスポーツ推進委員に理解と関心を一層深めてもらうなどの意味からも、このような教室は継続実施されることを願う。

私個人にとって、バルバレー・ペタボードやフライングディスクなどを障害者の皆さんと一緒に

楽しみふれあうことは、指導員冥利につきると感謝の気持ちで満ちあふれている。本教室は、改めて指導員としての原点を見つめ直すきっかけをくれた。

## 地域における障害者スポーツの振興について思う

上級障害者スポーツ指導員 大塚 康夫

今年度、初の試みとして開催された事業でしたが、この事業を通して、障がいのある方や支援する方々が、住み慣れた地域で余暇時間等を活用して普段、あまり体験したことがない新しいスポーツ種目を楽しむことができたのではないのでしょうか。

今後、この事業が地域に溶け込み、継続して行っていくためには会場等のハード面はもとよりソフト面でもある「支援者」の確保、養成等といった課題もありますが、その起爆剤にはなったのではないかと感じました。

特に、私がこの事業で感じたのは、「支援者」の確保の部分ではありますが、今回は、地域で活動する「スポーツ推進委員」の方の参加があったことです。

「スポーツ推進委員」の皆さんは、生涯スポーツ振興の担い手として、普段は、地域の一般市民を対象にしたスポーツ事業を組織的に展開しているわけですが、障がいのある方のスポーツ支援においては、未経験の方がほとんどなので、接し方や支援の仕方わからず、不安の方が大きかったのも事実です。

しかし、障がいのある方と一緒にスポーツを楽しみ、また触れ合えたことで少しではありますが、「障がい者に対する見方が変わった」「スポーツをしたいという気持ちは健常者同様に同じなんだ」「何もできないのではという先入観で見ていた自分が恥ずかしい」といった感想にもあるように、その距離が縮んだのではないかと感じました。

ただ残念なのは、企画の際に、もっと当事者である障がいのある方が積極的に参加できるような工夫や配慮に少し欠けていたかなとも感じました。

例えば、体育館に特設のフロアバレーボールコートを設け、目の不自由な方の実際のプレーや健常者がアイマスクをつけて疑似体験を行ったり、あるいは障がい者と健常者の合同チームを編成して競技をするといった配慮があれば、会場を訪れる人やスポーツ推進委員の皆さんも見方や意識も変わってくるのではないのでしょうか。

障害者スポーツの振興は、「まず見る」「知ってもらおう」ことから始まるとよく言われますが、実際には、「見る」ことへの機会すら、まだ少ないのが実情のようです。

障がいのある方がスポーツを生活の中で楽しむことができるようにするには、行政と障害者スポーツ協会が連携して、身近な地域で障がいのある人もない人もともにスポーツを楽しむことができるような機会を設けることや、地域にあるスポーツ施設の使用を容易にすること、地域における障害者スポーツの指導者を養成して、スポーツ施設に配置する等が必要であると強く感じています。

また、スポーツ基本法の制定を受けて、障がいのあるなしにかかわらず、そのニーズに応じた対応を求められている今、地域のスポーツ指導者が障がい者のスポーツにも参画するような仕組みづくりが今後の課題と思いました。

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

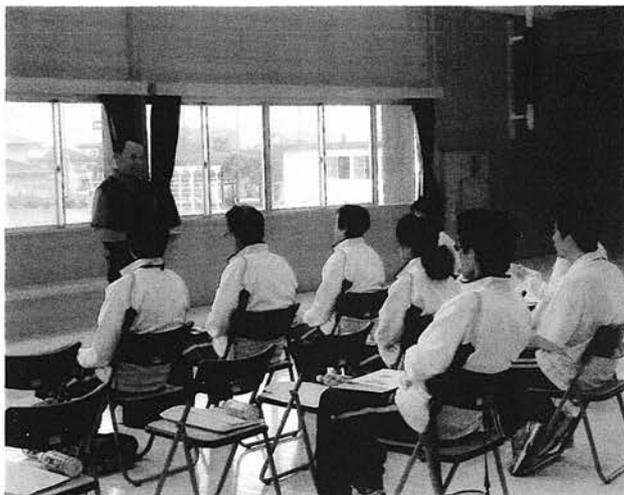
『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

## 東部地区① 裾野市他近隣市町

10月19日（土）裾野市立南小学校体育館

13時～14時 障害者スポーツ講習会



指導者講習会（裾野市スポーツ推進委員）



障害者スポーツ  
トライアル教室

14時～16時



みんなで自己紹介



準備運動

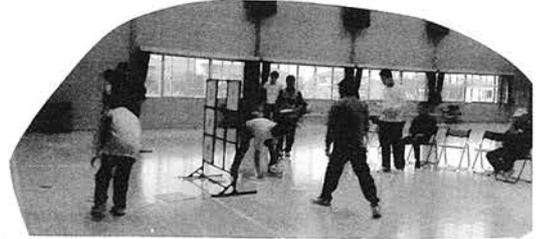
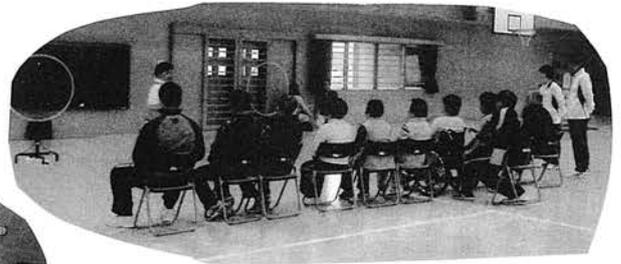


スタッフミーティング

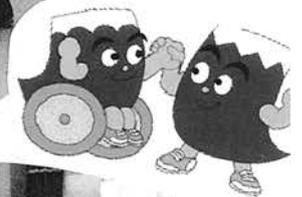




フライングディスク (アキュラシー)



フライングディスク (ストラックアウト)



ボッチャ



ペタボード



バルパレー



次回は、11月23日(土) 西部地区① 袋井特別支援学校体育館です。皆さんの参加お待ちしております!!

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

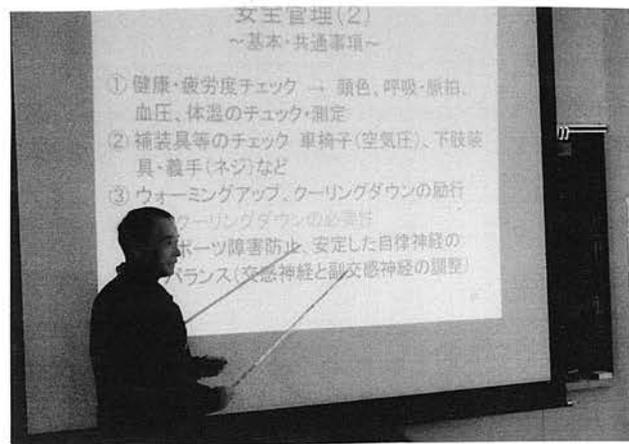
～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

西部地区① 11月23日（土）静岡県立袋井特別支援学校体育館

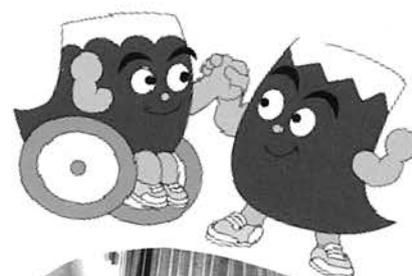
9時半～12時 障害者スポーツ講習会



(磐田市スポーツ推進委員)



(静岡県障害者スポーツ指導者協議会 大胡田会長)



13時～15時 障害者スポーツトライアル教室



フライングディスク (ストラックアウト)



フライングディスク (アキュラシー)



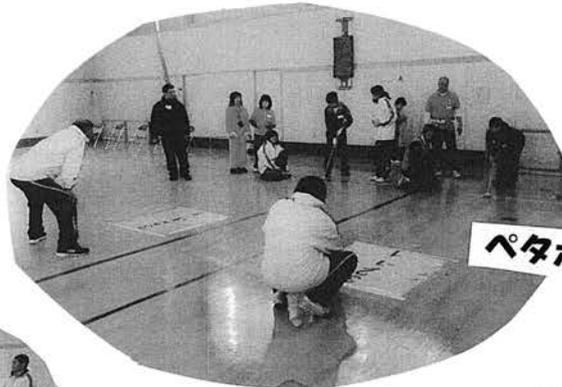
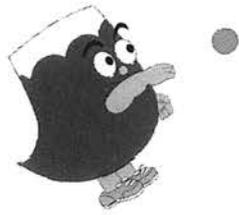


**ポッチャ**



**ターゲットポッチャ**

(STAFF ビブス 公認障害者スポーツ指導員)



**ペタボード**



**玉入れ**



**バルバレー**



**クーリングダウン**



**みんなで！！はいポーズ☆**

次回は、12月8日(日)【藤枝市スポーツ&健康フェスタ】でお待ちしております。  
会場：藤枝駅南口・静岡県武道館(障害者スポーツ体験コーナー)  
当日は、フライングディスクとポッチャを体験できます☆

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

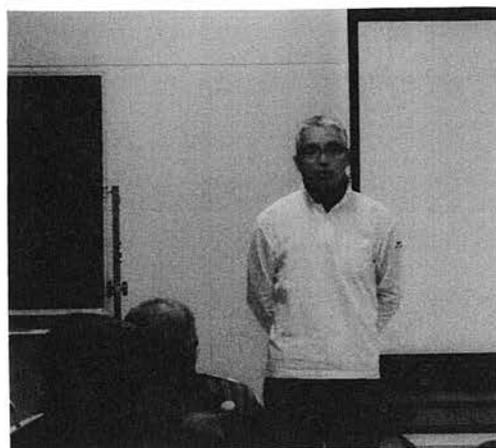
# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

## 事前障害者スポーツ講習会 中部地区①

11月26日（火）藤枝勤労者体育館 19時～21時

### 講習会



しずおか障害者フライングディスク協会理事長  
大塚康夫講師

【志太地区（藤枝市・焼津市・島田市）スポーツ推進委員】

### 実技指導練習



ウォーミングアップ



ランフス介助練習



フライングディスク（アキュラシー）



ポッチャ



視覚障害者体験

12月8日（日）スポーツ&健康フェスタ in ふじえだ 障害者スポーツコーナー

フライングディスク（アキュラシー・ストラックアウト・ディスクゴルフ）・ポッチャ

お待ちしております！！

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 「静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業」

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

中部地区① 12月8日（日）藤枝市

家族みんなが  
きて、お、やって 健康アップ!

## スポーツ&健康フェスタ in ぶじえだ2013

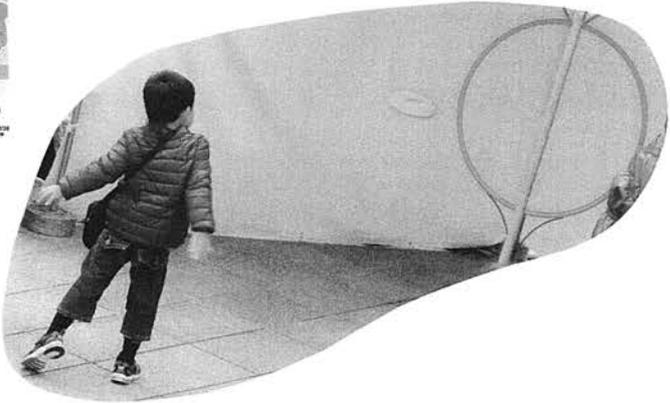
12/8 参加無料

静岡県武道館 藤枝市  
開催時間 9:30～15:00まで  
入場料 無料

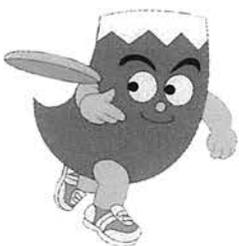
NEW  
フライトディスクなど  
誰でも楽しめるコーナーが  
たくさんあるよ!

めざそう!健康・予防日本一!

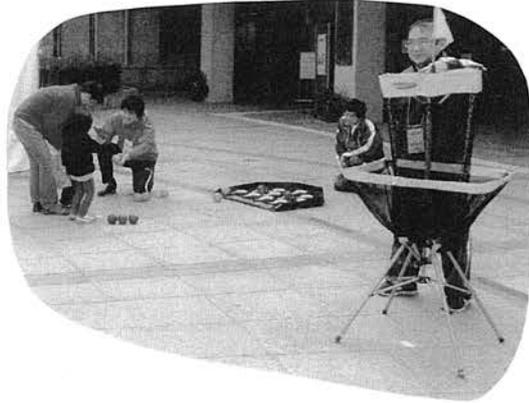
きて、みて、やって、健康アップ!  
**スポーツ&健康フェスタ in ぶじえだ**



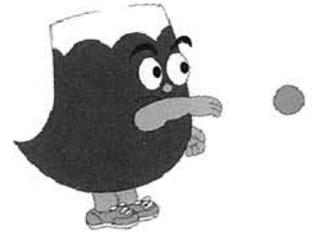
アキュラシー



ストラックアウト



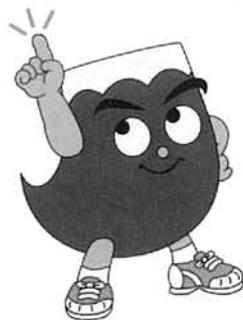
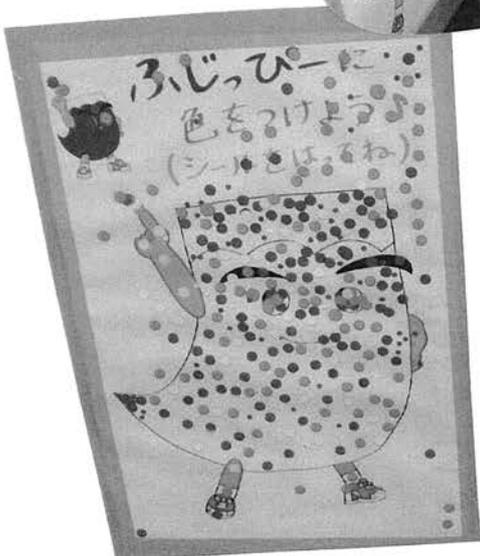
ポッチャ  
スカットボール



ディスクゴルフ



たくさんの御参加ありがとうございました☆



次回は、12月21日(土)中部地区② 藤枝市民体育館です。  
皆さんの参加お待ちしております！！

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

中部地区② 12月21日（土）藤枝市民体育館

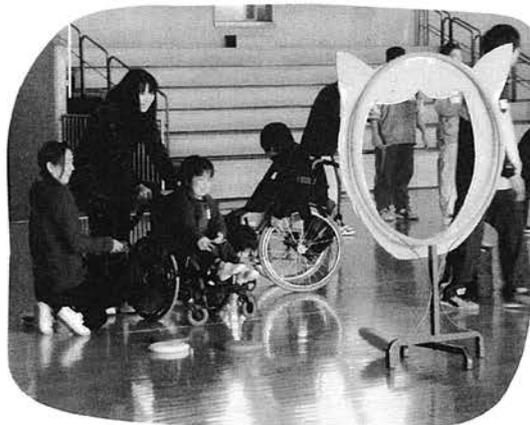
ハルモニア「ウェルフェア塾」合同開催



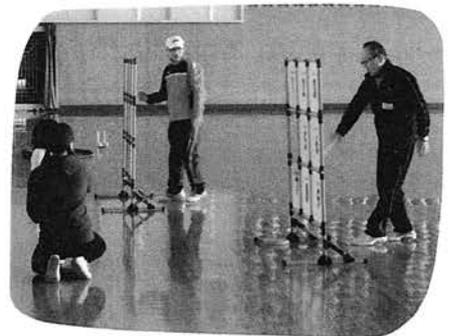
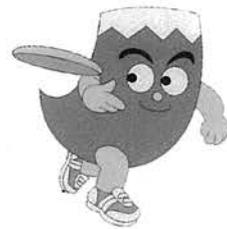
フートR



ダンス



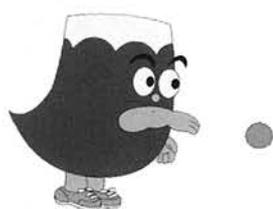
フライングディスク（アキュラシー）



フライングディスク（ストラックアウト）



**ペタボード**



**ポッチャ**



**ターゲットポッチャ**



**バルーン**



**クーリングダウン**



**参加していただき**

**ありがとうございました☆**

**お疲れ様でした！**

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

東部地区② 12月22日（日）静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校体育館

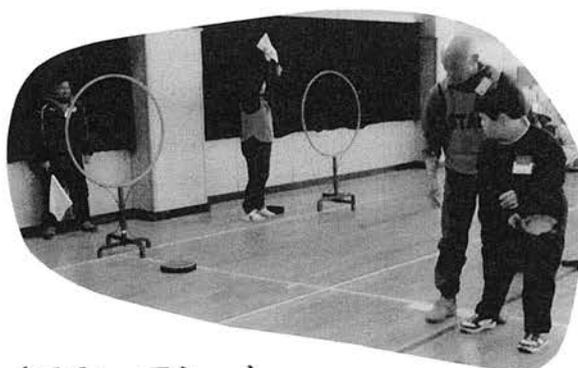
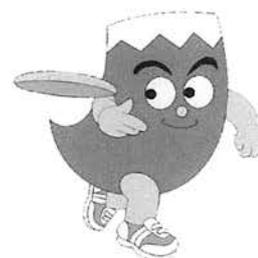


始めの挨拶

(STAFF ビブス 公認障害者スポーツ指導員)



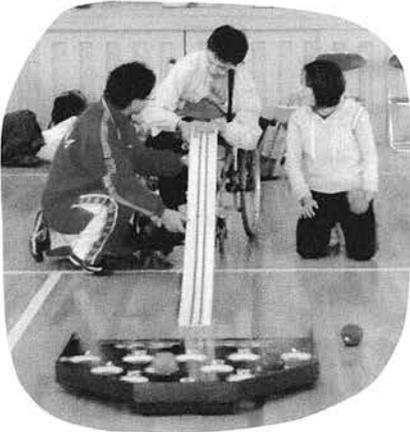
フライングディスク (ストラックアウト)



フライングディスク (アキュラシー)



ピロポロ



スカットボール



ポッチャ



バルバレー



みんなで！！はいポーズ☆

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

東部地区③ 12月23日（月祝）下田市立下田小学校体育館



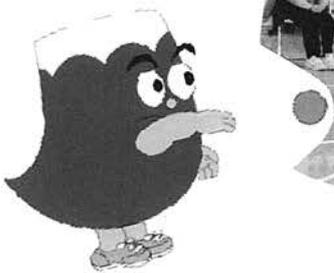
13時～14時 障害者スポーツ講習会  
(静岡県障害者スポーツ指導者協議会 大胡田会長)

14時～16時 障害者スポーツトライアル教室



準備体操 (STAFF ビブス 公認障害者スポーツ指導員)

ポッチャ



フロートR

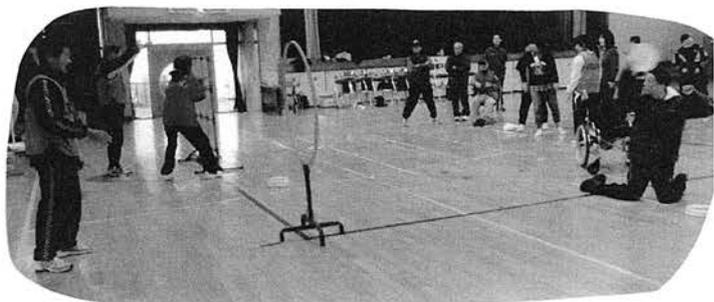


ティーボール





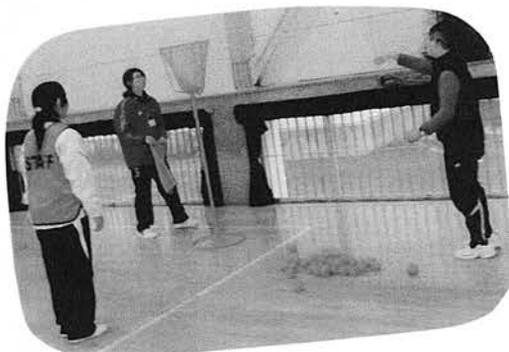
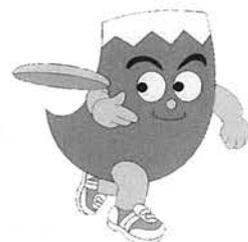
フライングディスク (ストラックアウト)



フライングディスク (アキュラシー)



バルバレー



玉入れ



みんなで！！はいポーズ☆

次回は、平成26年1月18日(土) 東部地区④ 長岡体育館です。  
皆さんの参加お待ちしております☆

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

東部地区④ 1月18日（土）長岡体育館



10:00 開会式



しずおか障害者フライングディスク協会理事長  
大塚康夫 講師

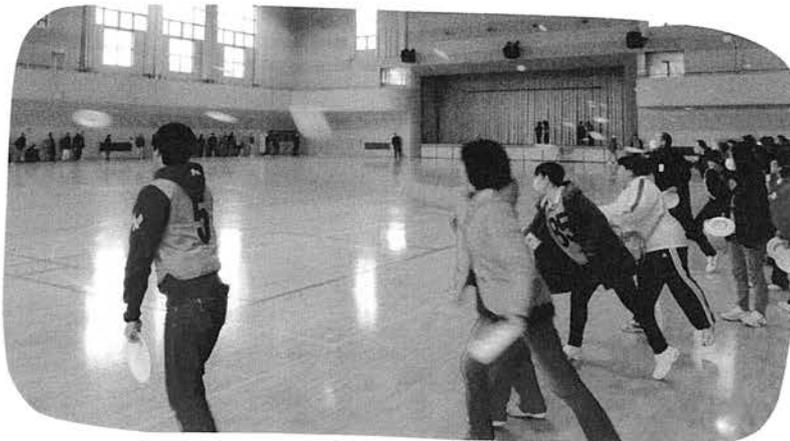
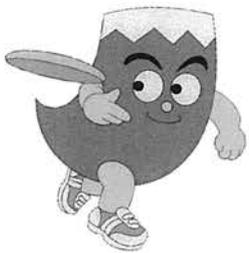
しずおか精神障害者スポーツ推進協議会  
太田秀夫 事務局長



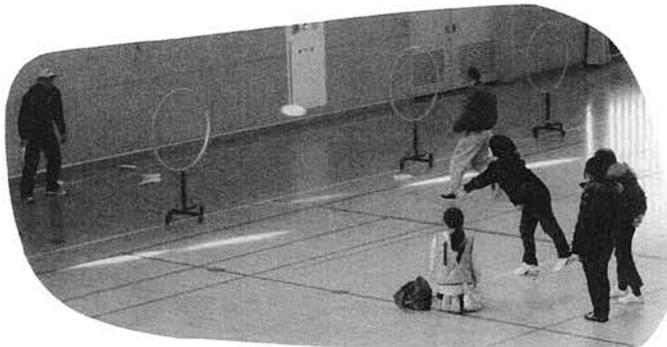
静岡県障害者スポーツ協会  
事務局長 藁科一仁

STAFFピブス 公認障害者スポーツ指導員

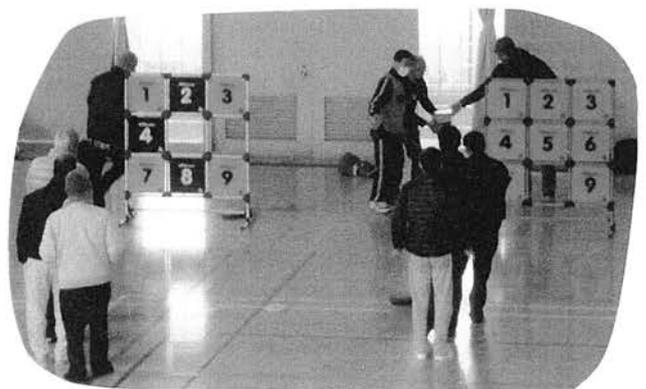
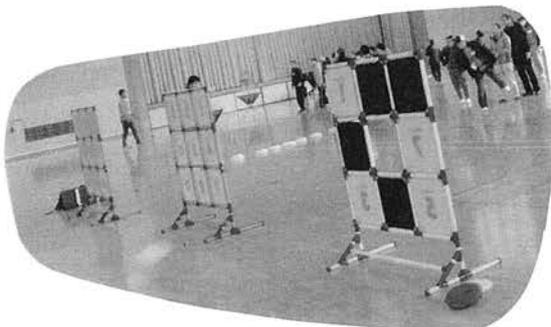
## フライングディスク体験



## アキュラシー



## ストラックアウト



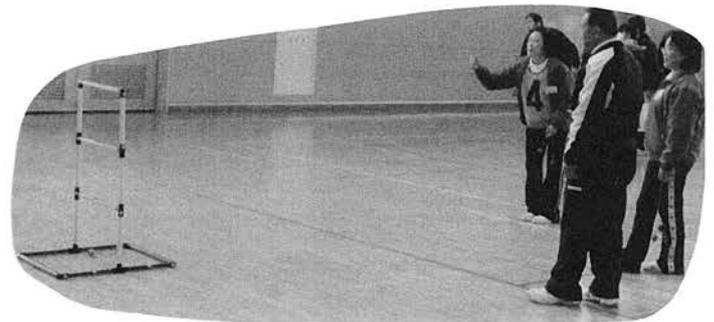
ディスクゴルフ



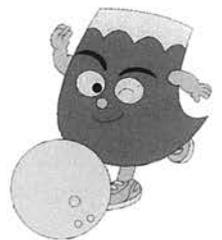
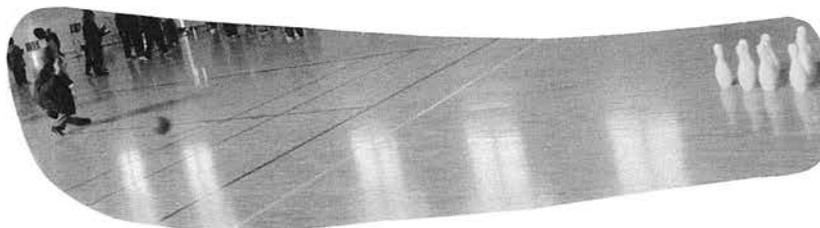
ペタボード



ラダーゲッター



ボウリング



バルバレー





ポッチャ



フロートR



エアボールゲーム



講習会



みんなで、はいポーズ！！



次回は、1月25日（土） 西部地区② 静岡県立浜名特別支援学校です。  
皆さんの参加お待ちしております☆

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」  
『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

西部地区② 1月25日（土）静岡県立浜名特別支援学校体育館

講習会

静岡県障害者スポーツ指導者協議会副会長

波多野俊哉 講師



STAFFビブス（公認障害者スポーツ指導員）

水色ビブス（講習会参加者）

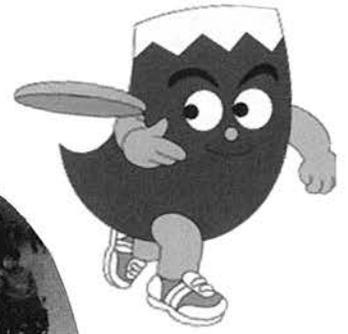
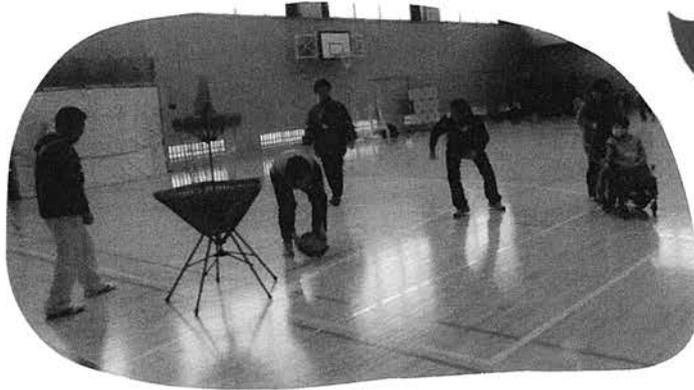
ウォーミングアップ



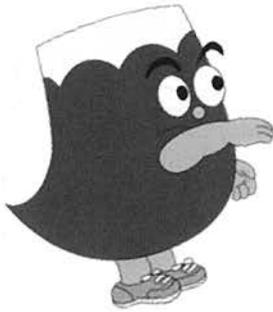
ストラックアウト



ディスクゴルフ



ボッチャ



バズルバレー



☆集合写真☆



次回は、2月16日(日) 中部地区③  
静岡県内交流ボウリング大会(狐ヶ崎ヤングランドボウル)です。  
皆さんの参加お待ちしております☆

平成25年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 『静岡県における障害者スポーツの地域連携振興事業』

～静岡県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室開催～

中部地区③ 2月16日（日）静岡市

## 静岡県内交流ボウリング大会

### 開会式



(静岡県ボウリング協会理事 久保田様)



(狐ヶ崎ヤングランドボウル 苅部様)



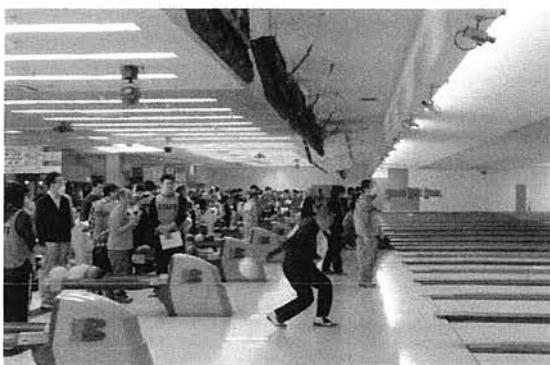
(選手宣誓 池田知弘さん)



(ボランティア 静岡県立科学技術高等学校)

### 競技開始





## 表彰式



**10月から実施しましたトライアル教室は、今回9カ所目の県内交流大会で終了となります。皆様、御協力いただきありがとうございました。来年度も、障がいのある方が身近な地域でスポーツのできる環境をもっともっと増やして行けるようなスポーツ教室を、地域と相談しながら実施したいと思っています。その折は、ぜひ、皆さん参加してください。**

**スポーツ協会事務局・地域振興事業実行委員一同**

# 第15回 静岡県障害者スポーツフォーラム

テーマ：地域での障害者スポーツ振興に向けて

～「誰でもが身近なところで、気軽にスポーツのできる環境」  
の実現を目指して～

平成26年2月2日(日) 静岡県総合研修所もくせい会館

開会の辞

フォーラム実行委員会 波多野委員長



挨拶 主催

静岡県障害者スポーツ指導者協議会 大胡田会長



挨拶 共催

静岡県障害者スポーツ協会 薬科専務理事



挨拶 来賓

静岡県健康福祉部障害者政策課 大野課長



会長基調講演

静岡県障害者スポーツ指導者協議会 大胡田会長



特別講演

静岡県障害者スポーツ指導者協議会 鈴木理事



『重度障害者のスポーツ体験』

☆電動車椅子サッカー



☆カヌー



☆ボッチャ



☆フライングディスク



『シンポジウム』 地域の障害者スポーツの振興策を考える

—誰もが身近なところで気軽にスポーツのできる環境の実現を目指して—

シンポジスト 静岡県スポーツ推進委員連絡協議会  
しずおか精神障害者スポーツ推進協議会  
ブラインドテニスクラブ「オレンジスマイル」

赤塚会長  
太田事務局長  
土居代表  
大胡田会長

司会進行 静岡県障害者スポーツ指導者協議会



閉会の辞

静岡県障害者スポーツ指導者協議会 藤井監事



# 障害者スポーツに挑戦 裾野



座ったままプレーする「バルバレー」を楽しむ参加者

＝裾野市立南小

県障害者スポーツ協会は、このほど、障害者スポーツトライアル教室を裾野市立南小で開いた。県東部の障害者28人が参加し、さまざまな競技を楽しんだ。障害のある人が気軽に運動を楽しむ機会をつくらうと同協会が初めて企画した。協会員や裾野市スポーツ推進員が指導役を務めた。参加者はフラインクディスクや、キューと呼ばれる木製の棒で小

型のディスクを押し出し、ラリーして得点シートに乗せる「ペタボード」など5種目に挑戦した。座ったままプレーする「バルバレー」では、ラリーの数を数え、目標を達成すると全員で歓声を上げて喜んだ。車いすで生活し、視覚障害を持つ杉本弥生さん(41)＝裾野市＝は「スポーツはハードルが高いものだと思う。気軽にできると分かってうれしい」と笑顔で話した。



ボールを使ったゲームを楽しむ来場者＝藤枝市前島の県武道館

## 体動かす楽しさ満喫

スポーツと健康維持 藤枝でイベント

スポーツと健康維持。子どもからお年寄りの取り組みを組み合わせて多くの人が集まったイベント「スポーツ＆健康フェスタ」を満喫した。が8日、藤枝市前島の県武道館のスポーツ体験コーナーでは、誰

でも楽しめる16種目を用意。今年度は新たに障害者スポーツ体験を設けた。パラリンピック「ポッチャ」のボールを使ったゲームでは、3〜5人が離れた位置から得点が記されたボードに向かってボールを転がした。アームレスリングの世界選手権を制した元世界王者山本祐揮さん(同市高柳)と対戦できるコーナーも人気を集めた。

# 社説

<2013.11.13>

## 支援の充実を求めたい

### 障害者スポーツ

政府は向こう5年間の障害者施策の方向性を示す「障害者基本計画」をまとめた。

この中で障害者がスポーツに親しむことができる施設の整備や指導者などの人材育成を掲げ、パラリンピックなど競技性の高い障害者スポーツを目指す選手の育成強化を明記した。

2020年東京パラリンピックを見据えた計画といえよう。障害のある選手への支援体制がなかなか充実しない日本にとって、障害者スポーツ先進国の仲間入りを果たすきっかけとなる。計画の着実な実現を求めたい。

五輪は文部科学省、パラリンピックは厚生労働省と、これまで担当が分かれていた選手強化については来年度からの一本化が決まり、障害者スポーツに展望が開けてきた。

パラリンピックは拡大を続けている。昨年のロンドン大会を五輪と比べ、参加国・地域数で約8割、参加選手数は約4割に達した。独占放送した民放テレビ局の視聴率は上々、入場券販売は約270万枚で史上最多。「超人との出会い」をつたい文句に見るスポーツとしての価値も証明した。

一方、日本は04年アテネ大会(金17、メダル計52個)後、低迷。ロンドンでは金5、メダル16個、メダル獲得数で24位。世界との差は拡大するばかり。東京ではトップ10を目標としたが、日本選手に必要な支援は、まず強化費の増額だ。

健常者の選手ならば、国体参加の際には各都道府県でかなりの費用を負担してもらえ、障害のある選手には全大会出場でそこまでの手厚い支援はない。さらに競技の必需品である器具、用具に加え、義肢や車いすはハイテク

化が進み、購入費用もかさむ。普及機会と指導者の不足も深刻だ。障害者がスポーツに取り組む割合は低

い。それだけに特別支援学校や障害者施設などに指導員を派遣し、障害者スポーツの素晴らしさを知ってもらう必要がある。

その普及と選手発掘も兼ねた重要な役割を担うのが障害者スポーツ指導員だ。日本障害者スポーツ協会は20年までに3万人を目標とするが、約2万2千人(昨年末)にとどまっている。育成には行政の支援とスポーツ団体の協力が不可欠だ。

静岡県内では普及活動として県障害者スポーツ協会が「障害者スポーツライアル教室」を展開している。指導員には実践・研修の機会、障害者は気軽に参加できる場として好評だ。

本年度限りの国の委託事業だが、こうした活動が障害者スポーツ人口を拡大させ、パラリンピアン誕生につながることを国は再認識してほしい。



## 島根県における障害者スポーツの振興事業

- ◆ ボッチャ競技普及員の養成（ボッチャ出前講習会）
- ◆ ボッチャ教室の開催

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会



# 島根県における障害者スポーツ振興事業

## I 実施目的

本事業は、ボッチャの普及啓発を通じて、当協会と障害者スポーツ指導者協議会との地域における機能的な連携体制の構築を図ることを目的に実施した。

障害者スポーツ指導者協議会と協同して事業展開し、機能的な連携体制が構築されることで、各地域における日常的な障害者のスポーツ活動の基盤が整備され、障害者スポーツの振興を図ることがねらいである。

また、ボッチャは、競技方法も簡単で親しみやすい競技種目であり、重度の障害のある方も参加可能であるため、ボッチャの普及により身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを促進するためこの事業を実施した。

## II 事業内容及び実施体制

### 1. 平成 25 年度ボッチャ出前講習会

地区名等	東部地区	西部地区	隠岐地区
日時	10月6日(日) 9:30～16:00	10月19日(土) 9:30～16:00	12月12日(木) 9:30～15:30
場所	サンライフ松江	江津体育館	隠岐の島町総合体育館 隠岐養護学校
受講者	13名	12名	28名
講師	1名(日本ボッチャ協会)	1名(日本ボッチャ協会)	2名(日本ボッチャ協会)
事務局	4名	2名	1名

※西部地区については、当初計画では9月1日(日)を予定していたが、災害により10月19日へ変更

※隠岐地区については、当初計画では、9月14日(土)を予定していたが、参加申込者がいなかったため、12月12日(木)へ変更して実施



## 2. ボッチャ教室

地区名等	項目	1回目	2回目	3回目
東部地区	日時	10月6日(日) 13:00~16:00	12月6日(金) 13:00~16:00	1月25日(土) 13:00~16:00
	場所	サンライフ松江	島根県立はつらつ体育館	出雲体育館
	受講者	13名	8名	45名
	指導員	—	1名	10名
西部地区	日時	9月1日(日)	10月19日(土) 13:00~16:00	12月19日(木) 13:00~16:00
	場所	いわみーる	江津体育館	サンマリン浜田
	受講者	—	12名	8名
	指導員	—	—	1名
隠岐地区	日時	12月12日(木) 9:30 ~15:30		
	場所	隠岐の島町総合体育館 隠岐養護学校		
	受講者	28名		
	講師等	2名 (日本ボッチャ協会)		
	指導員	—		

※西部地区については、当初計画では9月1日(日)を予定していたが、災害により10月19日へ変更

※隠岐地区については、当初計画では、9月14日(土)・10月25日(金)を予定していたが、参加申込者がいなかったため、12月12日(木)へ変更して実施



## Ⅲ 成果及び評価

### 1. ボッチャ出前講習会

障害者スポーツ指導者協議会の会員を中心に参加してもらい、県内各地で、日本ボッチャ協会の方を講師に招き、ボッチャ競技に関する基礎知識や実践について学び、指導者・普及員を養成することができた。その結果、当協会と指導者協議会との連携が強化され、地域における日常的な障害者のスポーツ活動の基盤が整備された。

また、副次的な効果として、指導員のなかに、レクリエーション協会、スポーツ推進委員などの所属の方も多くおり、この事業を通じて、他団体からの障害者のスポーツ活動の事例紹介などもあり、障害者のスポーツを普及する機会を得ている。

## 2. ボッチャ教室

ボッチャ教室開催以降、各地でボッチャ教室の講師派遣依頼や競技物品等の貸出依頼が多くあり、身近にできるスポーツとして県内への普及が図ることができた。

特に、今まで当協会事業に参加の少なかった重度障害者の参加が多くあった。

## IV今後の課題

取り組みやすいボッチャ競技であるが、ボッチャ教室を開催する団体の多くは、当協会へ借用を依頼している。競技物品を購入する団体はあるものの高額であるため多くの数は購入できないという問題がある。また、障害によっては、ランプを用いる必要があるが、これも高額であるため容易に購入できないという課題がある。

当協会が、昨年度実施した「県内における障害者のスポーツに関するアンケート」では、当事者や関係者からは「ボッチャ」を普及してほしいとの意見が多く、障害者の高齢化、障害の重度化に対応した競技として、ボッチャの県大会導入を考えているが、正式なコートを作る労力、正式なルールの理解は大変であるため、普及の段階では、だれでも取り組みやすくし、年々教室等を通じて、段階的に正式ルールに近づけていくことが必要であると考えられる。

また、このボッチャに係る事業を通じて、指導者協議会の活動は活発化し、当協会との機能的な連携体制が構築され、県内の障害者スポーツにおける指導体制は整いつつあるが、その利用について、県内各地に周知徹底していく必要がある。あわせて、様々なニーズにこたえるべく指導者の拡大ならびに資質の向上を図る必要がある。

## VI他所所感、特記事項等

ボッチャ競技については、単純で分かりやすく、取り組みやすい競技である。単純な競技なためすぐ飽きるのではないかと思っただが、講習会・教室参加者ともに休憩時間や事業終了後も黙々と取り組む姿が多くみられた。

出前講習会を実施し、その後に教室をおこない、出前講習会修了者が教室の運営等を行うことは、実務経験を積むことができる非常に大切な機会であり、今後の県大会開催に向け貴重な経験であった。

この教室を通じて、参加者の中からは、「東京パラリンピック」を目指したいなどの声も上がり、重度の障害者にとって今までにはない明るい表情も見ることができ、夢や希望をあたえる教室となった。



# 平成25年度ボッチャ出前講習会実施要項

## 1. 目的

ボッチャにおける必要な知識や技能を身につけ、ルールを理解することで、ボッチャを普及するとともに競技運営を担う人材を養成することを目的とします。

## 2. 主催

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

## 3. 協力

島根県障害者スポーツ指導者協議会

## 4. 参加対象

障害の有無は問いません。どなたでもご参加いただけます。

## 5. 参加定員

各会場20名程度

## 6. 日時および場所

地区	期日	会場	住所
西部地区	9月1日(日)	いわみーる	浜田市野原町1826-1 TEL 0855-24-9330
隠岐地区	9月14日(土)	隠岐の島町総合体育館	隠岐の島町栄町1437 TEL 08512-3-0025
東部地区	10月6日(日)	サンライフ松江	松江市大庭町1751-14 TEL 0852-27-7711

## 7. 日程

9:00～ 受付  
9:30～12:00 講義・実技「ボッチャ競技の基礎知識」  
12:00～13:00 休憩  
13:00～16:00 実技「実践演習」  
16:00 解散

## 8. 講師

日本ボッチャ協会

## 9. 参加費用

無料

## 10. 申込方法

別紙「申込用紙」に必要事項を記入の上、郵送、FAX、E-mailにてお申し込み下さい。

1) 申込締切り: 隠岐・西部地区開催分: 平成25年8月16日(金)

東部地区開催分: 平成25年9月13日(金)

2)申込み、問合せ先

〒690-0011

松江市東津田町1741-3 いきいきプラザ島根5階

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

TEL0852-20-7770 FAX0852-32-5982 E-mail :yoshioka-m@fukushi-shimane.or.jp

(担当:吉岡・木下)

**11.その他**

1)実技講習をおこないますので、動きやすい服装とインドアシューズをご用意下さい。

2)主催者において傷害保険には一括加入します。

# ポッチャ教室開催要項

## 1. 目的

競技方法が簡単で親しみやすく、重度の障害者でも競技が可能なポッチャを県内各地で普及することで、より多くの方がスポーツに取り組むことのできる機会を提供する。

## 2. 主催

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

## 3. 協力

島根県障害者スポーツ指導者協議会

## 4. 参加対象

障害の有無は問いません。どなたでもご参加いただけます。

## 5. 参加定員

各会場50名程度

## 6. 日時および場所

地区	期日	会場	住所
東部地区	10月6日(日)	サンライフ松江	松江市大庭町1751-14 TEL 0852-27-7711
	12月6日(金)	島根県立はつらつ体育館	松江市上乃木7-1-27 TEL 0852-21-3253
	1月25日(土)	出雲体育館	出雲市今市町北本町3丁目1-6 TEL 0853-21-1830
西部地区	9月1日(日)	いわみーる	浜田市野原町1826-1 TEL 0855-24-9330
	10月19日(土)	江津市民体育館	江津市嘉久志町2052. TEL 0855-52-1790
	12月19日(木)	サンマリン浜田	浜田市原井町3050-9 TEL 0855-22-0082
隠岐地区	9月14日(土)	隠岐の島町総合体育館	隠岐の島町栄町1437 TEL 08512-3-0025
	10月25日(金)		

## 7. 日程

◎13:00～16:00

13:00～ 受付

13:30～16:00 実技

16:00 解散

## 8. 参加費用

無料

## 9. 申込方法

別紙「申込用紙」に必要事項を記入の上、郵送、FAX、E-mailにてお申し込み下さい。

- 1) 申込締切り: ①9月開催分 平成25年8月16日(金)  
②10月開催分 平成25年9月13日(金)  
③12月開催分 平成25年11月22日(金)  
④1月開催分 平成25年12月27日(金)

### 2) 申込み、問合せ先

〒690-0011

松江市東津田町1741-3 いきいきプラザ島根5階

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

TEL0852-20-7770 FAX0852-32-5982 E-mail :yoshioka-m@fukushi-shimane.or.jp

(担当:吉岡・木下)

## 10.その他

主催者において傷害保険に加入します。

## 山口県における障害者スポーツ地域推進事業

- ◆ 地域障害者スポーツ教室開催事業
- ◆ 障害者スポーツ体験教室事業
- ◆ 地域障害者スポーツ大会開催事業
- ◆ 障害者スポーツクラブ指導者派遣・養成事業
- ◆ 2013 全国障害者スポーツ大会 特集号の作成配付事業

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会



## 山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

事業名：地域障害者スポーツ教室開催事業

事業番号：①

### 1 実施目的

身近な地域で、障害のある方々が気軽にスポーツの楽しさを体験することや障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めるなど地域の教室を通して開催する。また、障害者スポーツ指導員および障害者スポーツに関心のある方が誰とでも参加しやすい場とし、県内各地域で活動する中で地域活動組織づくりの基礎を作り上げる。

### 2 事業内容

日時	地域	会場	参加者	内容
7/24	岩国地域	東小学校	児童41名、保護者7名、指導者5名	障害児と共に交流スポーツとして風船バレーを指導することにより指導者の指導力の向上に役立った。
10/23		東小学校	児童14名、保護者8名、教職員2名、指導者5名	障害児を中心に風船バレーを指導することにより運動の楽しさを教える。
5/17		あいあいスポーツセンター(玖珂)	児童3名、保護者2名、指導者1名、運営3名	障害児にフライングディスクの楽しさを指導し継続的な活動発展させる。
12/1	柳井・光地域	錦帯橋	参加者17名、指導者16名、VO6名	錦帯橋で交流ハイキングで指導者の障害者理解のための研修を実施する。
6/9	周南地域	下松市	指導者12名 講師北村拓也、尾畑敏江	周南地域の指導者を集め、ロンドンパラの報告や障害区分について教室を行った。
11/10		遠石小学校	参加者30名、指導者6名	ポッチャ協会、山口県レク協と合同開催し、障害者スポーツを一般に紹介した。
10/3	山口・防府地域	平川小学校	児童30名、教職員7名、指導員5名	小学校の出前授業の中で風船バレー、ポッチャを指導し障害児との交流スポーツに繋がるよう指導した。
10/4			児童62名、教職員7名、指導員6名	
2/15		山大附属	附属生徒15名、子供会8名、教職員11名、保護者10名、指導員6名	地域の子供会と障害児でポッチャと卓球バレーを楽しんだ。教職員から地域の交流スポーツに発展すればよいとの話があった。
8/19	宇部・小野田地域	神原中学校	児童(小5～中3)9名、教職員3名、指導員6名	障害児に風船バレー、ポッチャの指導を行い指導者の指導力向上に役立てた。
年間		高千帆公民館等	1回参加者3名～5名、指導者2名	障害者にポッチャ競技の指導をするため教室を年間21回実施した。

8/21	萩地域	明倫小学校	児童生徒(小1～中3)33名、教職員 17 名、指導員 6 名	中学生の支援により風船バレー、ボッチャ教室を実施した。交流スポーツに繋がるよう指導した。
11/27	下関地域	檜崎小学校	児童 18 名、障害者 6 名、教職員 4 名、支援者 9 名、指導員 4 名	菊川スポーツクラブと連携して風船バレー教室と試合を行った。教室後反省会の中で継続したいとの話も出ていた。

・スポーツ教室を開催するに当たっては、障害の種別や軽重、多世代あるいは障害の有無に関係なく比較的取り組みやすいスポーツ種目（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク等）をともに体験することを通して所期の目的を達成することにしたが、指導者の意識づけや技術力の向上の面が重要と感じた。

### 3 実施体制

・障害者スポーツ推進員が、各地域の教育委員会、高齢障害課、社会福祉協議会、小・中学校校長会、特別支援学校、大学、既存の活動組織、社会福祉法人組織等々と協議し、開催の趣旨を理解してもらい基本的な事業の企画運営に当たった。

・事業の実施に当たっては、上記組織の職員やボランティア、特に、障害者スポーツ指導員や当該市町村のスポーツ推進員、競技団体指導者、総合型地域スポーツクラブ等の協力（主管等）を得て行った。

### 4 成果および評価

・スポーツ教室を開催した地域や会場では、大変盛況で引き続いて2度3度と活動を要請される状況であった。

・学校教育では、障害のある児童・生徒だけでなく障害のない児童生徒や保護者の参加があった。特に、教室開催後当該会場校の生徒会が中心となって、クラスマッチを企画実施するなど望外の活動の広がりが見られたことは収穫であった。

### 5 今後の課題

・今後は、活動を定例化して障害者スポーツ指導者の活用を進めるとともに競技団体指導者との連携を深めることを一層進めたい。特に、スポーツ推進員、総合型地域スポーツクラブやレクリエーション団体等との協力（主管等）連携を進め、県内各地での活動組織（拠点）づくりを進めたい。

### 6 その他所感、特記事項等

・今回取り組んだスポーツ種目（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク等）は、障害の種別や軽重、多世代あるいは障害の有無に関係なく比較的取り組みやすいユニバーサルなスポーツ種目であるので、スポーツ教室実施だけでなく障害者スポーツの理解と普及啓発に有効である。多くの人の体験を増やすことはスポーツの質の向上に繋がると考える。

地域障害者スポーツ教室開催事業 事業番号①

○岩国地域 岩国東小学校

7月24日



10月23日



○柳井・光地域

12月1日



○周南地域

6月9日



○山口地域

平川小学校 10月3日・4日



山大附属と地域子ども会 2月15日



○宇部地域 神原中学校 8月19日



○萩地域 明倫小学校 8月21日



○下関地域 檜崎小学校 11月27日



# 山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

事業名：障害者スポーツ体験教室事業

事業番号：②

## 1 実施目的

障害のある生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、発育・発達時期からスポーツへの参加の機会をつくり、スポーツの楽しさを体験することにより、障害があってもライフワークにスポーツを取り入れ、生活自立や社会参加の推進に役立つことを目的とする。

## 2 事業内容

### (1) コーディネーショントレーニング教室

8月1日（木）教職員対象

2月6日（木）生徒対象

・山口県立防府総合支援学校において、上記トレーニング教室を開催。数値としては測れない神経系統に関わる連結能力や反応能力、バランス能力等を刺激し、高めることで、より自分の体をイメージ通りに動かせる力を養うトレーニングにゲームやレクリエーション要素がたくさん盛り込まれ、楽しく学べる教室となった。8月は教員40名、2月は生徒29名、教員23名が参加した。

### (2) 射撃教室

・10月6日（日）山口県立下関南総合支援学校の文化祭「相愛フェスタ」においてビームライフル射撃教室を開催。2時間のうち、下関南総合支援学校の生徒・お客さん・ボランティアの学生も含め、54名が参加した。機材は、デジタルシューティングを使用したもので、射撃距離も選ばず、音声射撃もでき、標的の切り替えも簡単にできるデジタルシステムは、むしろ普及用に最適な機材であったと考えられる。

### (3) ボッチャ、卓球バレー、風船バレー体験教室

・12月5日、12日（木）山口大学教育学部附属特別支援学校において、ボッチャ、卓球バレー、風船バレーの体験教室を開催した。30分ずつの体験を2回ずつ、2週にわたって行った。5日、12日とも生徒15名、教員11名の参加で大好評であり、地域の子供会の交流スポーツに発展したのは成果であった。

## 3 実施体制

・当協会から、山口県特別支援学校長会や山口県特別支援学校体育連盟に働きかけ事業の趣旨や事業の展開方法を説明し、各学校の実情に応じて実施した。学校の中では、全国障害者スポーツ大会を目指す生徒もいて学校も協力的であった。

#### 4 成果および評価

##### (1) コーディネーショントレーニング教室

・8月は教職員対象、2月は生徒対象ということで、トレーニングの継続性を維持し、効果を高める目的を達せられた。レクリエーション技能を取り入れ、生徒が運動に入りやすい指導方法や個々の能力に応じて段階的に技能を発展させていく流れがあった。教職員対象では、講師がさまざまな用具を紹介し、その効果的な使い方や指導方法を提示。授業をすすめるアイデアとして好評であった。生徒対象では、紹介された用具を活用して各先生が個別に実践する場面もあったが、生徒の表情も豊かで楽しんでいる様子が伺えた。講師の中田氏の技術の高さが十分に活かされ、「運動って楽しい」という気持ちが十分に表れた教室であった。

##### (2) 射撃教室

・文化祭を利用した開催で、生徒だけでなく来場者も楽しめる企画であった。視覚障害の生徒がスポーツの楽しさを体験するとともに、健常者も一緒に楽しんだことで障害に対する理解も深めるという目的にもかなったものになった。

##### (3) ボッチャ、風船バレー、卓球バレー体験教室

・障害のある生徒が、教職員や指導員と一緒に障害者スポーツを体験することで親睦を深め、楽しさを十分体験できる場となった。ボッチャ体験では補助具（ランプス）も使用し、初めて見、触るという体験もできた。風船バレー、卓球バレーでは、チームプレーを体験でき、仲間に声を掛け合うことで、不自由さを互いに支援しながらゲームを行う大切さを実感できる場となった。

#### 5 今後の課題

・この事業の実施に当たっては、日時や内容は各学校の要望を最優先しているため計画的に指導員を配置できなかったのが指導員の活躍の場面は少なくなった。今後は学校と指導員との調整を早めに図り指導員の活動場を増やしていきたい。

#### 6 その他所感、特記事項等

○当協会では、障害者と健常者が一緒にスポーツを楽しむ交流スポーツとして「風船バレー、ボッチャ、卓球バレー」を推奨競技として普及に取り組んでいる。発育・発達期における障害児に愛されるスポーツとして、特別支援学校に事業の活用を働きかけていきたい。

##### ○事業協力団体及び講師

- ・山口県障害者射撃協会（山口県ライフル射撃協会、山口市ライフル射撃スポーツ協会）
- ・中田 徹（嘉年小学校教諭）

JACOT 協会公認コーディネーショントレーニングブロンズライセンス  
レクリエーションインストラクター



射撃



山大附属



## 山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

事業名：地域障害者スポーツ大会開催事業

事業番号：③

### 1 実施目的

・障害者が、生活拠点の中で身近に気軽にスポーツの楽しさを体験することや障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して交流を深めることを目的に障害者スポーツの大会を開催する。また、各地域で県レベルの障害者スポーツ大会を開催することにより障害者スポーツの理解を促進する。さらに、障害者スポーツ指導員および障害者スポーツに関心のある方が誰とでも参加しやすい場とし、県内各地域で活動することにより地域活動の組織づくりに役立てる。

### 2 事業内容

日時	地域	大会名	会場	参加者	内容
8/25	柳井・光地域	光スポレク	サン・アビリティーズ光	参加者 100 名、 指導者 9 名、運営 2 名	参加者は、ポッチャなど 5 種目のコーナーを設け障害者スポーツの体験を楽しんだ。指導者は各コーナーの指導と運営に当たり盛況であった。
11/3		第 1 回光スポレク大会	サン・アビリティーズ光	参加者 20 名、 指導者 7 名、VO5 名、運営 3 名	前回大会で大会開催の要望が上がり 1 回目はポッチャと風船バレーの試合を行った。VOは参加者の支援に当たり指導者は審判と指導に当たった。
3/2		第 2 回光スポレク大会	サン・アビリティーズ光	参加者 15 名、 指導者 6 名、運営 1 名	2 回目は参加者が少なかったがポッチャと卓球バレーの試合を行った。指導者は審判と指導の他に参加者のチームに入り一緒に楽しんだ。
6/1	宇部・小野田地域	第 1 回宇部小野田美祢スポレク祭	宇部フロンティア大学	参加者 20 名、 指導者 13 名、VO18 名、運営 2 名	参加者の中にVOも入り風船バレーとポッチャの試合を楽しんだ。指導者は大会の事前打ち合わせを行い準備や運営の意欲的に取り組んだ。
11/10		第 2 回宇部小野田美祢スポレク祭	宇部フロンティア大学	参加者 35 名、 指導者 22 名、VO22 名、運営 2 名	1 回目が好評であり参加者やボランティアも増えた。指導者は主に審判と指導に当たり運営も順調で大会も盛況であった。
11/10		秋のレクリエーション	宇部福祉会館	参加者 27 名、 指導者 1 名、VO9 名、運営 1 名	視覚障害者とVOと一緒に卓球バレーの大会を実施した。初めての方も多く指導者はゲームの方法や楽しさを指導した。

## 県大会の分散開催

日時	地域	大会名	会場	参加者	内容
5/11	山口・防府地域	県タンデム教室	山口市河川敷	参加者 24 名、 競輪選手 5 名、 VO16 名、 指導者 5 名、運営 7 名	知的障害、視覚障害、肢体不自由の方に呼びかけタンデム教室を行った。二人乗り自転車を競輪選手や大学タンデムサークルのVOが運転してサイクリングを楽しんだ。指導者は乗降や立哨を行い安全に大会ができるよう支援した。
8/4	柳井・光地域	県ヨット教室	光市スポーツ交流村	参加者 8 名、 ヨット指導者 5 名、 指導者 8 名、運営 4 名	知的障害、視覚障害、肢体不自由の方に呼びかけヨット教室を行った。二人乗り自転車を競輪選手や大学タンデムサークルのVOが運転してサイクリングを楽しんだ。指導者は乗降や立哨を行い安全に大会ができるよう支援した。
2/16	山口・防府地域	県交流ボッチャ大会	ソルトアリーナ防府	参加者 198 名、 審判員 3 名、 指導者 24 名運営 5 名	県ボッチャ協会と連携して競技とレクの部に分かれて参加者はボッチャを楽しんだ。初めて防府市で多くの障害者が参加した。指導者は事前準備、コート設営、運営進行、審判をおこないスムーズな運営ができた。

・上記のスポーツ大会を開催するに当っては、障害の種別や軽重、多世代あるいは障害の有無に関係なく比較的取り組みやすいスポーツ種目（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク等）をゲームの中でともに体験することによりスポーツの楽しさを実感してもらうことに重点を置いて企画運営を行った。

・県大会の分散開催については、今回は地域で比較的開催しやすいタンデム、ヨット、ボッチャの大会を開催したが、今後は地域の要望に応じて競技種目を決め大会を開催していきたい。

### 3 実施体制

・当協会が、各地域の教育委員会、高齢障害課、社会福祉協議会、小・中学校校長会、特別支援学校、大学、既存の福祉関係やスポーツ関係の活動組織、社会福祉法人団体等と協議し、開催の趣旨を広報し大会の概要を共通理解してもらうことに努めた。

・開催に当っては、障害者スポーツ指導員や当該市町村のスポーツ推進員、競技団体指導者が運営主管として活動するよう企画運営した。加えて障害者団体や協力してくれる大学、ボランティア、総合型地域スポーツクラブ等の協力を得て大会を運営した。

#### 4 成果および評価

- ・今年度、大会を開催した地域や会場では、回数を重ねる毎に盛況となり、運営も円滑になってきた。また、参加者からは次回を懇望される声が多く、学生（ボランティア）にも、大きなインパクトになり卒業後の継続的活動を表明する者もいた。
- ・各地域の障害者団体と連携した大会にも大変好評で、障害者スポーツ指導員の丁寧な運営や指導に信頼感を深められ、次回や次年度の大会開催の約束も依頼された。こうした地道な取組は、今後の県内スポーツ振興の手応えとなり、障害者スポーツの輪が広がる切っ掛けとなると確信した。

#### 5 今後の課題

- ・今後は、活動を定例化し、障害者スポーツ指導者の活用を一層進めるとともに競技団体指導者との連携を深めることを一層進めたい。特に、スポーツ推進員、総合型地域スポーツクラブやレクリエーション団体等との協力（主管等）連携を進め、県内各地での活動組織（拠点）づくりを進めたい。

#### 6 その他所感、特記事項等

- ・今回取り組んだスポーツ種目（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク等）は、障害の種別や軽重、多世代あるいは障害の有無に関係なく比較的取り組みやすいユニバーサルなスポーツ種目であり、スポーツ教室実施だけでなく一般競技団体やレクリエーション団体との連携・協働を進める起爆剤になる。また、障害者スポーツの理解と普及啓発には大変有効であり、今後もこの事業を継続していきたい。

8月25日



11月3日



3月2日



タンデム教室



ヨット教室



ボッチャ大会



# 山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

事業名：障害者スポーツクラブ指導者派遣・養成事業

事業番号：④

## 1 実施目的

県内各地域で活動している障害者スポーツ団体やスポーツクラブ、地域の障害者が、安全により効率的・効果的に活動ができるために、協会に登録している医科学スタッフや障害者スポーツ指導員、スポーツボランティアを要請により派遣し、活動の成果が上がる。また、障害者スポーツ指導員や障害者スポーツ団体等の要請により各競技の審判講習会や指導のための相談会を開催する。

## 2 事業内容

- ・ 県障害者陸上チャレンジ記録会、陸上強化練習会、県障害者陸上大会、県障害者水泳大会、F I Dバスケット大会、県障害者ボッチャ大会に延べ派遣  
スポーツドクター、看護師、P T延べ 11 名派遣  
派遣内容 救護、トレーナー 大会参加者延べ 572 名
- ・ 県障害者卓球大会、県S T T大会に派遣  
スポーツボランティア延べ 22 名派遣  
派遣内容 競技補助と障害者支援 大会参加者 124 名
- ・ スポーツクラブに栄養士派遣（7回）  
派遣内容 F I Dバスケット、フットベースボールチーム選手の栄養指導、生活指導  
参加者 延べ 85 名
- ・ 全国障害者スポーツ大会出場選手支援に派遣  
スポーツドクター、看護師延べ 11 名派遣  
派遣内容 派遣選手の体調管理について（スポーツドクター）  
派遣選手のメディカルチェック（看護師）  
参加者 延べ 224 名
- ・ 光市、宇部・山陽小野田市スポレク大会に派遣  
理学療法士、障害者スポーツ指導員延べ 5 名派遣  
派遣内容 参加者の健康管理、救護、風船バレー、ボッチャの指導と審判  
参加者 延べ 80 名
- ・ 障害者スポーツボランティア養成講習会、障害者スポーツ支援相談会の開催  
スポーツドクター、看護師、栄養士、理学療法士、障害者スポーツ指導員、有識者  
延べ 16 名派遣  
派遣内容 スポーツボランティア養成のための講義、障害者スポーツ実技  
障害者スポーツを指導する上での課題、問題点を事例発表を交えての相談会を実施  
参加者 延べ 65 名

### 3 実施体制

・県F I Dバスケットボール連盟、県車椅子バスケット連盟、県精神障害者バレーボール連盟、県障害者卓球協会、県知的障害者バレーボール連盟、県障害者陸上競技連絡協議会、県障害者水泳競技連絡協議会や陸上クラブ、フットベースボールクラブ、F I Dバスケットクラブ等の要請により医科学スタッフや障害者スポーツ指導員を派遣した。また、大会支援のためボランティアの要請についても登録者や大学関係者に協力いただき派遣した。

### 4 成果および評価

・医科学スタッフの充実により各競技団体の監督・指導者の安全に関する不安や指導に対する課題に対応できたと考える。特に指導者や医科学スタッフの派遣の要望が多くなっているため各団体に呼びかけ専門家を派遣して合同の障害者スポーツ支援相談会を本年度2回実施した。

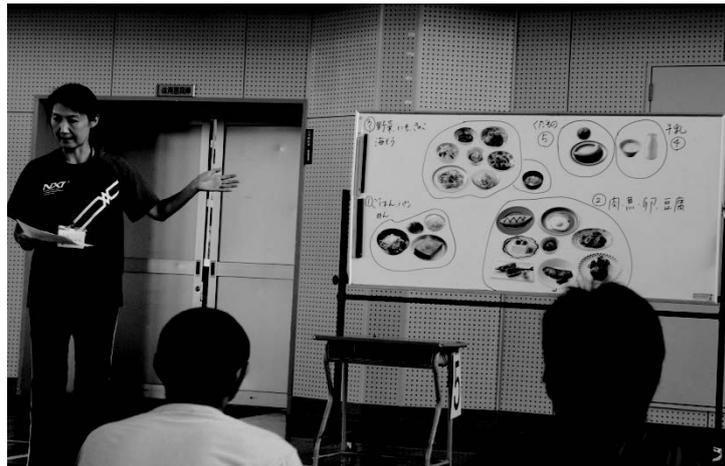
### 5 今後の課題

・障害者スポーツ支援相談会については、定期的に年1回開催することにより、各競技団体の監督・指導者の声に応えることができるが、今後は地域から派遣するようにして派遣回数を増やしていきたい。

・本年度は風船バレーの普及指導員及び審判員養成を予定していたが、講師との予定が合わず出来なかったため風船バレーの実技演習を初級障害者スポーツ指導者養成講習会や障害者スポーツボランティア養成講習会に取り入れて開催した。教室や大会等で風船バレーを多く取り上げているので団体の組織づくりと審判養成が急務と考える。

### 6 その他所感、特記事項等

・当協会は平成24年度から人材バンクの登録と派遣業務を行っているが、財源の裏付けが少なく団体やスポーツクラブの要望に応えるまでになっている。今後は、地域の障害者個々の要望に応えられるよう努力したい。



ボランティア養成講習会



大会派遣



# 山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

事業名：全スポ大会、障害者スポーツ紹介の広報紙作成配布事業

事業番号：⑤

## 1 実施目的

障害者スポーツへの人々の関心を高め、普及させるとともに、障害者がスポーツに興味を持ち、活動できるように情報を提供することを目的とした。

## 2 事業内容

・全スポ大会や障害者スポーツ指導員の活動を紹介した広報紙を4,500部作成した。特に障害者スポーツ指導員が、地域の活動場面で役立つことや地域の障害者スポーツへの関心を高める内容になればと企画した。また、全スポ大会の特集号は、参加指導員や監督の感想や地域で活躍の指導員の実績等を掲載し、地域の障害者スポーツ推進に役立つよう編集した。

・当協会で推奨している障害者スポーツ（風船バレー、ボッチャ、卓球バレー）を紹介した広報紙の別冊リーフレットを4,500部作成した。障害者スポーツの紹介リーフレットは、障害者スポーツ指導員、福祉施設や地域の教室などで役立つように企画・編集した。

・県内の障害者施設、特別支援学校、障害者スポーツ団体、市町社会福祉協議会、市町、ボランティア登録者、賛助会員等へ配布した。また、リーフレットについては各種スポーツ教室や講習会等でも活用していきたい。

## 3 実施体制

・大会や講習会の機会に数名の障害者スポーツ指導員と編集についての意見をいただき、編集会議で内容を精査して、障害者スポーツ指導員・医科学スタッフや各競技団体の監督・指導者に原稿を依頼した。広報紙が読者にインパクトがあり吸収しやすい内容になるように業者と検討して作成した。

## 4 成果および評価

・広報紙により、全スポ大会の感動が読者に伝わり、全国障害者スポーツ大会を目指している選手が奮起する契機となった。また、障害者スポーツ指導員の活動に興味を持つ人も多く、地域の障害者スポーツへの関心度も高まったと考える。読者から多くの意見をいただいているが、今後は読者の反応調査を行い、データを活用してよりニーズにあった広報紙を目指したい。

・別冊の障害者スポーツ紹介リーフレットは、障害者スポーツ教室等で活用でき、普及・振興に役立つと考える。

## 5 今後の課題

・広報紙がほしいとの問い合わせがあったが、配布計画通り作成しているため予備が少なくコピー等で対応している。今後は、配布先を再考し、障害者スポーツに関わっている人や興味を持っている障害者の手元に確実に届くように検討していきたい。

## 6 その他所感、特記事項等

・作成に障害者スポーツ指導員・医科学スタッフや各競技団体の監督・指導者が係わることにより障害者スポーツの現場の声が発信された。このことは、地域で活動する障害者スポーツ指導員に役立つとともに意欲喚起にもなった。

## 重度障害者アウトドア体験教室事業

### ◆ 重度障害者アウトドア体験事業

社会福祉法人高知県社会福祉協議会 障害者スポーツセンター



## 重度障がい者アウトドア体験教室事業報告書

### ① 事業目的

アウトドアは危険を伴うことも多いため、日常生活で呼吸器を使用するなど重度の障がいのある方々が、家族と共に楽しむには、高いハードルがある。その結果重度障がい児の家族は宿泊経験やアウトドア体験等に接する機会が少なく、兄弟児の経験値等も低くなっていく傾向が見られることなどから、家族単位での参加を積極的に呼びかけた。

こうした家族に安心して参加してもらう為には、生活場면을ケアできる医療従事者、アウトドア場面をしっかりサポートできるアウトドア事業者等とコラボレーションすることが大切であり、今回はそのような環境を整える事が出来たのではないかと考える。

こうした周囲環境が整うことで、これまで諦めてきたような非日常的な空間に参加家族は経験することができ、その経験値が日常生活での他の課題への前向きな思考につながっていきもらえるのではないかと考えており、事業を通じてそのような意欲を導き出すことが、今回の大切な目的である。

また、複数の所属団体から多くのスタッフが集まる事により、参加スタッフの経験値も同様に上がってくることから、それぞれの所属団体に戻った中で2次的な事業の立案にもつながってくれるのではないかと考えている。更に今回の委託事業では、成果物としてマニュアル本を意図した冊子を作成することができており、県内のアウトドア事業者、旅行会社、特別支援学校、障害者施設などに配布していく中で、他団体による同種事業のモデルケースとなることも今回の事業目的の1つである。

### ② 事業内容

1泊2日の日程で開催。

初日は会場までの移動支援をまず行った。会場は高知県西部の山間地であり、高知市中心部から車で約3時間という行程は、障がい児者の家族には負担が大きく、移動支援チームはリフト車両の手配や運転手の配置、必要に応じて医療スタッフが同乗していく手配等を行い、移動での家族の負担軽減に努めた。

到着後は、昼食を取った後にオリエンテーションを行い、参加者やスタッフの顔合わせをするとともに、楽しい中にも危険を伴う事業であるという事を、全参加者で再度共有した。

その後、翌日の使用艇の最終確認の為、参加者は宿舎下の河原で艇の試乗を行った。この艇の試乗では、移乗の方法の最終確認と使用する補助具、船上での姿勢保持の体制確認などを主に行った。

また、翌日川下りを指揮する運営スタッフは、実際にコースをカヌーで下り、危険個所を確認した後ミーティングを行い、救助ロープを持って河原に立つ人間の配置場所などを決定した。

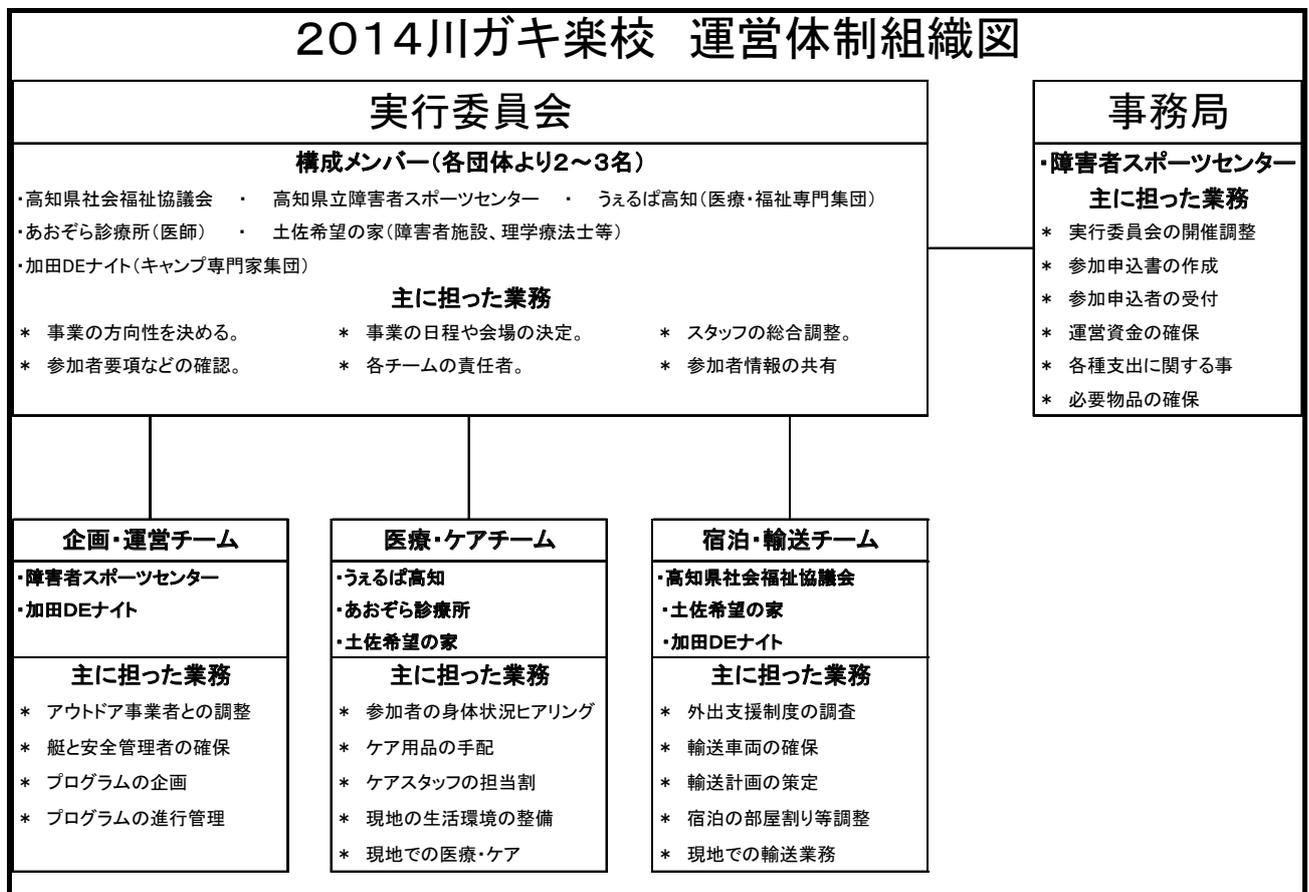
翌日は、朝食後に移動支援チームがスタート地点まで参加者を移送したうえで、医療スタッフが中心となり、前日の艇割に従って参加者を艇へ移乗。

その間に、兄弟児等で1人艇を希望する者は、アウトドア事業者からレクチャーを受け、技術的に合格した者は1人艇で、1人で不安のある者は障がい者スポーツ指導員等と2人艇に乗り移った。

その後、全員の準備が整ったところで、アウトドア事業所のスタッフ等が参加者を囲うような体制で約2キロの川下りをスタート、四万十川の名物である沈下橋を潜ったりしながら、ゆっくりとカヌーツーリングを楽しんだ。



③ 実施体制



④ 成果および評価

参加者にとっては、アウトドアという環境そのものが非日常であり、重度な障がいのある方やその家族にとっては、その環境下で2日間過ごした経験が「自信」になり、日常生活でのより前向きな姿勢に繋がっていくのではないかと考える。事業終了後にとったアンケートでも「障がいの重い軽いに関係なく色々な事に挑戦していきたい」など嬉しいお返事をいただいております。参加家族に対しては一定の成果があったのではないかと考えている。

また、事業に関わったスタッフの中からは「宿泊を伴わない事業であれば自分達でも出来るのではないか」といった積極的な意見も出てきており、波及効果という面でも目的が達成できたのではないかと感じる。

今後は、成果物であるマニュアル本形式の報告書を配布することで、このような取組に関心を持ってくれる団体が生まれてくれば大変うれしく思う。

#### ⑤ 今後の課題

今回の事業には一定の成果はあったが、重度な障がいのある方やその家族が、団体が催した時にだけ参加できるという環境から、家族単位で自分たちの行きたいところを選択して行ける社会環境へと改善していくことが今後の課題である。

その為には、障がいのある方の生活を支える部分の医療ケアスタッフの滞在費負担の問題と、アウトドア活動の場面での支援者の増大が必須事項と考えられる。

こうした課題に対して、一つ目の生活面を支える負担については、今回公的制度での対応の有無を探ったが、我々が行った調査の範囲では適応する制度は残念ながらなかった。しかし、障がいのある方の生活支援は、市町村の権限範囲が大きいことから、市町村行政とモデル事業的に取り組んでいく事が出来れば、可能性は開けてくるのではないかと考える。

また、アウトドア活動場面での支援者については、今回の成果物を県内アウトドア事業者に配布すると同時に、事業者に対してこのような事業への関心度合いを聞くアンケート調査を実施するようしており、関心の高い団体とは定期的な情報交換の機会を創出していきたいと考えている。

#### ⑥ その他所感、特記事項等

アウトドアスポーツには一定の危険が伴う為、障がいの重い方には一見不向きに感じるが、反面、明確なルールや答えがないため、障がいスポーツでよく言われる「対象者に合わせてやり方や、用具を工夫する」という事を実践しやすいのではないかと感じている。

# 四万十川で川遊びキャンプ

## 川遊びしてみたい「キッズファミリー」を募集!

日時	<b>2013年9月7日(土)・8日(日)</b> 予備日:9月14(土)・15日(日)	15家族募集 7月25日〆切 先着順
会場	しまんとがくしゃ <b>四万十楽舎</b> (四万十市西土佐中半 408-1 旧:西土佐村)	
対象者	<b>障害のあるお子さんと 兄妹児・保護者</b> 経管栄養の必要なお子さんや、吸引の必要なお子さんも、専門のスタッフがおりますので 安心してお申込みください。	

医療・福祉の専門職、自然体験の専門職などが連携し、障害のあるお子さんと兄妹児・保護者の皆さんが四万十川で自然体験する「四万十・川ガキ楽校」を開校します。  
 家族でアウトドアにも行ってみたいけど、障害のあるお子さんの事が心配で一歩が踏み出せない・・・。  
 兄妹児をおもいきり遊ばせてあげたいけど、家族だけでは目が届かず不安・・・。  
 そんなご家族にこそ参加いただきたい企画です。  
 障害のあるお子さんをスタッフに預けて、兄妹児と一緒に思いっきり遊ぶのもよし!  
 障害のあるお子さんと一緒に、ゆったりした時間を過ごすのもよし。  
 夏の終わりに家族の思い出の1ページを加えてみませんか?

### 参加費 (1泊4食・体験料・保険料込み)

四万十楽舎宿泊希望

大人 (18歳以上) 12,000円      子ども (4歳以上~18歳未満) 9,500円

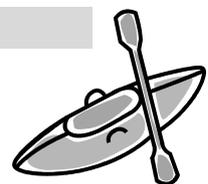
星羅四万十宿泊希望

大人 (18歳以上) 17,500円      子ども (4歳以上~18歳未満) 15,000円

※ 両宿舎とも3歳以下は無料。

### 体験メニュー(詳細は裏面)

カヌー体験、川遊び、木工体験 など



### ◆主催団体

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会(高知県立障害者スポーツセンター)

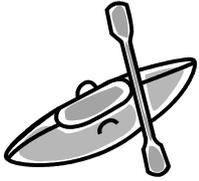
連絡先 高知県立障害者スポーツセンター(渡邊)

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷1-1

TEL/088-841-0021 FAX/088-841-0065

e-mail nabehide@kochi-scf.com





# 四万十・川ガキ楽校

## 2日間の過ごし方



**初日【9月7日(土)】**

	障害キッズ 兄弟キッズ	スタッフ	保護者
12:00	<b>集合【四万十楽舎】</b> <b>昼食</b> (流しそうめん) <b>顔合わせ・オリエンテーション</b>		
13:30	<b>休憩</b>		<b>自由時間</b>
14:00			
15:00	学舎北の河原へ <b>ウォーミングアップ</b> 川慣れ・水慣れ・人慣れ カヌー試乗	カヌー川下り練習 <b>コース下見</b> 危険箇所・安全管理の 確認	
16:30	四万十楽舎帰着  <b>休憩</b>	四万十楽舎帰着  <b>夕食準備の手伝い</b> バーベキュー準備	
18:00	<b>夕食</b> (バーベキュー) <b>風呂・自由時間</b>		
19:00	<b>夜の音楽会</b>		
20:00	<b>休憩</b>	<b>ナイトイベント (自由参加)</b> 花火・焚き火もあるかも…。	
20:30	<b>星羅四万十宿泊メンバーは移動</b>		

**2日目【9月8日(日)】**

	障害キッズ 兄弟キッズ	スタッフ	保護者
6:00	起床		
6:30	散歩 (自由参加)		自由時間
8:00	朝食 (星羅のメンバーはホテルで朝食)		
9:00	加-乗り場 (岩間) に順次移動		
10:00	カヌー・ポートに乗船 岩間から四万十楽舎へ (約 2km) その他、川遊びなど個別サポート		
12:00	着替え、帰宅準備など		
	昼食 (お弁当予定)		
13:00	オリエンテーション・集合写真		
14:00	解散		

※川の水位により、プログラムを変更する可能性があります。

## 福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業

- ◆ 知的障害児水泳教室
- ◆ 知的障害児バスケットボール教室
- ◆ フロアバレーボール教室
- ◆ 指導者の派遣事業
- ◆ 選手強化事業

福岡県障害者スポーツ協会



平成25年度「地域における障害者スポーツの振興事業」  
実績報告書

I 実施目的

「地域振興事業」は3年目を迎え、地域の障害者スポーツ指導者が更に企画・実践に携わるように①スポーツ教室事業においては、教室実践の成果として、水泳記録会・バスケットボール及びフロアーバレーボール交流会の企画・運営を行う。

②指導者の派遣については、総合型地域スポーツクラブ等との連携を更に強化し、気軽に安心して参加できるスポーツ環境の構築を目指す。

③選手強化事業においては、当協会会員として活動しているクラブを対象とし、クラブに所属する障害者スポーツ指導者等と連携し強化を図ることを目的として本事業を行った。

II 事業内容及び実施体制

1 スポーツ教室事業内容及び実施体制

① 知的障害児水泳教室

日 時	11月～3月の隔週三金曜日 18時～19時 合計9回 (11/1・15・12/6・20・1/10・24・2/7・21) 3/14(水泳記録会)
会 場	健康の森運動公園・室内プール (飯塚市吉北 118)
受講者	10名 (知的障害児)
指導者	講師2名 (上級1名・中級1名)
補助員	指導員6名 (中級1名・初級5名)・ボランティア2名

② 知的障害児バスケットボール教室

日 時	11月～3月の隔週木曜日 18時30分～20時 計9回 (11/7・21・12/5・19・1/9・23・2/6・20) 3/6 交流試合
会 場	サン・アビリティーズいづか (飯塚市大字柏の森 956-4)
受講者	10名 (知的障害児)
指導者	講師3名 (中級1名・初級1名・特別支援学校教諭1名)
補助員	指導員3名 (初級3名) ボランティア6名

③ フロアーバレーボール教室

日 時	11月～1月の毎週木曜日 19時30分～21時30分 合計12回 (11/7・14・21・28・12/5・12・19・1/9・16・23・30) 2/9 交流試合
会 場	久留米市立久留米特別支援学校 (久留米市南町 1-2-1)
受講者	12名 (視覚障害者及び筑後地域居住者)
指導者	講師1名 (上級1名)
補助員	指導員5名 (初級5名) ボランティア7名 (久留米大学 AST・チームコーチ)

スポーツ教室事業指導者名簿(講師・補助員・ボランティア)

教室名	区分	NO	区分 NO	氏名	資格・所属	備考	
①知的障害児水泳教室	講師	1	1	藤原 香	上級		
		2	2	奥村 勝志	中級		
	補助員	3	3	佐藤 俊吾	初級		
		4	4	藤原 克美	中級		
		5	5	山下 三夏子	初級		
		6	6	高木 靖夫	初級		
		7	7	足立 和宏	初級		
		8	8	新納 勝成	初級		
	ボランティア	9	9	佐野 諭史	無		
		10	10	栗山 美恵	無		
②知的障害児バスケットボール教室	講師	11	1	大屋 寛記	特別支援学校教諭		
		12	2	奥村 勝志	中級		
		13	3	新納 勝成	初級		
	補助員	14	4	足立 和広	初級		
		15	5	佐藤 俊吾	初級		
		16	6	梶原 楓	初級		
	ボランティア	17	7	甲斐 みどり	無	保護者代表	
		18	8	金子 加代	無	保護者代表	
		19	9	山田 宗範	無		
		20	10	佐野 諭史	無		
		21	11	山口 明恵	無		
		22	12	井上 知里	無		
③フロアーバレーボール教室	講師	23	1	高木 富士男	上級		
	補助員	24	2	徳永 朱李	初級	久留米大学 AST卒業生 メンバー	
		25	3	福元 一絵	初級		
		26	4	平地 恭子	初級		
		27	5	川島 綾香	初級		
		28	6	吉田 沙緒理	初級		
		29	7	諸富 悟	無		
	ボランティア	30	8	小関 あゆみ	無	久留米大学 AST	
		31	9	新保 亜唯	無		
		32	10	満園 好	無		
		33	11	野口 直人	無		
		34	12	大久保 幸雄	無		チームコーチ
		35	13	村田 千映佳	無		チームコーチ

障がい者スポーツ教室事業(水泳記録会・交流試合実行委員名簿)

事業名	NO	区分	氏名	資格・所属	備考
①知的障害児水泳記録会	1	1	藤原 香	上級	
	2	2	藤原 克美	中級	
	3	3	奥村 勝志	中級	
	4	4	佐藤 俊吾	初級	
②知的障害児バスケットボール交流試合	5	1	金子 加代	無	保護者代表
	6	2	甲斐 みどり	無	保護者代表
	7	3	奥村 勝志	中級	
	8	4	佐藤 俊吾	初級	
③フロアーバレーボール交流試合	9	1	高木 富士男	上級	
	10	2	大久保 幸雄	無	チームコーチ
	11	3	村田 千映佳	無	チームコーチ
	12	4	小関 あゆみ	無	久留米大学AST

2 指導者の派遣事業内容及び実施体制

① 総合型地域スポーツクラブでの基盤づくりのための指導者派遣

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
1	講師 染谷 佳世	上級	12/12(木)	13～15	築上町中央体育館	軽スポーツ (リズム体操)	しいだコミュニティ 倶楽部	30	身体・知的 障害者30名
2	講師 山野 洸平	中級							
3	事務局 山野 明	初級							

② 特別支援学校等での障害者スポーツの普及・指導者派遣

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
4	講師 小手川 郁人	コーチ	5/14(火)	10～12	福岡県立太宰府特別支援学校体育館	陸上競技 (スラローム・投てき) フライングディスク 競技	福岡県立太宰府特別支援学校	16	高等部生徒
5	講師 山野 洸平	中級							
6	事務局 山野 明	上級							
7	講師 山野 洸平	中級	6/25(火)	13～15	クローバープラザ体育館	障害者スポーツ(車椅子バスケットボール)体験	福岡市立日佐中学校	31	生徒(1年生) 教諭
8	事務局 山野 明	上級							
9	講師 山野 洸平	中級	8/1(木)	9:30 ～ 11:30	福岡県立太宰府特別支援学校体育館	軽スポーツ (ボッチャ・ソフトボウリング)	福岡県立太宰府特別支援学校	27	高等部16名 中学部11名
10	ボラ 川口 真司	無							
11	ボラ 武富 温子	無							
12	事務局 山野 明	上級							
13	講師 山野 洸平	初級	8/21(水)	10～12	那珂川町民体育館	車椅子バスケ	那珂川町教育委員会 (スポーツ推進委員)	30	町内在住 小学生 (4～6年生)
14	講師 小藤 昇	初級							
15	ボラ 宮地 茜	上級							
16	事務局 山野 明	初級							
17	講師(主審) 馬場美千代	無	9/27(金)	10～15	アクション福岡	STT審判	福岡県視覚障害教育校体育連盟	113	幼児・児童・ 生徒
18	講師(主審) 清水邦之	初級							
19	講師(主審) 藤吉好子	中級							
20	補助員(副審) 小森茂夫	上級							
21	補助員(副審) 蔵原悦子	上級							
22	講師 小手川 郁人	コーチ	2/5(水)	13～15	福岡県立柳河特別支援学校	陸上競技 (トラック・スラローム・ビーンバッグ)	福岡県立太宰府特別支援学校	10	高等部生徒
23	講師 山野 洸平	中級							
24	講師 染谷 佳世	上級							
25	事務局 山野 明	上級							
26	講師 甲 鶴子	上級	2/9(日)	10:30 ～ 12:30 13:30 ～ 16:30	久留米大学御井キャンパス みいアリーナ	親子体操	久留米大学AST・第4回スポーツフェスタ 実行委員会	200	障害児者 保護者 ボランティア等
27	補助員 甲 敏勝	初級							
28	補助員 中村 友美	初級							
29	補助員 中村 満子	初級							
30	補助員 相浦 由紀子	初級							
31	補助員 向島 圭紀	初級							
32	講師 眞子 武臣	初級							
33	補助員 小林 美保	初級							
34	補助員 平地 恭子	初級							
35	補助員 吉田 沙緒里	初級							
36	ボラ 五嶋 邦浩	学生							
37	ボラ 佐藤 千佳	学生							
38	ボラ 小関 あゆみ	学生							
39	ボラ 高橋 典子	学生							
40	講師 北原 理恵	初級							
41	補助員 徳永 朱李	初級							
42	補助員 川島 綾香	初級							
43	ボラ 新保 亜唯	学生							
44	ボラ 中村 香織	学生							
45	ボラ 川口 郁加	学生							
46	ボラ 杉本 茉祐佳	学生							

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
47	講師 山野 洗平	学生				卓球バレー			
48	ボラ 相浦 由美子	学生							
49	ボラ 浦野 栄太郎	学生							
50	ボラ 大島 菜月	学生							
51	講師 山下 大介	中級				ボッチャ			
52	ボラ 小出 朋香	学生							
53	ボラ 満園 好	学生							
54	ボラ 野口 直人	学生							
55	ボラ 山本 佳奈	学生							
56	ボラ 藤岡 舞	学生							
57	ボラ 尾崎 加奈	学生				レクリエーション			
58	ボラ 安部 美郷	学生							
59	事務局 山野 明	上級							
60	講師 山野 洗平	中級	2/17(月)	10~12	柳河特別支援学校	車椅子バスケットボール	柳河特別支援学校及びPTA	15	PTA及び教諭
61	補助員 橋立 太	初級							
62	補助員 井手 浩	初級							
63	事務局 山野 明	上級							
64	講師 山野 洗平	中級	2/26(水)	13:30~16:30	宗像市立玄海中学校	車椅子ツインバスケットボール	宗像市立玄海中 学・玄海小・玄海 東小6年生	82	玄海中学1年 生・玄海小・玄 海東小6年生及 び教諭
65	講師 三笠 愛吏	初級							
66	講師 宮地 茜	初級							
67	事務局 山野 明	上級							

③ その他障害者施設等での障害者スポーツ普及・指導者派遣

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
68	講師 森 佐和子	中級	4/19(金)	14~16	八女市総合体育館	ボッチャ(正式)	NPO法人ふくし邑(八女市)	5	電動車椅子使用者
69	事務局 山野 明	上級							
70	事務局 芳賀 優子	初級							
71	講師 山野 洗平	初級	5/2(木)	13~15	小富士園体育館	軽スポーツ(FD・ボッチャ)	小富士園(糸島市)	50	障害児者(知的・聴覚)とその家族
72	事務局 山野 明	上級							
73	講師 古屋 貴啓	中級	5/26(日)	10~12	筑紫野市カミーリア	軽スポーツ(ストレッチ&ボッチャ等)	筑紫野市身体障害者福祉協会	20	身体障害者20名
74	講師 山野 洗平	中級							
75	事務局 山野 明	上級							
76	講師 山野 洗平	上級	6/2(日)	10~12	大任町B&G体育館	軽スポーツ(FD・ボッチャ等)	大任町子ども会育成連絡協議会	50	大任町子ども会会員及び保護者
77	講師 福岡 勇氣	中級							
78	事務局 山野 明	中級							
79	講師 北原 理恵	初級	6/4(火)	19~21	筑紫野市カミーリア	軽スポーツ(FD・ボッチャ)	筑紫野市手話の会	20	手話の会会員聴覚障害者
80	事務局 山野 明	上級							
81	講師 森 佐和子	中級	6/18(火)	14~16	八女市総合体育館	ボッチャ(正式)	NPO法人ふくし邑(八女市)	5	電動車椅子使用者
82	講師 山野 洗平	中級							
83	事務局 山野 明	上級							
84	講師 染谷 佳世	中級	6/23(日)	10~12	久留米市西田体育館	軽スポーツ	久留米市社会福祉協議会	30	知的障害児学生ボランティア
85	講師 山野 洗平	中級							
86	講師 中神 法子	初級							
87	講師 染谷 佳世	中級	7/13(土)	10~12	筑紫野市カミーリア	軽スポーツ(ストレッチ&バドミントン)	筑紫野市身体障害者福祉協会	20	身体障害者
88	講師 森 佐和子	中級							
89	講師 古屋 貴啓	中級	7/28(日)	10~12	筑紫野市カミーリア	軽スポーツ(ストレッチ&ボッチャ等)	筑紫野市身体障害者福祉協会	20	身体障害者
90	講師 山野 洗平	中級							
91	事務局 山野 明	上級							
92	講師 山野 洗平	中級	7/31(金)	10~12	サン・アビリティーズいづか	軽スポーツ(玉入れ・ソフトボウリング・FD・ボッチャ・ハンドサッカー等)	NPO法人いづか障害児者団体協議会	84	障がい児ボランティア
93	講師 北原 理恵	初級							
94	講師 染谷 佳世	中級							
95	事務局 山野 明	上級							

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
96	講師 古屋 貴啓	中級	7/27(土)	14~16	大木町総合体育館	コーディネーション運動・軽スポーツ	大木町「みずゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボランティア10名
97	講師 山野 洸平	中級							
98	補助員 池田真理	初級							
99	補助員 川原 彩	初級							
100	補助員 甲斐江美	初級							
101	補助員 武田津香紗	初級							
102	事務局 山野 明	上級							
103	講師 山野 明	上級	8/2(金)	10~12	那珂川町立岩戸北小学校体育館	軽スポーツ (ボッチャ・フライングディスク・ハンドサッカー)	障がい児・者支援「キャンパス」	30	障がい児・者及びスポーツに興味のある人
104	講師 芳賀 優子	初級							
105	講師 山野 洸平	中級							
106	ボラ 川口 真司	無							
107	ボラ 武富 温子	無							
108	講師 染谷佳世	中級	8/16(金)	10~12	春日市いきいきプラザ	軽スポーツ (FD・ボッチャ)	春日市社会福祉協議会	80	障害のある子20名、障害のない子20名、保護者・ボランティア・スタッフ40名
109	講師 山野洸平	中級							
110	講師 小藤 昇	初級							
111	事務局 山野 明	上級							
112	講師 染谷佳世	中級	8/25(日)	10~12	夜須高原青少年自然の家	軽スポーツ	久留米市手をつなぐ育成会	30	障害児とその家族10組・ボランティア10名
113	講師 山野 洸平	中級							
114	ボラ 宮地 茜	無							
115	事務局 山野 明	上級							
116	講師 山野 明	上級	8/26(月)		那珂川町立体育館	フライングディスク	障がい児・者支援「キャンパス」	20	障がい児・者及びスポーツに興味のある人
117	講師 山野 洸平	中級							
118	講師 山野 洸平	中級	9/19(木)	13~15	玄海B&G海洋センター体育館	軽スポーツ (ボッチャ・フライングディスク)	玄海はまゆう学園	21	施設利用者
119	事務局 山野 明	上級							
120	補助員 芳賀 優子	初級							
121	補助員 衛藤未奈津	初級	9/21(土)	14~16	大木町総合体育館	コーディネーション運動・軽スポーツ	大木町「みずゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボランティア10名
122	補助員 黒田千尋	初級							
123	補助員 中尾仁美	初級							
124	事務局(講師) 山野 明	上級							
125	講師 染谷佳世	中級	10/6(日)	10~12	玄海B&G海洋センター体育館	玄海はまゆう学園運動会	社会福祉法人さつき会玄海はまゆう学園	100	利用者40名 保護者40名 職員20名 合計100名
126	講師 山野 洸平	中級							
127	講師 北原 理恵	初級							
128	講師 宮地 茜	初級							
129	事務局 山野 明	上級							
130	講師 片岡 千亜紀	初級	10/19(土)	14~16	大木町総合体育館	コーディネーション運動・軽スポーツ	大木町「みずゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボランティア10名
131	補助員 木庭知美	初級							
132	補助員 宮崎鈴奈	初級							
133	補助員 工藤芽衣	初級							
134	補助員 大園菜摘	初級							
135	補助員 川原亜実	初級							
136	補助員 田内真鈴	初級							
137	補助員 高橋はるか	初級							
138	補助員 高橋侑希	初級							
139	事務局 山野 明	上級							
140	講師 山野 洸平	中級	10/20(日)	10~12	宮若市	フライングディスク・ソフトボウリング	宮若市スポーツフェスタ2013「障がい者スポーツ交流会」	78	身体31名 知的(施設)36名 精神11名
141	講師 宮地 茜	初級							
142	事務局 山野 明	上級							

NO	氏名	資格	開催日	時間	会場	内容	対象団体	参加人数	参加者
143	講師 染谷佳世	中級	11/17(日)	13~15	えーるピア 久留米	軽スポーツ(ソ フトボウリング・ FD)	久留米市手をつなぐ 育成会	40	障害児・者と その家族
144	講師 北原 理恵	初級							
145	講師 山野 洗平	中級							
146	講師 宮地 茜	初級							
147	事務局 山野 明	上級							
148	講師(主審) 井之上まり子	上級	12/1(日)	10~12	クローバー プラザ	STT審判	福岡県盲人協会	15	視覚障害者
149	講師(主審) 清水邦之	初級							
150	講師(主審) 藤吉好子	中級							
151	補助員(副審)小森茂夫	上級							
152	補助員(副審)田中まちえ	初級							
153	補助員(副審)古場弘子	初級							
154	補助員(副審)蔵原悦子	上級							
155	講師 古屋 貴啓	中級	1/18(土)	14~16	大木町総 合体育館	コーディネーション 運動・軽スポーツ	大木町「みすゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボラン ティア10名
156	講師 山野 洗平	中級							
157	講師 片岡 千亜紀	初級							
158	補助員 中尾 仁美	初級							
159	補助員 田内 真鈴	初級							
160	補助員 高橋 はるか	初級							
161	補助員 恒川 啓和	初級							
162	補助員 永田 鉄郎	初級							
163	事務局 山野 明	上級							
164	講師 小藤 昇	初級	1/26(日)	10~13	粕屋町社会 福祉セン ター	ボッチャ ソフトボウリング	粕屋町社会福祉 協議会	150	粕屋町関係者
165	講師 片岡 千亜紀	初級				フライング ディスク			
166	講師 手島 元幸	初級				卓球バレー			
167	講師 宮地 茜	初級				車椅子バスケ ハンドバイク			
168	講師 芳賀 優子	初級							
169	講師 古屋 貴啓	中級							
170	講師 山野 洗平	中級							
171	事務局 山野 明	上級							
172	講師 古屋 貴啓	中級	2/15(土)	14~16	大木町総 合体育館	コーディネーション 運動・軽スポーツ	大木町「みすゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボラン ティア10名
173	講師 山野 洗平	中級							
174	補助員 池田 真理	初級							
175	補助員 武田 津香沙	初級							
176	補助員 原 絵里奈	初級							
177	補助員 磯 大輔	初級							
178	補助員 末永 祐斗	初級							
179	補助員 有岡 大輔	初級							
180	事務局 山野 明	上級							
181	講師 古屋 貴啓	中級	3/15(土)	14~16	大木町総 合体育館	コーディネーシ ョン運動・軽スポー ツ	大木町「みすゞの会」	25	障害児者15名 保護者・ボラン ティア10名
182	講師 山野 洗平	中級							
183	補助員 池田 真理	初級							
184	補助員 大石 明日翔	初級							
185	補助員 原 絵里奈	初級							
186	補助員 中村 光治	初級							
187	補助員 西田 尚太	初級							
188	補助員 森崎 大輝	初級							
189	補助員 原田 浩樹	初級							
190	事務局 山野 明	上級							

指導者派遣延べ 190 名

参加者延べ 1,572 名

### 3 選手強化事業内容及び実施体制

日時 平成25年7月7日(日)9時15分～17時 会場 福岡市立障がい者スポーツセンター

NO	スタッフ名簿	内容	参加者	資格	備考
1	講師 吉田 通子	県内16チーム(4ブロック区分)による「バスケットボールスキルチャレンジ3×3」 Aブロック4チーム。 (療育手帳A及びBと中学生以下の健常混合) Bブロック4チーム。 (療育手帳Aと健常混合) Cブロック4チーム (療育手帳A及びBの選手のみ) Dブロック4チーム (療育手帳Bの選手と健常混合)	県内知的障害児者等、76名	上級	福岡大学 バスケット ボール部
2	講師 山下 好三			初級	
3	講師 山野 洗平			中級	
4	ボラ 奥田 政徳			無	
5	ボラ 鈴木 史哉			無	
6	ボラ 新崎 雄大			無	
7	ボラ 小原 侑己			無	
8	ボラ 久恒 颯士			無	
9	ボラ 鶴林 史也			無	
10	ボラ 山田 翔太			無	
11	ボラ 島村 隆太郎			無	
12	ボラ 木戸 雄太			無	
13	ボラ 古瀬 啓太			無	
14	ボラ 楠元 亮馬			無	
15	ボラ 遠藤 友太			無	
16	ボラ 木山 洋詞			無	
17	ボラ 岡田 朗			無	
18	ボラ 泉 大貴			無	
19	ボラ 井之上 千秋			無	
20	ボラ 鳴海 葉子			無	総合型地域 スポーツクラブ HEROS
21	ボラ 今林 和子			無	
22	ボラ 大塚 詩子			無	
23	ボラ 田浦 京子			無	
24	ボラ 梅野 登子			無	
25	ボラ 堤 幸子			無	

日時 平成26年3月8日(土) 18時～21時 会場 クローバープラザ

NO	氏名	内容	参加者	資格	備考
1	講師 谷口 和男	強化試合に向けてのスキルアップ練習	会員クラブ「エンペラーズ」聴覚障害者バスケットボールチーム15名	無	県バスケ協会
2	講師 山野 洗平			中級	

日時 平成26年3月9日(日) 10時～16時 会場 クローバープラザ

NO	氏名	内容	参加者	資格	備考
1	講師 谷口 和男	福岡市バスケットボール協会登録チーム「那珂川クラブ」との強化試合	会員クラブ「エンペラーズ」聴覚障害者バスケットボールチーム15名	無	県バスケ協会
2	補助員(審判)二宮 元			無	
3	補助員(審判)高崎 晃			無	
4	補助員(審判)田代 利康			無	
5	補助員(TO)三笠 愛吏			初級	
6	補助員(TO)片岡 千亜紀			初級	

日時 平成26年3月21日(金) 10時30分～18時30分 会場 福岡市立障がい者スポーツセンター

NO	氏名	内容	参加者	資格	備考
1	講師 吉田 通子	Aブロック3チーム。 (競技レベルの高いチーム) Bブロック3チーム。 (競技レベルの低いチーム) Cブロック4チーム (小学生以下の混成チーム) 合計10チームがリーグ及びトーナメント戦	県内知的障害児者等103名	上級	総合型地域 スポーツクラブ HEROS
2	講師 山下 好三			初級	
3	講師 山野 洗平			中級	
4	補助員 鳴海 葉子			初級	
5	補助員 梅野 登子			初級	
6	補助員 田浦 京子			初級	
7	ボラ 井之上 千秋			無	
8	ボラ 今林 和子			無	
9	ボラ 大塚 詩子			無	
10	ボラ 堤 幸子			無	

### Ⅲ 成果及び評価

#### 1 スポーツ教室事業

##### ① 知的障害児水泳教室

筑豊地域の水泳教室も3年目を迎え、受講者の特性・特徴を把握し、個々に合った指導プログラムを実施することができた。

また教室事業の成果として、水泳記録会を実施し、受講者の成長の場及び指導者の成果の場とすることができた。

受講者及び指導者が定着することで、安心・安定した教室を開催することができるが、更に地域に根付いた教室となってもらいたい。

##### ② 知的障害児バスケットボール教室

筑豊地域のバスケットボール教室も3年目を迎え、受講者の特性・特徴を把握し、個々に合った指導プログラムを実施することができた。

また教室事業の成果として、交流試合を実施し、日頃の練習の成果の場となり今後の練習の励みとなった。

この教室も受講者及び指導者が定着することで、安心・安定した教室を開催することができるが、更に地域に根付いた教室となってもらいたい。

##### ③ フロアーバレーボール教室

久留米地域のフロアーバレーボール教室も3年目を迎え、会場は久留米特別支援学校の協力を頂き、定期的な教室を実践することができた。

受講者は視覚障害者だけではなく、筑後地域の健常者及び認定校である久留米大学AST(アダプテッドスポーツチーム:H20年11月発足)の学生がサポートするなど、地域での共生社会がこの事業により、根付きつつある。

また教室事業の成果として、交流試合を実施し、日頃の練習の成果の場として対外試合をすることができ、今後の練習の励みとなった。

#### 2 指導者の派遣事業

派遣事業については①総合型地域スポーツクラブでの基盤づくり、②特別支援学校等での普及、③障害者施設等での普及の3区分に分け地域団体と連携・構築に取り組んだ。

##### ① 総合型地域スポーツクラブでの基盤づくりのための指導者派遣

この派遣事業では当初、昨年実施した3クラブへの指導者派遣を15回計画していたが、実際には1回だけの指導者派遣となった。これは、3クラブが県の「クラブ基盤整備事業」予算を獲得し、独自で障害者スポーツ事業を展開することができたためである。

##### ② 特別支援学校等での障害者スポーツの普及・指導者派遣

特別支援学校等では9回、延べ64名の指導者を派遣。認定校である久留米大学ASTが中心となって、スポーツフェスタを企画・運営できたことは大きな成果である。地域の障害者スポーツ指導者及び車椅子ツインバスケットボールチーム等、他大学認定校との連携もあり、今後の活動に期待をもてる事業となった。

### ③ その他障害者施設等での障害者スポーツの普及・指導者派遣

障害者施設等は26回、延べ123名の指導者を派遣。筑後地域、大木町総合体育館での指導者派遣は、認定校である国際医療福祉大学との連携が図られ、合計6回・延べ33名の初級スポーツ指導員取得学生を派遣することができた。これは学生にとっても活動・経験の場となり大きな成果と言える。

全体的な派遣事業においては、概ねこの委託費だけで講師謝金を支出するのではなく、依頼側から可能な範囲で予算を捻出してもらい、より多くの指導者を派遣し、経験・活動の場を得ることに、次年度に繋がる派遣となった。

しかしながら対象団体ニーズと地域障害者スポーツ指導者の派遣は必ずしもマッチングできているとは言えず、事務局でコーディネートする場面も多くみられた。

### 3 選手強化事業

知的障害児者を対象としたバスケットボールスキルチャレンジ！3on3及び「SAKURA CUP 2014（福岡地域バスケットボール競技大会）」は総合型地域スポーツクラブ「HEROES」が中心となり企画・運営を実践できたことは大きな成果である。

また、ボランティアでサポートしていたメンバーがこの事業により初級スポーツ指導員の資格取得のきっかけとなり、3名が資格取得をして継続的な活動へと繋がったことは評価できる。

聴覚障害者バスケットボールの強化試合においては、日頃、試合経験の少ないチームにとって、福岡市バスケットボール協会登録チームと強化試合をできたことは、共に良い経験となった。

## IV. 今後の課題

### 1 スポーツ教室事業

3つの教室事業においては3年目を終え、自主的なクラブ活動に移行することが大きな課題である。筑豊地域の水泳・バスケットボールは教室終了後も会場を確保し、参加者及びスタッフも継続的に参加することが確定している。この自主的活動に必要な運営費を受益者負担等でどのように捻出していくかは今後の課題といえる。

また、今回実践した水泳記録会、交流試合は参加者の目標設定となるため、次年度においても指導者が企画・運営に携わり、継続事業となることを期待したい。

筑後地域のフロアーバレーボールにおいても、久留米特別支援学校の協力を頂き、継続して会場確保が可能となった。また、認定校である久留米大学ASTメンバーも継続的なサポートをすることとなっているが長期的サポートを続けるためには、卒業後も在学生在が繋げられるように学年別のサポートが必要である。

今後は、このような地域活動を情報発信し、身近な場所で共にスポーツを楽しむことができることを伝えていくことが大切である。

## 2 指導者の派遣事業

この派遣事業は今回、延べ36回・190名の指導者を派遣。主に「障害の有無に関わらず、ちょっとした工夫・ルール変更で共に楽しめるスポーツ：アダプテッドスポーツ」を実践することができた。しかしながら地域組織・団体のニーズは様々であり、そのコーディネートを如何に地域指導者に委ねるかが当協会としての大きな課題である。

具体的には指導者の「いつ・どこで・だれを・どのように・・・」情報構築を確立し早急に発信できる体制が必要である。また、様々なニーズに対応できる指導者の育成（種目別・障害別・専門性等）も必要である。

## 3 選手強化事業

今回、総合型地域スポーツクラブ「HEROES」が中心となり知的バスケットボールの企画・運営を実践、聴覚障害者バスケットボールでは当協会会員クラブ「福岡エンペラーズ」が強化試合を実践することができた。

しかしながら審判等は競技団体の協力が不可欠であり、今後は対外的に認知される障害者スポーツの組織づくりが課題である。

## 4 おわりに

平成23年度、モデル地区として受託した「地域における障害者スポーツの振興事業」は3年目が終了し、この事業により多くの障害者スポーツ指導者が活動し、貴重な経験の場・資質向上の機会となっています。

また、この事業で大学・総合型地域スポーツクラブ等、多くの組織と連携・深化できたことは大きな糧となります。この糧を平成26年度事業に展開していくことが協会の重要な責務です。3年間、この事業を支援・協働して頂いた皆様へ深く感謝申し上げます。

これからは障害者スポーツ指導者が地域組織と連携し、身近な地域で共にスポーツを楽しめるスポーツ環境、また東京2020オリンピック・パラリンピック選手を福岡県から発掘することにより、県民に夢と感動を与え、活力ある共生社会の担い手となるように、更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

## V. 資料

- 1 スポーツ教室事業開催要綱・フロアーバレーボール教室実践及びサポートの様子（写真）
- 2 指導者の派遣事業
  - ・第4回ふれあいスポーツフェスタ実施要項・参加者アンケート・フェスタの様子(写真)
  - ・大木町総合体育館でのコーディネーション運動・軽スポーツ実践の様子(写真)
- 3 選手強化事業
  - ・募集チラシ（7/7）・競技方法及びチーム編成について
  - ・SAKURA CUP 2014 開催要項・大会プログラム
  - ・SAKURA CUP 2014 及び聴覚障害者バスケットボール強化試合の様子（写真）

平成25年度福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業  
知的障害児水泳教室開催要綱

1 目的

筑豊地域における知的障害児が水泳を楽しめる機会をつくり、健康維持・増進、機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と連携を図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。

2 主催 福岡県障害者スポーツ協会

3 教室の内容（日程等）

- ① 日程 11月～3月の隔週金曜日 18時～19時 合計9回  
(11/1・15・12/6・20・1/10・24・2/7・21) 3/14(金)18時～19時 水泳記録会
- ② 会場 健康の森運動公園・室内プール（飯塚市吉北118）
- ③ 対象者 筑豊地域に居住する小学校3年生～中学生の知的障害児

4 参加費 1000円（傷害保険料等）徴収します。

5 携行品 水着・スイミングキャップ・タオル

6 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込みこと。（FAX可）

7 申込先・連絡先

福岡県障害者スポーツ協会（コーパプヲ受箱15号）  
春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

平成25年度福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業  
知的障害児バスケットボール教室開催要綱

1 目的

筑豊地域における知的障害児がバスケットボールを楽しめる機会をつくり、健康維持・増進、機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と連携を図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。

2 主催 福岡県障害者スポーツ協会

3 教室の内容（日程等）

- ① 日程 11月～3月の隔週木曜日 18時30分～20時 合計9回  
(11/7・21・12/5・19・1/9・23・2/6・20) 3/6(木)18時30分～20時30分 交流試合
- ② 会場 サン・アビリティーズいづか（飯塚市大字柏の森956-4）
- ③ 対象者 筑豊地域に居住する小学生～高校生の知的障害児

4 参加費 1000円（傷害保険料等）徴収します。（兄弟児が参加する場合は一人500円）

5 携行品 上靴・タオル

6 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込みこと。（FAX可）

7 申込先・連絡先

福岡県障害者スポーツ協会（コーパプヲ受箱15号）  
春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

平成25年度福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業  
フロアーバレーボール教室開催要綱

1 目的

筑後地域における視覚障害者が、フロアーバレーボールを楽しめる機会をつくり、健康維持・増進、機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と連携を図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。

2 主催 福岡県障害者スポーツ協会

3 教室の内容（日程等）

① 日程 11月～1月の毎週木曜日 19時30分～21時30分 合計12回

(11/7・14・21・28・12/5・12・19・1/9・16・23・1/30) 2/9(日)14時～16時交流試合

② 会場 久留米市立久留米特別支援学校（久留米市南町1-2-1）

③ 対象者 筑後地域に居住する視覚障害者及びフロアーバレーボールに興味のある障害者  
スポーツ指導員・認定校学生等

4 参加費 1000円（傷害保険料等）徴収します。

5 携行品 上靴・タオル

6 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込みこと。（FAX可）

7 申込先・連絡先

福岡県障害者スポーツ協会（グローバルプラザ受箱15号）

春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

「フロアーバレーボール教室」実践及びサポートの様子



## 第4回ふれあいスポーツフェスタ実施要項

- 1 趣旨 障害の有無に関わらず地域で共に楽しめるスポーツ活動をとおして、障害者スポーツへの理解を促進するとともに、障害者が地域におけるスポーツ活動への参加意欲の向上を図ることができるようにする。
- 2 主催 久留米大学AST (Adapted Sports Team)、第4回ふれあいスポーツフェスタ実行委員会
- 3 共催 福岡県障害者スポーツ協会
- 3 後援 久留米市、久留米市教育委員会、久留米大学
- 4 協力 西九州大学ESRD、博多パトラッシュ、FHSの会、西日本短期大学、クローバース九州共立大学・九州女子大学同短期大学アダプテッドスポーツ研究会、ハム太郎クラブ
- 5 日時 平成26年2月9日(日) 10:00~16:30
- 6 会場 久留米大学 御井学舎 みいアリーナ【久留米市御井町 1635】
- 7 対象 障害者スポーツに興味・関心のある方(年齢や障害の有無は問いません)
- 8 参加料 100円(保険料として)
- 9 内容

### <午前の部：10:30~12:30>

- ① フライングディスク
- ② 卓球バレー
- ③ ボッチャ
- ④ フロアーバレーボール

### <午後の部：13:30~16:00>

- ⑤ 親子体操教室
- ⑥ レクリエーション
- ⑦ 車いすツインバスケットボール
- ⑧ 車椅子リレー

### <ピンゴゲーム：16:00~>

## 10 連絡事項

室内用の靴の必ずご持参ください。  
昼食は各自でご持参ください。

### <お問い合わせ>

第4回ふれあいスポーツフェスタ  
実行委員長 山下 大介  
TEL：090-5723-8879  
MAIL：daisuke19850616@yahoo.co.jp

※この事業は平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会受託事業の一環として実施します。

第4回ふれあいスポーツフェスタ 参加者アンケート

日時：平成26年2月9日 10:00~16:30

会場：久留米大学 御井学舎 みいアリーナ

回答者：29名（男性：10名、女性：19名）

年代別：10代（8名）、20代（13名）、30代（1名）、40代（3名）  
50代（3名）、60代（1名）、不明（1名）

**Q1. ふれあいスポーツフェスタのことを何でお知りになりましたか？（複数回答可）**

- ①チラシを見て・・・・・・・・・・・・ 1名
- ②施設（学校、職場など）で・・・・ 18名
- ③知人、友人から・・・・・・・・・・・・ 8名
- ④一度参加したことがある・・・・ 3名
- ⑤その他・・・・・・・・・・・・・・ 3名

**Q2. ふれあいスポーツフェスタで印象に残った点をお聞かせください（抜粋）**

- ・皆が楽しそうだった
- ・ボッチャボールを使ったボウリング
- ・もっとバスケがしたかった
- ・知的の子どもが車いすに乗っている姿が楽しそうだった
- ・全員が楽しそうにスポーツをしていた
- ・レクの発表をしてみて、自分たちに課題があると気づいた
- ・車いすバスケの難しさ、フロアーでどちらが前か分からなくなったこと
- ・他大学の学生や地域の人とコミュニケーションが図れた
- ・親切に教えてもらった
- ・障害や年齢など関係無しに、身体を動かすことは楽しいことだと改めて思った
- ・ボランティアの学生さんが印象的
- ・車いすバスケが楽しかった
- ・スタッフの対応がよかった

**Q3. ふれあいスポーツフェスタのご感想や、ご意見などをお聞かせください（抜粋）**

- ・続けて実施して欲しい
- ・他校のレクを知ることができて良かった
- ・フロアーバレーが楽しかった
- ・また参加したい
- ・皆で助け合い、困っていたらすぐ駆けつけており、素晴らしかった
- ・今までのフェスタで一番楽しかった
- ・ビンゴゲームが良かった
- ・たくさんの出会いがあって良かった
- ・一人で参加したため、少し入りにくい部分もあった。入りやすい内容のものがあればもっと良かったと思う
- ・我が地域でも実施したい
- ・体験したことのない競技ができて良い思い出になった

[事業番号④ 指導者の派遣事業] 第4回ふれあいスポーツフェスタの様子

平成26年2月9日(日) 10時~16時30分 久留米大学 御井学舎 みいアリーナ

「卓球バレー」



「フロアーバレーボール」



「フライングディスク」



「協力大学によるアレンジしたスポーツの実践」



「車椅子ツインバスケットボール」



## 「ミュージックケア」



「実行委員・協力大学等の関係者で記念撮影」



「大木町総合体育館でのコーディネーション運動・軽スポーツ実践の様子」



# バスケットボールスキルチャレンジ! 3ON3

～バスケットでつなげよう、ともだちの輪～

## 参加者募集



開催日 平成25年 7月 7日 日曜日

受付：9時半 実施時間：10時～18時

- 1 主催：総合型地域スポーツクラブ HEROES
- 2 共催：福岡県障害者スポーツ協会
- 3 主旨：日常生活の中で、クラブ競技活動または余暇活動としてバスケットボールに親しみ、練習に励んでいる障がい児・障がい者の方が地域の人々と交流を深め、社会参加の機会とすることを主旨として実施するもの。
- 4 会場：福岡市立障がい者スポーツセンター 体育室（さんさんプラザ）  
福岡市南区清水町1丁目17番15号 TEL092-511-1132
- 5 対象者：どなたでも参加できます。
- 6 参加費：一人500円 ※スポーツ傷害保険及び登録料込  
※ 他チームでコーチが重複する場合は、一人分の参加費で登録できます。
- 7 募集数：各ブロック5チーム 合計20チーム（先着順とします。）
- 8 免責事項：ケガ等については、応急手当のみとします。傷害保険については、主催者で一括加入します。
- 9 申込方法：参加申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送またはFAXにてお申し込み下さい。
- 10 締め切り：平成25年6月21日 金曜日
- 11 申込先：総合型地域スポーツクラブ HEROES事務局 担当：鳴海  
〒815-0074 福岡市南区寺塚2-23-10  
TEL/FAX：092-552-6665
- 12 内容  
①オールコート（コートの大さき：縦18m 横13m）での3ON3をします。  
別紙の「競技方法及びチーム編成について」を参照にしてください。
- 13 駐車場（ご協力ください）  
当日は一般利用日となっておりますので、駐車場は障がい者の方優先となります。  
参加される方は、最寄りの駐車場もしくは公共交通機関をご利用ください。

※この事業は平成25年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会受託事業の一環として実施します。

## 競技方法及びチーム編成について

### ①ブロックについて

ブロックをA～Dのブロックに分けます。レベルは以下のとおりです。参考にしてください。

Aブロック：知的レベルAクラスのみ

Bブロック：AP（健常者）と知的レベルAクラスの混合チーム

Cブロック：知的レベルBクラスのみ

Dブロック：AP（健常者）と知的レベルBクラスの混合チーム

判断については、任意としますがCブロックまたはDブロックのレベルでAブロックにエントリーされることのないようにご配慮ください。

### ②競技ルール

公益財団法人 日本バスケットボール協会競技規則に準じます。但し、競技時間等については、大会ルールとし主催者側で決定します。

### ③競技時間

5分ー1分ー5分。時間は止めません。また、タイムアウトもありません。

### ④反則（ファウル）

ファウルはチェックします。よって、規則のとおり5回反則した場合は退場となります。

### ⑤チーム編成

選手の登録者数は5名までとし、コーチは含みません。

ただし、コーチが選手として出場する場合は、コーチも含めて5名とします。

### ⑥登録者の重複について

コーチの重複は認めますが、選手の重複はできません。

### ⑦AP（健常者）の登録

試合には1名、登録には2名まで参加をすることができます。

### ⑧チームについて

同じクラブから複数のチームを登録する場合は、チーム名をそれぞれ違う名称にして参加してください。

### ⑨試合進行

A及びBブロック 10時～13時 終了後、表彰式を行います。

C及びBブロック 14時～17時 終了後、表彰式を行います。

[事業番号⑤ 選手強化事業]

平成 25 年度障害者スポーツ振興事業「福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業」

## SAKURA CUP 2014 開催要項

### 1 目的

この大会は知的障がい者、障がい児が余暇活動においてバスケットボール競技に親しみ、日々練習を積み上げた成果を発揮する機会とすること、また、競技大会に出場する経験の少ない選手や遠方へ遠征ができないチームなどに、競技大会参加への機会とすることを目的とし開催するものである。

### 2 主催

総合型地域スポーツクラブ HEROES

### 3 共催

福岡県障害者スポーツ協会

### 4 主管

HEROES 福岡(バスケットボール競技部)

### 5 協力

福岡市バスケットボール協会 福岡雙葉中学校・高等学校バスケットボール部  
福翔高等学校女子バスケットボール部

### 6 協賛

すまいるていすと ・ EX. P. COMPANY

### 7 会場

福岡市立障がい者スポーツセンター(さんさんプラザ)体育館  
福岡市南区清水1丁目 17-15

### 8 日程

平成26年3月21日(金曜日)

選手団受付 9:15-9:45

コート開場 9:30

競技開始 10:30

競技終了 18:30

表彰セレモニー(ブロック C はブロック決勝戦終了後、表彰式を行います。)

### 9 競技規則

適用する競技規則は、平成25年度財団法人日本障害者スポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」および福岡知的障がいバスケットボール競技団体代表者会議の申し合わせによるものとします。

### 10 参加資格

(1)参加チームは、知的障がいバスケットボールクラブチームとします。

(2)出場選手は、次のすべての条件を満たす者とします。

平成26年4月1日現在5歳以上の知的障がい児および知的障がい者

なお、「知的障がい者」は、厚生事務次官通知(昭和48年9月27日厚生省発児156号)による療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者とします。

## 11 チーム編成

### (1)ブロック区分

大会本部にて決定します。

ブロック区分については、以下のとおりとします。

ブロックA：選手の知的レベルが、B判定もしくはそれに相当する能力があり競技レベルとして高いチーム。

ブロックB：選手の知的レベルに関係なく、競技レベルとして低いチーム。

ブロックC：小学生以下が含まれる混合チーム

### (2)チームの編成

男女とも、監督1名 チームスタッフ3名以内、選手12名以内とします。

選手12名のうち健常者(AP)を2名まで登録できます。ただし、監督及びチームスタッフは選手として出場することはできません。また、プレイヤー5名のうち、1名のみ健常者が出場できます。

## 12 競技方法

(1)トーナメントまたはリンクリーグ方式で行います。

(2)諸事情によりチームが棄権した場合は、不戦勝とします。

(3)試合時間は10分－3分－10分、A及びBブロックの決勝戦のみ8－1－8－5－8－1－8の4クォーター戦とします。

## 13 大会参加費

チーム登録費5,000円及び参加費一人／500円。 支払いは、チーム単位とします。  
大会当日、選手団受付にて徴収します。なお、参加費には傷害保険料を含みます。  
参加申込書にエントリーされた選手及びスタッフが対象となりますのでご注意ください。

## 14 参加申込み方法

(1)別紙参加申込書に必要事項を記入し、**平成26年3月7日(金)**までに下記事務局へ送付してください。

(2)申込み先およびお問い合わせについて

**総合型地域スポーツクラブ HEROES 事務局**

〒815-0074

福岡市南区寺塚2-23-10 電話:092(552)6665 担当:鳴海

MAIL:hakonaru@q.vodafone.ne.jp

## 15 競技中の事故について

競技中に事故が発生した場合の治療費は原則として競技者の負担とし、主催者は応急処置のみ行うものとします。なお、主催者において傷害保険に一括加入します。

## 16 更衣室について

更衣室は、特設しません。一般の方との共用になりますので、迷惑のかからないように留意してください。荷物については、2階の観覧席をご利用ください。

## 17 ゴミについて

お弁当の空き箱については、本部にて回収します。その他のごみについては各自お持ち帰りください。ご協力をお願いいたします。

# SAKURA CUP 2014

## 福岡地域バスケットボール競技大会

開催日時 2014/3/21(金)9:00~19:00

開催会場 福岡市障がい者スポーツセンター



主催 総合型地域スポーツクラブ HEROES

共催 福岡県障害者スポーツ協会

主管 HEROES 福岡

協力 福岡市バスケットボール協会 福翔高等学校 女子バスケットボール部

福岡雙葉中学・高等学校バスケットボール部

協賛 すまいるていすと EX.P.COMPANY

# SAKURA CUP 2014

## 福岡地域バスケットボール競技大会プログラム

9:30-10:15 選手団受付

10:00-10:20 代表者会議

時間に遅れる場合は、前日までに事務局までご連絡ください。

10:25 始球式

10:30-11:00 第1試合 (淡)PIECE3-(濃)アップルズ B

11:05-11:45 第2試合 (淡)アップルズA-(濃)福岡レイカーズ

11:50-12:20 第3試合 (淡)RMI -(濃)HEROES C

12:25-13:05 第4試合 (淡)福学クラブ-(濃)PIECE

13:10-13:40 第5試合 (淡)第1試合の敗者-(濃)第3試合の敗者

13:45-14:25 第6試合 (淡)福岡レイカーズ-(濃)HEROES A

14:30-15:10 第7試合 (淡)第1試合の勝者-(濃)第3試合の勝者

Cブロック表彰式 15:15-15:30

15:30-16:10 第8試合 (淡)福岡雙葉中学・高校-(濃)福翔高校

16:15-16:55 第9試合 (淡)HEROES B -(濃)福学クラブ

17:00-17:40 第10試合 (淡)HEROES A-(濃)アップルズ A

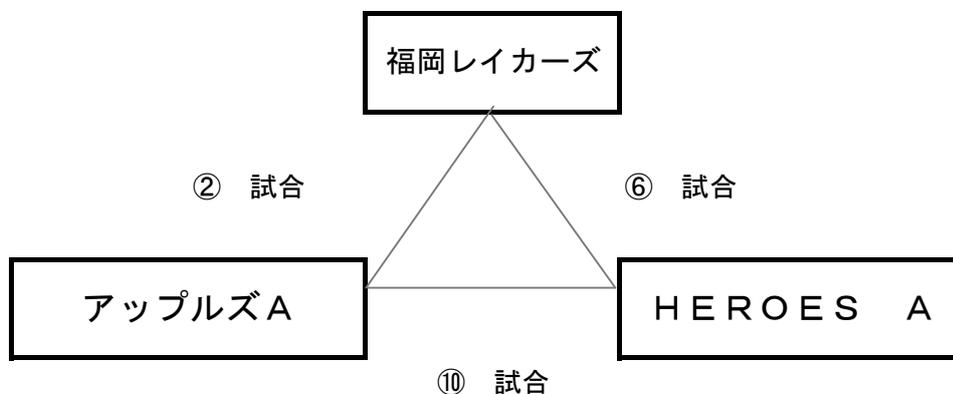
17:45-18:25 第11試合 (淡)PIECE-(濃)HEROES B (

18:30 AB表彰式 総合型地域スポーツクラブ HEROES 代表 井之上 千秋

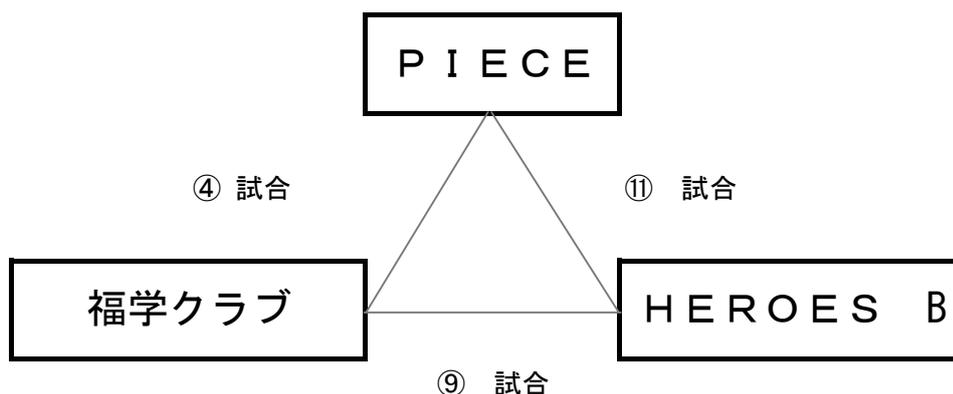
18:45 閉会のあいさつ

# SAKURA CUP 大会組み合わせ表

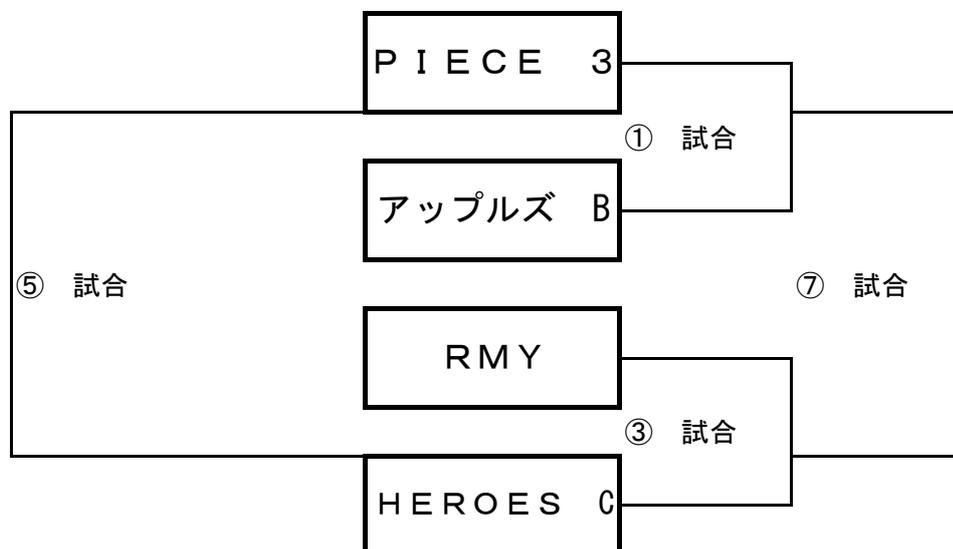
## Aブロック



## Bブロック



## Cブロック



### 3 選手強化事業

#### 「SAKURA CUP 2014 福岡地域バスケットボール競技大会の様子」

「始球式」



「PIECE3 VS アップルズ B」

「福岡高等学校女子バスケットボール部 & 審判員」



「福岡雙葉中学・高等学校バスケットボール部」



「アップルズ A VS 福岡レイカーズ」



「PIECE VS HEROES B」



「閉会式」



「優勝チームに金メダル授与」



「聴覚障害者バスケットボールチーム エンペラーズの強化練習の様子」



「聴覚障害者バスケットボールチーム エンペラーズ VS 那珂川クラブ強化試合の様子」



「第一試合は72対70 の僅差で那珂川クラブ、第二試合は68対78でエンペラーズが勝利」



「女子チームもスタッフと強化試合を行い、51対27、39対20でスタッフチームが勝利」





## 沖縄県における障がい者スポーツの振興事業

- ◆ スイミングキャンプ
- ◆ 知的障がい者のサッカー教室
- ◆ アダプテッドスポーツフェスタ

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会



平成 25 年度障害者スポーツ振興事業活動報告  
「沖縄県における障がい者スポーツの振興事業」

【実施概要】

1. 目的 これまで沖縄県における障がい者スポーツは、勤労身体障害者教養文化体育施設を活動の中心とし、社会参加促進の一環として各障がい者種別福祉団体が推進の担い手となって取り組まれてきました。しかしながら、指導者や次世代選手等の育成に取り組める組織作りが不十分であったため、指導者・選手の高齢化に伴い各団体活動におとろえが見えはじめております。これらの現状を改善するため、県内各地域でのスポーツ普及に向けたイベントの実施や、関係機関との連携を図った選手、指導者の育成等に努めることが急務であると考えます。そこで本事業では、参加型のイベント活動を中心的に行い、障がい者スポーツの周知を図るとともに、多くの方が障がい者スポーツを体験できるイベントを実施する。また、県内のプロスポーツチーム・専門競技者との連携を活かすことで、次世代の選手・指導者の育成を行い、今後の普及活動に繋げていくことを目的に実施した。
2. 主催 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会
3. 実施内容

<b>①スイミングキャンプ</b>	
開催日	夏季教室：平成 25 年 8 月 2 日～4 日（計 3 回） 冬季教室：平成 26 年 1 月 11 日～2 月 15 日（毎週土曜(計 6 回))
会場	夏季教室：沖縄県立西崎特別支援学校 冬季教室：金武町営プール
参加対象	身体、知的、一般
<b>②知的障がい者サッカー教室</b>	
開催日	平成 25 年 9 月 28 日（土）
会場	沖縄県総合運動公園屋内運動場（レクリエーションドーム）
参加対象	知的
<b>③アダプテッドスポーツフェスタ</b>	
開催日	平成 25 年 9 月 7 日（土）
会場	豊見城市豊崎海浜公園
参加対象	制限なし

## 【スイミングキャンプ】

### 1. 実施概要

- ・実施日程 夏季教室：平成 25 年 8 月 2 日～4 日（計 3 回）  
冬季教室：平成 26 年 1 月 11 日～2 月 15 日（毎週土曜(計 6 回)）
- ・会場 夏季教室：沖縄県立西崎特別支援学校  
冬季教室：金武町営プール
- ・参加対象 身体障がい者・知的障がい者・一般
- ・参加者数 32 名【内訳 身体 22 名、知的 9 名、一般 1 名】

### 2. 実施体制

企画運営については障害者スポーツ指導員が中心となって行い、参加者に対する水泳指導等は水泳コーチへ依頼した。また、水泳記録会時は日本赤十字沖縄支部やプールのスタッフ協力のもと十分な安全管理を行った。

### 3. 協力団体

沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会、金武町教育委員会、沖縄県立西崎特別支援学校  
沖縄県水泳連盟、沖縄県知的障がい者スポーツ連絡会、日本赤十字沖縄支部

### 4. 実施内容

- ・初心者向け水泳教室
- ・競技力向上を目的としたトレーニングプログラム
- ・水泳記録会

### 5. 成果及び評価

水泳連盟からコーチを派遣していただき専門的な指導をうけることで、選手の競技力向上や指導員のスキル向上に繋がり、今後の各地域での取り組みに期待ができる。

### 6. 今後の課題

健康志向や競技志向のニーズを考え、本事業では初心者でも無理なく参加できるコースも設定し、参加を呼び掛けた。その結果、毎年開催されるスポーツ大会(水泳競技)の参加人数を上回る参加があり、県内での水泳イベントへの関心の高さを実感した。このことから、次年度以降の活動継続時には今年以上の参加が予想されたため、募集人数・実施期間については指導員の手配、実施会場との調整など改めて検討していく必要があると考える。また、参加者のニーズにあわせた教室実施に行うためにも、指導員対象とした勉強会も併せて実施する必要がある。

### 7. 所感

本事業は各地域での水泳の普及はもちろん、次年度沖縄開催となる九州身体障害者水泳選手権大会に向けた PR 活動も含め、夏季・冬季二会場に分けて教室を実施しました。夏季教室では特別支援学校を、冬季教室では町営プールを会場として使用することで、学校体育と社会体育の観点からも双方の連携が

強まり、障がい児の学校卒業後の社会参加（活動の場づくり）に結びつくものと考えました。その結果、事業終了後には、雑談ではありましたが特別支援学校教諭や施設職員、水泳競技関係者間で障がい者の一般競技大会や定期練習会等への参加についての話題もあがり、新たな活動を予感させるものとなった。

また、記録会実施時の運営面においては、一般競技団体や水泳救助員等の協力も得られたことで十分な安全管理が行えたこと、会場となった施設の配慮で通常より水温を高め設定していただけたことは、冬場の時期でも参加者が安心して水泳に取り組めた要因であったといえる。さらに、この記録会には県外からの参加者、九州身体障害者水泳連盟事務局視察もあり、今後の県内外からの参加間の交流事業への可能性も感じられた。

## 8、活動写真



## 【知的障がい者サッカー教室】

### 1. 実施概要

- ・実施日程 平成 25 年 9 月 28 日（土）
- ・会 場 沖縄県総合運動公園屋内練習場（レクリエーションドーム）
- ・参加対象 知的障がい者
- ・参加者数 26 名【内訳 知的障がい者 9 名、知的障がい児 17 名】

### 2. 実施体制

企画運営については障害者スポーツ指導員が中心となって行い、参加者に対するサッカー指導等は FC 琉球へ依頼した。

### 3. 協力団体

沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会、沖縄県知的障がい者スポーツ連絡会 J3「FC 琉球」

### 4. 実施内容

- ・ボールキープ、ドリブル、ミニゲーム

### 5. 成果及び評価

プロサッカー選手を講師として招くことで、子ども達にサッカーの楽しさを教えるとともに、参加者のレベルアップも図れた。

### 6. 今後の課題

当初、年齢制限を設けない募集に対し不安に思う指導員もいたが、FC 琉球・指導員・ボランティアと当日の運営に十分なスタッフが確保できたことで参加者への対応がしっかりと出来、安全で楽しく教室を進めることが出来た。今回の実施を踏まえ、今後は夏休み・冬休みなどの長期休暇期間を利用し実施回数を増やしていきたいと考える。また、大会としての事業展開をおこなう事で、マスコミへの事業アピールに繋げ新たな参加者層を取り込むことで、スポーツを通じた社会参加活動に繋げることが次年度以降の課題であり目標と言える。

### 7. 所感

本事業については、プロサッカー選手と一緒に活動をおこなう事で、参加者がこれまで以上にサッカーに興味を持ち、さらには参加者(保護者等)の情報交換の場に繋げることができた。また、指導員の中には全国障害者スポーツ大会へ帯同経験のあるメンバーもおり、今後のトレーニングについて、FC 琉球の選手からサッカー指導上のアドバイスを受けた。プロチームとの連携による事業は今回が初の試みと言うことで、多くの方に参加いただきたく連絡協議会をはじめ複数のデイサービス等に協力いただき周知を図ったが、他行事が重なり参加出来なかったメンバーもおり目標人数には届かなかった。しかし、団体以外にも個々でのエントリーもあり本事業への関心の高さを伺える結果となった。

## 8、活動写真



## 【アダプテッドスポーツフェスタ】

### 1. 実施概要

- ・実施日程 平成 25 年 9 月 7 日（土）
- ・会 場 豊見城市豊崎海浜公園
- ・参加対象 障害者スポーツに興味のある方
- ・参加者数 63 名【内訳 知的障がい者 1 名、身体障がい者 42 名、一般 23 名】

### 2. 実施体制

障害者スポーツ指導員をはじめ、指導技術を持つスタッフにより実施。

### 3. 協力団体

沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会、豊崎海浜公園管理事務所、JICA 沖縄国際センター  
足こぎ車いす普及協会沖縄

### 4. 実施内容

- ・車椅子バスケットボール大会
- ・スポーツ体験プログラム：車椅子バスケットボール、ハンドバイク、足こぎ車椅子  
シーカヤック、チェアボート、クラフト作り

### 5. 成果及び評価

参加者が複数種目に参加・体験することで、「興味はあったが」から「楽しめるスポーツ」とする機会となった。

### 6. 今後の課題

今後の課題としては、イベントの質という観点からメイン種目の基盤整備、さらなるオプション企画を充実させていくと共に、県内の多くの方に向けてさらに PR し、温暖な気候をいかした年間事業を展開していきたいと思っております。そのためにも、参加しやすい体制づくりのために、指導員・ボランティアの育成を進めていき、円滑で安全な活動体制の確立に力をいれていきたいと考えます。これらの課題や上記成果を踏まえ、今後の実施においては、さらに多くの方に参加いただけるプログラムを検討していきます。

### 7. 所感

第 1 回となるアダプテッドスポーツフェスタは、事業実施ポイントを「障がい者スポーツの周知」とし、関係者以外の一般の方々が目にする機会を増やせるようアウトドアスポーツ 6 種目で実施した。また、当初の計画以外にも JICA 沖縄国際センターの協力を得られたことで、参加者間での国際交流も実施できた。さらに、運営面においては、主管団体間での交流が促進された結果、同会場で実施される一般の自転車イベントにハンドバイクでの参加許可が認められた。このように、一般スポーツと障害者スポーツが同じルールのもと共に実施できることは、県内の障がい者スポーツ活動の大きな PR が出来ると考えております。

## 8、活動写真



平成 25 年度スイミングキャンプ  
水泳教室実施要項

目的 本事業では、専門の競技指導員との連携を図り、このスイミングキャンプを県内各地で開催することにより、水泳の楽しさを多くの方々に広めていきたいと考えております。

主催団体 沖縄県障がい者スポーツ協会

協力団体 沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会・金武町教育委員会・金武町プール  
沖縄県立西崎特別支援学校・沖縄県知的障がい者スポーツ連絡協議会

開催日時

(夏季教室日程) 平成 25 年 8 月 2 日～4 日 (10:00～11:30)

日 程	会 場	参加対象	実施内容
8 月 2 日～4 日	西崎特別支援学校	知的障害児 (者) 身体障害児 (者)	チャレンジコース 水泳コース

(冬季教室日程) 平成 26 年 1 月 11 日～2 月 15 日 (17:00～18:30)

日 程	会 場	参加対象	実施内容
1 月 11 日～2 月 15 日 (土曜日)	金武町営プール	知的障害児 (者) 身体障害児 (者)	チャレンジコース 水泳コース

※1 月 25 日は水泳記録会の実施。

参加費 500 円 (保険代として)

申込方法 所定の用紙に必要事項を記入し下記までお申し込みください。

※随時受付中

お申込み・お問合せ先

〒903-0804

沖縄県那覇市首里石嶺町 4-373-1 (沖縄県総合福祉センター西棟 407)

TEL/FAX 098-885-6747

E-mail okiparaspo23@yahoo.co.jp

沖縄県障がい者スポーツ協会 (担当: 下地 隆之)

平成 25 年度スイミングキャンプ  
水泳記録会実施要項

目 的 日頃より健康回復や増進、競技力向上等様々な目的で水泳に取り組んでいるメンバーが一堂に集まり、タイムレースを通じて日頃の練習成果を発表し、ふれあいを深める場として実施いたします。

主催団体 沖縄県障がい者スポーツ協会

協力団体 沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会  
金武町教育委員会・金武町プール・沖縄県水泳協会  
沖縄県知的障がい者スポーツ連絡協議会・日本赤十字沖縄支部

会 場 金武町営プール  
沖縄県国頭郡金武町字金武 1830

開催日時 平成 26 年 1 月 25 日（土） 14 時～ 17 時

実施種目 ○ 25m ビート板レース  
○ 25m レース（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）  
○ 50m レース（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）

申込方法 申込用紙に必要事項を記入し郵送または FAX にて下記までお申し込みください。

申込締切 平成 26 年 1 月 10 日（金） 17 時まで

お申込み・お問合せ先

〒903-0804

沖縄県那覇市首里石嶺町 4-373-1（沖縄県総合福祉センター西棟 407）

TEL/FAX 098-885-6747

E-mail okiparaspo23@yahoo.co.jp

沖縄県障がい者スポーツ協会（担当：下地 隆之）

## 知的障がい児(者)サッカー教室実施要項

目 的：本事業では、参加型のイベント活動を中心に行い、広く障がい者スポーツの周知を図るとともに、多くの県民が障がい者スポーツを体験できる事業を実施する。また、県内のチーム・専門競技者との連携を活かすことで、次世代の選手・指導者の育成を行い、今後の普及活動に繋げていくことを目的とする。

事 業 名：知的障がい児(者)サッカー教室

日 時：平成 25 年 9 月 28 日（午後 2 時から午後 4 時）

会 場：沖縄県総合運動公園レクリエーションドーム

主催団体：特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

協力団体：沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会  
沖縄県知的障がい者スポーツ連絡会

参加人数：40 名程度（障がい者）、10 名程度（指導員）

参 加 費：500 円

実施内容：プロサッカー選手を講師に招き知的障がい児(者)を対象としたサッカー教室

講 師：FC 琉球

### タイムスケジュール

13：00	関係団体集合（事前準備・打合せ等）
14：00	選手集合
14：05	主催者あいさつ・日程説明等
14：15	ウォーミングアップ（体操）
14：30	基礎練習(ボールコントロール)
15：00	基礎練習(シュート・パス)
15：30	ミニゲーム
15：55	クールダウン（体操）
16：00	教室終了

## アダプテッドスポーツフェスタ実施要項

目的：本事業では、参加型のイベント活動を中心的に行い、広く障害者スポーツの周知を図るとともに、多くの県民が障害者スポーツを体験できるイトを実施する。

日時：平成25年9月7日（土）10：00～15：00

会場：豊崎海浜公園

主催団体：特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

協力団体：沖縄県障害者スポーツ連絡協議会、豊崎海浜公園管理事務所  
JICA 沖縄国際センター足こぎ車いす普及協会沖縄

実施内容：【本イベント】

車椅子バスケットボール大会

【体験型活動】

車椅子バスケットボール、ハンドバイク、足こぎ車椅子、シーカヤック、チェアボート、クラフト作り

会場案内：豊崎海浜公園（美らSUNビーチ）  
〒901-0225 沖縄県豊見城市字豊崎 5-1  
オフィシャルサイト  
<http://churasun-beach.com/>



タイムスケジュール

	本イベント	体験型イベント
9：00	スタッフ集合	スタッフ集合
10：00～	車椅子バスケットボール大会開始	
11：00～		
12：00～		体験イベント開始
13：00～		
14：00～		
15：00～	大会終了	イベント終了



# スイミング キャンプ

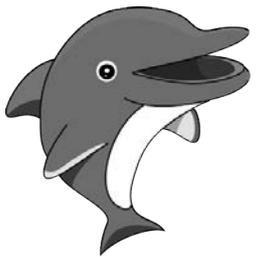
☆～参加者募集中～☆

## スイミングキャンプ 夏季水泳教室



### < チャレンジコース >

出来ることからチャレンジ  
泳げなくても大丈夫♪  
泳ぐ以外の水遊びをとおして、水に親しみ、集団行動の中で、友達づくりに繋げていきます。



### < 水泳コース >

泳力にあった指導で  
無理なくレベルアップ！  
それぞれにあった指導だから、安心して無理なくレベルアップ。

私たち、沖縄県障がい者スポーツ協会は沖縄県内における障がい者スポーツの振興を目的に昨年設立されました。専門の競技指導員との連携を図り、このスイミングキャンプを県内各地で開催することで、水泳の楽しさを多くの方々に広めたいと考えております。

### タイムスケジュール

チャレンジコース	
10:00～	着替え
10:30 ↓ 11:30	水中ゲーム ビート板キック (目標:25mビート板キック)
11:30～	着替え
水泳コース	
10:00～	着替え
10:30 ↓ 11:30	正しい泳法の習得
11:30～	着替え

日時：平成25年8月2日～4日

10:00～11:30

会場：西崎特別支援学校

参加費：500円(保険代として)

## 沖縄県障がい者スポーツ協会

Tel・Fax 098-885-6747 お問い合わせ時間/月～金 AM9:00～PM17:00

〒901-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1(407) URL: <http://okinawasad.com/> E-mail: [okdparaspo23@yahoo.co.jp](mailto:okdparaspo23@yahoo.co.jp)



# スイミング キャンプ

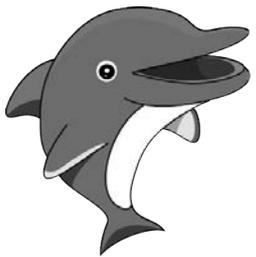
☆～参加者募集中～☆

## スイミングキャンプ 冬季水泳教室



### < チャレンジコース >

出来ることからチャレンジ  
泳げなくても大丈夫♪  
泳ぐ以外の水遊びをとおして、水に親しみ、集団行動の中で、友達づくりに繋がっていきます。



### < 水泳コース >

泳力にあった指導で  
無理なくレベルアップ！  
それぞれにあった指導だから、安心して無理なくレベルアップ。

私たち、沖縄県障がい者スポーツ協会は沖縄県内における障がい者スポーツの振興を目的に昨年設立されました。専門の競技指導員との連携を図り、このスイミングキャンプを県内各地で開催することで、水泳の楽しさを多くの方々に広めていきたいと考えております。

### タイムスケジュール

チャレンジコース	
10:00～	着替え
10:30 ↓ 11:30	水中ゲーム ビート板キック (目標:25mビート板キック)
11:30～	着替え
水泳コース	
10:00～	着替え
10:30 ↓ 11:30	正しい泳法の習得
11:30～	着替え

日時：平成26年1月11日～2月15日  
17:00～18:30(毎週土曜)

会場：金武町営プール

参加費：500円(保険代として)

## 沖縄県障がい者スポーツ協会

Tel・Fax 098-885-6747 お問い合わせ時間/月～金 AM9:00～PM17:00

〒901-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1(407) URL: <http://okinawasad.com/> E-mail: [okdparaspo23@yahoo.co.jp](mailto:okdparaspo23@yahoo.co.jp)

平成25年度スイミングキャンプ

# 水泳記録会

平成26年1月25日(土)

受付開始13:00/競技開始14:00

☆参加者募集☆



## 目的

日頃より健康回復や増進、競技力向上等様々な目的で水泳に取り組んでいるメンバーが一堂に集まり、タイムレースを通じて日頃の練習成果を発表し、ふれあいを深める場として実施いたします。

## 実施種目

○25mビート板レース    ○25m(自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ)  
○50m(自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ)

**会場：金武町営プール (金武町字金武 1830)**

**主催：沖縄県障がい者スポーツ協会**

**協力：沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会/九州身体障害者水泳選手権沖縄大会実行委員会**

お問合せ先：沖縄県障がい者スポーツ協会    TEL・FAX098-885-6747    E-mail okiparaspo23@yahoo.co.jp

# サッカー教室参加者募集

## FC琉球の選手・コーチが指導

開催日時：平成25年9月28日（土）14時～16時

受付：13時30分～ レクリエーションドーム内「サッカー教室受付ブース」

会場：県総合運動公園（レクリエーションドーム）

対象：知的障がい児・者

参加費：500円（保険代として）

持ち物：①サッカーのできる運動着（教室後の着替え用も準備下さい）

②運動靴（サッカースパイク・サンダル等では参加できません）

③サッカーボール（主催団体でも準備致しますが、使いなれたボールの持ち込みOK）

④飲料水

参加申込：申込用紙に必要事項を記入し、9月25日（水）までに申し込みください。

### ☆指導スタッフ☆

・FC Ryukyu（サッカースクール・スクールマスター）前津 文啓

・FC Ryukyu 選手

### ～活動プログラム～

① ウォーミングアップ

② ボールを使った練習

③ ゲーム形式の練習

④ 選手サイン会・撮影会



前津 文啓 氏

沖縄県  
障がい者  
Let's enjoy our life together  
スポーツ協会

問合せ先：沖縄県障がい者スポーツ協会

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1

（県総合福祉センター内4F407）

TEL/FAX：098-885-6747（平日10:00～17:00）

E-mail：okiparaspo23@yahoo.co.jp

# スポーツフェスタ

日時：平成25年9月7日(土)10:00~15:00

会場：豊崎海浜公園 (美らSUNビーチ)

参加費：車椅子バスケット大会(1,000円)

体験活動(500円)



体験活動 (12:00~15:00)



切り取り

体験活動参加申込書		平成25年	月	日	年齢	性別	障害名
名前					歳	男・女	
名前					歳	男・女	
連絡先	〒					TEL :	
						FAX :	
参加プログラム (希望プログラムに○をつけてください)							
<input type="checkbox"/> 車椅子バスケット		<input type="checkbox"/> 足こぎ車椅子		<input type="checkbox"/> ハンドバイク			
<input type="checkbox"/> チェアボート		<input type="checkbox"/> シーカヤック		<input type="checkbox"/> クラフト作り			

【申込み・問合せ先】

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1 (県総合福祉センター西棟4F 407)

TEL/FAX 098-885-6747

E-mail okiparasp23@yahoo.co.jp

# スポーツフェスタ

日 時：平成 25 年 9 月 7 日(土)10:00~15:00

会 場：豊崎海浜公園 (美ら SUN ビーチ)

参加費：体験活動(500 円)

車椅子バスケット大会(1,000 円)

車椅子バスケット大会 (10:00~15:00)



-----切り取り-----

車椅子バスケット大会参加申込書

平成 25 年 月 日

チーム名称			
代表者氏名			TEL: FAX: E-mail:
代表者住所	〒		
メンバー氏名			
1		5	
2		6	
3		7	
4		8	

【申込み・問合せ先】

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1 (県総合福祉センター西棟4F 407)

TEL/FAX 098-885-6747

E-mail okiparaspo23@yahoo.co.jp



## 神戸市における障がい者スポーツの地域展開事業

- ◆ 地域でのスポーツ教室実施
- ◆ 障害者スポーツ体験イベント開催による普及啓発

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター



「地域における障害者スポーツの地域展開事業」報告書

1. はじめに

神戸市の神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センターでは、スポーツを通じて障害者が生きがいを持って、心豊かに健やかな暮らしを送ることができるよう、さまざまな種目の障害者スポーツ教室や競技会等を開催している。

しかし、これらの事業は神戸の中心地である三宮に位置する神戸市立市民福祉スポーツセンターを中心に開催しているため、遠い地域からの参加がなかなかできないのが現状である。

そこで、障害のある人達が身近な地域でスポーツに触れ合う機会をつくり、体験してスポーツを暮らしに取り入れる環境を整えることが障害者スポーツの裾野の拡大のためには必要である。

2. 目的

身近な地域で気軽に運動をできる機会を設けることによって、地域への社会参加を促す。また、地域の人たちがいろいろな障害者スポーツを知り、体験することでスポーツを通じて相互理解を図り、障害者スポーツを取り組むきっかけづくりを行い、障害者スポーツの裾野の拡大を図り、障害のある人たちの放課後や休日の余暇活動や外出を支援する。

3. 事業内容

①地域における障害者の軽運動を中心としたスポーツ教室

「とんで！はずんで！楽しいスポーツ」

内 容 1時間30分の時間の中で、バランスボールを使用した準備体操、ストレッチ、体幹の運動、いろいろな体育器具を使用して持久力や巧緻性を高めるサーキット運動、ミニトランポリンでリズム運動等を行い。楽しく体を動かす機会をつくる。

1. 青陽須磨支援学校

・日 時：6月15日(土) 10:00～11:30

対象者：在校生及び卒業生

参加者：27名

指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)6名

・日 時：1月11日(土) 10:00～11:30

対象者：在校生及び卒業生

参加者：25名

指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)12名

2. 青陽西養護学校

・日 時：6月29日(土) 10:00～11:30

対象者：在校生及び卒業生

参加者：18名

指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)3名

- ・日 時：11月9日(土) 10:00～11:30  
対象者：在校生及び卒業生  
参加者：12名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)10名

### 3. 青陽東養護学校

- ・日 時：11月23日(土) 10:00～11:30  
対象者：中学部、高等部の生徒  
参加者：4名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)15名
- ・日 時：12月7日(土) 10:00～11:30  
対象者：中学部、高等部の生徒  
参加者：10名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)10名

### 4. 神戸特別支援学校

- ・日 時：10月19日(土) 10:00～11:30  
対象者：在校生及び卒業生  
参加者：17名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)7名
- ・日 時：2月15日(土) 警報のため中止

### 5. 盲学校

- ・日 時：7月13日(土) 10:00～11:30  
対象者：在校生及び「ひとみ教室」  
参加者：17名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)6名
- ・日 時：2月1日(土) 10:00～11:30  
対象者：在校生及び「ひとみ教室」  
参加者：11名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)8名

### 6. 玉津第一小学校

- ・日 時：6月27日(木) 16:00～17:00  
対象者：玉津8校園協議会のなかよし学級の児童  
参加者：17名  
指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)5名

7. 枝吉小学校
- ・日 時：11月28日(木) 16:00～17:00
  - 対象者：玉津8校園協議会のなかよし学級の児童
  - 参加者：12名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)3名
8. 高津橋小学校
- ・日 時：2月13日(木) 16:00～17:00
  - 対象者：玉津8校園協議会のなかよし学級の児童
  - 参加者：13名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)1名
9. 井吹東小学校
- ・日 時：11月14日(木) 16:00～17:00
  - 対象者：なかよし学級の児童
  - 参加者：12名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)4名
  - ・日 時：2月27日(木) 16:00～17:00
  - 対象者：なかよし学級の児童
  - 参加者：12名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)4名
10. 神戸市立市民福祉スポーツセンター
- ・日 時：8月18日(日) 10:00～11:30
  - 対象者：療育手帳を所持する中学生以上の人
  - 参加者：10名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)11名
11. 神戸市立西体育館
- ・日 時：9月29日(日) 10:00～11:30
  - 対象者：療育手帳を所持する中学生以上の人
  - 参加者：8名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)6名
12. 神戸市立北須磨文化センター
- ・日 時：11月10日(日) 10:00～11:30
  - 対象者：療育手帳を所持する中学生以上の人
  - 参加者：9名
  - 指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)12名

#### 13. 神戸市立王子スポーツセンター

・日 時：2月11日(祝) 10:00～11:30

対象者：療育手帳を所持する中学生以上の人

参加者：19名

指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)10名

#### 14. こべっこランド

・日 時：6月22日(土) 10:00～11:30

対象者：発達のゆっくりな小学校

参加者：11名

指導者：上級指導員2名 初級指導員2名 学生ボランティア(初級指導員)8名

### ②障害者スポーツ体験イベント開催による普及啓発事業

「こうべ・パラ・スポーツフェスティバル2014」

2月9日(日)

・時 間：10:00～16:00

・場 所：神戸市立市民福祉スポーツセンター 体育館  
神戸市立こうべ市民福祉交流センター 会議室

・実施種目：ゴールボール・ブランドテニス・ボッチャ・ダーツ・卓球バレー  
ビームライフル・吹き矢

・参加者：250名

・指導者：講師(各神戸市競技団体及び神戸市内障害者チーム)17名  
指導員26名 事務局9名

3月1日(土)

・時 間：10:00～16:00

・場 所：しあわせの村

・実施種目：車椅子バスケットボール・シッティングバレーボール・車椅子テニス  
ビームライフル・吹き矢・陸上・フライングディスク・ローンボウルズ

・参加者：290名

・指導者：講師(各神戸市競技団体及び神戸市内障害者チーム)44名  
指導員9名 事務局9名

## 4. 成果及び評価

### ①地域における障害者の軽運動を中心としたスポーツ教室

・市内14か所20回(1回は警報のため中止)のスポーツ教室を行うことで、身近な地域で運動を行うきっかけづくりとなった。また、14か所、20回(1回は警報のため中止)という回数を行うことで毎月市内のどこかの場所でスポーツ教室を開催していることとなり、手軽に運動できる環境を作ることができた。

- ・専門の指導員が障害に合わせた指導をおこなうことで参加者は安心して参加している様子だった。また、付添いの保護者の方々も専門の指導員が指導してくれるので安心して任せられるという声が多く寄せられた。
- ・学生の指導員を募集するのにネットワークを利用して募集をおこなった。学生の指導員が経験することで卒業後の障害者スポーツへの動機づけにもなった

## ②障害者スポーツ体験イベント開催による普及啓発事業

- ・中央区にある「神戸市立市民福祉スポーツセンター」と北区にある「しあわせの村」で2回開催し多くの市民の方々が障害者の方々がおこなっているスポーツを体験してもらうことができた。また、障害のある人にとっては体験することでスポーツをおこなうことのきっかけづくりになった。
- ・専門の指導員が上手く指導することで、できないと思っている人もできることに気付くことができた。

## 5. 今後の課題

### ①地域における障害者の軽運動を中心としたスポーツ教室

- ・本事業に於いては運動のきっかけづくりであり、この教室を楽しみにしてくれることも大事ではあるが、今後、地域で継続してできるようにしていくことが大きな課題である。そのためには障害者スポーツ指導者の育成はもとより、自主運営をすることができるようにしていくために、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員との連携を図ることが重要になってくる。また、自主運営をしていくための予算を確保していくことも課題である。

### ②障害者スポーツ体験イベント開催による普及啓発事業

- ・開催までの準備期間でしっかりと各競技打ち合わせをしていくことが重要である。また、障害者スポーツの裾野の拡大のため、この体験会を総合型地域スポーツクラブの方々や地域のスポーツ推進委員の方々に体験してもらえるように連携を図っていくことが重要である。定期的に行うために予算を確保していくことも課題である。

**「とんで!はずんで!たのしいスポーツ」**  
 地域における障害者スポーツ振興事業（平成25年度）

(社福)神戸市社会福祉協議会  
 障害者スポーツ振興センター

1. 趣 旨

知的に障害のある方々が気軽に運動ができる機会を設けることにより、地域への社会参加と自立の精神を養うことを目的とする。学校及び地域の施設を活用し、スポーツの普及指導を行う。また、平日・休日の余暇活動と外出の支援を行う

2. 対 象

当該学校の自力通学及び保護者等の送迎が可能な盲・養護学校の中高等部等の生徒を対象とし、青陽東養護学校、青陽西養護学校、青陽須磨支援学校、市立盲学校、神戸特別支援学校で開催する。回数は各学校原則2回とする。また、地域の体育館を利用して行う。また、西区(玉津地区)・西神南地区のなかよし学級の児童生徒を対象として放課後の余暇活動を支援する。また、こべっこランドに於いて発達障害児を対象として余暇活動を支援する。

3. 内 容

実施場所	青陽西養護学校 6/29・11/9 青陽東養護学校 11/23・12/7 青陽須磨支援学校 6/15・1/11 神戸特別支援学校 10/19・2/15	市立盲学校 7/13・2/1	西区体育館 9/29 王子スポーツセンター 2/11 北須磨文化センター 11/10 市民福祉スポーツセンター 8/25・3/9 こべっこランド 6/22・3/8	玉津第一小学校 6/27 枝吉小学校 11/28 高津橋小学校 2/13 井吹東小学校 11/14・2/27
対 象 者	在校生（中・高等部）	在校生 ひとみ教室	13歳以上の知的障害者 発達障害を持った小学生（こべっこランド）	なかよし学級
募集人数	20名程度			
内 容	ミニトランポリン バランスボール等を利用してリズム体操やサーキット運動を楽しく行う。			
時 間	10:00～11:30			16:00～17:00
参加負担金	負担金は、なし。			

4. 指導体制

指導：障害者スポーツ指導員4名（当センターの指導員3名と外部指導員1名）  
 補助：地域支援事業学生ボランティアネットワークから大学生 15名

5. 実施までの流れ

- ・ 募集チラシ作成 障害者スポーツ振興センターが作成
- ・ 在校生にチラシ配付 学校に依頼して行う。
- ・ 申し込み受付、名簿作成(障害者スポーツ振興センター) → 名簿を当該校に送付
- ・ 実施（指導者4名、補助員15名）

地域における障害者の軽運動を中心としたスポーツ教室  
「とんで!はずんで!たのしいスポーツ」



走ったりする事で瞬発力を高める



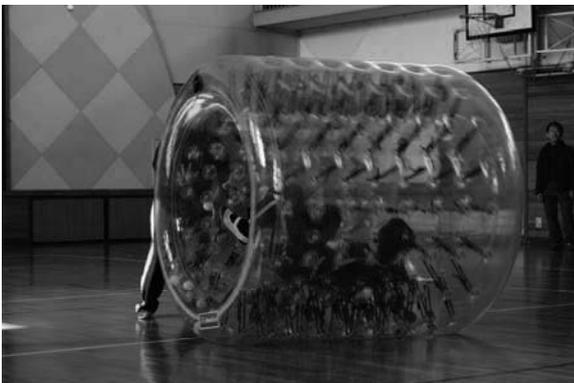
バランスボールで平衡感覚や柔軟性を高める



全身持久力・平衡性を養う



色々な動きをする事で巧緻性を高める



回る事で、体幹部分を鍛える



ミニトランポリンを使ってリズム運動



バランスボールを使ってリラグゼーション



最後の記念撮影

# こうべ・パラ・スポーツフェスティバル2014

## 1. 目的

いろいろな障害者スポーツを知り、体験することで障害のあるものとなない者がスポーツを通じて相互理解を図り、障害者スポーツを取り組むきっかけづくりを行い、障害者スポーツの裾野の拡大を図る。

## 2. 主催

(社福)神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター

## 3. 共催

神戸市知的障害者施設連盟

## 4. 日程

平成26年2月9日(日) 神戸市立こうべ市民福祉交流センター

体育館

10:00～12:00 ゴールボール

13:00～16:00 ハンディキャップテニス・ボッチャ・卓球バレー  
ダーツ

会議室

10:00～16:00 吹き矢(401)・ビームライフル(501)

平成26年3月1日(土) しあわせの村

体育館

10:00～12:00 車椅子バスケットボール

13:00～16:00 シッティングバレーボール

多目的広場

10:00～12:00 神戸市知的障害者施設連盟リレー大会  
走り方教室

13:00～16:00 フライングディスク

研修館ホール

10:00～16:00 吹き矢

研修室

10:00～16:00 ビームライフル

ローンボウルズ場

13:00～16:00 ローンボウルズ

テニスコート

10:00～12:00 車椅子テニス

## 5. 内容

パラリンピックの種目や障害者がよく行っているスポーツの体験及び観戦

## 6. 参加方法

チラシ、ポスター等で周知し、当日来た人に体験をしてもらう。

## 7. その他

参加賞として缶バッジを作成し参加者に配布する。(3月1日のみ)

連絡先

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-1-32

(社福)神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター

電話078-271-5330

e-mail ohkubo@kobesad.jp 担当 大久保

「こうべ・パラ・スポーツフェスティバル 2014」

こうべ市民福祉スポーツセンター



ゴールボール①



ゴールボール②



ダーツ



ビームライフル



ブラインドテニス



吹き矢



卓球バレー



ボッチャ



フライングディスク



車椅子テニス



ローンボールズ



車椅子バスケットボール



シッティングバレーボール



吹き矢



陸上①



陸上②



ビームライフル

## とんで！はづんで！たのしいスポーツ

### ★活動場所★

・養護学校・特別支援学校・市内なかよし学級・市内体育館

### ★対象★

・発達障害・障害者手帳をお持ちの方

### ★時間★

10:00～11:30

16:00～17:00

### 🌿 地域支援事業の目的 🌿

障害のある方が気軽にスポーツにふれる機会を設けることにより、障害のある方の地域の社会参加と自立の精神を養うこと。

また、休日や放課後に開催する事により、障害のある方に外出を支援することを目的とします。

私たちの地域でも  
1度やってください!!  
でもOKです!!

### 問い合わせ

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3丁目1-32  
市民福祉交流センター4F

TEL : (078) 271-5330  
FAX : (078) 271-5367

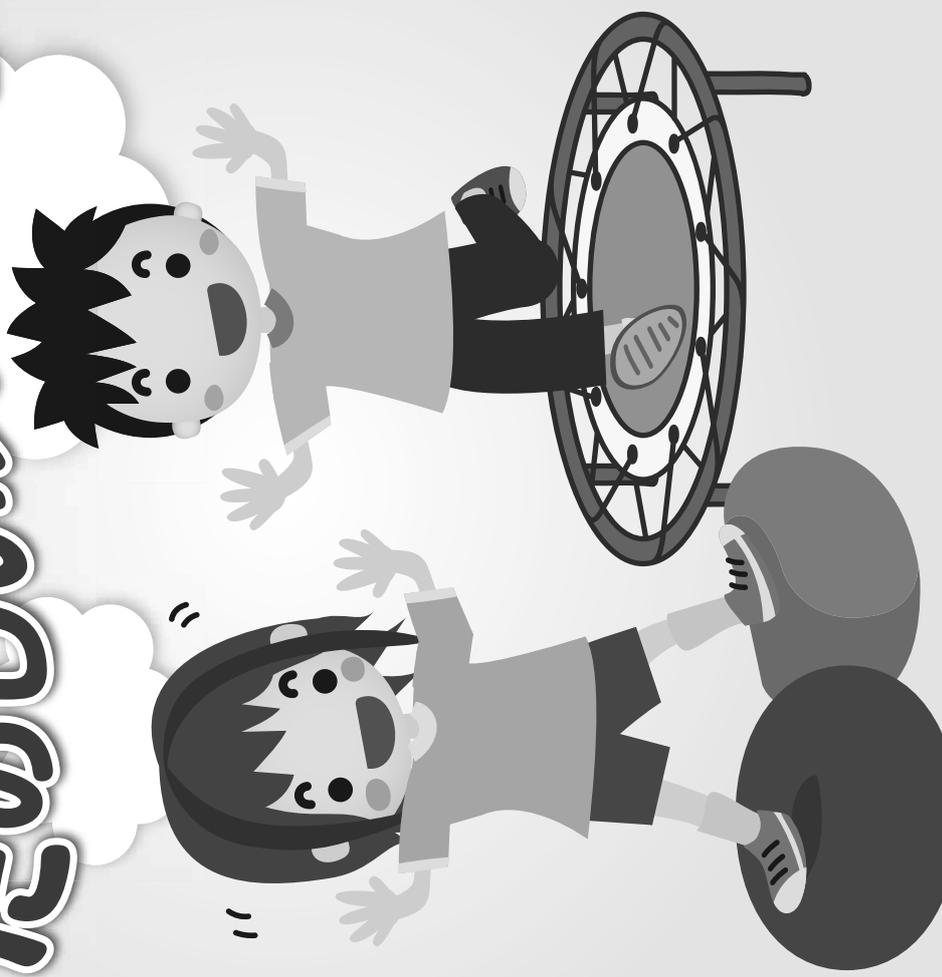
(社福) 神戸市社会福祉協議会

**障害者スポーツ振興センター**

(担当) 大久保

地域  
支援  
事業

# とんで！ はづんで！ たのしいスポーツ



# 地域支援活動では こんな事をやっています!!

まずは…。

## ① 準備体操



まずは  
動く準備!  
ケガをしないように。

バランスボールを  
使ってはズんだり、  
伸ばしたり、  
しながら体を  
動かします。



あーたのしかったあ!  
さようならー



## ② サーキット



色々な道具を使って、  
走ったり、  
とんだり、  
くぐったり  
体全部をうごかします。

こんな事も  
するよ!!

ゴロゴロ



(サイバーボール)

## ④ リラクゼーション



バランスボールを使いながら  
いっぱい動かした体を  
ほぐします。

## ⑤ リズム体操



ミニトランポリンを使って  
リズムに合わせて  
うごきます。



ダーツ

障害がある人も  
ない人も、みんな  
「障害者スポーツ」を  
体験しよう!!

# ころべ・パラ・ スポーツフェスティバル 2014

日時

平成26年2月9日

10:00~16:00

in 市民福祉スポーツセンター



吹き矢

主催

(社福) 神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター



ビームライフル

**種 目 体育館**

- 10:00 ~ 11:30 ゴールボール
- 13:00 ~ 16:00 ブラインドテニス
- ボッチャ
- 卓球バレー
- ダーツ

**種 目 会議室**

- 10:00 ~ 16:00 ビームライフル
- 10:00 ~ 16:00 吹き矢



ブラインドテニス



ボッチャ

どなたでも自由に  
参加していただけます！

**問い合わせ先**

事務局 (社福) 神戸市社会福祉協議会  
障害者スポーツ振興センター

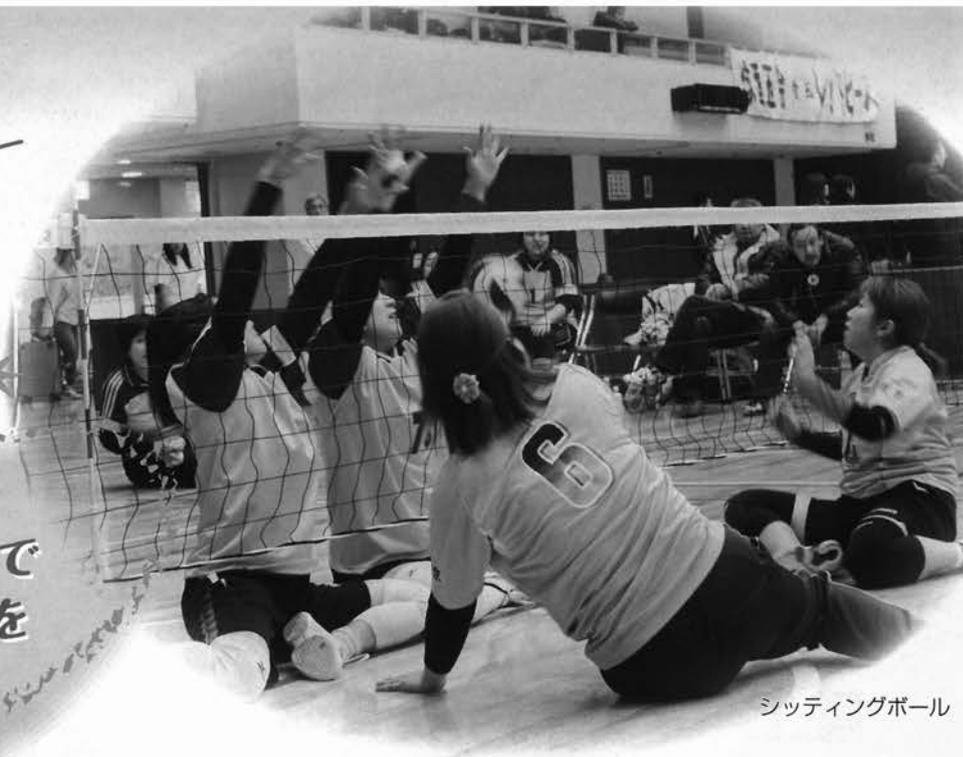
〒651-0086 神戸市中央区磯上通 3 丁目 1-32  
こうべ市民福祉交流センター 4 階

TEL : 078-271-5330  
FAX : 078-271-5367 (担当 : 大久保)



バス停  
● 7系統 交流センター行  
● 7系統 神戸駅行  
7系統のバスは、神戸駅から出ています。  
(神戸駅から夢野・平野を回って三宮に向かい、終点がこうべ市民福祉交流センターです)  
.....  
□ = 点字ブロック  
中央区役所南側の交差点の点字ブロックは、市民福祉交流センターまでつながっています。  
上記地図にある、点字ブロックに沿って歩いていただくと交流センターに到着します。

障害がある人も  
ない人も、みんな  
「障害者スポーツ」を  
体験しよう!!



シッティングボール

# ころべ・パラ・ スポーツフェスティバル ✿ 2014 ✿

日 時

平成26年3月1日(土)

10:00~16:00

in しあわせの村

主催

(社福) 神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター

共催

神戸市知的障害者施設連盟

どなたでも自由に  
参加していただけます！

## 種 目

シッティングバレーボール  
車椅子バスケットボール  
陸上 車椅子テニス  
フライングディスク  
吹き矢 ビームライフル  
ローンボウルズ

※種目は変更する場合があります。



ローンボウルズ

各種目参加していただいたら  
参加賞としてバッジがもらえます。  
みんなでバッジを集めよう！！  
(数に限りがあります)

## イベント

### 運動広場

- ・ 神戸市知的障害者施設連盟  
対抗リレー大会
- ・ 走り方教室



車椅子バスケット

## 問い合わせ先

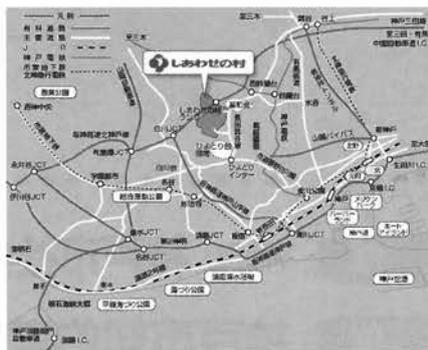
事務局 (社福) 神戸市社会福祉協議会  
障害者スポーツ振興センター

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3丁目1-32  
こうべ市民福祉交流センター4階

TEL : 078-271-5330

FAX : 078-271-5367 (担当: 大久保)

## しあわせの村







平成25年度 障害者スポーツ振興事業

「地域における障害者スポーツの振興事業」

2014年3月31日 発行

発行 公益財団法人日本障害者スポーツ協会  
印刷 日本印刷株式会社

